Oracle® Smart View for Office

User's Guide

リリース 11.1.2.5.200

ORACLE®

Smart View User's Guide, 11.1.2.5.200

Copyright © 2004, 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて 13

第 1 章 Smart View の概要 15

概要 15

Smart View のコンポーネント 16

リボン 16

Smart View パネル 17

このガイドについて 17

第 2 章 データ・ソース接続の管理 19

接続 19

共有接続とプライベート接続 19

データ・ソースへの接続 20

データ・ソースからの切断 21

プライベート接続の作成 21

共有接続のプライベート接続としての保存 23

接続の変更 24

XML ファイルからの共有接続へのアクセス 25

第 3 章 ディメンションとメンバー 35

ディメンションとメンバーについて 35

ディメンションおよびメンバーの命名の制限 35

メンバー・セレクタからのメンバーの選択 36

POV ツールバーからのメンバーの選択 38

Essbase での POV ツールバーからのメンバーの選択 40

Essbase にセルベースの POV を使用したメンバーの選択 41

フリーフォーム・モードでのメンバーの入力 43

属性によるフィルタ 43

サブセットによるフィルタ 44

期間累計メンバーの選択 44

メンバー・セレクタでのメンバー名の表示の定義 45

メンバー名の重複 46

メンバー・パースペクティブ 47

別名および別名表 47
別名表の選択 48
現在のワークシートまたは接続の別名表を選択できます。 48
接続の別名表の選択 48
別の別名表からの別名 48
メンバー名とその別名の表示 49
メンバー情報 49
POV マネージャ 50
デフォルト POV のメンバーの選択 50
POV のコピーと貼付け 51
POV の削除 51

第 4 章 データおよびデータ・セル 53
データの取得 53
データの送信 54
データの計算 55
Financial Management および Hyperion Enterprise でのデータの計算 55
Essbase でのデータの計算 55
データの集計 56
通貨の処理 56
Financial Management および Hyperion Enterprise での通貨の換算 56
Planning での通貨の変更 57
データ・セルでの値の調整 58
データ・パースペクティブ 58
ドリルスルー・レポート 60
リンク・レポート・オブジェクト 61
データ・セルへのリンク・レポート・オブジェクトの添付 61
データ・セルからのリンク・レポート・オブジェクトの起動 62
リンク・パーティション 62
セル・コメント 63
Planning でのセル・コメント 63
Financial Management でのセル・コメント 64
添付ファイル 65
セルの履歴 66

第 5 章 アド・ホック分析 69
アド・ホック分析について 69
アド・ホック分析の開始 69
アド・ホック・グリッドでの Excel 式の保存 70
アド・ホック・グリッドのフォーマット 71

Smart View フォーマットの使用 71
Excel フォーマットの使用 72
ズーム・インおよびズーム・アウト 72
ズーム・イン 73
ズーム・アウト 74
デフォルト・ズーム・レベルの設定 74
ズーム時に表示するメンバーの選択 74
ダブルクリックによるズームの有効化 75
ズームとフォーマット 75
式を含むセルでのズーム操作 75
ピボット 76
選択したメンバーのグリッドからの除去 76
行と列の挿入 77
繰返しメンバーの表示および抑制 77
ワークシート上の複数のグリッド 78
複数グリッド・ワークシートの作成 79
アド・ホック・ワークシートの複数グリッド・ワークシートへの変換 . . . 79
複数グリッド・ワークシートでの接続の変更 79
Essbase の複数グリッド・ワークシート上の POV 80
複数のグリッドの例: バタフライ・レポート 80
レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケード 81
代替変数 82

第 6 章 データ・フォーム 83
Excel でのフォームの操作 83
Excel でフォームを開く 84
フォームでの Excel 式 84
ユーザー変数の操作 84
Planning フォーム 86
Smart View での Planning フォームの動作 86
アド・ホック・グリッドをフォームとして保存 86
<xref linkend="forms_237" xrefstyle="HeadingPage">Planning フォームでのアド・ホック分析の実行</xref> 87
Financial Management データ・フォーム 87
Financial Management メンバーについて 87
Financial Management メンバーの追加 88
Financial Management のリンク・フォームの使用方法 88

第 7 章 Smart View の一般的な操作 89
Smart View の操作 89

「元に戻す」と「やり直し」の使用方法 89
コピーと貼付け 90
コピーしたワークシートへのメタデータのインポート 90
コンテンツのコピー、貼付けおよびリフレッシュ 91
Excel、Word、および PowerPoint 間でのデータのコピー 91
自動列幅調整の有効化 93
シート情報 93
ドキュメント・コンテンツ 93
共有ワークブック 99
Smart View で大きいワークブックを開く 99
ヘッダーおよびフッターへの POV メンバーの印刷 99
Smart View の使用可能/使用不可 99
Smart View 内での Smart View の使用不可 100
Microsoft Office での Smart View の使用可能/使用不可 100

第 8 章 スマート・クエリー 101
スマート・クエリーについて 101
スマート・クエリーの作成 101
セットの定義 102
セットのフィルタの定義 103
スマート・クエリーの構築 103
スマート・クエリーの完了 105
スマート・クエリーを開く 106
コピーと貼付け 107
Excel でのスマート・クエリー定義のコピー 107
スマート・クエリーのセットおよびフィルタのコピー 107
Word および PowerPoint へのスマート・クエリー・レポートのコピー . . . 107
スマート・クエリー定義の共有 108

第 9 章 スマート・スライス 111
スマート・スライスについて 111
スマート・スライスを使用したレポートの作成 111
レポートまたはレポート・オブジェクトの削除 114
スライダ 114
1 つの問合せからのスライダの作成 115
結合問合せからのスライダの作成 115
スマート・スライス、アド・ホック分析、およびフォーム 116
スマート・スライスの作成 116
スマート・スライスのデータ境界の設定 116
スマート・スライスのプリファレンスの設定 117

第 10 章 クエリー・デザイナおよび MDX 問合せ 119
クエリー・デザイナ 119
問合せの作成 119
問合せの編集およびレポートの再実行 121
データのフィルタ処理 121
クエリー・デザイナでの時間関連データの分析 122
MDX 問合せ 122

第 11 章 タスク・リスト 125
タスク・リスト 125
Smart View パネルからのタスクの操作 125
タスク・リストを開く 125
タスク・リストの表示 126
タスクの実行 127
タスクの完了 127
タスク・リスト・レポートの作成 127
タスク・リストと Microsoft Outlook の統合 128

第 12 章 Smart View および Planning 129
Planning の承認 129
プランニング・ユニットのステータスの変更 129
プランニング・ユニットの検索 130
プランニング・ユニットの移動パス 131
プランニング・ユニットの注釈 132
不在時のアシスタント 132
Planning のジョブ・ステータスのモニタリング 133
Planning でのページの検索 134
バージョンのコピー 134
複合フォーム 135
Planning ビジネス・ルールの操作 135
Excel でのビジネス・ルールの起動 135
実行時プロンプトへの入力 136
「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行 137
期間に対するデータの分散 137
特定セルをロックしたデータの分散 138
グリッド分散を使用した値の分散 138
一括割当てを使用した値の分散 139
メンバー式 140
サポート詳細 141
サポート詳細の追加 141

サポート詳細の階層における作業 141
サポート詳細の表示または変更 142
サポート詳細と Essbase の同期 143
Planning のプリファレンスの設定 143
Planning へのネイティブ Excel フォーマットの保存 143
オフライン作業 146
フォームのオフライン化 146
オフラインでのフォームの操作 148
Planning サーバーに対するデータの同期 148
オフラインのフォーム定義およびデータのリフレッシュ 149

第 13 章 Smart View および Oracle Planning and Budgeting Cloud Service 151
Planning の承認 151
プランニング・ユニットのステータスの変更 151
プランニング・ユニットの検索 153
プランニング・ユニットの移動パス 154
プランニング・ユニットの注釈 154
不在時のアシスタント 154
Planning のジョブ・ステータスのモニタリング 155
Planning でのページの検索 156
バージョンのコピー 156
複合フォーム 157
Planning ビジネス・ルールの操作 157
Excel でのビジネス・ルールの起動 157
実行時プロンプトへの入力 158
「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行 159
期間に対するデータの分散 159
特定セルをロックしたデータの分散 160
グリッド分散を使用した値の分散 160
一括割当てを使用した値の分散 161
メンバー式 162
サポート詳細 163
サポート詳細の追加 163
サポート詳細の階層における作業 163
サポート詳細の表示または変更 164
サポート詳細と Essbase の同期 165
Planning のプリファレンスの設定 165
Planning へのネイティブ Excel フォーマットの保存 166
オフライン作業 168

フォームのオフライン化 169
オフラインでのフォームの操作 170
Planning サーバーに対するデータの同期 170
オフラインのフォーム定義およびデータのリフレッシュ 171

第 14 章 Smart View と Reporting and Analysis 173
Reporting and Analysis ドキュメントのインポート 173
ドキュメントの編集およびリフレッシュ 174
Reporting and Analysis ドキュメントのリフレッシュ 175
Financial Reporting と Web Analysis のインポート・フォーマット 176
Interactive Reporting ドキュメントのインポート 177
Excel への Interactive Reporting ドキュメントのインポート 178
Word および PowerPoint への Interactive Reporting ドキュメントのインポート」 179
Interactive Reporting ドキュメントの編集 180
Financial Reporting ドキュメントのインポート 180
Excel への Financial Reporting ドキュメントのインポート 181
Word および PowerPoint への Financial Reporting ドキュメントのインポート 184
Financial Reporting ドキュメントの編集 187
PowerPoint ドキュメントでのテンプレートの作成 188
PowerPoint テンプレートのリフレッシュ 188
Production Reporting ドキュメントのインポート」 189
Excel への Production Reporting ジョブのインポート 189
Word および PowerPoint への Production Reporting ジョブのインポート」 190
Word および PowerPoint への Production Reporting ジョブ出力のインポート 191
Production Reporting ジョブの編集 191
Web Analysis ドキュメントのインポート」 192
Web Analysis ドキュメントまたはドキュメント・オブジェクトのインポート 192
Web Analysis ドキュメントの編集 194
スマート・タグを使用した、Reporting and Analysis ドキュメントのインポート 195

第 15 章 Smart View および Oracle BI EE 197
Oracle BI EE と Smart View について 197
Smart View の Oracle BI EE の機能およびコンポーネント 197
Oracle BI EE 拡張機能の有効化 198
複数の Oracle BI EE データ・ソースへの接続 198

Oracle BI EE カタログ 200
Oracle BI EE の分析、ビューおよびダッシュボードの操作 202
サポートされている Oracle BI EE のビューおよびオブジェクト・タイプ . 202
表とピボット・テーブルの挿入 204
グラフの挿入 208
サポートされている Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプ 210
サポートされていない Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプ 211
複合ビューの挿入 211
ダッシュボードの挿入 212
プロンプトの操作 213
ページ・プロンプトの操作 215
ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定 216
ビューのリフレッシュ 217
ビューのマスキング・データ 219
Oracle BI EE オブジェクトのプロパティの表示 222
Office アプリケーション間での Oracle BI EE オブジェクトのコピーと貼付け 222
BI アンサーでの分析の編集 223
Oracle BI から Office へのビューのコピーおよび貼付け 224
ビューの編集 224
「ビュー・デザイナ」を使用したビューの操作 225
ビュー・デザイナの起動 225
ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義 227
ビュー・レイアウトの定義 228
「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義 230
フィルタ演算子 231
ビューの発行 233
「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集 234
「ビュー・デザイナ」で作成したビューのデータのリフレッシュ 235

第 16 章 Smart View のオプション 237
Smart View のオプションの設定 237
グローバル・オプションとシート・レベル・オプション 237
グローバル・オプション 237
シート・オプション 238
メンバー・オプション 239
データ・オプション 241
詳細オプション 243

フォーマット・オプション 246
セルのスタイル 249
拡張機能 251

第 17 章 関数 253
関数の使用方法 253
関数の作成 254
関数ビルダーでの関数の作成 254
関数の手動作成 261
関数の実行 262
関数内のリンクの修正 263
HsGetValue 関数のコピーと貼付け 263
関数の説明 264
HsGetValue 264
HsSetValue 265
HsGetSheetInfo 266
HsCurrency 267
HsDescription 269
HsLabel 270
HsGetText 270
HsSetText 272
HsGetVariable 273
スマート・タグを使用した関数へのアクセス 273
一般的な関数エラー・コード 274

第 18 章 フリー・フォーム・モード 275
フリーフォーム・モードについて 275
フリーフォームのガイドライン 276
フリー・フォーム・グリッドの例 277
簡易グリッド 277
列ディメンション 277
スタック・ディメンション 278
フリーフォーム・グリッドのコメント 278
空白の行および列のコメント 279
複雑なコメントを含むグリッド 279
コメントの無効な配置 280
フリー・フォーム・グリッドの式 280
フリー・フォーム・グリッドの属性ディメンション 281
フリー・フォーム・レポートの作成 281
フリーフォーム・モードでの属性ディメンションの取得 282

非対称レポートの作成 282
予期しない動作の原因となるアクション 283

付録 A. Smart View での他のアプリケーションの使用方法 285
Crystal Ball EPM 285
Crystal Ball EPM ワークブックの操作 285
ツールバー操作 286
Smart View および Spreadsheet Add-in 287
関数の移行 287
ワークブックの変換 287
1 つのワークブックの変換 288
複数のワークブックの変換 288
関数の接続の移行 289

付録 B. 情報の検索 291
Smart View のアクセシビリティ 291
Smart View の VBA 関数 291
データ・ソースおよびその他の製品 291
Oracle User Productivity Kit の使用 291
ローカルで、または Web サーバー上でのヘルプのインストールと構成 292

付録 C. 制限事項 297
全般 297
Essbase 299
Planning 300
Financial Management 301
FDM 301

用語集 303

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info か、聴覚に障害のあるお客様は http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs を参照してください。

1 Smart Viewの概要

この章の内容

概要 15
Smart View のコンポーネント 16
リボン 16
Smart View パネル 17
このガイドについて 17

概要

Oracle Smart View for Office では、オンプレミス・プロバイダおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Services の両方のデータ・ソースを操作できます。

Smart View を使用することで、Microsoft Excel、Word、Outlook および PowerPoint を使用して、様々なデータ・ソースからのデータを表示、インポート、操作、配布、共有できます。

オンプレミス・プロバイダ用の Smart View

Smart View オンプレミスは、次のデータ・ソースに対する Microsoft Office 共通のインタフェースになります:

- Oracle Essbase
- Oracle Hyperion Financial Management
- Oracle Hyperion Planning
- Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace
- Oracle Hyperion Reporting and Analysis
- Oracle Hyperion Financial Close Management
- Oracle Hyperion Enterprise(R)

また、Smart View オンプレミスでは、複数の拡張機能がサポートされています。詳細は、251 ページの「拡張機能」を参照してください。

Oracle Planning and Budgeting Cloud Service 用の Smart View

Smart View は、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service に対する Office 共通のインタフェースにもなります。Oracle Planning and Budgeting Cloud Service に接続された Smart View では、次のデータ・ソースおよび拡張機能を使用できます:

- Planning
- Oracle Hyperion Financial Reporting の拡張機能
- 予測プランニング拡張機能
- Planning 管理拡張機能

このガイドでは、Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service についても説明しています。上にリストされている拡張機能については、それぞれのガイドで説明されています(詳細は、Oracle Cloud Documentation ライブラリを参照してください)。

また、このガイドにおいて、Financial Reporting への参照は、オンプレミスおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service バージョンの Financial Reporting の両方に適用されます。

Smart View のコンポーネント

Oracle Smart View for Office の基本コンポーネントはリボンと Smart View パネルで、データ・ソースへの接続や Smart View 機能へのアクセスが可能です。

表示されるコンポーネントは、開いている Microsoft Office アプリケーションによって異なります。

リボン

注： Smart View は、Microsoft Office 2007 以降のリボン構造で最適に機能するように設計されています。

Office アプリケーションで Smart View 機能にアクセスするには、リボンのコマンドを使用します。Smart View のリボンは常に存在し、Smart View の共通操作と、Reporting and Analysis の操作に関するコマンドが含まれています。Reporting and Analysis または Financial Close Management 以外のデータ・ソースに接続すると、対応するデータ・ソースのリボンも表示されます。各リボンには、そのデータ・ソースとモードでサポートされているコマンドのみが表示されます。Planning、Financial Management、および Hyperion Enterprise では、アド・ホック分析に切り替えると(第 5 章参照)、データ・ソースのリボンがそのアド・ホックバージョンにより置き換わります。リボンは次のとおりです:

- **Smart View**
- **Essbase**
- **Oracle Hyperion Planning**
- **Planning アド・ホック**
- **HFM** (Financial Management)
- **HFM アド・ホック**

- **Enterprise** (Hyperion Enterprise)
- **Enterprise アド・ホック**
- **Oracle BI EE**
- **その他**: 管理者が Smart View システムを拡張機能付きでインストールおよび構成した場合は、その他のリボンがある場合があります; たとえば、スマート・クエリーや Oracle Hyperion Disclosure Management などです。

Smart View パネル

Smart View パネルからは、データ・ソース接続の管理、データおよびタスクのリストへのアクセス、レポートの作成を実行できます。

Oracle Crystal Ball Enterprise Performance Management ワークブックを開く (Crystal Ball EPM または関連製品のライセンスがある場合)こともできます。

Smart View パネルは Smart View のリボンから開かれ、デフォルトでは Microsoft Office アプリケーションの右側に表示されます。タイトル・バーの下矢印から、Smart View パネルを移動、サイズを変更、閉じることができます。

Smart View パネルには次のペインが含まれます:

- **ホーム** - 共有接続およびプライベート接続へのリンクと最後に使用した項目 (アド・ホック・グリッド、フォーム、タスク)のリストが表示され、この項目をクリックすると接続を確立できます。
- **共有接続** - Oracle Hyperion Shared Services から使用できる接続のドロップダウン・メニューと、現在選択されている接続のコンテンツのツリー表示です。
- **プライベート接続** - ローカル・コンピュータに保存されている使用可能な接続のドロップダウン・メニューと、現在選択されている接続のコンテンツのツリー表示です。ここで URL を入力してデータ・ソースに直接接続することもできます。
- **タスク・リスト** - タスクの管理が可能なタスクのツリー・リストです。このペインが開くのは、「共有接続」または「プライベート接続」からタスク・リストを選択したときのみです。
- **アクション・パネル** - 共有接続、プライベート接続またはタスク・リストのツリー・リストでの選択に基づき使用可能な操作のリストです。
- **ドキュメント・コンテンツ** - 現在の Office ドキュメントに存在する接続とコンテンツのビューを提供する、Smart View パネルのタスク・ペインです。
- **その他** - 管理者が Smart View システムを拡張機能付きでインストールおよび構成した場合は、その他のパネルが存在する場合があります; たとえば、スマート・クエリーや Crystal Ball EPM ワークブックなどです。

このガイドについて

このガイドには、オンプレミス・プロバイダおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service プロバイダの両方に該当する情報が記載されています。

このガイド全体をとおして、特に記載がないかぎり:

- 次の例外を除き、Planning への参照は、オンプレミスの Planning および Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service の両方に有効です:

  トピックの冒頭には、サポートされているデータ・ソースがリストされていますが、オンプレミスの Planning は Planning と記載されています; Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service は、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service と記載されています。

- Oracle Hyperion Financial Reporting への参照は、オンプレミスの Financial Reporting および Financial Reporting for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service の両方に有効です。

2 データ・ソース接続の管理

この章の内容

接続 19
共有接続とプライベート接続 19
データ・ソースへの接続 20
データ・ソースからの切断 21
プライベート接続の作成 21
共有接続のプライベート接続としての保存 23
接続の変更 24
XML ファイルからの共有接続へのアクセス 25

接続

データ・ソースへの接続や接続の管理、さらにグリッド、フォームおよびタスク・リストのオープンをすべて Smart View パネルから行えます。

Smart View を管理者がどのように構成したかに応じて、データ・プロバイダおよび Office アプリケーションを変更するときに、ユーザー名とパスワードの入力が必要な場合と不要な場合があります。

共有接続とプライベート接続

データ・ソースへの接続には、共有接続またはプライベート接続を使用します。

- 共有接続

  共有接続は次のいずれかです:

  - 中央位置に保管されており、複数のユーザーが Smart View パネルから使用できます。
  - 各 Smart View クライアント・マシン上または Web アプリケーション・サーバー上のシステム管理者が作成した XML ファイルに格納されます。ユーザーは Smart View パネルから XML ファイルを使用できます。

  ユーザーは、共有接続の追加、編集または名前変更を行えませんが、共有接続をプライベート接続として保存し、編集および名前変更することができます。

- プライベート接続

プライベート接続とは、共有接続をローカル・コンピュータに保存する、または共有接続に構成されていないプロバイダへの URL を入力することにより作成する接続です。プライベート接続は、作成するとアクティブな接続になります。

データ・ソースへの接続

次の例外を除き、ワークシートごとに接続できるデータ・ソースは 1 つのみです:

- Essbase - 79 ページの「複数グリッド・ワークシートでの接続の変更」で説明されているように、1 つのワークシートで複数の Essbase データベースに接続できます
- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition - 198 ページの「複数の Oracle BI EE データ・ソースへの接続」で説明されているように、1 つのシートで複数の Oracle Business Intelligence カタログに接続できます

➤ データ・ソースに接続するには:

1 **Smart View のリボンで、「パネル」をクリックします。**

2 **Smart View ホームから、または の横の矢印をクリックしたときに表示されるメニューから、次のいずれかを実行します:**

- **「共有接続」**を選択して、「共有接続」パネルを開き、ドロップダウン・メニューからデータ・ソースを選択します。選択したデータ・ソースに使用可能な接続がツリー・リストに表示されます。

  注： Oracle Planning and Budgeting Cloud Service にアクセスする場合は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace のログイン画面が表示されます。Oracle Cloud アイデンティティ・サービス・ドメインの資格証明とアイデンティティ・ドメインを入力し、ドロップダウン・メニューからデータ・ソースを選択します。手順 4 に進みます。

- **「プライベート接続」**をクリックして、「プライベート接続」パネルを開き、ドロップダウン・メニューから接続を選択します。
- **「プライベート接続」**をクリックします。フィールドに URL を入力し、[Enter]キーを押します。使用する URL 構文の例は、21 ページの「プライベート接続の作成」を参照してください。
- **「最近使用」**の下にある接続名をクリックします。 をクリックすると、アイテムをこのリストに固定できます。

3 **「データ・ソースに接続」で、そのデータ・ソース用のユーザー名およびパスワードを入力します。**

4 **Smart View パネルのツリー・リストで、開くアイテム(フォーム、アド・ホック・グリッド、スマート・スライス、タスク・リストまたはカタログ)をダブルクリックします。**

アイテムはグリッドで開くとツリー・ビューで簡単に見つけられるようになります。 の横にある矢印をクリックして、「**ワークシート接続の検索**」を選択します。

注： Essbase のみ: 同じサーバー上の別のアプリケーションに接続する場合でも、外部認証が使用不可の場合は、セキュリティ上の理由から接続のたびにユーザー名とパスワードを指定する必要があります。

Essbase のみ: Essbase データベースに接続されると、データベースに関連付けられているデータベース・ノートを表示できるようになります。データベース・ノートを表示するには、Smart View パネルで、Essbase データベースの名前を右クリックして、「データベース・ノート」を選択します。これらのデータベース・ノートは、Smart View からは編集できません。データベース・ノートは、VBA 関数 HypGetDatabaseNote を使用して VBA に実装できます(Oracle Smart View for Office Developer's Guide を参照)。

データ・ソースからの切断

現在の接続またはすべての接続から切断できます。

➤ 現在の接続のみから切断するには:

1 **Smart View パネルのツリー・リストで、現在開いている接続を選択します。**

2 **オプション: この接続を簡単に検索するには、 の横にある矢印をクリックし、「ワークシート接続の検索」を選択します。**

3 **右クリックして「切断」を選択します。**

現在の接続から切断しても、シングル・サインオン(SSO)は無効になりません。

➤ 接続されているすべての共有接続およびプライベート接続から切断するには:

1 **Smart View パネルで、 をクリックします。**

2 **「すべて切断」を選択します。**

これを選択すると SSO が無効になり、次回接続するときには再度ログインが必要になります。

プライベート接続の作成

URL がわかれば、共有接続にリストされていない接続からプライベート接続を作成できます。

➤ URL を使用して接続を追加するには:

1 **Smart View のリボンで、「パネル」をクリックします。**

2 **Smart View パネルから、 の横にある矢印をクリックして、「プライベート接続」を選択します。**

3 **テキスト・ボックスに、接続先データ・ソースの URL またはローカル・ストレージ・ディレクトリを入力します。**

各データ・ソースの URL 構文は次のとおりです。使用する URL については、システム管理者に問い合せてください。

オンプレミス:

- Financial Management:

```
http(s)://
servername
:
port
/hfmofficeprovider/hfmofficeprovider.aspx
```

- Hyperion Enterprise:

```
http://
servername
:
port
/heofficeprovider/heofficeprovider.aspx
```

- Planning:

```
http(s)://
servername
:
port
/HyperionPlanning/SmartView
```

- Essbase:

```
http(s)://
servername
:
port
/aps/SmartView
```

- Reporting and Analysis:

```
http(s)://
servername
:
port
/raframework/browse/listXML
```

- Financial Close Management:

```
http://
servername
:
```

```
port
/fcc/servlets/smartview/fcmsvservlet
```

- Oracle Hyperion Strategic Finance:

```
http://
servername
:
port
/StrategicPlanning/SmartView
```

- Oracle BI EE:

```
http://
servername
:
port
/analytics/jbips
```

Oracle Planning and Budgeting Cloud Service:

- Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

```
http(s)://
servername
:
port
/HyperionPlanning/SmartView
```

- Reporting Settings

```
http(s)://
servername
:
port
/raframework/browse/listXML
```

4 → をクリックします。

プライベート接続リストの削除

プライベート接続のリスト全体を削除するには、→ の隣の矢印をクリックし、「手動で入力した URL エントリのクリア」を選択します。

共有接続のプライベート接続としての保存

管理権限なしに共有接続を作成することはできませんが、共有接続がプライベート接続に対して使用可能である場合、プライベート接続として保存できます。

➤ プライベート接続を作成するには:

1 **「共有接続」ツリー・リストから、プライベート接続として保存するアイテムを選択します。**

2 **アクション・パネルで、「プライベート接続への追加」を選択します。このオプションは、選択したアイテムをプライベート接続として保存可能である場合のみ使用可能です。**

3 **オプション:「プライベート接続として保存」で、接続の名前と説明を編集します。**

4 **「OK」をクリックします。**

5 **接続名が次の場所に表示されます:**

- 「共有接続」ツリー・リストに小さい矢印でプライベートとして示される
- 「プライベート接続」ドロップダウン・メニュー

接続の変更

「ドキュメント・コンテンツ」ペインから、Smart View ドキュメント内の接続を変更できます。これは、異なるサーバーを指定する部門間で Office ドキュメントを共有する場合や、テスト環境から本番環境に移行する際に便利です。

同じ接続情報を共有するドキュメント内のすべてのエンティティ(特定サーバーの同じアプリケーションやデータベースを指すすべてのワークシートやグリッドなど)の接続プロパティを変更できます。また、シートごとに接続情報を変更することも可能です。

➤ 「ドキュメント・コンテンツ」ペインから接続を変更するには:

1 **「ドキュメント・コンテンツ」ペインで、ドロップダウン・リスト・ボックスからアクションを実行します:**

- 選択したドキュメントからシートを選択します
- 特定の接続を選択します
- 「すべての接続」を選択します

2 **ペイン下部の「接続の変更」リンクを選択します。**

あるいは、接続名またはシート名を右クリックして、「接続の変更」を選択します。また、次のようにして接続を変更することも可能です:

- ワークブック内の全シートの接続を変更するには、「ドキュメント・コンテンツ」で最上位レベルのツリー・ノードの接続名を選択します
- 特定シートの接続を変更するには、特定のシート・レベルのツリー・ノードで接続名を選択します

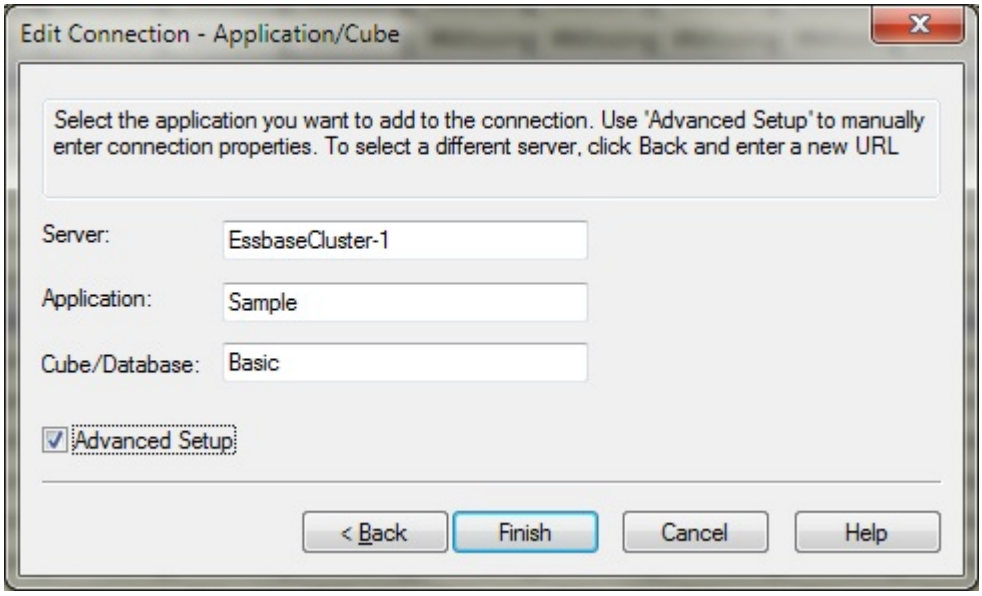
ウィザードの「接続の編集 - URL」ページが表示されます。

3 **「URL」ドロップダウン・リストで、既存の接続を選択するか、新しい接続 URL を入力します。**

4 「次へ」をクリックして、「接続の編集 - アプリケーション/キューブ」で「サーバー」を展開し、プロバイダの要求に応じて、接続先のアプリケーションおよびデータベースに移動します。

または、「拡張設定」チェック・ボックスを選択し、プロバイダの要求に応じて、「サーバー」、「アプリケーション」および「キューブ/データベース」に手動で情報を入力します。図 1 には、Essbase アプリケーションおよびデータベースに接続するためのエントリが表示されます。

図 1　接続の編集 - アプリケーション/キューブの拡張設定



5 「終了」をクリックします。

変更された接続情報は、ワークブックを保存するときに保存されます。

XML ファイルからの共有接続へのアクセス

注： このトピックの手順は、共有接続にのみ適用されます。

リリース 11.1.2.2.310 以降では、Smart View のデータ・ソースに接続する際、XML ファイルの共有接続情報を使用してプロバイダに接続できます。XML ファイルは、各 Smart View クライアント・マシン上にローカルに、または Web サーバー上に置くことができます。「オプション」ダイアログ・ボックスの「共有接続 URL」フィールドで XML ファイルを指定し、アクセス権を持つその他の共有接続と同様に、使用可能な接続にアクセスします。

Smart View の「共有接続」パネルから Oracle Business Intelligence Enterprise Edition プロバイダに接続するには、このトピックの手順に従う必要があります。ただし、21 ページの「プライベート接続の作成」に示されている手順を使用して、「プライベート接続」パネルから Oracle BI EE のデータ・ソースに接続することもできます。

注： この XML ファイルでは、ASCII 文字のみがサポートされます。このファイルに作成するエントリでは、ASCII 以外の文字を使用しないでください。

注意 このトピックの手順はシステム管理手順であり、ご使用の環境の Smart View を管理している人が実行する必要があります。

➤ XML ファイルで共有接続を設定するには:

1 **任意のテキスト・エディタを使用して空の XML ファイルを作成し、Smart View クライアント・マシンに保存します。**

ファイルに `SmartViewProviders.xml` などの意味のある名前を付け、拡張子を `.xml` にします。

注： この XML ファイルでは、ASCII 文字のみがサポートされます。このファイルに作成するエントリでは、ASCII 以外の文字を使用しないでください。

2 **ファイルの先頭に次の行を追加します:**

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

3 **次に、res_GetProvisionedDataSources の開始タグを追加します:**

```
<res_GetProvisionedDataSources>
```

4 **適切なプロバイダに対するエントリを追加します。**

Oracle Hyperion Provider Services (Oracle Essbase)、Planning、Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Reporting and Analysis、Oracle Hyperion Strategic Finance および Oracle BI EE のエントリを追加できます。

エントリを作成する際は、構文を正確にコピーし、それらの書き換えのみを行ってください:

- `Product` タグの `displayVersion` 属性:

  `version` - 指定するプロバイダのバージョン番号。

- `Server` タグの `context` 属性:

  `webServerHost` - Web サーバー・ホスト・マシン名。

  `19000|8900|9704` または構成済の`webServerPort`番号 - Web サーバー・ポート番号。各プロバイダの構文にすでに記述されている、デフォルトのポート番号を使用してください。または、デフォルトとは異なるポート番号を使用してシステムを構成した場合は、それを指定してください。

各プロバイダ・タイプに対する構文を以下に示します。

Provider Services (Essbase)

```
<Product id="APS" name="APS-11.1.2" displayVersion="
```

```
      version
      ">
<Server name="Oracle Hyperion Provider Services" context="http://
      webServerHost
      :19000
      or configured webServerPort number
      /aps/SmartView"></Server>
</Product>
```

Planning

```
      <Product id="HP" name="HP-11.1.2" displayVersion="
      version
      ">
<Server name="Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition" context="http://
      webServerHost
      :19000
      or configured webServerPort number
      /HyperionPlanning/SmartView"></Server>
</Product>
```

Financial Management

```
      <Product id="HFM" name="HFM-11.1.2" displayVersion="
      version
      ">
<Server name="Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition"
context="http://
      webServerHost
      :19000
      or configured webServerPort number
      /hfmadf/../hfmofficeprovider/HFMOfficeProvider.aspx"></Server>
</Product>
```

Reporting and Analysis

```
      <Product id="RAFramework" name="RAFramework-11.1.2" displayVersion="
      version
      ">
<Server name="Reporting and Analysis Framework" context="http://
      webServerHost
      :19000
      or configured webServerPort number
      /raframework/browse/listXML"></Server>
</Product>
```

Strategic Finance

```
      <Product providerType="ExtensionProvider" id="HSF" name="HSF-11.1.2"
displayVersion="
      version
      ">
```

```
<Server name="Oracle Hyperion Strategic Planning, Fusion Edition" context="
      webServerHost
      :8900
      or configured webServerPort number
      /StrategicPlanning/SmartView"></Server>
</Product>
```

Oracle BI EE

```
      <Product providerType="ExtensionProvider" id="27EE9B0D-D5F5-42c9-
AFC5-44FEA770C693" name="OBI EE-11.1.1.7" displayVersion="
      version
      ">
<Server name="Oracle BI, Fusion Edition" context="OBI:http://
      webServerHost
      :9704
      or configured webServerPort number
      /analytics/jbips"></Server>
</Product>
```

5 **オプション:** ローカルで、または内部 URL からヘルプにアクセスする場合は、ヘルプを特定するエントリを追加します。

- ローカル・ドライブ上にインストールされているヘルプ:

```
<helpurlcontext>file:///
parent_language_folder_path
/</helpurlcontext>
```

例:

```
<helpurlcontext>file:///C:/Oracle/SmartView/smartview_help/</
helpurlcontext>
```

- Web サーバーにインストールされているヘルプ:

```
<helpurlcontext>http://
webServerHost
:
webServerPort
/
pathToHelpFiles
/smartview_help/</helpurlcontext>
```

例:

```
<helpurlcontext>http://abcxyzco.com:12345/user_documentation/
smartview_help/</helpurlcontext>
```

注意:

- この手順は、XML ファイルから共有接続にアクセスする予定があり、ローカル・ドライブまたは組織内の Web サーバーからヘルプにアクセスする必要がある場合にのみ実行します。ヘルプの設定手順については、292 ページの「ローカルで、または Web サーバー上でのヘルプのインストールと構成」を参照してください。
- `<helpurlcontext>`タグを使用すると、共有接続 XML ファイルによるオプションのローカル・ヘルプ構成に従って `properties.xml` ファイルの `<helpurlcontext>`タグで指定したデフォルトの場所または変更した場所が、指定したヘルプの場所によってオーバーライドされます。

6 **オプション: User Productivity Kit (UPK)に対するエントリを追加します:**

```
<UPK>http://
link to User Productivity Kit
</UPK>
```

例:

```
<UPK>http://download.abcxyzco.com/ocomdocs/PlayerPackage/data/toc.html</UPK>
```

7 **`res_GetProvisionedDataSources` 終了タグを追加してファイルを完成させ、保存します。**

```
</res_GetProvisionedDataSources>
```

完全な構文とファイルをセットアップする方法の例については、接続ファイルの構文と例を参照してください。

8 **ファイルをテストします。**

1. 次のいずれかのアクションを行います:
   - XML ファイルをローカル・ドライブにコピーする場合は、ファイルを Smart View クライアント・マシンのローカル・ドライブにコピーしてください。

     たとえば、ファイルを `SmartView\bin` ディレクトリにコピーします。
   - ファイルを Web サーバーにコピーする場合は、XML ファイル名と `.xml` 拡張子を含む完全修飾 URL からファイルにアクセスできることを確認してください。
2. Smart View を起動して、「オプション」ダイアログ・ボックスで「共有接続 URL」を編集し、ファイル名の拡張子 `.xml` を含むファイルへのフル・パスまたは URL を追加します。

   注： ローカル・ドライブのパスまたは URL にファイル名の拡張子 `.xml` が含まれない場合、この機能は動作しません。

   - ローカル・ドライブの例:

```
C:/Oracle/SmartView/bin/SmartViewProviders.xml
```

ファイル・パスではスラッシュ(/)をセパレータとして使用します。

ディレクトリ・パスとファイルが共有接続のリストですぐに使用可能になります。

- Web サーバー URL の構文:

```
http://
webServerHost
:
webServerPort
/
pathToFile
/
filename
.xml
```

Web サーバー URL の例:

```
http://abcxyzcowebserver:1234/SmartViewDataSources/
SmartViewProviders.xml
```

URL が共有接続のリストで利用可能になります。

3. 20 ページの「データ・ソースへの接続」の説明に従って、Smart View パネルの「共有接続」オプションを使用してファイルに接続します。

   プロバイダのエントリが「共有接続」ドロップダウン・リストにない場合、XML ファイルに構文の誤りか無効な文字が含まれている可能性があります。

   ヒント： XML を検証するには、ファイルを Internet Explorer などのブラウザで開きます。ブラウザによって無効な構文が指されます。XML ファイル・エディタでエラーを修正して保存し、ブラウザの表示をリフレッシュします。

9 **XML ファイルが正しく、完了したら、次のいずれかの手順を実行します。**

- XML ファイルをローカル・ドライブにコピーする場合は、次の指示とともにファイルを Smart View ユーザーに配布します。

  1. このファイルは変更しないでください。
  2. このファイルを Smart View クライアント・マシンのローカル・ドライブにコピーしてください。

     たとえば、ファイルを `SmartView\bin` フォルダにコピーします。
  3. Smart View を起動し、「オプション」ダイアログ・ボックスで、ファイル名および`.xml` 拡張子を含むローカル・ドライブ上のファイルへのフル・パスで「共有接続 URL」を編集します。例:

```
C:/Oracle/SmartView/bin/SmartViewProviders.xml
```

ファイル・パスではスラッシュ(/)をセパレータとして使用します。

ディレクトリ・パスとファイルが共有接続のリストですぐに使用可能になります。

4. 20 ページの「データ・ソースへの接続」の説明に従って、Smart View パネルの「共有接続」オプションを使用してファイルに接続してテストします。

   接続に問題がある場合は、Smart View 管理者に連絡してください。

- XML ファイルを Web サーバーにコピーする場合は、次の指示を Smart View ユーザーに通知します:

  1. Smart View を起動して、「オプション」ダイアログ・ボックスで、ファイル名および.xml 拡張子を含む指定された URL で「共有接続 URL」を編集します。例:

     ```
     http://abcxyzcowebserver:1234/SmartViewDataSources/
     SmartViewProviders.xml
     ```

  2. 20 ページの「データ・ソースへの接続」の説明に従って、Smart View パネルの「共有接続」オプションを使用してこの URL に接続してテストします。

     接続に問題がある場合は、Smart View 管理者に連絡してください。

  3. **Internet Explorer ユーザー:** 手順 a で指定された URL を使用する場合は、Internet Explorer で次のオプションを設定することをお薦めします:

     1. 「ツール」、「インターネット オプション」を選択します。
     2. 「全般」タブの「閲覧の履歴」グループで「設定」を選択します。
     3. 「保存しているページの新しいバージョンがあるかどうかの確認」セクションで「Web サイトを表示するたびに確認する」を選択して、「OK」をクリックします。
     4. 「インターネット オプション」ダイアログ・ボックスで「詳細設定」タブを選択します。
     5. 「セキュリティ」セクションで「ブラウザを閉じたとき、[Temporary Internet Files] フォルダーを空にする」オプションを選択します。
     6. 「OK」をクリックして「インターネット オプション」を閉じ、ブラウザを再起動します。

接続ファイルの構文と例

以下に、完全なファイル構文を示します:

```
   <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<res_GetProvisionedDataSources>
<Product id="APS" name="APS-11.1.2" displayVersion="
```

```
   version
   ">
<Server name="Oracle Hyperion Provider Services" context="http://
   webServerHost
   :19000
   or configured webServerPort number
   /aps/SmartView"></Server>
</Product>
<Product id="HP" name="HP-11.1.2" displayVersion="
   version
   ">
<Server name="Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition" context="http://
   webServerHost
   :19000
   or configured webServerPort number
   /HyperionPlanning/SmartView"></Server>
</Product>
<Product id="HFM" name="HFM-11.1.2" displayVersion="
   version
   ">
<Server name="Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition" context="http://
   webServerHost
   :19000
   or configured webServerPort number
   /hfmadf/../hfmofficeprovider/HFMOfficeProvider.aspx"></Server>
</Product>
<Product id="RAFramework" name="RAFramework-11.1.2" displayVersion="
   version
   ">
<Server name="Reporting and Analysis Framework" context="http://
   webServerHost
   :19000
   or configured webServerPort number
   /raframework/browse/listXML"></Server>
</Product>
<Product providerType="ExtensionProvider" id="HSF" name="HSF-11.1.2" displayVersion="
   version
   ">
<Server name="Oracle Hyperion Strategic Planning, Fusion Edition" context="http://
   webServerHost
   :8900
   or configured webServerPort number
   /StrategicPlanning/SmartView"></Server>
</Product>
<Product providerType="ExtensionProvider" id="27EE9B0D-D5F5-42c9-AFC5-44FEA770C693"
name="OBI EE-11.1.1.7" displayVersion="
   version
   ">
<Server name="Oracle BI, Fusion Edition" context="OBI:http://
   webServerHost
   :9704
   or configured webServerPort number
   /analytics/jbips"></Server>
</Product>
<helpurlcontext>
   a valid entry as per optional step 5
   </helpurlcontext>
```

```
<UPK>http://
   link to User Productivity Kit
   </UPK>
</res_GetProvisionedDataSources>
```

次の例は、各プロバイダ・タイプのエントリ、および組織の内部 Web サーバーからヘルプにアクセスするためのエントリを示しています。

```
   <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<res_GetProvisionedDataSources>
<Product id="APS" name="APS-11.1.2" displayVersion="11.1.2.2.500">
<Server name="Oracle Hyperion Provider Services" context="http://abcsvr.xyzco.com:
19000/aps/SmartView"></Server>
</Product>
<Product id="HP" name="HP-11.1.2" displayVersion="11.1.2.2.000">
<Server name="Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition" context="http://
abcsvr.xyzco.com:19000/HyperionPlanning/SmartView"></Server>
</Product>
<Product id="HFM" name="HFM-11.1.2" displayVersion="11.1.2.2.300">
<Server name="Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition" context="http://
abcsvr.xyzco.com:19000/hfmadf/../hfmofficeprovider/HFMOfficeProvider.aspx"></Server>
</Product>
<Product id="RAFramework" name="RAFramework-11.1.2" displayVersion="11.1.2.2.000">
<Server name="Reporting and Analysis Framework" context="http://abcsvr.xyzco.com:
19000/raframework/browse/listXML"></Server>
</Product>
<Product providerType="ExtensionProvider" id="HSF" name="HSF-11.1.2"
displayVersion="11.1.2.2.00.2266">
<Server name="Oracle Hyperion Strategic Planning, Fusion Edition" context="http://
abcsvr.xyzco.com.com:8900/StrategicPlanning/SmartView"></Server>
</Product>
<Product providerType="ExtensionProvider" id="27EE9B0D-D5F5-42c9-AFC5-44FEA770C693"
name="OBI EE-11.1.1.7" displayVersion="11.1.1.7">
<Server name="Oracle BI, Fusion Edition" context="OBI:http://abcsvr.xyzco.com:9704/
analytics/jbips"></Server>
</Product>
<helpurlcontext>http://abcxyzcowebserver:12345/user_documentation/smartview_help/</
helpurlcontext>
<UPK>http://download.abcxyzco.com/ocomdocs/PlayerPackage/data/toc.html</UPK>
</res_GetProvisionedDataSources>
```

3 ディメンションとメンバー

この章の内容

ディメンションとメンバーについて 35
ディメンションおよびメンバーの命名の制限 35
メンバー・セレクタからのメンバーの選択 36
POV ツールバーからのメンバーの選択 38
Essbase での POV ツールバーからのメンバーの選択 40
Essbase にセルベースの POV を使用したメンバーの選択 41
フリーフォーム・モードでのメンバーの入力 43
属性によるフィルタ 43
サブセットによるフィルタ 44
期間累計メンバーの選択 44
メンバー・セレクタでのメンバー名の表示の定義 45
メンバー名の重複 46
メンバー・パースペクティブ 47
別名および別名表 47
メンバー情報 49
POV マネージャ 50

ディメンションとメンバーについて

ディメンションは、ビジネス・データを整理して値の取得と保存ができるようにするために使用するデータ・カテゴリです。ディメンションには通常、内部でグループ化された関連メンバーの階層が含まれています。たとえば、年ディメンションには、四半期や月など期間ごとのメンバーが含まれています。

グリッドのメンバーは、データ・ソースのリボンにある「メンバー選択」ダイアログ・ボックスから、または POV ツールバーから選択するか、フリーフォーム・モードを使用してメンバー名を入力します。

ディメンションおよびメンバーの命名の制限

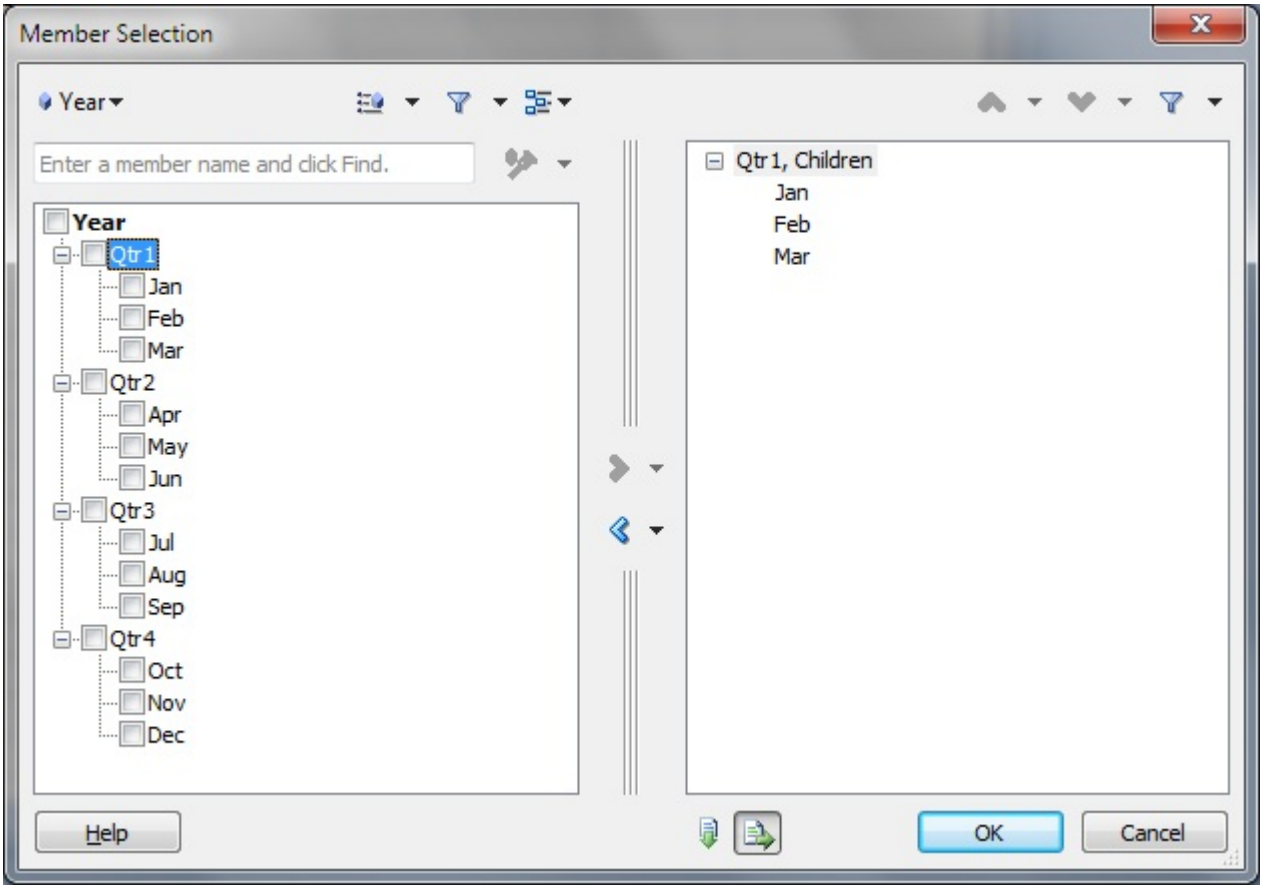
Smart View のセル関数(第 17 章「関数」参照)を使用する場合、メンバー名、ディメンション名、変数名にハッシュ記号(#)やセミコロン(;)を使用しないでください。これらの文字は、Smart View のセル関数でデリミタとして予約されています。

メンバー・セレクタからのメンバーの選択

Smart View でメンバーを選択する用途には、アド・ホック・グリッド、関数、POV マネージャでの使用や、Planning フォームのオフライン化での使用があります。「メンバー選択」ダイアログ・ボックスには、これら使用する場面によって少しずつ異なるバリエーションがあり、オプションによっては使用できないものもあります。1 つのディメンションのメンバーを一度に選択できます。

図 2 は、「年」ディメンションとそのメンバーが例として表示された「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを示しています。

図 2 「メンバー選択」ダイアログ・ボックス



➤ メンバーを選択するには:

1 **選択したディメンションで使用可能なメンバーのツリー・リストを含む「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを表示するには、次のいずれかを行います:**

- グリッドのディメンションまたはメンバーを選択し、「アド・ホック」データ・ソースのリボンから、「メンバー選択」をクリックします。
- メンバーの選択が可能な「開く」ダイアログ・ボックスで、「メンバー選択」をクリックします。
- 空のワークシートで、Smart View パネルから、キューブ名を右クリックして「メンバー選択」を選択します。このメソッドを使用して、関数と参照のメンバーを選択します(第 17 章「関数」を参照)。

2 「メンバー選択」でディメンションを変更するには、「ディメンション・セレクタ」ボタン(たとえば、Year)をクリックして、ディメンションを選択します。

3 **オプション:** ツリー・リストで特定のメンバーを検索するには、検索フィールドにメンバー名を入力して、をクリックします。

Essbase では、アスタリスク(*)または疑問符(?)をワイルド・カードとして使用します。

4 **オプション:** ツリー・リストで特定のメンバーまたはメンバー・グループを検索するには、をクリックして、次のフィルタのいずれかを選択します(フィルタ・オプションはデータ・ソース・タイプによって異なる可能性があります):

- 「子」は、選択したメンバーの子のみを選択します
- 「子を含む」は、選択したメンバー、およびその子のみが含まれます
- 「子孫」は、選択したメンバーのすべての子孫を選択します
- 「子孫を含む」は、選択したメンバー、およびそのすべての子孫が含まれます
- 「兄弟」は、選択したメンバーのすべての兄弟を選択します
- 「兄弟を含む」は、選択したメンバー、およびそのすべての兄弟が含まれます
- 「親」は、選択したメンバーの親のみを選択します
- 「親を含む」は、選択したメンバー、およびその親のみが含まれます
- 「祖先」は、選択したメンバーのすべての祖先を選択します
- 「祖先を含む」は、選択したメンバー、およびそのすべての祖先が含まれます
- 「基本」は、階層の最下位レベルの階層メンバーのみを選択します
- 「レベル」は、メンバー階層の 1 レベルを選択する「レベル」を表示します。
- 「レベル 0 子孫」は、選択した中で子のないメンバーのすべての子孫を表示します
- 「世代」は、メンバー階層の 1 世代を選択する「世代」を表示します。
- 「UDA」は、ユーザー定義属性(管理者が定義した場合にのみ使用可能)を選択する「UDA」を表示します。

注： 43 ページの「属性によるフィルタ」、44 ページの「サブセットによるフィルタ」、および44 ページの「期間累計メンバーの選択」も参照してください。

5 **オプション:** 「メンバー選択」ダイアログ・ボックスのメンバーの表示オプションおよび選択オプションを選ぶには、をクリックしてアクションを実行します:

- 適用するメンバーの隣にあるチェック・ボックスにチェック・マークを入れるには、「子のチェック」、「子孫のチェック」または「基本メンバーのチェック」を選択します。
- すべてのチェック・マークをクリアするには、「チェックのクリア」を選択します。
- ディメンションを展開または縮小した状態で表示するには、「すべて展開」または「すべて縮小」を選択します。
- **Essbase のみ:** メンバーに関する情報を表示するには、メンバーを選択し、「メンバー情報」を選択します。
- 「メンバー選択」ダイアログ・ボックスのメンバーに別名表を適用するには、「別名表」を選択して、別名表を選択します。

  「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで行った別名表の選択は、そのダイアログ・ボックスにのみ適用され、Office ドキュメントのグリッドには適用されないことに注意してください。

6 **「メンバー」で、使用するメンバーを選択します。**

7 **をクリックします。**

メンバーは、右側のペインでメンバー・ツリー・リストから選択ツリー・リストに移動されます。

8 **オプション: 空のワークシートで初めてメンバー選択を行う場合は、次のいずれかのボタンを選択します:**

- を選択して、選択したメンバーを列に縦に表示します
- を選択して、選択したメンバーを行に横に表示します

9 **「OK」をクリックします。**

選択したメンバーがグリッドに表示されます。

10 **リボンから「リフレッシュ」をクリックすると、データは選択したメンバーに対応して更新されます。**

POV ツールバーからのメンバーの選択

Essbase 接続については、40 ページの「Essbase での POV ツールバーからのメンバーの選択」を参照してください。

POV とは、データ・ソース接続におけるディメンションのデフォルトの開始点です。POV ツールバーから、グリッドに追加する各ディメンションのメンバーとフィルタを選択し、グリッドに、またはグリッドからメンバーを移動できます。

各接続に関連付けられるのは 1 つの POV のみですが、ワークブックの複数のワークシートに対する 1 つの接続で、異なる POV を設定することは可能です。

POV は、50 ページの「POV マネージャ」の説明に従って管理できます。

注： Financial Management には、デフォルトでユーザーの視点が表示されます。詳細は、Oracle Hyperion Financial Management User's Guide を参照してください。

POV ツールバーからグリッドへのメンバーとディメンションの配置

➤ POV ツールバーからディメンションとメンバーを選択するには:

1 **次のいずれかの操作を行います:**

- POV ツールバーでメンバーの名前を対応するディメンションの上に入力して、POV ツールバーで「リフレッシュ」をクリックします。
- POV ツールバーでディメンションの横にある下矢印をクリックし、36 ページの「メンバー・セレクタからのメンバーの選択」の説明に従ってメンバーを選択します。

2 **POV ツールバーでメンバーの横にある下矢印を右クリックし、それをグリッドにドラッグします。**

メンバーまたはディメンションを編集するために POV ツールバーに移動するには、そのセルを右クリックして POV ツールバーにドラッグします。

3 **必要に応じて繰り返して、グリッドに追加するすべてのディメンションとメンバーを配置します。**

4 **これらの POV 選択をワークシートに保存するには、ワークシートの保存前にリフレッシュする必要があります。**

POV ツールバーの非表示

POV ツールバーでの作業を終了後、再び必要になるまで非表示にしておくことができます。POV ツールバーを非表示にするには、データ・ソースのリボンで「POV」をクリックします。「POV」ボタンにより、POV ツールバーの表示と非表示が切り替わります。

注： Essbase のリボンでは、「POV」ボタンの操作は異なります。40 ページの「Essbase での POV ツールバーからのメンバーの選択」を参照してください。

例

図 3 には、左から右に、次の条件で POV が表示されます:

- 「Product」、「Market」および「Scenario」は開始ディメンションです。
- 「Colas」は、「Product」のメンバーとして選択されています(ディメンションから一度に複数のメンバーを選択できます)。
- 「Colas」はグリッドに移動されています(ディメンションを編集するために戻すこともできます)。

図 3　POV

Essbase での POV ツールバーからのメンバーの選択

注： このセクションの情報は、Essbase 11.1.2.1.102 以降の接続にのみ適用されます。前のリリースの Essbase を使用している場合、POV ボタンは POV ツールバーの非表示に記述されているように動作します。

Essbase では、グリッドにすべてのメンバーを表示して POV ツールバーを非表示にするか、POV メンバーを含む POV ツールバーを表示するかを選択できます。

デフォルトでは、すべてのメンバーがグリッドに表示され、POV ツールバーは非表示になっています。このモードでは、他のメンバーやデータ・セルと同じように POV メンバー・セルをフォーマットして、リボンからメンバーを選択できます。

POV メンバーを含む POV ツールバーを表示する場合、POV ツールバーを使用してメンバーを選択し、それらのメンバーを 38 ページの「POV ツールバーからのメンバーの選択」の説明に従ってグリッドに移動またはグリッドから移動することができます。

POV ツールバーを表示するには、Essbase のリボンから「POV」を選択します。POV ツールバーを非表示にして、すべてのメンバーをグリッドに表示するには、「POV」をオフに切り替えます。

注： 複数のグリッドを含むワークシートでは、「POV」ボタンは使用不可です。これらのワークシートでは、POV ツールバーは非表示で、すべてのメンバーがグリッドに表示されます。

図 4 では、「POV」ボタンはオフで、POV ツールバーは非表示になっており、すべてのメンバーがグリッドに表示されています。

図 5 では、POV ツールバーがグリッドに表示されています。「メジャー」と「年」がグリッドに表示され、POV メンバー「製品」、「市場」および「シナリオ」が POV ツールバーに表示されています。

図 4　すべてのメンバーをグリッドに表示

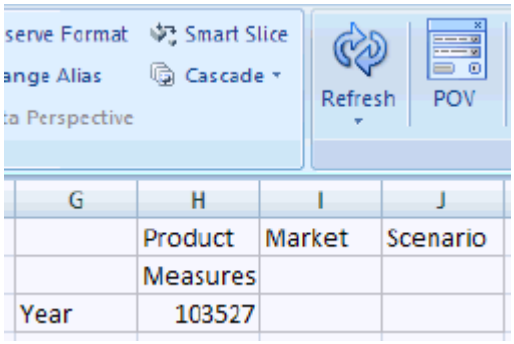
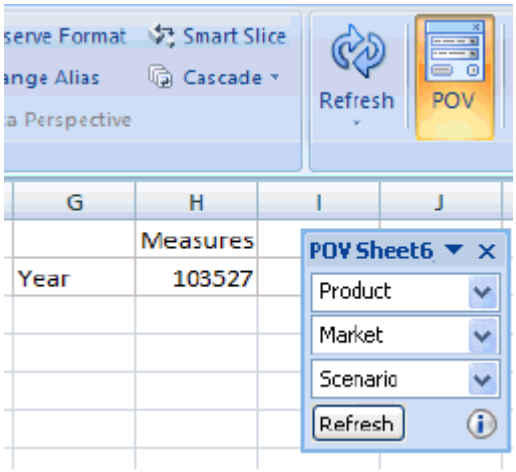


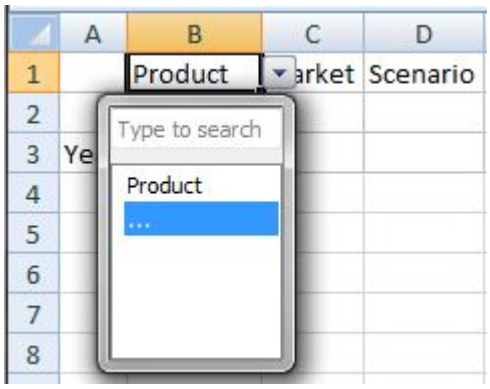
図 5　POV ツールバーの表示



Essbase にセルベースの POV を使用したメンバーの選択

POV ツールバーを使用せずに、Essbase グリッドのページ・ディメンションの行のセルからメンバーを直接選択できます。セルベースの POV は、ページ POV ディメンションのセルをクリックし、セルの右側に表示される下矢印を選択すると使用でき、POV ツールバーと同じように動作します。

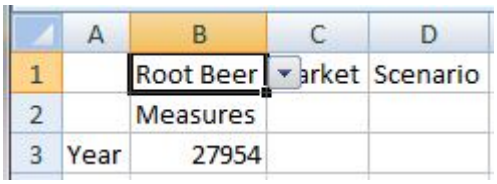
図 6　ディメンションのセルの選択と下矢印のクリック



ドロップダウンに表示される省略記号(...)をクリックし、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスでメンバーを選択して、「OK」をクリックします。ここで、ディメンションのセルを再度見てください。選択した最初のメンバーがディメンションのセルに表示され、セルベースの POV の下矢印をクリックして他のメンバーを選択するとそのメンバーが使用可能になります。選択するたびに、「リフレッシュ」をクリックして更新されたデータを表示します。

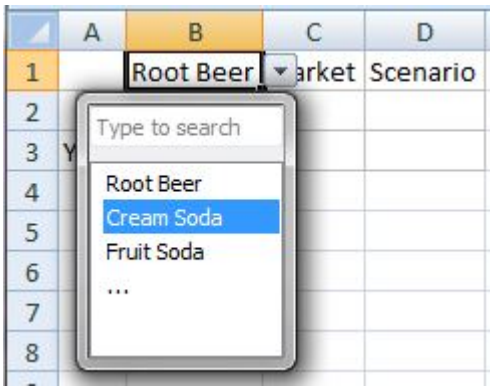
たとえば Product ディメンションに対して Sample Basic アプリケーションおよびデータベースを使用して、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで「Root Beer」、「Cream Soda」および「Fruit Soda」を選択すると、図 7 に示すように「Root Beer」がディメンションのセルに表示されます。「リフレッシュ」をクリックして Root Beer のデータを表示します。

図 7　セルベースの POV を使用した Product ディメンション POV の Root Beer への変更



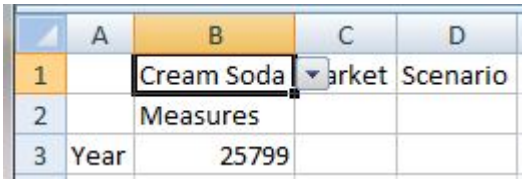
ここで、セルベースの POV の矢印をクリックして、別の項目、たとえば Cream Soda を選択します(図 8)。

図 8　セルベースの POV を使用した POV の Cream Soda への変更



「リフレッシュ」をクリックしてデータを更新します。データが変更されています(図 9)。

図 9　リフレッシュされた Cream Soda のデータ



セルベースの POV ドロップダウンの検索フィールドにメンバー名を直接入力することもできます。この場合、一度に選択できるメンバーは 1 つのみです。「リフ

レッシュ」をクリックして更新されたデータを表示します。POV を変更するには、その都度、別のメンバー名を検索フィールドに入力します。

Essbase リボンの「POV」ボタンを切り替えると、引き続き POV ツールバーをこれまでどおり使用できます。選択した場所に関係なく、セルベースの POV と POV ツールバーの選択項目は自動的に同期されます。別の別名表に変更すると、セルベースの POV に正しい別名の値が移入されます。

注： この機能を使用できるのは、Essbase および Oracle Hyperion Provider Services 11.1.2.1.102 以降がインストールされている場合のみです。

フリーフォーム・モードでのメンバーの入力

データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合、フリーフォーム・モードを使用して、これらの名前を直接セルに入力できます。フリーフォーム・モードでは、現在のグリッドに関連付けられている別名表からの別名を使用できます。別の別名表の別名を入力すると、現在の別名表の別名に戻されます。

データ・ソースへの接続後、次のようにメンバー名を入力できます。

- メンバー名を空白のセルに入力します
- セル内のメンバー名を、同じディメンションの別のメンバーに置き換えます

POV、メンバー選択およびフリーフォーム・グリッドでのその他のアド・ホック操作も引き続き使用できます。第 18 章「フリー・フォーム・モード」を参照してください。

属性によるフィルタ

データ・ソース・タイプ: Essbase

属性メンバーを含むディメンションでは属性によるフィルタが可能です。

➤ 属性によってフィルタするには:

1. グリッドの属性ディメンションを選択し、36 ページの「メンバー・セレクタからのメンバーの選択」の説明に従って「メンバー選択」を開きます。
2. をクリックし、「属性」を選択します。
3. 「属性」から、をクリックします。
4. 「ディメンション」の「サブセット」から、ディメンションを選択します。たとえば、「Ounces」を選択します。
5. 「メンバー」で、属性メンバーを選択します。たとえば、「Ounces_16」を選択します。
6. Add をクリックして、属性を表示します。

7 オプション: 表示された属性を変更するには、「ディメンション」および「属性」の選択項目を変更して、「設定」をクリックします。

8 「OK」をクリックします。

選択した項目が「メンバー選択」のツリー・リストに表示され、その中からグリッドに追加する項目を選択できます。

サブセットによるフィルタ

データ・ソース・タイプ: Essbase

属性メンバーを含むディメンションの場合、属性を選択してその条件を設定し、これらの条件を満たすメンバーのみを表示できます。

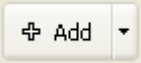
➤ 条件によってフィルタするには:

1 グリッドの属性メンバーを選択し、36 ページの「メンバー・セレクタからのメンバーの選択」の説明に従って「メンバー選択」を開きます。

2 をクリックし、「サブセット」を選択します。

3 「ディメンション」の「サブセット」から、属性ディメンションを選択します。たとえば、「Ounces」を選択します。

4 「メンバー」で、属性メンバーを選択します。たとえば、「True」を選択します。

5 

をクリックします。

6 「ディメンション」で、別の属性ディメンションを選択します。たとえば、「Pkg Type」を選択します。

7 「メンバー」で、別の属性メンバーを選択します。たとえば、「Bottle」を選択します。

8

をクリックします。

AND 条件文が作成されます。たとえば、[True] AND [Bottle]などです。

9 **オプション:** 条件文を変更するには、AND 条件文をハイライト表示して「演算子」を選択し、「AND」または「OR」を選択します。

10 **オプション:** 他の属性を選択し、「追加」、「ルート」の順に選択することで、条件をネストします。

11 「OK」をクリックします。

選択した項目が「メンバー選択」のツリー・リストに表示され、その中からグリッドに追加する項目を選択できます。

期間累計メンバーの選択

データ・ソース・タイプ: Essbase

時間ディメンションでは、「動的時系列」メンバーと呼ばれる期間累計メンバーを設定できます。たとえば、8 月末の年次累計データを表示するには、1 月から 8 月までのデータを含む「動的時系列」メンバーを設定します。

➤ 「動的時系列」メンバーを選択するには:

1 グリッドの時間ディメンションを選択し、36 ページの「メンバー・セレクタからのメンバーの選択」の説明に従って「メンバー選択」を開きます。

2 をクリックし、「動的時系列」を選択して、使用可能な時系列メンバーをメンバー・ツリー・リストに表示します。

3 メンバー・ツリー・リストから時系列メンバーを選択し、をクリックします。

4 「DTS メンバーの選択」から、累計計算を実行する最新の期間を選択します; たとえば、「Aug」です。

5 「OK」をクリックします。

6 **オプション:** 必要に応じて手順 3 から手順 5 を繰り返して、他の動的時系列メンバーを追加します。

7 「OK」をクリックします。

時系列メンバーが、この例のように「Y-T-D(Aug)」としてグリッドに表示されます。リフレッシュすると、8 月までの年次累計データが表示されます。

メンバー・セレクタでのメンバー名の表示の定義

データ・ソース: Essbase、Financial Management、Hyperion Enterprise

「メンバー選択」ダイアログ・ボックスから「メンバー名の表示」オプションを選択できます。たとえば、接続しているプロバイダが重複するメンバー名の使用を許可している場合は、メンバー名をそれぞれの説明または別名とともに表示するかどうかを選択できます。

➤ メンバー名の表示方法を選択するには:

1 36 ページの「メンバー・セレクタからのメンバーの選択」の説明に従って、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを表示します。

2 「メンバー選択」でディメンションを変更するには、「ディメンション・セレクタ」ボタンをクリックしてディメンションを選択します。

3 「メンバー選択」で「オプション」ボタンをクリックして「メンバー名の表示」を選択し、オプションを選択します。

- 「メンバー名のみ」を選択すると、修飾名が表示されます。
- 「メンバー名および説明」を選択すると、修飾名と説明(別名)が同じセルに表示されます。(Hyperion Enterprise のデータ・ソースについてのみ)。

- 「説明のみ」を選択すると、別名のみが表示されます(Hyperion Enterprise のデータ・ソースに接続している場合は使用できません)。

  注： フリーフォーム・モードで「説明のみ」を選択した場合は、最初は修飾名が表示されます。手作業でコメントを追加、除去、または編集してリフレッシュすると、別名が表示されます。

4 「OK」をクリックします。

この設定は、リフレッシュを行うか、ドリル操作を実行すると有効になります。

メンバー名の重複

データ・ソース・タイプ: Essbase

異なるメンバーに同じ名前が付けられていることがあります。たとえば、データベースに、1 つはニューヨーク市、もう 1 つはニューヨーク州の、2 つの"ニューヨーク"という名前のメンバーが存在することがあります。グリッドではどちらのメンバーも"ニューヨーク"と表示できますが、両者を区別する場合は、名前のかわりに修飾名を表示できます。修飾名には、`[Market].[New York]`など、メンバー名と、そのメンバーを一意に定義するレベルまでの祖先の名前が含まれます。

➤ 重複するメンバーの修飾名を表示するには:

1 Smart View のリボンから、「オプション」を選択し、左側のパネルで「メンバー・オプション」を選択します。

2 「メンバー名の表示」ドロップダウン・メニューから、「個別のメンバー名」を選択します。

3 「OK」をクリックします。

4 グリッドをリフレッシュします。

グリッドで重複するメンバーが、修飾名で表示されます。この例では、ニューヨーク市は`[East].[New York]`と表示されます。ニューヨーク州は East、West、South の兄弟として、`[Market].[New York]`と表示されます。

	Period
	Stereo
[East].[New York]	15647
Boston	15644
Chicago	15285
East	46576
West	62839
South	24565
[Market].[New York]	22645
Market	133980

メンバー・パースペクティブ

データ・ソース・タイプ: Essbase

可変属性フィルタを使用してメンバーを選択している場合に、可変属性のメンバー・パースペクティブを指定できます。

注： メンバー・パースペクティブは、Smart View システムでは使用可能にできません。メンバー・パースペクティブのオプションは、管理者が使用可能にし、構成します。

➤ メンバー・パースペクティブを指定するには:

1 「メンバー選択」の「フィルタ」で、「可変属性」を選択します。

2 「フィルタ引数」で、

3 属性を指定してパースペクティブを設定し、「OK」をクリックします。

4 「可変属性の引数」(「可変属性」の下)で、省略記号ボタンをクリックします。

5 「サブセット」の「ディメンション」で、属性ディメンションを入力します。

6 「メンバー」に属性メンバーを入力し、「設定」をクリックします。

7 「OK」をクリックします。

8 「可変属性の引数」の「パースペクティブ」で、省略記号ボタンをクリックします。

9 「パースペクティブ」で、次のいずれかを選択します:

- 「スナップショット」。可変属性に関連付けられている基本ディメンションのメンバーを識別する、一連の独立ディメンション・メンバー。ここでは、開始タプルと終了タプルは同じです。
- 「範囲」。」独立ディメンション・メンバーの確定範囲。範囲は、連続する独立ディメンション(たとえば"Year")に対してのみ指定できます。個別の独立ディメンションの場合は、1 つの選択のみ行うことができます。

10 「OK」をクリックします。

別名および別名表

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management

注： Financial Management では、別名は"説明"と呼ばれます。

別名は、データベース・メンバー名の代替名です。データベース・メンバー名は多くの場合、ストック番号や製品コードで、別名はより記述的に指定できます。たとえば、Sample Basic データベースでは、データベース・メンバー 100 の別名は Cola です。別名は、データベースの一部として、別名表に保管されます。ディメンションは、複数の別名表に関連付けることができます。

現在のワークシートまたは接続の別名表を選択できます。

別名表の選択

データベースで複数の別名表が作成されている場合、現在のワークシートまたはプライベート接続の別名表を選択できます。

現在のワークシートまたは接続の別名表を選択できます。

ここで選択する別名表は現在のワークシートにのみ適用され、将来の接続には適用されません。

➤ 現在のワークシートの別名表を選択するには:

1 **ワークシートから、データ・ソースに接続します。**

2 **Essbase またはアドホック・リボンから「別名の変更」を選択すると、使用可能な別名表のリストが表示されます。**

3 **ワークシートの別名表を選択します。**

新しい別名表が自動的に適用されます。

接続の別名表の選択

別名表を選択できるのは、プライベート接続のみです。共有接続の別名表を選択する場合は、まず共有接続をプライベート接続として保存します。23 ページの「共有接続のプライベート接続としての保存」を参照してください。

プライベート接続に選択された別名表は変更されるまで永久的であり、この接続を使用するたびに使用されます。

➤ 接続の別名表を選択するには:

1 **ワークシートから、データ・ソースに接続します。**

2 **Smart View パネルのプライベート接続で、接続名を右クリックして「別名表の設定」を選択します。**

3 **接続の別名表を選択します。**

次回接続を開くときに、新しい別名表が適用されます。

別の別名表からの別名

データ・ソース・タイプ: Essbase

現在のグリッドに関連付けられていない別名表から名前を入力すると、リフレッシュ後に、現在のグリッドに関連付けられている別名表から対応する別名が表示されます。たとえば、ロング名別名に関連付けられているグリッドに `Qtr1` と入力すると、リフレッシュ後に、`Quarter1` が表示されます。

メンバー名とその別名の表示

データ・ソース・タイプ: Essbase

Essbase データ・ソースに接続されている場合、メンバー名と現在選択されている別名表からの別名を同じ行に表示できます。

注： この機能は行メンバーにのみ適用され、列メンバーには適用されません。

➤ メンバー名と別名の両方を表示するには:

1 **Smart View のリボンから、「オプション」を選択し、左側のパネルで「メンバー・オプション」を選択します。**

2 **「全般」の「メンバー名の表示」で、「メンバー名と別名」を選択します。**

行メンバーについて、メンバー名と対応する別名が表示されます。次の例では、Product データベース・メンバー名が列 A に、その別名が列 B に表示されています。

	A	B	C
1			Year
2			Measures
3	100	Colas	28473
4	200	Root Beer	27954
5	300	Cream Soda	25799
6	400	Fruit Soda	21301
7	Diet	Diet Drinks	28826
8	Product	Product	103527

メンバー情報

データ・ソース・タイプ: Essbase、Financial Management

グリッド上に、任意のメンバーの詳細情報を表示できます。

➤ メンバー情報を表示するには:

1 **グリッドでメンバーを選択します。**

2 **データ・ソース・アド・ホックのリボンから、「メンバー情報」を選択します。情報が次のタブに表示されます。メンバーおよび接続に適用できるタブのみが表示されます。**

- 「情報」: ディメンション、レベル、世代など、メンバーに関する一般情報のリスト
- 「別名」: メンバーに関連付けられている別名表および対応する別名のリスト
- 「属性」: メンバーに関連付けられている属性のディメンション、メンバーおよびタイプの表
- 「式」: メンバーに関連付けられている式

- 「コメント」: メンバーに関連付けられているコメントのリスト
- 「ユーザー定義属性」: ユーザー定義属性のリスト(管理者によって定義されたメンバーの属性)

3 **オプション**: Excel ファイルに情報を保存するには、「保存」を選択します。

4 「閉じる」をクリックします。

POV マネージャ

POV マネージャで実行できる操作は、次のとおりです:

- デフォルト POV のメンバーを選択し、デフォルト POV を編集
- POV をワークブックに保存
- POV をコピーし、別のワークブックに貼付け
- POV の編集
- POV を削除

デフォルト POV のメンバーの選択

POV マネージャでは、次のようにメンバーを選択できます:

- 指定された接続のアド・ホック・グリッドのデフォルト POV として使用するため
- 関数使用時のディメンションのバックグラウンド POV として

アド・ホック POV のメンバーは 1,000 以下にすることをお薦めします。

アド・ホック・グリッドでの作業を開始する前に、POV のメンバーを選択するか、POV を編集します。

➤ デフォルト POV のメンバーを選択するには:

1 Smart View のリボンから、「関数」、「POV の管理」の順に選択します。

2 POV のリストを展開します。

3 「アクティブ」POV リストで、POV を変更するアクティブな接続を選択します。

4 「メンバー・セレクタ」をクリックし、POV に使用するメンバーを選択します。36 ページの「メンバー・セレクタからのメンバーの選択」を参照してください。

   POV マネージャでは、ディメンションごとに 1 つのメンバーのみを選択できます。別名を使用している場合は、選択したメンバーが失われます。

5 「閉じる」をクリックします。

6 ワークシートをリフレッシュするには、「リフレッシュ」を選択します。

7 ワークブックに POV を保存するには、ワークブックを保存します。

注： アド・ホック・グリッドで作業を開始した後、36 ページの「メンバー・セレクタからのメンバーの選択」の説明に従ってメンバーを選択または変更します。

POV のコピーと貼付け

両方のワークブックのデータ・ソースが完全に同じである場合、POV マネージャを使用してワークブック間で POV をコピーして貼り付けることができます。コピーした POV は接続されていないワークシートに貼り付ける必要があります。それ以外の場合、POV は効力を持ちません。

➤ POV をコピーして貼り付けるには:

1. Smart View のリボンから、「関数」、「POV の管理」の順に選択します。
2. POV マネージャの左側のウィンドウで**「アクティブ」**を展開して、コピーするアプリケーション接続を選択します。
3. POV マネージャのツールバーで、「メンバー・セレクタ」をクリックして POV のメンバーを選択します。
4. ワークブックを保存します。
5. POV マネージャのツールバーで、「コピー」をクリックします。
6. POV マネージャの左側のウィンドウで、「保存済」を展開して、POV に貼り付けるワークブックおよびワークシート(空白かつ未接続である必要があります)を選択します。
7. 「貼付け」をクリックします。
8. コピーした POV を含むワークシートをリフレッシュします。

POV の削除

➤ ワークブックに保存されている POV を削除するには:

1. Smart View のリボンから、「関数」、「POV の管理」の順に選択します。
2. POV のリストを展開します。
3. 「POV」ドロップダウン・リストから、削除する POV を含むワークシートを選択します。
4. 削除する POV を選択します。
5. 「削除」をクリックします。
6. 「閉じる」をクリックします。
7. ワークシートをリフレッシュするには、「リフレッシュ」を選択します。

4 データおよびデータ・セル

この章の内容

データの取得.....53
データの送信.....54
データの計算.....55
データの集計.....56
通貨の処理.....56
データ・セルでの値の調整.....58
データ・パースペクティブ.....58
ドリルスルー・レポート.....60
リンク・レポート・オブジェクト.....61
リンク・パーティション.....62
セル・コメント.....63
添付ファイル.....65
セルの履歴.....66

データの取得

データ・ソース・タイプ: すべて

Excel では、Smart View リボンの「リフレッシュ」アイコン(図 10)を使用して、現在のワークシートまたはワークブックの全ワークシートのデータを取得およびリフレッシュできます。

図 10 「リフレッシュ」アイコン

複数のグリッドを含む Essbase ワークシートでは、選択したセル範囲のみをリフレッシュすることもできます(78 ページの「ワークシート上の複数のグリッド」を参照してください)。

➤ 現在のワークシート全体をリフレッシュするには、任意のリボンから「リフレッシュ」をクリックします。

➤ 現在のワークシート全体のコンテンツをクリアし、最新のデータで置換するには、「リフレッシュ」の下矢印をクリックして、「置換およびリフレッシュ」を選択します。

➤ 現在のワークブックのすべてのワークシートをリフレッシュするには、「リフレッシュ」の下矢印をクリックし、「すべてのワークシートのリフレッシュ」を選択します。

Word または PowerPoint で「リフレッシュ」をクリックすると、文書またはプレゼンテーションにコピーされたすべてのデータ・ポイントがリフレッシュされます。

データの送信

データ・ソース・タイプ: すべて

変更されたデータをアド・ホック・グリッドおよびフォームから送信することにより、データ・ソースのデータ(すべてのタイプ)を更新できます。接続していないときに行った変更は、再接続した後に送信できます。

Essbase 以外のデータ・ソースの場合、フリー・フォーム・モードを使用しているときは、データを変更する前にグリッドをリフレッシュする必要があります。Essbase 接続の場合、リフレッシュせずにデータを送信できます。53 ページの「データの取得」を参照してください。

注： 複数のグリッドをサポートするワークシートでは、一度に 1 つのグリッドでのみデータを送信できます。複数のグリッドまたはワークシート全体のデータを送信しようとすると、データは送信されません。

フォームからデータを送信する場合:

- Planning、Financial Management または Hyperion Enterprise のフォームでは、セルまたはセル範囲をロックして、データがリフレッシュまたは送信されるまでデータを保護できます。Financial Management では、セルをロックしても実際のデータ・キューブはロックされません。ロックされるのはフォームのセルのみです。データをリフレッシュまたは送信すると、セルのロックは解除されます。
- 一部のセルがすでにフォーム定義に存在しない場合もあります。この動作は、フォームの定義またはアクセス権を変更した場合や、行または列を抑制した場合に起きる可能性があります。そのような場合は、フォームの新しい定義に存在する書込み可能なセルのみが保存されます。この動作は、オンライン・モード、オフライン・モードにかかわらず、セルとサポート詳細の両方の変更に適用されます。
- フォームでの作業中に「データの送信」をクリックした場合、実際には、POV ツールバーで選択されている最新の POV にデータが書き込まれています。POV

を変更するたびに、リフレッシュを実行することをお薦めします。リフレッシュによりシートのデータが更新され、最新の POV 変更が反映されます。

➤ データを送信するには:

1 **データ・ソースに接続します。**

Essbase を使用している場合は、手順 3 に進みます。それ以外の場合は、手順 2 に進みます。

2 **フリーフォーム・モードで作業している場合には、任意のリボンから「リフレッシュ」を選択します。**

3 **必要に応じてデータを変更します。**

4 **任意のリボンから「データの送信」を選択します。**

データの計算

新しいまたは変更されたデータを送信した後、データベースでデータを計算してその変更を反映する必要があります。データの計算のオプションはデータ・ソースにより異なります。データを計算するには、データへのセキュリティ・アクセス権が必要です。

Planning フォームにおけるビジネス・ルールの計算の詳細は、137 ページの「「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行」を参照してください。

Financial Management および Hyperion Enterprise でのデータの計算

データ・ソース・タイプ: Financial Management、Hyperion Enterprise

➤ データを計算するには:

1 **データを計算するセルまたはセル範囲を選択します。**

2 **データ・ソースまたはデータ・ソース・アド・ホックのリボンから「計算」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:**

- 選択したセルを計算するには、**「計算」**を選択します。
- セル・ステータスにかかわらず選択したすべてのセルに強制的に計算を実行するには、**「計算」**、**「強制計算」の順に選択します。**

Essbase でのデータの計算

データ・ソース: Essbase

Essbase で、データベースを計算する計算スクリプトを選択します。計算スクリプトは特定のシステム向けに管理者が作成します。

➤ 計算スクリプトを選択するには:

1 Essbase のリボンから、「計算」を選択します。

「計算スクリプト」ダイアログ・ボックスを開きます。

2 「キューブ」の下で、このアプリケーションが属するデータベースのリストからデータベースを選択します。

3 「計算スクリプト」で、スクリプトを選択します。

4 「起動」をクリックします。

ステータス・メッセージにより、計算が成功したかどうかが示されます。計算に失敗した場合は、Essbase 管理者に問い合せてください。

データの集計

データ・ソース・タイプ: Financial Management、Hyperion Enterprise

集計とは、従属エンティティのデータを、親エンティティに集約することです。データを集計するには、そのデータへのセキュリティ・アクセス権を持ち、集計のセキュリティの役割を割り当てられている必要があります。すべてのデータを集計するには、すべて集計のセキュリティの役割を割り当てられている必要があります。

➤ データを集計するには:

1 集計を実行するセルまたはセル範囲を選択します。

2 データ・ソース・アド・ホックのリボンから「集計」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:

- 「集計」は、選択したエンティティのデータを集計します。
- 「すべて集計」は、データが含まれているかどうかにかかわらず、すべてのエンティティのデータを集計します。
- 「データを含むすべてを集計」は、選択したエンティティを、データが含まれている場合にのみ集計します。
- 「コントリビューションの計算」は、すべての従属エンティティのコントリビューション値を計算します。
- 「コントリビューションの強制計算」は、選択したすべてのコントリビューション値について、計算を強制実行します。

通貨の処理

Financial Management および Hyperion Enterprise での通貨の換算

データ・ソース・タイプ: Financial Management、Hyperion Enterprise

通貨の換算は、Financial Management ではデータの換算と呼ばれます。エンティティの入力通貨から、アプリケーションで定義された任意の通貨にデータを換算できます。通貨は、親子エンティティの組合せとは関連付けられないため、連結プロセスとは別個に、必要に応じてデータを換算できます。

➤ アド・ホック・グリッドでは、データへのセキュリティ・アクセス権を持っている場合、ある通貨から別の通貨に値を変換または換算できます。データを換算するには:

1 **セルまたはセルの範囲を選択します。**

2 **データ・ソース・アド・ホックのリボンから「計算」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:**

- 選択したセルを換算するには、「**換算**」を選択します。
- 選択したすべてのセルを強制的に換算するには、「**換算の強制**」を選択します。

Planning での通貨の変更

通貨換算が使用可能になっているフォームでは、セルの基本通貨以外の通貨でデータを入力できます。現地通貨として、ドロップダウン・リストの通貨を指定できます。

注 : エンティティの基本通貨をオーバーライドするためには、セルが現地通貨建てで表示されており、そのバージョンがボトムアップである必要があります。また、アプリケーションが複数通貨に対応したアプリケーションであり、フォームが複数通貨をサポートしている必要があります。

➤ 基本通貨以外の現地通貨でセルにデータを入力するには:

1 **フォームで、セルの現地通貨メンバーを選択します。**

2 **「オプション」: 通貨コードを参照するには、「表示」、「通貨」の順に選択します。**

「使用可能な通貨」に、アプリケーションの通貨が表示されます。操作する通貨の通貨コードをメモし、ウィンドウを閉じます。

3 **右の列、HSP_InputCurrency で、データ・セルに新しい通貨コードを入力します。**

データ・セルに通貨コードを入力することで、エンティティの基本通貨がオーバーライドされます。

4 **「送信」をクリックして、新しい通貨コードを Planning サーバーに送信します。**

5 **左の列、HSP_InputValue に、データ・セルの通貨値を入力します。**

6 **「フォームに関する規則」をクリックして、新しい通貨値を計算して保存するための「通貨の計算」ルールを選択します。**

フォームの保存時に「通貨の計算」計算スクリプトが実行されるように設定されており、フォームで複数通貨が使用可能になっている場合は、選択した通貨コードの通貨でデータ値が表示されます。

データ・セルでの値の調整

データ・ソース・タイプ: すべて

セルに数値データが含まれている場合は、1 つ以上のデータ・セルの値を、指定した数値またはパーセンテージによって調整できます。Excel の式を含むセルの値を調整する場合、調整した値により式が上書きされます。

➤ データ値を調整するには:

1 **調整する値を含むデータ・セルをクリックします。**

2 **データ・ソースのリボンから、「調整」を選択します。**

3 **「データの調整」で、次のいずれかのオプションを選択し、セルの値を調整する数値またはパーセンテージを入力します。**

4 **「データの調整」をクリックします。**

データ・パースペクティブ

データ・ソース・タイプ: Essbase

注: データ・パースペクティブは、Smart View システムでは使用可能にできません。データ・パースペクティブのオプションは、管理者が Oracle Essbase Administration Services で使用可能にし、構成します。

データ・パースペクティブにより、独立した連続および個別ディメンションとの関連で異なるディメンション属性である可変属性のデータの表示に使用する視点を指定できます。たとえば、コーラ製品が年間を通じて複数の異なる地域の市場で缶と瓶の両方で販売されるとします。パッケージ(缶または瓶)が市場によって異なる場合、または 1 年の間に一方のタイプからもう一方のタイプに変更される場合、パッケージ・タイプは可変属性です。コーラに関連付けられているデータは、1 年のうちの時期と市場によって異なります。

➤ データ・パースペクティブを指定するには:

1 **「Essbase」のリボンから、「データ・パースペクティブ」を選択します。**

2 **「パースペクティブ」の「選択」で、オプションを選択します(オプションの例については、データ・パースペクティブの実例を参照してください)。**

- **「現実」**は、パースペクティブのないデータを表示します。
- **「最後」**は、連続する独立した各ディメンションの最後のレベル 0 メンバーのデータを表示します。たとえば、Year が連続ディメンションで、December が Year の最後のメンバーの場合は、December のデータが表示されます。
- **「開始」**は、連続する独立した各ディメンションの最初のレベル 0 メンバーのデータを表示します。たとえば、Year が連続ディメンションで、January が Year の最初のメンバーの場合は、January のデータが表示されます。

- 「**カスタム**」は、連続メンバーと個別メンバーの両方を指定する場合に使用します。このオプションでは、ドロップダウン・リストから「**可変属性**」を選択します。次に、「**独立ディメンション**」にリストされているディメンションについて、「**メンバー**」でメンバーを選択します。「**ディメンションのみ設定**」を選択した場合は、すべての可変属性のすべての独立ディメンションが表示され、共通のパースペクティブをすべてに適用できます。

3 「OK」をクリックし、グリッドをリフレッシュします。

データ・パースペクティブの実例

缶と瓶で販売されるコーラの例では、管理者がコーラのパッケージ・タイプに次の属性を指定して、コーラが 1 年間にテキサスとカリフォルニアの市場でどのように販売されたかを反映しました:

- 缶: カリフォルニア、1 月-12 月
- 缶: テキサス、6 月-12 月
- 瓶: テキサス、1 月-6 月

図 11 に、「現実」パースペクティブを示します。カリフォルニアとテキサスについて示されているデータは、年全体のデータです。瓶はカリフォルニアでは販売されていないため、データは戻されません(ここでは#Meaningless で示されています)。

図 11　データ・パースペクティブ: 現実

	A	B	C	D
1		California	Texas	Market
2	Bottle	#Meaningless	405	405
3	Can	1587	234	1821
4	Pkg Type	1587	639	2226

図 12 に、「最後」パースペクティブを示し、カリフォルニアとテキサスの缶のデータを表示します。瓶はテキサスでは 1 月から 6 月にのみ販売されているため、瓶のデータはありません。

図 12　データ・パースペクティブ: 最後

	A	B	C	D
1		California	Texas	Market
2	Bottle	#Meaningless	#Meaningless	#Meaningless
3	Can	1587	234	1821
4	Pkg Type	1587	234	1821

図 13 に、「開始」パースペクティブを示し、1 月のデータを表示します。1 月にテキサスでは瓶が販売されていますが、缶は販売されていないため、瓶のデータのみ表示されています。1 月にカリフォルニアでは缶が販売され、瓶は販売されていないため、瓶のデータのみ表示されています。

図 13　データ・パースペクティブ: 開始

	A	B	C	D
1		California	Texas	Market
2	Bottle	#Meaningless	639	639
3	Can	1587	#Meaningless	1587
4	Pkg Type	1587	639	2226

ドリルスルー・レポート

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management

データベースの詳細データにドリルスルーするには、次の操作を実行します:

- Smart View を介して Planning または Financial Management に接続している場合は、Smart View のドリルスルー機能を使用して、Planning または Financial Management アプリケーションから Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition または Oracle Hyperion Financial Data Quality Management のデータ・ソースにある詳細データまでドリルスルーできます。
- Oracle Essbase Administration Services で作成したアプリケーションの場合は、Oracle General Ledger にドリル・スルーできます。
- Oracle Essbase Studio または Oracle Essbase Integration Services で作成したアプリケーションの場合は、リレーショナル・データベースにドリルスルーできます。Essbase Studio で作成したアプリケーションの場合は、管理者が構成した URL にもドリルスルーできます。

管理者により事前定義されたドリルスルー・レポートを、ユーザーは指定された個々のメンバー・セルおよびデータ・セルから使用できます。1 つのセルを複数のドリルスルー・レポートと関連付けることができます。ドリルスルー・レポートを含むセルは、グリッドでセル・スタイルごとに示すことができます

249 ページの「セルのスタイル」を参照してください。

ドリルスルー・レポートに表示されるデータは動的です。

注： ドリルスルーには別名表を使用できません。メンバー名を使用する必要があります。

➤ ドリルスルー・レポートにアクセスするには:

1. **ドリルスルー・レポートに関連付けられているメンバーまたはデータ・セルを選択します。**

   セルの上にマウスを置いたときに使用可能なドリルスルー・レポートのリストを表示する場合は、「オプション」ダイアログ・ボックスの「詳細」ページで「ドリル・スルー・レポートのツールチップの表示」を選択します。

2. **データ・ソースのリボンで「ドリルスルー」を選択し、セルに関連付けられているレポートのリストを表示します。**
3. **レポートを選択し、「起動」をクリックします。**

リンク・レポート・オブジェクト

データ・ソース・タイプ: Essbase

リンク・レポート・オブジェクトとは、Essbase データベース内のデータ・セルにリンクされるセル・ノート、外部ファイルまたは URL のことであり、Smart View ユーザーが Excel で取得できます。

セルのスタイルを設定して(249 ページの「セルのスタイル」を参照)、リンク・レポート・オブジェクトに関連付けられているセルを識別できます。

62 ページの「リンク・パーティション」も参照してください。

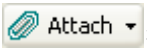
データ・セルへのリンク・レポート・オブジェクトの添付

1 つまたは複数のリンク・レポート・オブジェクトをデータ・セルに添付できます。

➤ リンク・レポート・オブジェクトをデータ・セルに添付するには:

1 **データ・セルを選択します。**

2 **Essbase のリボンから、「リンク・オブジェクト」を選択します。**

3 **「リンク・レポート・オブジェクト」から**  **をクリックして、次のいずれかを選択します:**

- 「セル・ノート」を選択すると、データ・セルに注釈を添付できます
- 「ファイル」を選択すると、データ・セルに外部ファイルを添付できます
- 「URL」を選択すると、データ・セルに URL を添付できます

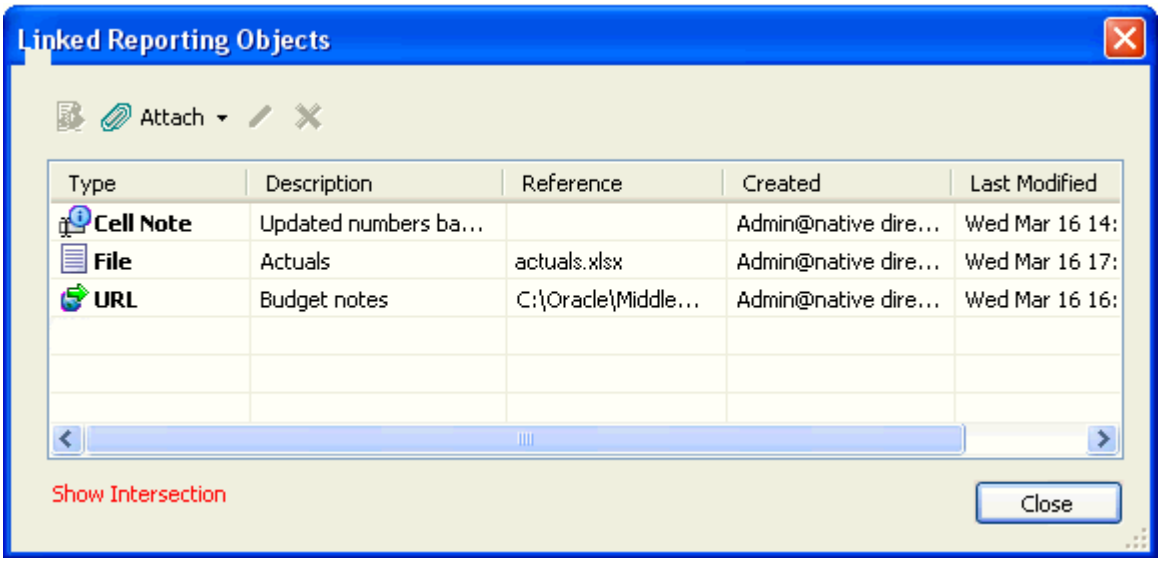
選択内容に対応するダイアログ・ボックスが表示されます。

4 **次の情報を入力します:**

- 「セル・ノート」: ノートのテキストを入力します。「閉じる」をクリックします。ノートの最初のいくつかの単語が「リンク・レポート・オブジェクト」リストの「説明」列に表示されます。
- 「ファイル」: 「参照」ボタンを使用して、データ・セルに添付するファイルに移動します。ファイルの簡単な説明を追加できます。「閉じる」をクリックします。
- 「URL」: 「URL」に、Web サイト、ネットワークまたはローカル・ディレクトリ、ネットワークまたはローカル・ディレクトリ内のドキュメントの URL を入力します。URL の簡単な説明を追加できます。「閉じる」をクリックします。

5 **必要に応じて手順を繰り返して、他のリンク・レポート・オブジェクトを添付します。**

作成したオブジェクトが、次に示すように「リンク・レポート・オブジェクト」リストに表示されます:



6 グリッドをリフレッシュして、セル・スタイル(指定されている場合)をセルに適用します。

リンク・レポート・オブジェクトを編集または削除するには、「編集」ボタン または「削除」ボタン を使用します。オブジェクトを除去すると、データベースから除去されます。

データ・セルからのリンク・レポート・オブジェクトの起動

➤ リンク・レポート・オブジェクトをデータ・セルから起動するには:

1 起動するリンク・オブジェクトに関連付けられているデータ・セルを選択します。

2 Essbase のリボンから「**リンク・オブジェクト**」を選択して、「**リンク・レポート・オブジェクト**」を表示します。

3 「**リンク・レポート・オブジェクト**」から、起動するリンク・オブジェクトを選択します。

4 をクリックします。リンク・レポート・オブジェクトが次のように起動します:

- セル・ノートが「セル・ノート」ダイアログ・ボックスに表示されます。
- ファイルが開かれます。
- URL オブジェクトがデフォルトの Web ブラウザに開かれます。
- リンク・パーティション–リンク・パーティションを参照してください

リンク・パーティション

データ・ソース・タイプ: Essbase

リンク・パーティションは、データ・セルによって 2 つのデータベースに接続します。リンク・パーティションに関連付けられているデータ・セルを使用して、現在のグリッドに接続されているデータベースから 2 つめのデータベースに移動できます。2 つのデータベースはディメンションが異なる可能性があるため、データが異なるコンテキストで表示されることがあります。リンク・パーティションを起動すると、リンクされたデータベースのディメンションを表示する新しいスプレッドシートが開きます。ここから、リンクされたデータベースのディメンションにドリル・ダウンできます。

➤ リンク・パーティションを起動するには:

1 **リンク・パーティションに関連付けられているデータ・セルを選択します。**

2 **Essbase のリボンから、「リンク・オブジェクト」を選択します。**

3 **「リンク・レポート・オブジェクト」から、リンク・パーティションを選択します (リストに「リンク」と表示されています)。**

4 **をクリックします。**

   リンク・パーティションが新しいスプレッドシートで起動します。このスプレッドシートから、リンクされたデータベースのデータにドリル・ダウンできます。

セル・コメント

データ・ソース・タイプ: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management

Planning および Financial Management のデータ・セルにコメントを追加できます。

Planning および Financial Management のデータ・セルにコメントを追加できます。

Planning でのセル・コメント

データ・セルごとに 1 つまたは複数のコメントを追加できます。各データ・セルには、複数のユーザーのコメントを格納できます。管理者から割り当てられた権限レベルに応じて、データ・セルで次のいずれかの操作を実行できます:

- コメントを追加します。
- 自分や他のユーザーが追加したコメントを表示します。
- 入力したコメントを削除します。他のユーザーによって追加されたコメントは削除できません。

コメントを含んでいるセルは、セルのスタイルに関連付けることができます(249 ページの「セルのスタイル」を参照)。

➤ データ・セルにコメントを追加するには:

1 **アド・ホック・グリッドで、1 つのデータ・セルまたはデータ・セルの範囲を選択します。**

2 Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「セルのアクション」、「コメント」の順に選択します。

3 「コメント」で、をクリックします。

4 手順 1 でセルの範囲を選択した場合は、一度に 1 つのセルに対するコメントを入力するか、選択したすべてのセルにコメントを適用できます。

- 1 つのセルのコメントを入力するには、ドロップダウン・メニューからセルを選択します。
- 選択したすべてのセルに対するコメントを入力するには、「選択したセルすべてに適用」を選択します。

5 右側のフィールドにコメントを入力します。コメントを書式設定する場合は、HTML タグを使用します。

6 をクリックしてコメントを保存します。

コメントはコメント・フィールドの左側にあるコメントのリストに表示されます。このリストには、すべてのユーザーが入力したコメントがあります。

7 「OK」をクリックします。

8 **オプション**: コメントを削除するには、をクリックします。自分が入力したコメントのみを削除できます。

Financial Management でのセル・コメント

アド・ホック・グリッド、フォーム、スマート・スライスおよびクエリー・デザイナのセルには、複数のコメントを含めることができます。セル内のコメントは、Financial Management で定義されたラベルによって区別されます。Smart View では、ラベルを作成できません。

これらの定義済みラベルから選択し、Smart View に追加して表示します。ラベルを編集または削除することはできませんが、コメントは編集および削除できます。

セル・コメントの表示および追加

➤ Financial Management でセル・コメントの表示または追加を行うには:

1 グリッドのセルを選択します。

2 リボンから、「セル・コメント」を選択します。

セルに現在関連付けられているコメントが、「セル・コメント」リストに表示されます。

3 コメントを追加するには、「セル・コメント」でドロップダウン・メニューからラベルを選択します。

4 をクリックします。

選択したセル・テキスト・ラベルがラベルのリストに追加されます。

5 「セル・テキスト」の下にあるフィールドをクリックし、コメントを追加します。

6 必要に応じて繰り返して、他のラベルを追加します。

7 「OK」をクリックします。

リストのラベルが、新たにセルに関連付けられます。

セル・コメントの編集および削除

➤ Financial Management でセル・コメントを編集または削除するには:

1 グリッドのセルを選択します。

2 HFM のリボンから、「セル・コメント」を選択します。

3 「セル・コメント」からリスト内のコメントを選択して、次のいずれかを実行します:

- コメントを編集するには、を選択します。編集後に、をクリックします。
- セルからコメントを削除するには、「削除」ボタンを選択します。コメントがリストから除去されます。コメントを除去しても、選択したセルから除去されるだけで、ドロップダウン・メニューの選択肢としては残ります。

4 「OK」をクリックします。

注： Financial Management では、関数 HsSetText および HsGetText を使用してデータ・ソースとの間でセル・テキストを送受信できます。第 17 章「関数」を参照してください。

添付ファイル

データ・ソース・タイプ: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

ドキュメントは、URL を使用して個々のデータ・セルに添付できます。各データ・セルには、1 人以上のユーザーによって添付された複数のドキュメントを含めることができます。管理者から割り当てられた権限レベルに応じて、データ・セルで次のいずれかの操作を実行できます:

- ドキュメントを添付します。
- 自分や他のユーザーが添付したドキュメントを表示します。
- 添付したドキュメントを編集および削除します。他のユーザーが添付したドキュメントは編集または削除できません。

添付ファイルを含むセルは、セル・スタイルに関連付けることができます。

249 ページの「セルのスタイル」を参照してください。

➤ データ・セルにドキュメントを添付するには:

1 Planning アド・ホック・グリッドで 1 つのセルまたはデータ・セル範囲を選択します。

2 Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「セルのアクション」、「添付ファイル」の順に選択して「添付ファイル」ダイアログ・ボックスを表示します。

3 手順 1 でセルの範囲を選択した場合は、一度に 1 つのセルにドキュメントを添付するか、選択したすべてのセルに同じドキュメントを添付できます。

- 1 つのセルのドキュメントを添付するには、ドロップダウン・メニューからセルを選択します。
- 選択したすべてのセルに 1 つのドキュメントを添付するには、「選択したセルすべてに適用」を選択します。

4 を選択します。

5 「説明」の下のセルをクリックして、簡単な説明を追加します。

6 「参照」の下のセルをクリックして、添付するドキュメントの URL を入力します。

7 必要に応じて手順を繰り返して、添付ファイルを追加します。

8 添付ファイルの選択を保存するには、をクリックします。

9 **オプション**:「参照」エントリを編集するには、をクリックし、参照を編集してから、をクリックします。

10 **オプション:** 添付ファイルを削除するには、リスト内の添付ファイルを選択し、をクリックします。

11 「閉じる」をクリックします。

添付ファイルの起動

➤ 添付ドキュメントを新しいブラウザで起動するには:

1 添付ファイルが含まれるセルを選択します。

2 Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「セルのアクション」、「添付ファイル」の順に選択します。

3 をクリックします。

セルの履歴

データ・ソース・タイプ: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

データ・セルまたはデータ・セルの範囲に加えられた変更の履歴を表示できます。リストされた変更ごとに、変更を行ったユーザー、変更日、古い値および新しい値が表示されます。

注： セル履歴は、(Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide で説明されているように) Planning 管理者によってデータ監査が有効化されている場合にのみ使用できます。

➤ セルの履歴を表示するには:

1 Planning アド・ホック・グリッドで 1 つのデータ・セルまたはセル範囲を選択します。

2 「Planning アド・ホック」のリボンから、「セルのアクション」、「セルの履歴」の順に選択して「変更履歴」画面を表示します。

3 手順 1 で複数のセルを選択した場合は、「変更履歴」のドロップダウン・メニューから一度に 1 つのセルを選択して、その履歴を表示します。

5 アド・ホック分析

この章の内容

アド・ホック分析について....69
アド・ホック分析の開始....69
アド・ホック・グリッドでの Excel 式の保存....70
アド・ホック・グリッドのフォーマット....71
ズーム・インおよびズーム・アウト....72
ピボット....76
選択したメンバーのグリッドからの除去....76
行と列の挿入....77
繰返しメンバーの表示および抑制....77
ワークシート上の複数のグリッド....78
レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケード....81
代替変数....82

アド・ホック分析について

アド・ホック分析では、Smart View 機能を Excel スプレッドシートと使用して、メンバーの選択、関数の使用、レポートを設計するためのフォーマットを含む様々な操作を実行することにより、データを取得および分析します。

アド・ホック分析は、Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Hyperion Enterprise および Financial Management で実行できます。

アド・ホック分析の開始

データ・ソース・タイプ: Essbase。Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Hyperion Enterprise および Financial Management

プロバイダに接続し、「アド・ホック分析」オプションを選択すると、そのプロバイダのアド・ホック・リボンが表示され、そのリボンからアド・ホック機能を使用できるようになります。

注： Essbase では、Essbase に接続すると表示される Essbase のリボンから、すべてのアド・ホック機能を使用できます。

➤ アド・ホック分析を開始するには:

1 **Smart View パネルの「最近使用」、「共有接続」または「プライベート接続」から、次のいずれかを選択します:**

- スマート・スライス
- フォーム
- キューブまたはプラン・タイプ

2 **アクション・パネルで、「アド・ホック分析」を選択します。**

または、Smart View パネルでオブジェクトを右クリックして、「アド・ホック分析」を選択します。

データ・プロバイダのリボンが表示されます。

ヒント: 「有効なデータ行がないため、アド・ホック・グリッドを開けません。」というようなエラーが表示される場合は、「オプション」ダイアログ・ボックスの「データ・オプション」タブにある抑制オプションをクリアする必要があります。すべての「行の抑制」および「列の抑制」オプションがクリアされ、「欠落ブロックの抑制」オプションがクリアされていることを確認してください。

3 **リボン・ボタンを使用して、現在のワークシートでアド・ホック分析を実行します。**

データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合には、ディメンション名とメンバー名を直接セルに入力してフリーフォーム・モードを使用し、アド・ホック・グリッドの設計と作成を行うことができます。第 18 章「フリー・フォーム・モード」を参照してください。

アド・ホック・グリッドでの Excel 式の保存

Excel 式をアド・ホック・グリッドのメンバー・セルやデータ・セルに関連付け、そのようなセルを識別できるようにセルのスタイル()を設定できます。

249 ページの「セルのスタイル」を参照してください。

デフォルトでは、アド・ホック操作の実行時に式は保存されます(「ピボット」は除く)。問合せを高速に実行するために、式およびコメントの保存を使用不可にすることができます。ただし、このオプションを選択すると、アド・ホック操作の実行時に式は上書きされます。

➤ アド・ホック・グリッドで式の保存を指定するには:

1 **Smart View のリボンから、「オプション」を選択し、左側のパネルで「メンバー・オプション」を選択します。**

2 **次のいずれかの操作を行います:**

- アド・ホック・グリッドで式を保存するには、「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」を選択します。

- 式の保存を使用不可にするには、「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」の選択を解除します。この操作は、式を保存する必要がなく、問合せを高速に実行したい場合にのみ行います。

注： 「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」は「メンバー・オプション」に表示されますが、選択内容はメンバーとデータ・セルの両方の式に適用されます。

3 「OK」をクリックします。

アド・ホック・グリッドのフォーマット

Smart View または Excel でグリッド・フォーマットを制御できます。

Smart View フォーマットの使用

Smart View フォーマットは、「オプション」ダイアログ・ボックスの「セルのスタイル」および「フォーマット」ページで行われたフォーマットの選択で構成されます。

➤ Smart View フォーマット・オプションを設定するには:

1 **Smart View のリボンから、「オプション」をクリックします。**

2 **セルのスタイルを設定するには、「オプション」から、左側のパネルで「セルのスタイル」を選択します。**

セルのスタイルは、メンバーおよびデータ・セルの特定のタイプを示します。

詳細は、249 ページの「セルのスタイル」を参照してください。

3 **他の Smart View フォーマット・オプションを設定するには、左側のペインから「フォーマット」を選択します(このページの「Excel フォーマットの使用」は Smart View フォーマット・オプションではありません)。**

オプションの説明については、第 16 章「Smart View のオプション」を参照してください。

4 「OK」をクリックします。

➤ Smart View フォーマットの選択を、ズームで作成されたデータ・セルに適用するには:

1 **グリッドから、フォーマットされたデータ・セルを選択します。**

2 **「Essbase」、「Planning アド・ホック」または「Oracle Hyperion Enterprise(R)」リボンを選択し、「フォーマットの保存」を選択します。**

Excel フォーマットの使用

Excel フォーマットを使用する場合、条件付きフォーマットを含むフォーマット選択は、リフレッシュするか、アドホック操作を実行すると、グリッドに適用し、保持することができます。

Excel のフォーマットを使用する場合は、Smart View は、ユーザーのグリッド操作に基づいたセルの再フォーマットを行わず、また、ユーザーがデータ値を変更したときにセルをダーティ・セルとしてマークしません。Smart View は、操作と操作の間はワークシートのフォーマットを保持します。

高度にフォーマットされたレポートについては、一般に Excel フォーマットの使用が推奨されます。また、データ・ソースのアプリケーション固有の色が Excel の色パレットでサポートされていない場合は、Excel フォーマットを使用する必要があります。

➤ アド・ホック・グリッドで Excel フォーマットを使用するには:

1. **Smart View のリボンから、「オプション」を選択します。**
2. **「オプション」から、左側のペインで「フォーマット」を選択します。**
3. **「Excel フォーマットの使用」を選択します。**
4. **オプション: 親セルのフォーマットをズームイン・セルにコピーするには、「操作時にフォーマットを移動」を選択します。このオプションを選択すると、ピボット時にフォーマットもメンバーと一緒に移動します。**
5. **「OK」をクリックします。**

Excel フォーマットとマージされたセル

アド・ホック操作(ピボットを除く)中にマージされたセルのフォーマットを保存するには、「Excel フォーマットの使用」と「アドホック操作の式とコメントを保存」の両方のオプションを選択する必要があります。

アド・ホック操作(ピボットを除く)中にマージされたセルのフォーマットをレプリケートするには、「Excel フォーマットの使用」、「アドホック操作の式とコメントを保存」、および「フォーマットの充てん」のすべてのオプションを選択する必要があります。

ズーム・インおよびズーム・アウト

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Hyperion Enterprise

グリッドのメンバーをズーム・インして、その子および子孫のデータを表示できます。

Essbase 接続では、次のデータをズームして表示することもできます。

- 選択したメンバーと同じレベル、同じ世代または兄弟レベルのメンバー
- 選択したメンバーの式によって定義されたメンバー

ズーム・イン

Essbase では、セルの範囲にズーム・インできます。他のデータ・ソースでは、一度に 1 つのセルにズーム・インできます。

デフォルト・レベルへのズーム・イン

74 ページの「デフォルト・ズーム・レベルの設定」に記載されているとおりに指定されたデフォルト・ズーム・レベルにズーム・インするには、次のいずれかを実行します:

- メンバーを選択して、データ・ソースのリボンで「ズーム・イン」をクリックします。Essbase では、メンバーの範囲を選択できます。
- メンバーをダブルクリックします(ダブルクリックによるズームが使用可能である必要があります。75 ページの「ダブルクリックによるズームの有効化」を参照してください)。

選択したレベルへのズーム・イン

➤ 選択したレベルにズーム・インするには:

1 **メンバーを選択します。**

   Essbase では、メンバーの範囲を選択できます。

2 **データ・ソースのリボンから、「ズーム・イン」の横にある下矢印をクリックして、次のいずれかのオプションを選択します。**

   - 「次のレベル」を選択すると、選択したメンバーの子のデータが取得されます
   - 「すべてのレベル」を選択すると、選択したメンバーのすべての子孫のデータが取得されます。
   - 「最下位レベル」を選択すると、ディメンション内の最下位レベルのメンバーのデータが取得されます。
   - 「同一レベル」を選択すると、選択したメンバーと同じレベルのすべてのメンバーのデータを取得できます(Essbase のみ)
   - 「兄弟レベル」を選択すると、選択したメンバーの兄弟のデータを取得できます(Essbase のみ)
   - 「同世代」を選択すると、選択したメンバーと同じ世代のすべてのメンバーのデータを取得できます(Essbase のみ)
   - 「式」を選択すると、選択したメンバーの式で定義されたすべてのメンバーのデータを取得できます。式は、メンバーの等式または親への集計です(Essbase のみ)

注： ページ・ディメンションにズーム・インすると、ページ・ディメンションは行ディメンションにピボットされます。

ズーム・アウト

ズーム・アウトすると、74 ページの「デフォルト・ズーム・レベルの設定」に記載されているとおりに指定された「ズーム・イン・レベル」オプションに従って、ビューが縮小します。

➤ ズーム・アウトするには:

1 **メンバーを選択します。**

   Essbase では、メンバーの範囲を選択できます。

2 **データ・ソースのリボンから、「ズーム・アウト」をクリックします。**

デフォルト・ズーム・レベルの設定

ズーム操作のデフォルト・レベルを指定できます。この設定は、「ズーム・イン」ボタンおよびダブルクリックによるズーム(使用可能な場合)に適用されます(75 ページの「ダブルクリックによるズームの有効化」を参照)。

➤ 「ズーム・イン」のデフォルト・レベルを設定するには:

1 **Oracle Smart View for Office のリボンから「オプション」を選択し、左側のパネルで「メンバー・オプション」を選択します。**

2 **「ズーム・イン・レベル」ドロップダウン・メニューから、73 ページの「ズーム・イン」に記載されているレベルを選択します。**

3 **「OK」をクリックします。**

ズーム時に表示するメンバーの選択

オプションを設定して、ズーム・インおよびズーム・アウト時に保持および表示するメンバーを指定できます。

➤ ズームのメンバー表示オプションを設定するには:

1 **Smart View のリボンから、「オプション」を選択し、左側のパネルで「メンバー・オプション」を選択します。**

2 **「メンバーの保持」で、次を選択します:**

   - 「選択を含める」選択すると、選択したメンバーと、ズームの結果として取得されたメンバーの両方が表示されます。たとえば、選択したメンバー Qtr1 にズーム・インすると、Jan、Feb、Mar および Qtr1 のデータが取得されます。選択されていない場合、ズームの結果として取得されたメンバー、Jan、Feb および Mar のみが表示されます。
   - 「選択したグループ内」を選択すると、選択したセル・グループのみにズーム・インし、選択していないセルはそのままになります。この設定は、グリッドの下に行として、またはグリッドを超えて列として、複数のディメンションがある場合にのみ有用です。(この設定は、「選択項目のみ保持」および「選択項目のみ除去」にも適用されます。)

- 「選択されていないグループの除去」を選択すると、選択したメンバー、およびズームの結果として取得されたメンバーを除くすべてのディメンションとメンバーが除去されます。

3 「OK」をクリックします。

ダブルクリックによるズームの有効化

ダブルクリックでアド・ホック操作を使用できるようになっている場合、メンバー・セルをダブルクリックして、デフォルトのズーム・レベルへのズーム・インおよびズーム・アウトを行うことができます。

➤ ダブルクリックでズームできるようにするには:

1 Smart View のリボンから、「オプション」を選択し、左側のパネルで「詳細」を選択します。

2 「モード」の下にある「ダブルクリックして操作」を選択します。

「ダブルクリックして操作」を選択しない場合、ダブルクリックは Excel の機能のままで、セルが編集モードになります。

3 「OK」をクリックします。

注： 空のワークシートで初めてダブルクリックするとデフォルトのグリッドが取得され、以後、ズーム・インまたはズーム・アウトできます。

ズームとフォーマット

ズーム・インするセルのフォーマットを、ズームで作成したセルに適用できます。Smart View フォーマットでは、この機能はデータ・セルに適用されます。Excel フォーマットでは、この機能はメンバー・セルに適用されます。

Excel フォーマット

Excel フォーマットをズームで作成されたメンバー・セルに適用するには、Smart View のリボンから「オプション」を選択します。その後、次のすべてのオプションを選択します。

- 「フォーマット」ページから、「Excel フォーマットの使用」を選択します
- 「メンバー・オプション」ページから、「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」を選択します
- 「メンバー・オプション」ページから、「式の充てん」を選択します

式を含むセルでのズーム操作

データ・ソース: Essbase

メンバーまたはデータ・セルが式に関連付けられている場合、これらの式をズーム・インの結果として取得されたセルに伝播できます。たとえば、メンバー Qtr1

が式に関連付けられている場合、Qtr1 にズーム・インするときに、式を Jan、Feb および Mar に伝播できます。

➤ 式を伝播するには:

1 **Smart View のリボンから、「オプション」をクリックし、左側のパネルで「メンバー・オプション」を選択します。**

2 **「コメントと式」で、「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」が選択されていることを確認します。**

3 **「式の充てん」を選択します。**

注： これらの操作(「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」および「式の充てん」)は「メンバー・オプション」に表示されますが、これらはメンバーとデータ・セルの両方の式に適用されます。

4 **「OK」をクリックします。**

ピボット

ピボットするディメンションを含む行または列に 2 つ以上のディメンションがある場合は、行および列間でディメンションをピボットできます。メンバーをピボットすることも可能です; その場合、そのグループの他のメンバーもピボットされます。

➤ ディメンションまたはメンバーをピボットするには:

1 **ディメンションまたはメンバーを選択します。**

2 **データ・ソースのリボンから、「ピボット」をクリックします。**

行ディメンションが一番上の列ディメンションにピボットされます。

列ディメンションが一番左の行ディメンションにピボットされます。

選択したメンバーのグリッドからの除去

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Hyperion Enterprise

メンバーおよびそれに関連付けられたデータは、次のようにしてグリッドから除去できます:

- 現在選択されているメンバーのみを保持するには、保持するメンバー・セルを選択します。その後、データ・ソースのリボンから**「選択項目のみ保持」**をクリックします。ディメンションのその他のメンバーは除去されます。
- 現在選択されているメンバー・セルを除く全メンバーを除去するには、除去するセルを選択します。その後、データ・ソースのリボンから、**「選択項目のみ除去」**をクリックします。

「選択項目のみ保持」および「選択項目のみ除去」は、グリッドの選択したメンバーのすべてのインスタンスで操作できます。

行と列の挿入

アド・ホック・グリッドでは、計算列と非計算列および計算行と非計算行をグリッドの中または外に挿入できます。挿入された行と列には、式、テキストまたは Excel コメントが含まれる場合があり、リフレッシュまたはズーム・インしたときに保持されます。

グリッドは、行または列を挿入する前に必ずリフレッシュしてください。

繰返しメンバーの表示および抑制

データ・ソース・タイプ: Essbase

アド・ホック・グリッドで積上げディメンションを使用する際に、「繰返しメンバーの抑制」オプションが選択されていると、Essbase では、次の行に複数のラベルがある場合、それらの上の中央位置にメンバー・ラベルが配置され、最初の行ディメンションまでこの方法で表示されます。次に、サンプル・シナリオを示します。

Sample Basic データベースを使用し、「アド・ホック分析」オプションを選択します。図 14 に示すように、Measures、Product、Market、Scenario および Year ディメンションが取得されます。

図 14　Sample Basic のアド・ホック分析グリッドの初期状態

	A	B	C	D
1		Product	Market	Scenario
2		Measures		
3	Year	105522		

図 15 に従い、積上げディメンションが 3 つ、隣同士に並ぶディメンションが 2 つになるように配置します。

図 15　ディメンションが積上げ構成で配置された Sample Basic のグリッド

	A	B	C
1			Measures
2			Market
3			Scenario
4	Product	Year	105522

デフォルトでは、「オプション」ダイアログ・ボックスの「データ」タブにある「行の抑制」グループの「繰返しメンバー」オプションは、選択が解除されています。Product と Year メンバーにズーム・インしてから、Market および Scenario ディメンションにズーム・インします。結果のグリッドは、図 16 のようになります。

図 16 「繰返しメンバー」オプションを選択する前のグリッドでディメンションにズーム・インした場合

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1			Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures
2			East	East	East	East	East	West	West	West	West	West
3			Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario	Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario
4	Colas	Year	12656	13150	-494	-3.756653992	12656	3549	8890	-5341	-60.07874016	3549
5	Root Beer	Year	2534	4360	-1826	-41.88073394	2534	9727	10950	-1223	-11.16894977	9727
6	Cream Soda	Year	2627	2970	-343	-11.54882155	2627	10731	11670	-939	-8.046272494	10731
7	Fruit Soda	Year	6344	7910	-1566	-19.7977244	6344	5854	5670	184	3.245149912	5854
8	Diet Drinks	Year	2408	2730	-322	-11.79487179	2408	8087	10570	-2483	-23.4910123	8087
9	Product	Year	24161	28390	-4229	-14.89609017	24161	29861	37180	-7319	-19.68531469	29861

注： 図 16 および図 17 では、わかりやすいように、South メンバーと Central メンバーをグリッドに表示していません。

Smart View のリボンから、「オプション」、「データ」タブの順に選択します。「行の抑制」グループで、「繰返しメンバー」オプションを選択します。次に、シートをリフレッシュします。結果のグリッドは、図 17 のようになります。それぞれの行ディメンションで、次の行にある複数のラベル上の中央位置にメンバー・ラベルが配置されています。

図 17 「繰返しメンバー」オプションの選択後にグリッドをリフレッシュした場合

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1							Measures					
2					East					West		
3			Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario	Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario
4	Colas	Year	12656	13150	-494	-3.756653992	12656	3549	8890	-5341	-60.07874016	3549
5	Root Beer	Year	2534	4360	-1826	-41.88073394	2534	9727	10950	-1223	-11.16894977	9727
6	Cream Soda	Year	2627	2970	-343	-11.54882155	2627	10731	11670	-939	-8.046272494	10731
7	Fruit Soda	Year	6344	7910	-1566	-19.7977244	6344	5854	5670	184	3.245149912	5854
8	Diet Drinks	Year	2408	2730	-322	-11.79487179	2408	8087	10570	-2483	-23.4910123	8087
9	Product	Year	24161	28390	-4229	-14.89609017	24161	29861	37180	-7319	-19.68531469	29861

ワークシート上の複数のグリッド

データ・ソース・タイプ: Essbase

Essbase では、1 つのワークシートに複数のグリッドを作成できます。これらのグリッドは、同じデータ・ソースまたは別の Essbase データ・ソースに接続できます。これらのグリッド内のデータを取得して、ワークシート上でシフトできます。

複数のグリッドをサポートするワークシートには、次の制限事項があります:

- データを送信できるのは、一度に 1 つのグリッドのみです。複数のグリッドまたはワークシート全体のデータを送信しようとすると、データは送信されません。
- ダーティ・セルにセル・スタイルを設定することはできません。
- コメントは入力できません。
- Essbase リボンの次のボタンは使用不可になっています。

- 「元に戻す」
- 「やり直し」
- 「POV にピボット」
- 「POV」

複数グリッド・ワークシートの作成

データ・ソース・タイプ: Essbase

➤ 複数グリッド・ワークシートを作成するには:

1. Excel で、Essbase データ・ソースに接続します。
2. ワークシートの任意の場所から、セルの範囲を選択します(1 つのセルでなく、範囲を選択する必要があります)。
3. Smart View パネルから、アプリケーションを右クリックして「アド・ホック分析」を選択します。
4. ワークシートを変更して複数のグリッドをサポートするよう求められたら、「はい」を選択します。
5. ワークシート上に 2 つめのグリッドを作成するには:
   1. 別のセル範囲を選択します。
   2. Smart View パネルから、アプリケーションを右クリックして「アドホック分析」を選択します。
6. 必要に応じて手順 5 を繰り返して、ワークシートにグリッドを追加します。

アド・ホック・ワークシートの複数グリッド・ワークシートへの変換

➤ 既存のアド・ホック・ワークシートを複数のグリッドをサポートするワークシートに変換するには:

1. ワークシートの任意の場所から、セルの範囲を選択します(1 つのセルでなく、範囲を選択する必要があります)。
2. Smart View パネルから、アプリケーションを右クリックして「アドホック分析」を選択します。

複数グリッド・ワークシートでの接続の変更

➤ 複数グリッド・ワークシートでグリッドの接続を変更するには:

1. 接続を変更するグリッドで、セルの範囲を選択します(1 つのセルでなく、範囲を選択する必要があります)。
2. Excel の「名前の管理」を使用して、関連する名前付き範囲を削除します。

3 Smart View パネルから、接続するアプリケーションを右クリックして「アドホック分析」を選択します。

Essbase の複数グリッド・ワークシート上の POV

Essbase の 1 つのグリッドのみを含む複数グリッド・ワークシートでは「Pov」ボタンが有効になっており、このボタンで POV ツールバーの表示/非表示を切り換えることができます。複数のグリッドを含む複数グリッド・ワークシートでは、「POV」ボタンは使用できません。

1 つのグリッドを含む複数グリッド・ワークシートでは、POV ディメンションがグリッドとツールバーの両方に表示されます。通常のアド・ホック・ワークシートでは、POV ツールバーが非表示の場合のみ、POV ディメンションがグリッドに表示されます。

複数のグリッドの例: バタフライ・レポート

データ・ソース・タイプ: Essbase

通常、Smart View のグリッドでは、メンバー名がデータ・グリッドの左上の行列にあります。複数のグリッドに対して使用可能になっているワークシートの範囲取得機能を使用すると、別のレイアウトのグリッドを作成できます。

たとえば、2 列のデータ・セルの間にメンバー列を入れた、"バタフライ"レポートを作成できます。

図 18　バタフライ・レポート

Diet Cola	East	Jan
Budget		Actual
$190.00	Sales	$200.00
$80.00	COGS	$84.00
$110.00	Margin	$116.00
$20.00	Marketing	$26.00
$20.00	Payroll	$23.00
	Misc	
$40.00	Total Expenses	$49.00
$70.00	Profit	$67.00
$480.00	Opening Inventory	$500.00
$100.00	Additions	$190.00
$390.00	Ending Inventory	$490.00
57.89	Margin %	58
36.84	Profit %	33.5
$5.83	Profit per Ounce	$5.58

レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケード

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Hyperion Enterprise

アド・ホック・グリッドまたはスマート・スライス・クエリーに基づくレポートで、1 つのディメンションの任意のメンバーまたはすべてのメンバーについて個別のレポートを作成し、それらのレポートを Excel ワークブックの各ワークシートにカスケードすることができます。レポート・デザイナで作成されたレポートの場合、PowerPoint プレゼンテーションの複数のスライドに渡ってレポートをカスケードすることもできます。必要に応じて、すべてのレポートを収容するワークシートまたはスライドが作成されます。

式、コメントなどのテキスト、スマート・スライス関数グリッド、チャート、表、およびスライドは、カスケードされるレポートに含まれます。

➤ アド・ホック・グリッドまたはスマート・スライス・レポートをカスケードするには:

1 **ワークシートで、アド・ホック・グリッドまたはスマート・スライス・レポートを開きます。**

2 **Essbase またはデータ・ソース・アド・ホックのリボンから、「カスケード」を選択し、次のいずれかを選択します。**

- 現在のワークブックを使用する場合は、「同一ワークブック」を選択します
- 新しいワークブックを使用する場合は、「新規ワークブック」を選択します
- 各レポートを別々のワークブックにカスケードする場合は、「別のワークブック」を選択します

3 **「メンバー選択」の「ディメンション」で、レポートの基準として使用する POV ディメンションを選択します。**

4 **「メンバー」で、レポートを作成するディメンションのメンバーをすべて選択します。**

選択したメンバーごとに 1 つのレポートが作成されます。

5 **「OK」をクリックすると、カスケードが開始されます。**

手順 2 での選択内容に応じて、レポートは現在のワークブックまたは新しいワークブックで独立したワークシートとして作成されます。各ワークシート・タブには、レポートのディメンションとメンバーの名前が付けられます。

注: ワークシート・タブの名前指定を使用可能にするためには、ディメンション名またはメンバー名を 31 文字以内にし、また、( ) : \ / ? * [ ]の文字を使用しないようにします。

注: 大きいグリッドでは、カスケードが非常に遅くなる可能性があります。

代替変数

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

代替変数は、変数値を表すグローバルなプレースホルダです。"&CurMnth"という指定は、現在の月を表す代替変数です。アプリケーション・デザイナまたは管理者は、代替変数とそれに対応する値を定義および管理します。Smart View ユーザーは、代替変数をグリッドに入力し、リフレッシュしてその値を取得できます。

たとえば、代替変数"&CurMnth"の値が「August」であるとします。グリッドに &CurMnth と入力すると、リフレッシュ後、Smart View に August と表示されます。その後、値を「September」に変更した場合、&CurMnth と入力してリフレッシュすると、「September」と表示されます。

代替変数の詳細は、EPM ドキュメント・ライブラリで入手可能な Essbase と Planning のドキュメントを参照してください。このライブラリを開くには、Smart View のリボンから、「ヘルプ」の隣にある矢印、「EPM ドキュメント」の順に選択します。

➤ 代替変数の値を取得するには:

1 **グリッドのセルに代替変数を入力します。**

注： 代替変数の名前はアンパサンド(&)で始まる必要があります。

2 **任意のリボンから、「リフレッシュ」を選択します。**

代替変数に定義されている現在の値によって、セル(および現在のワークシート内の&CurMnth を含むすべてのセル)の代替変数が置き換えられます。

6 データ・フォーム

この章の内容

Excel でのフォームの操作 83
Excel でフォームを開く 84
フォームでの Excel 式 84
ユーザー変数の操作 84
Planning フォーム 86
Financial Management データ・フォーム 87

Excel でのフォームの操作

フォームは、Excel からデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部のディメンション・メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。

Smart View を使用して、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Hyperion Enterprise のフォームを Excel で操作できます。

注： 読取り専用セルにデータを入力できないように、Excel ワークシートは常に保護されます。そのため、オート SUM や[F9]などの一部の Excel 機能は使用不可にされています。

Smart View で開かれたフォームでは:

- フォームのデータ値は変更できますが、フォーム構造は変更できません。
- Excel からデータベースに送信する値は、フォーマットされていないデータにする必要があります。
- フォームを Excel にロードした後で、管理者がサーバー側でフォームの定義を変更した場合は、いったんフォームを閉じてリロードすることをお薦めします。このアクションによってフォームの最新の定義が表示されます。

フォームに対して行われたカスタマイズが保存時またはリフレッシュ時に維持されるのは、グリッドの外部に対して、または 3 桁ごとのセパレータと小数点に対して行われた場合のみです。

Excel でフォームを開く

データ・ソース・タイプ: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Hyperion Enterprise

➤ フォームを開くには:

1 **データ・ソースに接続します。**

2 **Smart View パネルで、アクションを実行します:**

- 1 つのフォームを開くには、ツリー・リストを展開し、開くフォームを選択します。その後、アクション・パネルで「フォームを開く」をクリックします。
- 複数のフォームを開くには、ツリー・リストを展開し、フォーム・フォルダを選択します。その後、アクション・パネルで「フォームを開く」をクリックします。「フォームの選択」で、1 つ以上のフォームを開く手順に従います。

3 **(Planning のみ)フォームに関連付けられている説明を表示するには、Planning のリボンから「詳細」、「指示」の順に選択します。**

フォームでの Excel 式

セルが読取り専用ではない、またはロックされていない場合、Excel 式を、グリッドの内部または外部のフォームのセルに作成できます。セル・テキストを含むセルには、Excel 式を含めることができますが、サポート詳細(Planning)またはライン・アイテム詳細(Financial Management)を含むセルには含めることはできません。

データを保存せずにフォームをリフレッシュし、後で保存されたワークシートを開いた場合、および行や列を展開または縮小した場合、式はフォーム内に保持されます。

参照式を移動した場合、そのセル参照は、新しい位置を反映するように更新されます。

フォームでは、次のいずれかを行うとワークブックを Excel ファイルとして保存するよう求めるメッセージが表示されます(ただし、一時的にアクセス権を失います):

- 現在のページを変更する
- Planning フォームをオフライン化する
- 別のフォームを選択する
- 別のデータ・ソースに接続する

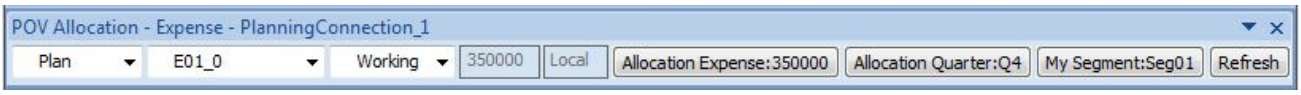
ユーザー変数の操作

Planning のフォームにユーザー変数が含まれる場合、または Financial Management のデータ・フォームに選択可能なディメンション、行または列がある場合、ユーザー変数を使用して Smart View でそれらを変更できます。

ユーザー変数は、Smart View の POV ツールバーのボタンに似ています。ユーザー変数ボタンをクリックすると、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。次に、ユーザー変数に該当するメンバーを選択します。選択したユーザー変数に適用されるフィルタがロードされて、フィルタ・ドロップダウン・リストに表示されます。選択が完了すると、1 つ以上のユーザー変数ボタンを簡単に変更して、Smart View のフォームの POV を変更できるようになります。

図 19 では、Planning のフォームにおけるユーザー変数の例を示していますが、この例では、配賦支出、配賦四半期、マイ・セグメントが、フォームの POV を変えるために変更可能なユーザー変数です。

図 19　Planning のフォームにおけるユーザー変数の例



例のシナリオでは、Financial Management のデータ・フォーム・デザイン・モードで、ディメンションに対して 1 つのメンバー・リストまたは複数のメンバー(期間など)を選択し、@CUR 関数を使用して行または列でその期間ディメンションを使用できます。その結果、「期間」ディメンションは、Smart View にユーザー変数で表されるようになります。

また、Financial Management のデータ・フォームで相対期間機能を使用すると、同じディメンションのメンバーを行、列、および POV に表示できます。Smart View では、相対期間メンバーは POV ツールバーにユーザー変数として表示されます。相対期間機能の使用方法、および選択可能なディメンション、行および列を Financial Management で設定する方法の詳細は、Oracle Hyperion Financial Management Administrator's Guide を参照してください。

➤ フォームのユーザー変数を使用するには:

1 **Smart View パネルで、Planning または Financial Management のデータ・ソースに接続し、フォームを開きます。**

   使用可能なユーザー変数がシート上部の POV ツールバーに表示されます。選択できるボタンは有効になり、選択できないボタンはグレー表示されます。

2 **ユーザー変数ボタンをクリックして、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを表示します。**

3 **「メンバー選択」で、メンバーを 1 つ以上選択して、選択したユーザー変数ボタンに追加します。**

4 **「フィルタ」ドロップダウン・リストで、該当するフィルタを選択します(フィルタが使用可能な場合)。**

5 **「OK」をクリックします。**

6 **メンバーを選択してフィルタを適用するすべてのユーザー変数ボタンに対して、手順 3 から手順 5 を繰り返します。**

7 **ユーザー変数ボタンを使用するには、選択したメンバーを適用する各ボタンをクリックして、ドロップダウン・リストから選択します。**

8 **「リフレッシュ」をクリックして、更新されたフォームを表示します。**

Planning フォーム

データ・ソース: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

Planning に詳しくない場合は、次のいずれかを参照してください:

- EPM ドキュメント・ライブラリで入手可能な Oracle Hyperion Planning User's Guide。このライブラリを開くには、Smart View のリボンから、「ヘルプ」の横にある矢印、「EPM ドキュメント」の順に選択します。
- Oracle Cloud Documentation ライブラリで入手可能な「Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service の操作」。

Smart View での Planning フォームの動作

Smart View と Planning では、フォームの動作は次のように異なります:

- Planning フォームの属性は、Smart View には表示されません。
- アウトラインの複数のレベルを Smart View で表示する場合と、Planning Web アプリケーションでページとして表示する場合とでは、表示が異なります。Smart View では最大で 4 レベルが表示されるのに対し、Web アプリケーションでは最大 2 レベルの表示となります。
- Planning の管理者が、Planning フォームの行の軸でディメンションを非表示にしている場合は、Smart View で、そのディメンションにはフォームの行ヘッダーが表示されません。

アド・ホック・グリッドをフォームとして保存

アド・ホック・グリッド作成者の役割が割り当てられている場合は、Planning のアド・ホック・グリッドをフォームとして保存できます。

➤ Planning のアド・ホック・グリッドをフォームとして保存するには:

1. **Planning のアド・ホック・グリッドがアクティブな状態で、Planning アド・ホックのリボンから「アド・ホック・グリッドの保存」をクリックします。**
2. **「グリッドに名前を付けて保存」で、名前、グリッドを保存する場所のパス、およびグリッドの説明を入力します。**
3. **オプション: グリッドに適用された Excel フォーマットまたはセル・スタイルの変更を保存するには、「フォーマットの送信」を選択します。**

   Planning のアド・ホック・グリッドおよびフォームへのフォーマットの保存に関するその他の注意事項やガイドラインは、143 ページの「Planning へのネイティブ Excel フォーマットの保存」を参照してください。
4. **「OK」をクリックします。**

   保存されたグリッドが、手順 2 で選択した場所の「Smart View パネル」ツリー・リストに表示されます。

<xref linkend="forms_237" xrefstyle="HeadingPage">Planning フォームでのアド・ホック分析の実行</xref>

管理者によってアド・ホック・ユーザーの役割を割り当てられているユーザーであれば、管理者によってアド・ホックが使用可能に設定されている Planning のフォームで、アド・ホック分析を実行できます。

➤ Planning のフォームでアド・ホック分析を実行するには:

1 フォームを開きます。

2 次のいずれかの操作を行います:

- Smart View のリボンから、「分析」をクリックします。このボタンは、現在のフォームでアド・ホック分析が使用可能な場合に使用可能になります。
- Smart View パネルでフォームを選択し、アクション・パネルで「アド・ホック分析」をクリックします。

3 アド・ホック分析の実行については、第 5 章「アド・ホック分析」を参照してください。

Financial Management データ・フォーム

Financial Management に詳しくない場合は、EPM ドキュメント・ライブラリで入手可能な Financial Management のドキュメントを参照してください。このライブラリを開くには、Smart View のリボンから、「ヘルプ」の隣にある矢印、続いて「EPM ドキュメント」をクリックします。

Financial Management メンバーについて

Financial Management 11.1.2.2.300 以降を使用している場合、Financial Management のデータ・フォームで@CUR などの相対期間機能を使用すると、同じディメンションのメンバーを行、列、および POV に表示できます。Smart View では、相対期間メンバーは POV ツールバーにユーザー変数として表示されます。詳細は、84 ページの「ユーザー変数の操作」を参照してください。リリース 11.1.2.2.300 より前の Financial Management を使用している場合、データ・フォームで@CUR 機能を使用し、そのフォームを Smart View にインポートすると、@CUR のメンバーは、選択したアプリケーションのバックグラウンド POV から取得されます。

「アクティブ・メンバー」オプションは、アプリケーションで期間別組織が設定されている場合にのみ使用できます。期間別組織の詳細は、Financial Management のドキュメントを参照してください。

Financial Management メンバーの追加

管理者によって使用可能に設定されている場合、メンバーとデータの追加行を挿入して保存できます。新しいデータを反映して合計が更新されます。

たとえば、IC1、IC2、および IC4 に取引を設定した勘定科目のデータ・フォームを定義したとします。IC3 および IC5 のメンバーをフォームに挿入するよう選択できます。フォームが新しいデータでリフレッシュされ、新規の行が適切な階層順で表示されます。

➤ データ・フォームにメンバーを追加するには:

1 **データ・フォームを開きます。**

2 **「HFM」のリボンから、「メンバーの追加」をクリックします。**

   「メンバーの追加」で、セルのスタイルを指定できます。

   249 ページの「セルのスタイル」を参照してください。

3 **メンバー・セレクタで、データを入力するメンバーを選択します。**

4 **「OK」をクリックします。**

   新しいメンバーがメンバー・リストに表示されます。

Financial Management のリンク・フォームの使用方法

管理者は、あるフォームからさらに詳細なデータ入力ビューにドリルスルーできる別のフォームへのリンクを定義できます。たとえば、要約勘定科目残高が含まれているフォームは、勘定の詳細を持つ該当フォームへリンクできます。あるフォームから別のフォームへのリンクは、行全体に適用されます。1 つのフォームに最大 64 個のリンク・フォームを含めることができます。

➤ リンク・フォームを使用するには:

1 **データ・フォームで、リンクされたフォームが含まれている行を選択します。リンクされたフォームはアイコン で示されます。**

2 **右クリックして「HFM リンク・フォーム」を選択し、フォーム名を選択します。**

   ブラウザで別のウィンドウが開き、リンク先のフォームが表示されます。

3 **リンク・フォームの使用が終わったら、「閉じる」をクリックします。**

7 Smart Viewの一般的な操作

この章の内容

Smart View の操作 89
「元に戻す」と「やり直し」の使用方法 89
コピーと貼付け 90
自動列幅調整の有効化 93
シート情報 93
ドキュメント・コンテンツ 93
共有ワークブック 99
Smart View で大きいワークブックを開く 99
ヘッダーおよびフッターへの POV メンバーの印刷 99
Smart View の使用可能/使用不可 99

Smart View の操作

Smart View では、すべてのデータ・ソース・タイプに共通の一連の操作を提供します。これらには、基本操作、関数およびプリファレンスの設定する機能などが含まれます。

「元に戻す」と「やり直し」の使用方法

Smart View の「元に戻す」コマンドと「やり直し」コマンドは、接続しているデータ・ソースによって動作が異なります。

- Essbase、Financial Management または Hyperion Enterprise のデータ・ソースでアド・ホック分析を使用する場合、ズーム・イン、ズーム・アウト、選択項目のみ保持、選択項目のみ除去、リフレッシュの各コマンドを「元に戻す」によって取り消し、グリッドを以前のデータベース表示に戻すことができます。メンバー・データを変更した後で「元に戻す」を実行すると、シートは、データの変更前の状態ではなく、最後のリフレッシュを行う前の状態に戻ります。
- Financial Management、Hyperion Enterprise または Planning のデータ・ソースのフォームでは、「元に戻す」を実行すると、セルでの最後のユーザー・アクションが元に戻されます。

注： 算出ステータスなど、Smart View ではなくサーバー上で実行される操作は、元に戻すことができません。

➤ 元に戻す操作およびやり直し操作について許可される回数を指定するには:

1 Smart View のリボンから、「オプション」を選択し、左側のパネルで「詳細」を選択します。

2 「元に戻す処理の数」に、「元に戻す」操作を許可する回数を、0 から 100 の間で指定します。

これは、「やり直し」操作を許可する回数でもあります。

3 「OK」をクリックします。この設定は、リフレッシュを行うか、ドリル操作を実行すると有効になります。

コピーと貼付け

サブトピック

- コピーしたワークシートへのメタデータのインポート
- コンテンツのコピー、貼付けおよびリフレッシュ
- Excel、Word、および PowerPoint 間でのデータのコピー

コピーしたワークシートへのメタデータのインポート

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Reporting and Analysis、Hyperion Enterprise

メタデータは POV、別名表、接続情報などで構成されます。

Excel ワークシートをコピーするときは、データのみがコピーされます。メタデータはコピーされません。そのかわりに、データのコピー後にそのメタデータを元のワークシートから新しいワークシートにインポートすることができます。

メタデータは次の場合にインポートできます:

- アドホック・モード(スマート・スライスを含む)
- フォーム
- 関数
  - Smart View のコピーと貼付けによって作成された、シート内の問合せにバインドされた関数
  - 関数ビルダーで作成された、問合せにバインドされていない関数
- Reporting and Analysis のプロバイダからインポートされたレポートを含むワークシート

レポート・デザイナ・オブジェクトを含むワークシートではメタデータをインポートできませんが、これらのワークシートは 81 ページの「レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケード」で説明されているカスケードによってレプリケートできます。

注: この手順は、上級ユーザーのみが実行するようにしてください。

➤ コピーしたワークシートにメタデータをインポートするには、次の手順を実行します(この操作は元に戻せません):

1 作業をバックアップします。

2 Smart View のメニューから「オプション」、「詳細」の順に選択し、**「向上したメタデータ・ストレージ」**が選択されていることを確認します。

3 Excel を使用してワークシートをコピーします。この操作では、ソース・ワークシートにある表示可能なコンテンツはコピーされますが、メタデータ(接続情報、POV 選択、別名表などのアイテム)は宛先のワークシートにコピーされません。

4 宛先のワークシートがアクティブな状態で、Smart View のメニューから「詳細」、「メタデータのインポート」の順に選択して、開いているすべてのワークブックと、それらに対応する開いているワークシートのリストを表示します。

5 リストから、宛先のワークシートにインポートするメタデータが含まれているワークシートを選択します。

6 「OK」をクリックします。選択内容を確認するメッセージが表示されます。

7 リフレッシュします。

コンテンツのコピー、貼付けおよびリフレッシュ

次の Smart View コンテンツは、Smart View のリボンの「コピー」ボタンと「貼付け」ボタンを使用してコピーして貼り付けてから、Smart View の「リフレッシュ」を使用してリフレッシュすることができます:

- アド・ホック - 適用対象のすべてのプロバイダ
- 関数 - 適用対象のすべてのプロバイダ
- Oracle BI EE のコンテンツ

Excel ピボット・テーブルのコンテンツを含め、Smart View の他のコンテンツは、静的テキストとして貼り付けられます。

Excel、Word、および PowerPoint 間でのデータのコピー

Smart View で Excel からデータをコピーし、Word または PowerPoint に貼り付けられます。Office アプリケーション間では、コピーして貼り付けるデータは動的です。次のアプリケーション間でコピーと貼付けが可能です。

- Excel から Word および PowerPoint へ
- Word から Word および PowerPoint へ
- PowerPoint から Word および PowerPoint へ

データ・ポイントは、元の Excel ベースの問合せ情報を保持するため、ユーザーはデータ分析を実行できます。Word および PowerPoint は、1 つのドキュメント内に Essbase、Financial Management、Hyperion Enterprise など複数のデータ・ソースのデータ・ポイントを含めることができます。

注意

- 動的データ・ポイントは、Word と PowerPoint でのみ保持されます。Excel 内でデータ・ポイントをコピーして貼り付けた場合、データ・ポイントは Excel グリッドにリンクされません。
- Word から PowerPoint へ、またはその逆方向にコピーして貼り付けた場合、データは一直線に表示されます。表フォーマットは、Excel から Word または PowerPoint にデータをコピーする場合にのみ保持されます。
- データが Word および PowerPoint に貼り付けられたときに、Excel の数値のフォーマットは保持されます。データをコピーして貼り付ける前に、Excel で数値のフォーマットを適用してください。
- データ・ソースへの接続の名前にセミコロン(;)が含まれている場合は、関数データ・ポイントを貼り付けることができません。
- データ・ポイントのコピーと貼付けができるのは、グリッドおよび関数のみです。フォームからは、データ・ポイントをコピーおよび貼付けできません。

➤ Excel から Word または PowerPoint からデータをコピーして Word または PowerPoint に貼り付けるには:

1 **データ・セルまたは範囲を選択します(メンバーを含めることも、含めないこともできます)。**

2 **Smart View のリボンから、「コピー」を選択します。**

3 **Word または PowerPoint ドキュメントを開きます。**

4 **接続を作成するかどうかを確認された場合は、「はい」をクリックします。**

5 **Smart View のリボンから、「貼付け」を選択します。**

6 **リフレッシュします。**

注： Word ドキュメントにデータを貼り付け、.htm または.mht などの異なる形式で保存すると、それらの形式のデータはリフレッシュできません。

7 **オプション: Word または PowerPoint で、データを貼り付けた後に POV を変更するには、「POV の管理」をクリックし、50 ページの「デフォルト POV のメンバーの選択」の手順に従います。**

データ・ポイントのコピー元スプレッドシートの取得

➤ データ・ポイントのコピー元の Excel スプレッドシートを取得するには:

1 **Excel データ・ポイントが貼り付けられた Word または PowerPoint ドキュメントで、データ・セルを選択します。**

2 **データ・ソースのリボンから、「Excel での視覚化」を選択します。**

3 **データ・ソースへのログオンを求められた場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。**

Excel に、データ・セルに関連付けられているスプレッドシートが表示されます。データに対してアド・ホック分析を実行できます。

自動列幅調整の有効化

➤ メンバー・セルおよびデータ・セルの内容にあわせた、Excel の列幅の自動調整を使用可能にするには:

1 **Smart View のリボンから、「オプション」を選択します。**

2 **「オプション」で、左側のパネルから「フォーマット」を選択します。**

3 **「列幅の調整」を選択します。**

4 **「OK」をクリックします。**

5 **任意のリボンから、「リフレッシュ」を選択して、現在のグリッドの列を調整します。**

「列幅の調整」が選択されていない場合、手動で列幅を調整できます。

シート情報

➤ 現在のワークシートについて接続およびその他の詳細を表示するには:

1 **Smart View のリボンから、「シート情報」を選択します。**

2 **オプション: 必要に応じて次のオプションを選択します。**

- Smart View メタデータを削除するための選択のリストを表示するには、「削除」をクリックします。
- 「保存」をクリックして、「シート情報」の内容を Excel スプレッドシートに保存します。

3 **オプション: 選択したリスト内のアイテムをクリップボードにコピーするには、「[Ctrl]を押しながら[C]」を押します。**

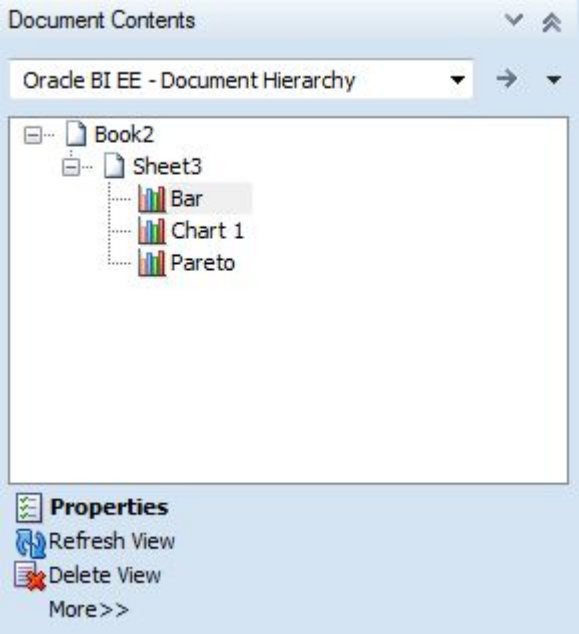
4 **「OK」をクリックします。**

ドキュメント・コンテンツ

「ドキュメント・コンテンツ」は、現在の Office ドキュメントに存在するコンテンツのビューを提供し、それに対するアクションの実行を可能にする、Smart View パネルのタスク・ペインです。

「ドキュメント・コンテンツ」ペインには Office オブジェクトがツリー形式で表示され、ワークブック、プレゼンテーション、文書のコンテンツを、コンテンツや拡張機能からの内部コンテンツのプロバイダやタイプにかかわらず、簡単に閲覧し操作できます。コンテンツは、プロバイダ接続、またはシート、スライド、ページでのドキュメントのレイアウトに基づいて表示されます。図 20 に、Excel の「ドキュメント・コンテンツ」での Oracle BI EE コンテンツの例を示します。

図 20　Oracle BI EE のコンテンツを表示する「ドキュメント・コンテンツ」ペイン

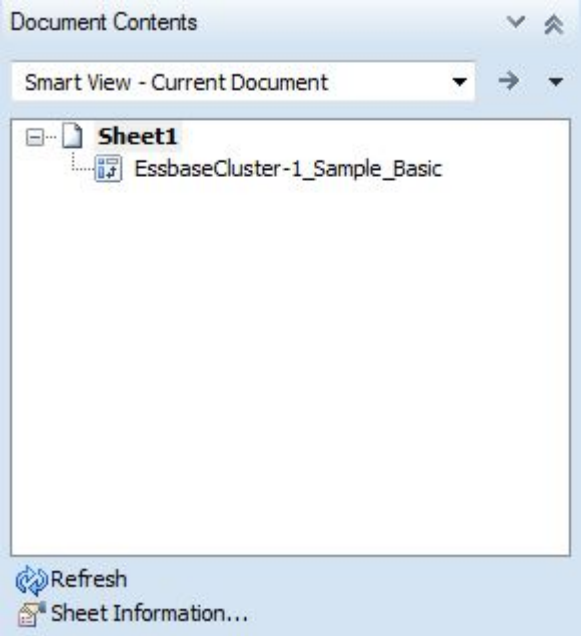


「ドキュメント・コンテンツ」ペインで選択したオブジェクトに対し、プロバイダによって異なるタスクを実行できます。

- ほとんどのプロバイダで、シート、スライド、文書のコンテンツの「選択」、「リフレッシュ」、「削除」が可能です。
- Oracle BI EE プロバイダでは、個々のビューに対して追加のタスクを実行できます。たとえば、ビューを「マスク」したり、ビューのプロパティを表示したりすることができます。
- Reporting and Analysis プロバイダでは、レポート・オブジェクトの挿入などのタスクを実行できます。

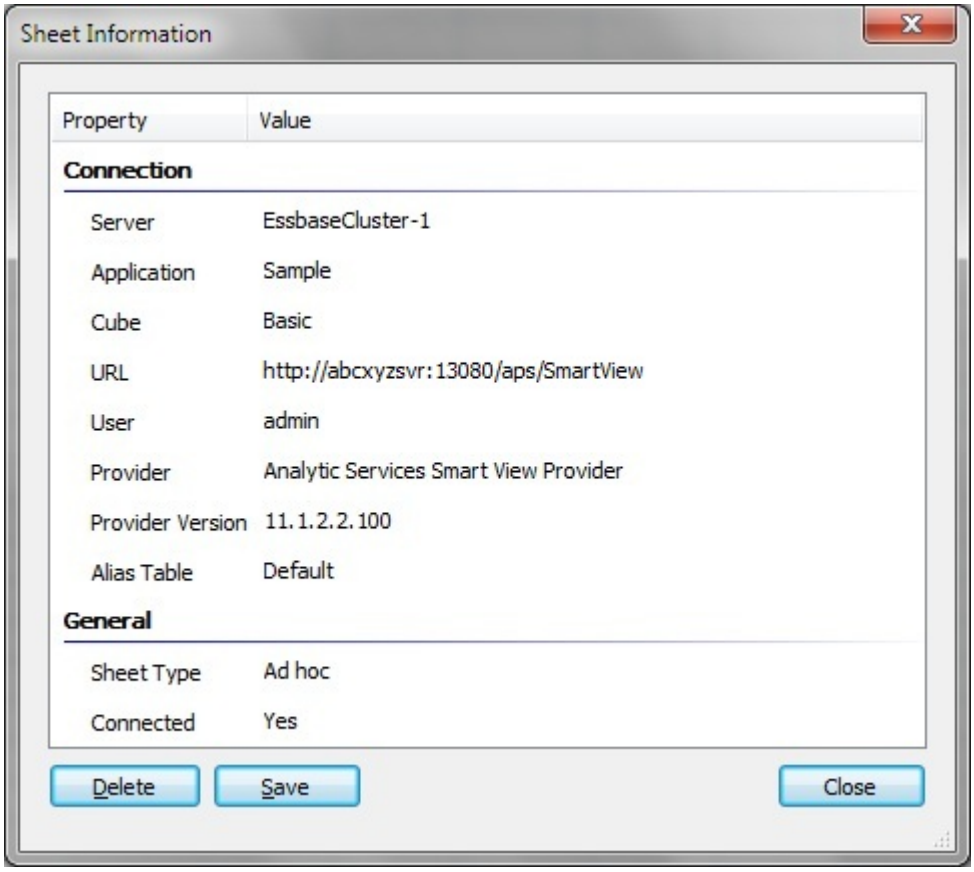
たとえば、図 23 では、シート 1 に Essbase アド・ホック・ビューがあります。シート・ノードを選択すると、「ドキュメント・コンテンツ」ペインの下部に「リフレッシュ」と「シート情報」のオプションが表示されます。

図 21　ドキュメント・コンテンツでシート・ノードが選択された Essbase アド・ホック・グリッド



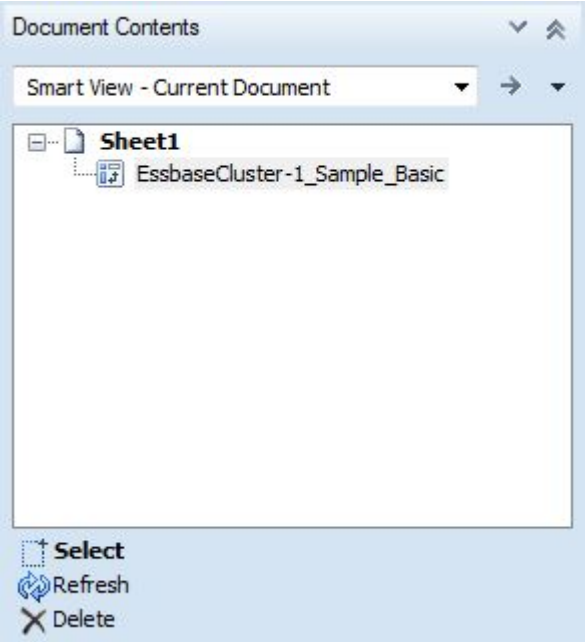
「シート情報」をクリックすると、「シート情報」ダイアログ・ボックス(図 22)が表示されます。ここで、シートの「保存」または「削除」を選択することもできます。

図 22　Essbase アド・ホック・グリッドの「シート情報」ダイアログ・ボックス



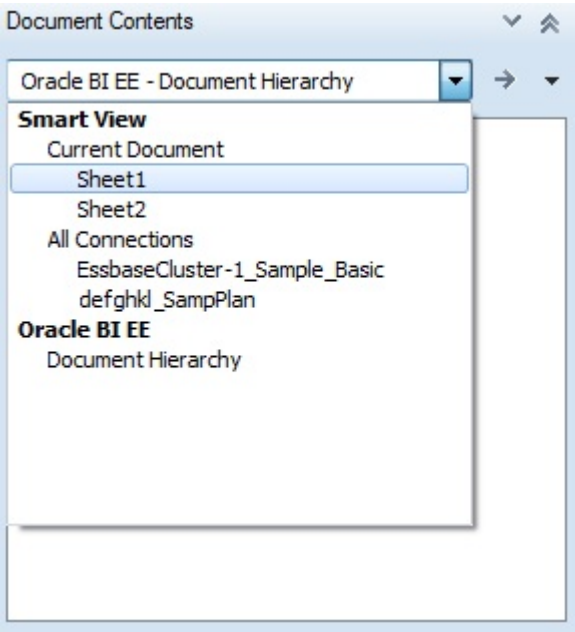
「ドキュメント・コンテンツ」でオブジェクト・ノードを選択すると、コンテキストが変わり、ペインの下部に「選択」、「リフレッシュ」および「削除」オプションが表示されます(図 23)。

図 23　ドキュメント・コンテンツで選択された Essbase アド・ホック・グリッド



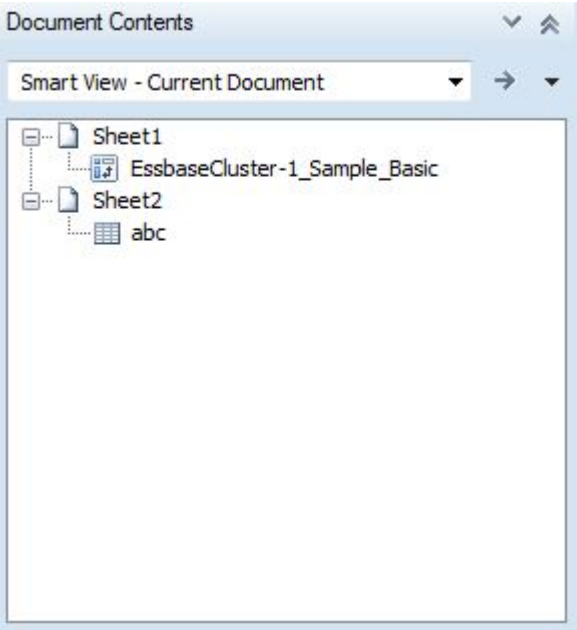
コンテンツは一般に、Smart View のプロバイダ(Essbase、Financial Management、Planning、Reporting and Analysis)によってグループ化されます。Oracle BI EE のコンテンツは、別のグループに分けられます。異なるデータ・ソースからの複数のオブジェクトを含むワークブックでは、図 24 で示すように、「ドキュメント・コンテンツ」ドロップダウン・メニューを使用してビューを切り替えることができます。

図 24 「ドキュメント・コンテンツ」ドロップダウン・メニューで使用可能なオプション



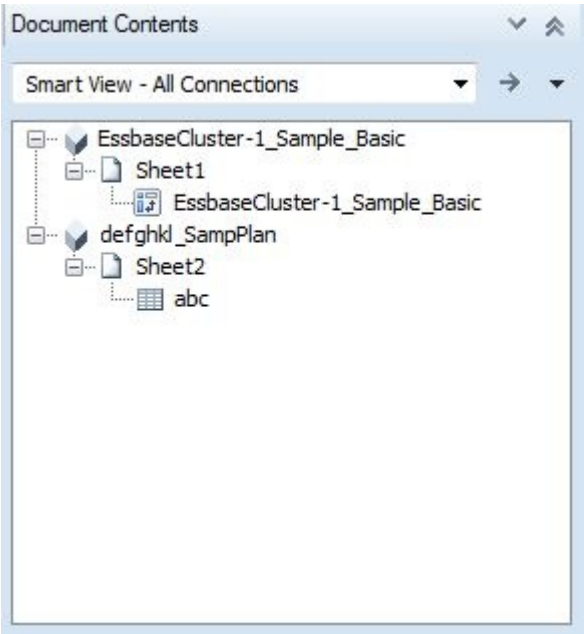
Smart View の「現在のドキュメント」オプションを選択すると、「ドキュメント・コンテンツ」の表示が変わり、Smart View のオブジェクトがシートでソートされて表示されます(図 25)。

図 25　ドキュメント・コンテンツでシートごとに表示される Smart View のプロバイダ・コンテンツ



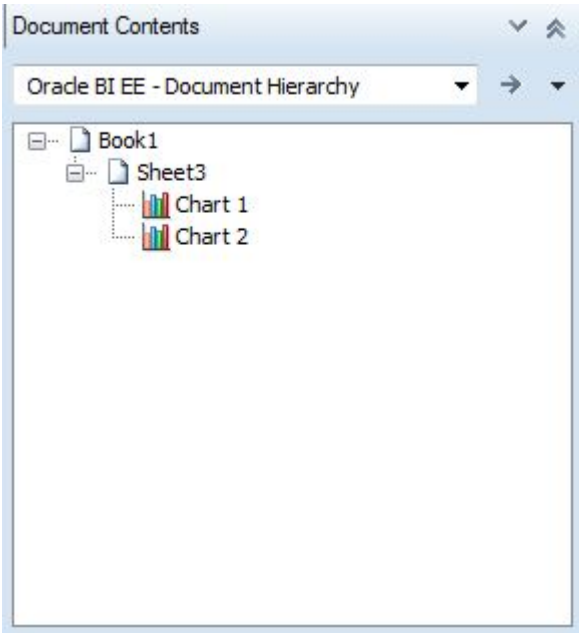
Smart View の「すべての接続」オプションを選択すると、「ドキュメント・コンテンツ」の表示が変わり、オブジェクトがプロバイダでソートされて表示されます(図 26)。

図 26　ドキュメント・コンテンツでプロバイダごとにリストされる Smart View のプロバイダ・コンテンツ



Oracle BI EE の「ドキュメント階層」オプションを選択すると、Oracle BI EE のビューがリストされます(図 27)。

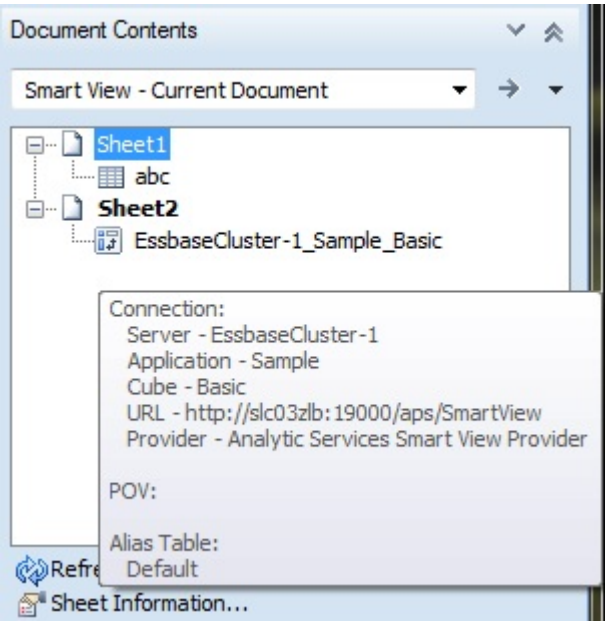
図 27　ドキュメント・コンテンツにリストされる Oracle BI EE コンテンツ



Planning や Essbase のオブジェクトなど、Smart View プロバイダ・コンテンツでは、「ドキュメント・コンテンツ」のツリー領域をクリックし、カーソルをオブジェクト・アイコンの上に置くことで、図 28 に示すように、サーバー、アプリケーション、キューブ、URL、プロバイダ、POV、別名表などの接続プロパティを表示できます。プロパティはプロバイダによって異なります。

Oracle BI EE のコンテンツでは、Oracle BI EE オブジェクトを選択し、「ドキュメント・コンテンツ」の下部の「プロパティ」リンクを使用することで、接続プロパティを表示できます(図 20 参照)。

図 28　Essbase アド・ホック問合せの接続プロパティ



「ドキュメント・コンテンツ」での操作の詳細は、次の章を参照してください:

- 第 9 章「スマート・スライス」
- 第 14 章「Smart View と Reporting and Analysis」
- 第 15 章「Smart View および Oracle BI EE」

共有ワークブック

Smart View は Excel の共有ワークブックをサポートしません。

Smart View で大きいワークブックを開く

次のいずれかを多数含むワークブックを開く際、Smart View が応答しなくなることがあります。

- 行と列
- グラフィカル・オブジェクト
- Excel のコメント

この問題を軽減するには、「向上したメタデータ・ストレージ」オプションを有効にする必要があります。

Smart View リボンから「オプション」、「詳細」の順に選択して、「向上したメタデータ・ストレージ」チェックボックスをオンにします。

ヘッダーおよびフッターへの POV メンバーの印刷

➤ Excel 2007 を使用する場合は、次のように Excel ドキュメントのヘッダーまたはフッターにアクティブな POV メンバーを印刷できます:

1 **Excel で、ヘッダーまたはフッター・セクションを挿入します。**

2 **ヘッダーまたはフッターに、POV:{}を含む文を入力します。**

Excel ドキュメントを印刷すると、指定したヘッダーまたはフッターに POV メンバーが印刷されます。

Smart View の使用可能/使用不可

Smart View は、インストール後にデフォルトで有効化されます。コンピュータ上のすべての Microsoft Office アプリケーションに対して、または Outlook のみに対して、Smart View を無効化できます。

Smart View は Office アプリケーションを介して使用可能/使用不可にすることもできます。

Smart View 内での Smart View の使用不可

➤ Smart View をすべての Microsoft Office アプリケーション(Outlook を含む)に対して使用不可にするには:

1 Smart View のリボンから、「ヘルプ」を選択します。

2 「バージョン情報」を選択します。

3 「アドインの使用可能」を選択解除し、Office アプリケーションを次に開いた際に Smart View を使用不可にします。

➤ Smart View を Outlook に対してのみ使用不可にするには:

1 Excel 内の Smart View のリボンから、「オプション」を選択し、左側のパネルで「詳細」を選択します。

2 「その他」で、「Outlook で Smart View アドインを無効にする」を選択します。

Microsoft Office での Smart View の使用可能/使用不可

Excel のオプションの「アドイン」から、Smart View を使用可能または使用不可にできます。

8 スマート・クエリー

この章の内容

スマート・クエリーについて 101
スマート・クエリーの作成..... 101
スマート・クエリーを開く..... 106
コピーと貼付け 107
スマート・クエリー定義の共有 108

スマート・クエリーについて

データ・ソース・タイプ: Essbase

スマート・クエリーは、複数セットのメンバーおよびフィルタから作成されたマルチディメンショナル分析およびレポート・ツールです。

スマート・クエリーの作成

スマート・クエリーは、アプリケーションのディメンションから 1 つ以上のメンバー・セットを定義することで作成します。それぞれのメンバー・セットに対して、複合フィルタを定義および適用して、スマート・クエリーから戻されるデータをさらに絞り込むことができます。これらのセットとそのフィルタを使用して、別のセットのデータの和集合、補集合および交差を定義することで非常に複雑な問合せを作成できます。

スマート・クエリーが作成されたら、それをアド・ホック・レポートおよび分析に使用できます。スマート・クエリーは保存、再利用、および共有できます。セットおよびフィルタを個別に保存して、他のスマート・クエリーで使用できます。

スマート・クエリーを作成するには、次の手順を実行します:

1. 102 ページの「セットの定義」
2. 103 ページの「セットのフィルタの定義」
3. 103 ページの「スマート・クエリーの構築」
4. 105 ページの「スマート・クエリーの完了」

セットの定義

➤ セットを定義するには:

1 **Smart View のリボンから、「パネル」を選択して Smart View パネルを開きます。**

2 **Smart View パネルから、Essbase キューブまたはアプリケーションに接続します。**

3 **アクション・パネルで、「新しいスマート・クエリー・シート」を選択して Smart View パネルのかわりにスマート・クエリー・パネルを表示します。**

   の横にある矢印を選択して、Smart View パネルに戻ることができます。

   スマート・クエリー・パネルとワークシートに表示される接続のデフォルト・ディメンション。スマート・クエリーのリボンが表示されます。

4 **オプション: ディメンションをスマート・クエリー・パネルのある領域から別の領域にドラッグして、そのディメンションをピボットします。**

5 **「行」、「列」または「視点(POV)」の下でディメンションの名前を選択し、セットを定義する「...のセット」の下に表示します。**

   行、列、視点にディメンションが存在する場合は、ディメンション名を入力して選択することもできます。

6 **「...のセット」で、ディメンション名の横の矢印をクリックし、「基本メンバーの選択」を選択します。**

   POV ディメンションの場合、この手順で指定したメンバーは、「視点」セクションのドロップダウン・メニューから選択して使用できます。これらの名前を直接入力することもできます。

7 **ポップアップ・メニューから、セットに含めるメンバー・レベルを選択するか、「その他」を選択して「メンバー・セレクタ」を開き、そこで特定のメンバーを選択します。**

8 **ディメンション名の横にある矢印をクリックし、「カスタム・メンバーの追加」を選択します(視点ディメンションには使用できません)。**

9 **セットに対して指定した値から選択します。**

   オプション: 「その他」を選択して、「カスタム・メンバー式」で MDX 式を使用してメンバーを定義します(「Essbase」のドキュメントを参照)。

   最も単純なメンバー式(たとえば、2 つのオペランドと演算子)を収容できるように、MDX 問合せは少なくとも 3 文字にする必要があります。ここに表示される「OK」ボタンは、入力した式が検証された後でのみ使用可能になります。

   問合せにはデフォルト名が付与されますが、MDX 問合せ名を変更することを選択した場合は、次の文字は使用しないでください。

   - 大カッコ([ ])
   - 二重引用符(”)または XML でエンコードされた表現 ("""、"""、"""、"""、""")
   - 一重引用符(')または XML でエンコードされた表現 ("'"、"'"、"'"、"'"、"'")

10 **オプション:** セット内で重複メンバーを許可するには、セット名の横にある矢印をクリックし、「セット内の重複を許可」を選択します(視点ディメンションでは使用できません)。

これは、この設定が選択されているセットにのみ適用されます。スマート・クエリーに複数のセットがある場合は、「セット内の重複を許可」が選択されていなくても、メンバーが選択されているすべてのセットのグリッドにメンバーが表示されます。たとえば、あるセットに 1 月、2 月、3 月がメンバーとして選択されていて、Year のレベル 0 メンバーが同じ問合せの別のセットで選択されている場合、1 月、2 月、3 月は両方のセットのメンバーであるため、グリッドに 2 回表示されます。

11 **オプション:** セットの名前を変更するには、セット名の横にある矢印をクリックし、「名前変更」を選択します。

12 セットを保存するには、セット名の横にある矢印をクリックし、「リポジトリ」、「セットの保存」の順に選択します。

13 「リポジトリ・アイテム」で、メンバー・セットの名前と説明を入力し、「OK」をクリックします。

14 **オプション:** このディメンションの追加メンバー・セットを追加するには、セット名の横にある矢印をクリックし、「新規セットの追加」を選択して手順を繰り返します。

15 スマート・クエリー・パネルから他のディメンションを選択し、必要に応じて手順を繰り返して他のディメンションのメンバーを追加します。

セットのフィルタの定義

➤ セットのフィルタを定義するには:

1 「...のセット」で、セット名の横の矢印をクリックし、「フィルタの追加」を選択します。

新しいフィルタが「セット...のフィルタ」の下に表示されます

2 フィルタ名の横にある矢印をクリックし、次のいずれかを選択してフィルタを定義します:

- 上位/下位の選択
- 値に基づく選択
- メンバーによって指定された値に基づく選択
- 文字列の一致(このオプションでは、修飾メンバー名はサポートされません。)

3 セットにさらにフィルタを追加するには、必要に応じてこの手順を繰り返します。

スマート・クエリーの構築

スマート・クエリーを構築するには、複合フィルタを適用して、別のセットのメンバーの和集合、補集合および交差を選択します。和集合は、2 つのセットの両方ではなく一方にのみ属するメンバーの選択です。交差は、指定したすべてのセッ

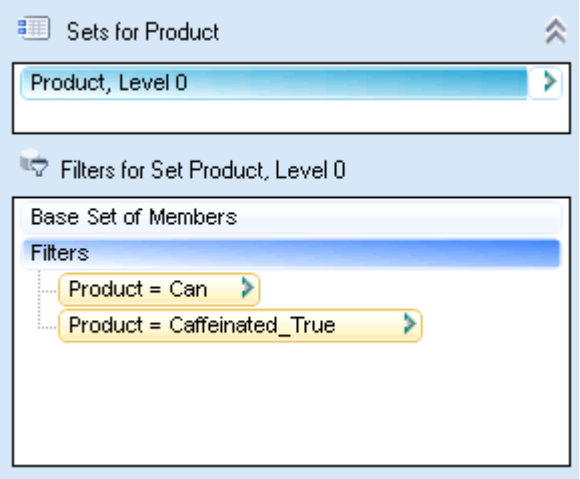
トに属するメンバーの選択です。補集合は、指定した別のセットのメンバーにはなっていない、指定した 1 つのセットのメンバーの選択です。

セットと複合フィルタを任意の組合せで使用して、非常に複雑なスマート・クエリーを作成できます。

セットの和集合

両方のセットではなく一方のセットに属するメンバーを選択するには、103 ページの「セットのフィルタの定義」の説明に従って、「...のセット」のディメンションから 2 つ以上のフィルタを定義します。たとえば、図 29 では、問合せは缶にパッケージ化された(製品 = Can)かカフェイン入り(製品 = Caffeinated_True)の「製品、レベル 0」メンバーのみ戻します。

図 29　セットの和集合



セットの交差

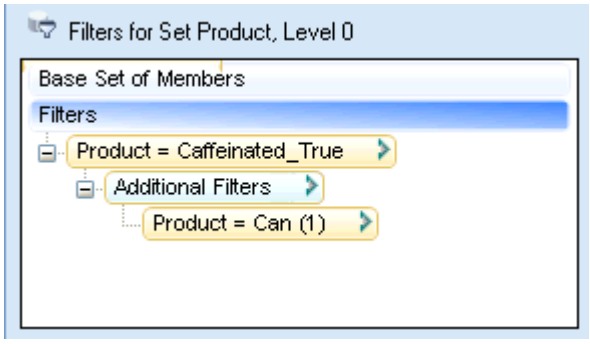
交差には、指定したすべてのセットに共通するメンバーのみ含まれます。

➤ 指定したすべてのセットに共通するメンバーを選択するには:

1. 103 ページの「セットのフィルタの定義」の説明に従って、セットのフィルタを定義します。
2. フィルタ名の横にある矢印をクリックし、「フィルタの追加」を選択します。
3. 「追加フィルタ」とサブセット・フィルタが表示されます。
4. 2 番目のフィルタを定義します。

図 30 では、問合せはカフェイン入りで缶にパッケージ化された「製品、レベル 0」メンバーのみ戻します。

図 30　セットの交差



セットの補集合

➤ 指定した別のセットのメンバーではないセットのメンバーのみ選択するには:

1 「フィルタ...」で、フィルタ名の横にある矢印をクリックし、「フィルタの追加」を選択します。

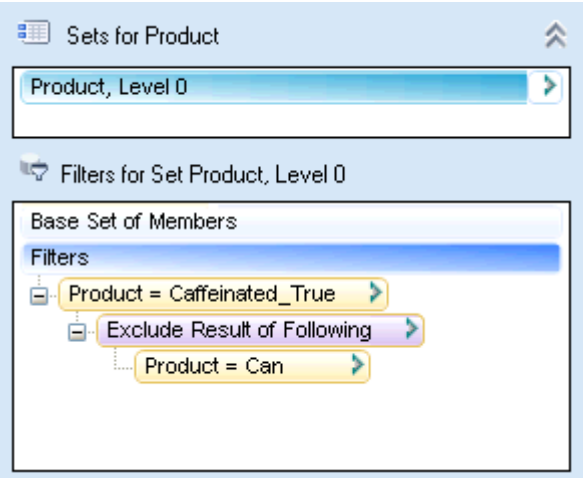
「追加フィルタ」とサブセット・フィルタが表示されます。

2 2 番目のフィルタを定義します。

3 「追加フィルタ」の横にある矢印をクリックし、「除外」を選択します。

図 31 では、問合せはカフェイン入りで缶にはパッケージ化されていない「製品、レベル 0」メンバーのみ戻します。

図 31　セットの補集合



スマート・クエリーの完了

➤ スマート・クエリーを完了するには:

1 スマート・クエリーのリボンから、次のようにスマート・クエリーのオプションを選択します:

- インデント(239 ページの「メンバー・オプション」を参照)

- 個々のメンバー名を表示する(239 ページの「メンバー・オプション」を参照)
- データなしの行の抑制(241 ページの「データ・オプション」を参照)

2 **オプション**: 別名表を選択する場合は、「別名の変更」を選択します。

重複メンバーのフル・ネームは、選択された別名表(存在する場合)に関係なく表示されます。選択した別名表に応じて、その他すべてのメンバー名が表示されます。

3 スマート・クエリー定義全体を保存するには、スマート・クエリーのリボンから「保存」を選択します。

4 「リポジトリ」で、スマート・クエリーの名前と説明を入力します。

5 「OK」をクリックします。

スマート・クエリーはワークブックにも保存されるため、ワークブックを保存すると、その中のスマート・クエリーも保存されます。

6 **オプション**: アド・ホック分析を実行するには、スマート・クエリーのリボンから「分析」を選択します。

スマート・クエリーを開く

新しいワークシートから開く

➤ 既存のスマート・クエリーを開くには:

1 Smart View のリボンから、「パネル」を選択して Smart View パネルを開きます。

2 Smart View パネルで、の横にある矢印をクリックし、「スマート・クエリー」を選択します。

3 スマート・クエリー・パネルで、「定義を開く」を選択して、使用可能なスマート・クエリーの「リポジトリ」リストを表示します。

4 リストからスマート・クエリーを選択します。

5 「OK」をクリックします。

既存のスマート・クエリー・ワークシートから開く

➤ 既存のスマート・クエリーを開くには:

1 スマート・クエリーのリボンで、「開く」を選択して、使用可能なスマート・クエリーの「リポジトリ」リストを表示します。

2 リストからスマート・クエリーを選択します。

3 「OK」をクリックします。

4 ワークシートの既存のスマート・クエリーを破棄するかどうかを尋ねられたら、「はい」をクリックします。

スマート・クエリーが現在のワークシートに開きます。

コピーと貼付け

Excel で、あるワークシートから別のワークシートにスマート・クエリー定義全体をコピーし、他のスマート・クエリーにセットとフィルタをコピーできます。

スマート・クエリー定義のコピーは、ユーザー間でクエリーを共有する方法として使用できます。

Excel でのスマート・クエリー定義のコピー

スマート・クエリー定義は、現在のワークブック内の別のワークシートまたは別のワークブック内のワークシートにコピーできます。定義を貼り付けるワークシートにスマート・クエリー定義がすでに含まれている場合は、貼り付けられた定義で置換されます。

➤ スマート・クエリー定義をあるワークシートから別のワークシートにコピーするには:

1 **コピーするスマート・クエリー・ワークシートを開きます。**

2 **スマート・クエリーのリボンから、「コピー」を選択します。**

3 **新しいワークシートを開きます。**

4 **次のいずれかの操作を行います:**

- 定義全体を空のワークシートにコピーするには、スマート・クエリー・パネルから「貼付け」を選択します。
- スマート・クエリー定義を置換するには、置換するワークシートのスマート・クエリーのリボンから、「貼付け」を選択します。

スマート・クエリーのセットおよびフィルタのコピー

セットをコピーするには、「...のセット」で、セット名の横にある矢印をクリックし、「セットのコピー」を選択します。同じメニューの「セットの貼付け」を使用して、現在のスマート・クエリー内で、または別のスマート・クエリーにセットをコピーできます。

フィルタをコピーするには、「セット...のフィルタ」で、フィルタ名の横にある矢印をクリックし、「フィルタのコピー」を選択します。同じメニューの「フィルタの貼付け」を使用して、現在のスマート・クエリー内で、または別のスマート・クエリーにセットをコピーできます。

Word および PowerPoint へのスマート・クエリー・レポートのコピー

Excel から Word または PowerPoint にスマート・クエリー定義を直接コピーすることはできませんが、スマート・クエリーで定義されたグリッドまたはグリッドの一部を Excel から Word または PowerPoint にコピーすることはできます。そのた

めには、スマート・クエリーのリボンから「分析」を選択します。次に、91 ページの「Excel、Word、および PowerPoint 間でのデータのコピー」の説明に従ってデータをコピーします。

スマート・クエリー定義の共有

スマート・クエリー定義は、他のユーザーと共有できます。スマート・クエリー定義には、行、列、POV、ディメンション・セット、フィルタ、ソートおよびカスタム・メンバーの定義が含まれます。

スマート・クエリーの共有方法は次のとおりです:

- 電子メールの共有
- ワークブックの共有

次のトピックで、それぞれの方法について説明します。

電子メールの共有

➤ 電子メールを介して他のユーザーとスマート・クエリー定義を共有するには:

1. **Excel で、コピーする定義が含まれるスマート・クエリー・ワークシートを開きます。**
2. **スマート・クエリーのリボンから、「コピー」を選択します。**
3. **空の電子メール・メッセージを開いて、「[Ctrl]を押しながら[V]」を押します。**

   クエリー定義を電子メール・メッセージに貼り付けると、英数字の長い列のようになります。
4. **共有するユーザーに、その電子メール・メッセージを送信します。**
5. **スマート・クエリー定義の受信者は次のタスクを実行します:**
   1. 電子メールでスマート・クエリー定義の文字列を選択し、(「[Ctrl]+[C]」または「コピー」コマンドを使用して)Windows のクリップボードにコピーします。
   2. 新規または既存のワークブック内で空のワークシートを開きます。
   3. **オプション:** 適切なデータ・ソースに接続します。

      データ・ソースに接続しない場合は、108 ページの手順 5.4 で定義を貼り付ける際に、接続するよう求められます。
   4. アクティブなワークシートの Smart View のリボンから、

をクリックします。

      ワークシートに、スマート・クエリーが移入されます。

ワークブックの共有

➤ ワークブックでスマート・クエリーを共有するには:

1. **共有するスマート・クエリーが含まれる Excel ワークブックを保存します。**

2 共有するユーザーに、その Excel ワークブックを送信するか、ワークブック・ファイルを共有ネットワークの場所に置いて、共有するユーザーに通知します。

3 スマート・クエリー定義を含むワークブックの受信者は次のタスクを実行します:

1. 電子メールから直接、または共有ネットワークの場所からワークブックを開きます。

   ワークシートに、スマート・クエリーが移入されます。

2. Smart View のリボンで、「リフレッシュ」をクリックすると、「データ・ソースに接続」ダイアログ・ボックスでログイン資格証明を要求されます。

9 スマート・スライス

この章の内容

スマート・スライスについて 111
スマート・スライスを使用したレポートの作成 111
スマート・スライス、アド・ホック分析、およびフォーム 116
スマート・スライスの作成 116

スマート・スライスについて

スマート・スライスは、Essbase または Financial Management データ・ソースの再利用可能なパースペクティブです。単一のメンバー、単一メンバーの組合せ、フィルタまたは単一メンバーとフィルタの任意の順序での組合せから構成されます。これらのコンポーネントは、ユーザーがスマート・スライスを表示および操作できるデータへの境界となります。Smart View で実行できる操作は、スマート・スライスの領域内でも実行できます。

1 つの組織が、ユーザーの特定のデータ要件に応じて、異なるスマート・スライスをいくつでも使用できます。たとえば、異なる販売地域、異なる製品ライン、異なるタイム・フレームまたはこれらのディメンションの任意の組合せに対してスマート・スライスを作成できます。

スマート・スライスの境界内では、あらゆるデータに対して表示および操作を行えますが、境界外のデータに対しては行えません。たとえば、販売データを米国西部地域に限定するスマート・スライスでは、カリフォルニアまたはロサンゼルスのデータをドリルダウンできますが、ニューヨークのデータに移動することはできません。

スマート・スライスを使用したレポートの作成

データ・ソース・タイプ: Essbase、Financial Management

スマート・スライスは一元的に管理され、Smart View パネルから利用できます。

レポート全体は、Excel ワークブック、Word 文書、PowerPoint プレゼンテーションと関連付けられます。1 つのレポートは、1 つの Excel ワークシート、1 つの Word ページ、1 つの PowerPoint スライドに関連付けられます。PowerPoint プレゼンテーションの場合は、スライドごとにレポートのタイプを 1 つのみにすることをお薦めします。

スマート・スライス全体、またはスマート・スライスのデータのサブセットからレポートを作成することができ、作成したレポートは Excel スプレッドシート、Word 文書、PowerPoint スライドで表示できます。シート上のスペースが許すかぎり、いくつのデータ・ソースからでも、いくつのレポートでも表示が可能です。

➤ スマート・スライスからレポートを作成するには:

1 **Smart View のリボンから、「パネル」を選択します。**

2 **Smart View パネルからスマート・スライスを選択します。**

3 **アクション・パネルから次のいずれかを実行します。**

- スマート・スライスをそのまま操作するには、「スマート・スライスのレポートへの挿入」をクリックします。Smart View パネル下部のドキュメント・コンテンツにスマート・スライスが表示されます。
- ローカル・ストレージ用にスマート・スライスのサブセットを作成するには、「スマート・スライスの変更およびレポートへの挿入」をクリックし、スマート・スライスの作成の説明に従ってスマート・スライス・デザイナを使用します。

  注： **「スマート・スライスの変更」**を使用してスマート・スライスを作成する場合は、アド・ホック分析を実行する前に、新しく作成されたスマート・スライスを「Smart View パネル」ツリー・リストから選択する必要があります。

n

4 **→ をクリックして、「ドキュメント・コンテンツ」ツリーをリフレッシュします。**

5 **「ドキュメント・コンテンツ」でスマート・スライスを選択し、右クリックして「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」を選択します。**

6 **「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」ダイアログ・ボックスで、グリッドに配置するレポートのタイプを次から選択します:**

- **関数グリッド** - 動的グリッド・フォーマット

  関数グリッドは Word、PowerPoint および Excel で使用できます。関数グリッドをリフレッシュすると、データ・セルはリフレッシュされますが、メンバーはリフレッシュされません。データとメンバーの両方をリフレッシュするためには、関数グリッドをシートに挿入し直す必要があります。このため、関数グリッドは、メンバーが適度に静的であるレポートの場合に最も有用です。メンバーが頻繁に変更される可能性があるレポートの場合は、レポート・タイプとして表およびチャートがより適しています。ワークシートに複数のレポートを含めることはできますが、関数グリッドは 1 つのみです。

  関数グリッドでは、SUM などの Excel の式を使用できます。そのような式を関数グリッドの一部として保持するためには、式を含むセルとグリッドの間に空の行を 1 行開けておき、式の定義で選択するセル範囲にその空の行を含める必要があります。これにより、データをリフレッシュした結

果、グリッド内の行数が変わった場合でも、式を保持できるようになります。

関数グリッドにフォーマットを設定するには、Excel のフォーマット機能を使用します。

- **Office 表**

  Office 表は、Word でのみ使用できます。Office 表では、結果がネイティブの Microsoft Office 表形式で表示されます。Office 表をリフレッシュすると、メンバーとデータの両方がリフレッシュされます。

  Office 表は Word 文書の一部であるかのように表示され操作できますが、表セルのメンバーとデータは Smart View プロバイダに接続されています。Office 表では、使い慣れた Word の表のフォーマットとスタイルを使用できます。レポートに POV オブジェクトを挿入すると、Office 表の POV を変更できます。フォーマットや POV を変更した後に Office 表をリフレッシュすると、結果には新しい POV が反映され、カスタム・フォーマットが保持されます。

  Office 表オブジェクトでは、ズーム・インやズーム・アウトはできません。また、その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームも使用できません。

- **表**

  表は、PowerPoint および Excel で使用できます。表レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なグリッド・フォーマットで、結果を表示します。表をリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。表は、小さいスペースに大きいグリッドを表示する場合に有用です。スクロール・バーを使用して、行や列にすばやくアクセスできます。

  表レポートでは、ズーム・インおよびズーム・アウトが可能ですが、その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームを使用したりすることはできません。

- **チャート**

  チャートは PowerPoint および Excel で使用できます。PowerPoint では、チャートと表のコンテンツはプレゼンテーション・モードでのみ表示されます。チャート・レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なチャート・フォーマットで、結果を表示します。チャートをリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。

7 **オプション: 表やチャートを移動またはサイズ変更するには、「ドキュメント・コンテンツ」で、 の隣の下矢印をクリックし、メニューから「デザイン・モードの切替え」を選択します。**

シート、スライド、ページ内でオブジェクトを移動できるようになります。

8 **レポート・コントロールを挿入するには、「ドキュメント・コンテンツ」でスマート・スライスを選択し、右クリックして「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」を選択します。**

9 「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」ダイアログ・ボックスで、レポート・コントロールのタイプを次から選択します:

- 「POV」 – レポートに POV を 1 つのみ含めることができます
- 「スライダ」 – レポートに複数のスライダを含めることができます。114 ページの「スライダ」を参照してください。

レポートには 1 つの POV かスライダを含めることができ、両方を含めることはできません。

10 リフレッシュします。

11 **オプション**: レポートにおける 1 つのディメンションの任意のメンバーまたはすべてのメンバーについて個別のレポートを作成し、それらのレポートをワークブックの各ワークシートにカスケードする方法については、81 ページの「レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケード」を参照してください。

注： チャートおよび表を含むレポートでは、カスケード操作により、次回そのワークブックを開いた際に、チャートと表が重なって表示されることがあります。

レポートまたはレポート・オブジェクトの削除

➤ レポートを削除するには:

1 「ドキュメント・コンテンツ」で → をクリックします。

2 「ドキュメント・コンテンツ」のリンクから、削除するオブジェクトを選択します。たとえば、関数グリッドや POV を選択します。

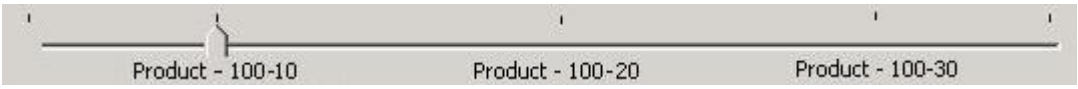
レポートを選択すると、そのレポート・オブジェクトもすべて削除されます。

3 「ドキュメント・コンテンツ」ペインの下部で、「詳細」、「削除」の順に選択します。

スライダ

図 32 はスライダを表示します。スライダは問合せのディメンション・メンバーから選択されたセットを表示します。スライダ・マーカーをメンバーまでドラッグすると、シート上で当該問合せに関連付けられているすべてのレポートに、そのメンバーのデータが表示されます。レポート・デザイナの複数の問合せからのディメンションをスライダに含めることが可能です(ディメンションの境界が同じである場合)。

図 32　スライダ



1 つの問合せからのスライダの作成

➤ スライダを作成するには:

1 スライダを作成する問合せについて、ワークシートに 1 つ以上のレポート・タイプが挿入されていることを確認します。

2 レポート・デザイナから「クエリー・ビュー」、「クエリー・ビュー」の順に選択します。

3 レポート・デザイナで、スライダの基になる問合せを選択します。

4 Insert をクリックし、「スライダ」を選択して「メンバー選択」を開きます。

5 スライダのディメンション、メンバー、およびフィルタを選択し、「OK」をクリックします。

スライダがシート上に表示されます。

6 **オプション:** スライダを移動またはサイズ変更するには、をクリックしてから、移動またはサイズ変更します。

結合問合せからのスライダの作成

問合せの境界がまったく同じである場合に限り、複数の問合せのディメンションを含むスライダを作成できます。

➤ 複数の問合せのディメンションを使用してスライダを作成するには:

1 スライダを作成する問合せについて、ワークシートに 1 つ以上のレポート・タイプが挿入されていることを確認します。

2 「問合せビュー」をクリックし、「ディメンション・ビュー」を選択します。レポート・デザイナのツリー・ビューは、問合せごとにではなくディメンションごとにグループ化されていることに注意してください。各ディメンションの下には、そのディメンションを含む問合せが表示されます。ディメンションの境界が同じでない場合は、それぞれに対応する複数のスライダが作成されます。たとえば、ある問合せの「市場」ディメンションに子のフィルタが 1 つ含まれており、別の問合せの「市場」ディメンションには子孫のフィルタが 1 つ含まれている場合は、2 つの「市場」スライダが作成されることになります。

3 レポート・デザイナで、問合せの基になるディメンションを選択します。

4 Insert をクリックし、「スライダ」を選択して「メンバー選択」を開きます。

5 スライダのディメンション、メンバー、およびフィルタを選択し、「OK」をクリックします。

スライダがシート上に表示されます。

6 **オプション:** スライダを移動またはサイズ変更するには、をクリックしてから、移動またはサイズ変更します。

スマート・スライス、アド・ホック分析、およびフォーム

Excel でスマート・スライスに対するアド・ホック分析を実行するには(Essbase、Financial Management)、Smart View パネルでスマート・スライスを選択し、アクション・パネルで「**アドホック分析**」をクリックします。そのスマート・スライスのデータおよび POV がワークシートに入力され、アド・ホック分析を実行できます。

フォームを使用するには、Smart View パネルでスマート・スライスを選択し、アクション・パネルで「**フォームを開く**」をクリックします。アド・ホック分析には、管理者が使用可能にしたフォームのみを使用できます。

アド・ホック・グリッドのデータのソースとなったスマート・スライスを特定する場合は、 をクリックし、「**ワークシート接続の検索**」を選択します。該当するスマート・スライスが Smart View パネルで強調表示されます。

スマート・スライスの作成

データ・ソース: Essbase、Financial Management

管理者とデータベース管理者は、スマート・スライスを作成、変更および削除できます。Essbase で、管理者が有効にしている場合は、すべてのユーザーがスマート・スライスを作成、変更および削除できます。

スマート・スライスの作成では、スマート・スライスのデータ境界の設定と、スマート・スライスのプリファレンスの設定を行います。

スマート・スライスのデータ境界の設定

➤ スマート・スライスを作成するには:

1 **Smart View のリボンから、「パネル」を選択します。**

2 **Smart View パネルを開いて Essbase または Financial Management データ・ソースに接続します。**

3 **次のいずれかの操作を行います:**

- アクション・パネルで「新規スマート・スライスを作成」をクリックし、別名表のリストから別名表を選択します。
- アド・ホック・グリッドが開いた状態で、データ・ソースのリボンから「**スマート・スライス**」を選択します。

スマート・スライス・デザイナと「**新規スマート・スライス - 設計**」ワークシートが表示されます。スマート・スライス・デザイナでスマート・スライスを設計すると、結果がワークシートに表示されます。

スマート・スライス・デザイナには行、列、POV、属性の各ディメンションに対する「**行**」、「**列**」、「**POV**」、「**属性**」のセクションがあります。

4 スマート・スライス・デザイナで、次の操作のいずれかを使用して、スマート・スライスの境界を作成します。

- 行または列の境界のメンバーを選択するには、スマート・スライス・デザイナで必要に応じて「POV」から「行」または「列」へメンバーをドラッグします。行または列のメンバーを除去するには、「POV」へドラッグします。変更はグリッド上でただちに反映されます。
- 「行」、「列」または「属性」のセクションでディメンションのメンバーを選択するには、ディメンションの名前をクリックして「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開きます。
- スマート・スライス・デザイナで POV のメンバーを選択するには、ディメンション名の隣の矢印をクリックして省略記号を選択し、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開きます。

5 「オプション」をクリックし、117 ページの「スマート・スライスのプリファレンスの設定」の説明に従ってプリファレンスを設定します。

6 「完了」をクリックします。「メンバー選択」が表示されます。

7 「メンバー選択」で、デフォルトの POV として使用するディメンション・メンバーを選択し、「OK」をクリックします。

8 Smart View パネルで、「新規の名前を入力」にスマート・スライスの名前を入力します。

9 「OK」をクリックします。Smart View パネルのツリー・ビューで、該当するデータ・ソースの下にスマート・スライスが表示されます。

スマート・スライスのプリファレンスの設定

指定するプリファレンスは、スマート・スライス定義の一部として保管され、「オプション」ダイアログ・ボックスで設定したグローバル・プリファレンスをオーバーライドします。

➤ スマート・スライスのプリファレンスを指定するには:

1 スマート・スライス・デザイナで「オプション」をクリックします。

2 各オプションについて、プリファレンスを入力するか、ドロップダウン・メニューから選択します。

ユーザーは、ここで使用可能になっているオプションを選択できます。各オプションの詳細は、第 16 章「Smart View のオプション」を参照してください。

注： この手順で、スマート・スライスの「オプション」ダイアログ・ボックスに指定した、欠落データの置換ラベルおよびその他のプリファレンスは、そのスマート・スライスに基づく関数グリッドには適用されません(111 ページの「スマート・スライスを使用したレポートの作成」に説明されています)。かわりに、Smart View ユーザーによって「オプション」ダイアログ・ボックスに指定されたオプションが関数グリッドに適用されます。

10 クエリー・デザイナおよびMDX問合せ

この章の内容

クエリー・デザイナ 119
問合せの作成..... 119
問合せの編集およびレポートの再実行..... 121
データのフィルタ処理 121
クエリー・デザイナでの時間関連データの分析 122
MDX 問合せ 122

クエリー・デザイナ

クエリー・デザイナは Smart View のツールで、1 つのインタフェースから行、列および POV のディメンション、メンバー、属性を選択してレポートのレイアウトを設計できます。クエリー・デザイナを使用して、空の接続されたワークシートから問合せを作成できます。このワークシートでは、開始点としてデフォルトのレポートが使用されるか、保存したレポートからクエリーが抽出されます。クエリー・デザイナは、アド・ホック・ワークシートにのみ使用可能です。

問合せの作成

データ・ソース・タイプ: Essbase、Financial Management、Hyperion Enterprise

➤ 問合せレポートを作成するには:

1 **Excel でワークシートまたは既存のレポートを開き、データ・ソースに接続します。**

注： ワークブックには、複数のデータ・ソースからのクエリー・デザイナ・ワークシートを表示できます。ただし、ワークシートに関連付けることができるのは、1 つのデータ・ソースのみです。

2 **データ・ソースのリボンから、「問合せ」、「クエリー・デザイナ」の順に選択します。**

クエリー・デザイナ、および"シート名 - 問合せ"という名前のクエリー・ワークシート(シート 1 - 問合せなど)が表示されます。問合せはこのワークシートで設計します。

問合せシートでは次の操作が使用不可になっていますが、レポートを実行すると再度使用可能になります:

- 式
- 非対称型レポート
- コメント
- 空白の行または列
- 別名表に対する変更
- ズーム・イン、ズーム・アウト、選択項目のみ保持、選択項目のみ除去、およびダブルクリックといったアド・ホック処理

問合せシートとレポート・シートのどちらでも、次の操作は行えません:

- 列のメンバーのフィルタ処理
- データ・ソースの変更

3 **問合せを設計するには、次のいずれかの操作を実行します:**

- クエリー・デザイナに表示されている「行」および「列」ディメンションのメンバーを選択するには、ディメンション名をクリックして「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開きます。
- クエリー・デザイナに表示されている「POV」ディメンションのメンバーを選択するには、ディメンション名の隣にある矢印をクリックして省略記号を選択し、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開きます。
- 「POV」からグリッドにディメンションを移動するには、クエリー・デザイナで「POV」セクションから「列」または「行」セクションに、ディメンションをドラッグ・アンド・ドロップします。
- グリッドからディメンションを除去するには、クエリー・デザイナで「列」または「行」セクションから「POV」セクションにディメンションをドラッグ・アンド・ドロップします。
- 属性ディメンションを追加または除去するには、「属性」ドロップダウン・メニューからディメンションを選択し、クエリー・デザイナの「行」または「列」セクションにドラッグ・アンド・ドロップします。
- メンバーを直接グリッドに入力します。

4 **クエリー・デザイナで「問合せを適用」をクリックします。結果として生成されたレポートは、"シート名 - レポート"という名前の新しいレポート・シート(シート 1 - レポートなど)に表示されます。手順 2 で一時的に無効化されていた操作が再度有効化されます。**

問合せシートがレポート・シートに置き換えられますが、手順 2 を繰り返せば問合せシートは取得可能です。

5 **レポートを保存するには、`Essbase` または `Hyperion Enterprise` をデータ・ロード・データ・ソースとして使用可能な、Excel の.xls や.xlsx ファイルとして保存します。**

注： クエリー・デザイナはスマート・スライスと連携できるようには設計されていません。

問合せの編集およびレポートの再実行

問合せを再実行するとレポートが再生成されます; ズーム、コメントおよび式など、元のレポートに対する変更は失われます。フォーマットも失われます。

レポートをリフレッシュできますが、データがリフレッシュされるのみで、レポートは再実行されません。

➤ 問合せを編集してレポートを再実行するには:

1 クエリー・デザイナの編集するクエリー・シートを開きます。クエリー・シートが表示されていない場合は、データ・ソースのリボンから、**「問合せ」**、**「クエリー・デザイナ」**の順に選択します。

2 問合せを編集します。

3 「問合せ」、「レポートの実行」の順に選択します。

   レポートが更新されます。

データのフィルタ処理

データ・ソース・タイプ: Essbase

データをフィルタ処理すると、戻されるデータ量が指定された上位または下位基準に制限されます。上位または下位ランキングによって、たとえば特定地域の売上の上位 10 製品を表示できます。

➤ データをフィルタ処理するには:

1 クエリー・デザイナのレポート・ワークシートでディメンションを選択します。

2 Essbase のリボンから、「問合せ」、「データ・フィルタ」の順に選択します。

3 「データ・フィルタ」の「カウント」で、「上」または「下」を選択し、数値を指定します。

4 「設定」の下の[…][…]をクリックします。

5 「メンバー選択」でランキングの行メンバーを選択し、「OK」をクリックして「データ・フィルタ」に戻ります。

6 「値」で[…]をクリックします。

7 「メンバー選択」でランキングの実行対象の列メンバーを選択し、「OK」をクリックして「データ・フィルタ」ダイアログ・ボックスに戻ります。

8 「OK」をクリックします。

   データ・フィルタ処理設定を表す TopCount({ [Qtr3] }, 10, [Measures].[Profit]) という形式の MDX 問合せが、グリッドに挿入されます。例では、第 3 四半期の利益が最も高かった上位 10 製品が戻されます。

9 **「問合せを適用」**をクリックして、問合せ結果を表示します。

クエリー・デザイナでの時間関連データの分析

データ・ソース・タイプ: Essbase

Smart View を使用して、時間ベースのメトリックに対して、売上原価に対する売上などのフラッシュ・メトリックを分析できます。これにより、トレンドを参照したり、異なる期間の平均を調べたりできます。この操作を行うには、メンバーの周期性を使用可能にするリンク属性を使用します。周期性は、時間ベースの分析を有意義なものにする時間ディメンション・メンバー間の共有パターンです(たとえば、1 月と 4 月は四半期の最初の月として周期性を共有します)。月単位の日、週単位の日、年単位の週は、リンク属性の例です。リンク属性の範囲を設定し、フィルタを適用することもできます。

➤ クエリー・デザイナで時間関連データを分析するには:

1. 問合せを作成します。
2. クエリー・デザイナ・ツールバーから、「日時」ディメンションを選択し、グリッドまたはツールバー内にドラッグします。
3. クエリー・デザイナ・ツールバーの「日時」をクリックし、「メンバー選択」を開きます。ここで、メンバーを選択し、「期間」、「範囲」およびその他のフィルタを適用できます。
4. クエリー・デザイナ・ツールバーの「属性」で、ドロップダウン・メニューの属性またはリンク属性を選択し、グリッドまたはツールバー内にドラッグします。必要に応じて、他の属性について繰り返します。
5. メンバーを選択し、属性にフィルタを適用するには、クエリー・デザイナ・ツールバーで属性名をクリックして「メンバー選択」を開きます。
6. POV ツールバーの をクリックします。

MDX 問合せ

データ・ソース・タイプ: Essbase

MDX ユーザーは、クエリー・デザイナ・インタフェースを使用せずに、クエリー・シートまたは「MDX の実行」ダイアログ・ボックスに MDX コマンドを入力できます。

➤ MDX 問合せを実行するには:

1. Excel で、Essbase データ・ソースに接続します。
2. Essbase のリボンから、「問合せ」、「MDX の実行」の順に選択します。
3. 「フリー・フォームの MDX 問合せの実行」で、MDX 問合せを入力します。

   例:

```
SELECT {[Sales], [Cogs]} on columns, Filter ([Product].Levels( 2 ).Members,
```

```
AVG([Year].CHILDREN, 9001.0) > 9000.00) on rows
```

4 「実行」をクリックします。

11 タスク・リスト

この章の内容

タスク・リスト 125
Smart View パネルからのタスクの操作 125
タスク・リストと Microsoft Outlook の統合 128

タスク・リスト

データ・ソース・タイプ: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Financial Close Management

データ・ソースに応じて、Excel または Outlook の Smart View パネルからタスクを開いて管理したり、データ・ソースのタスク・リストを Outlook に統合し、Outlook の機能を使用してタスクを管理できます。

- Planning および Financial Management では、Excel および Outlook の両方で Smart View パネルからタスクを管理し、125 ページの「Smart View パネルからのタスクの操作」の説明に従って、タスク・リストを Outlook に統合できます。
- Oracle Hyperion Financial Close Management では、128 ページの「タスク・リストと Microsoft Outlook の統合」の説明に従って、タスク・リストを Outlook に統合できます。

Smart View パネルからのタスクの操作

タスク・リストを開く

データ・ソース・タイプ: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management

➤ Excel からタスク・リストを開くには:

1. **Smart View のリボンまたはメニューから、「パネル」をクリックします。**
2. **プロンプトされたら、ユーザー名とパスワードを入力します。**
3. **Smart View パネルから、次のいずれかを実行します:**
   - 「Smart View ホーム」の「最近使用」で、タスク・リストの名前をクリックします。

- 「共有接続」または「プライベート接続」から、開くタスク・リストに移動して、アクション・パネルで**「タスク・リストを開く」**をクリックします。

➤ Outlook からタスク・リストを開くには:

1 **Outlook に Smart View メニューが表示されていることを確認します。そうでない場合は、次を実行します:**

   1. Outlook を閉じます。
   2. Excel で、Smart View のリボンから「オプション」をクリックし、左側のパネルで「詳細」をクリックします。
   3. 「Outlook で Smart View アドインを無効にする」の選択を解除します。
   4. 「OK」をクリックします。
   5. Outlook を再度開きます。

2 **第 2 章「データ・ソース接続の管理」で説明されているように、データ・ソースに接続していることを確認します。**

3 **Outlook ツールバーで「Smart View」をクリックし、「パネル」を選択すると、Smart View パネルが表示されます。**

4 **Smart View パネルから、次のいずれかを実行します:**

   - 「Smart View ホーム」の「最近使用」で、タスク・リストの名前をクリックします。
   - 「共有接続」または「プライベート接続」から、開くタスク・リストに移動して、アクション・パネルで**「タスク・リストを開く」**をクリックします。

タスク・リストの表示

データ・ソース・タイプ: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management

Smart View パネルの「タスク・リスト」ペイン内に開かれるタスク・リストには、次のものが表示されます:

- タスク・リスト内の個々のタスク。個々のタスクには、下位タスクが含まれる場合もあります。タスクのステータス(完了、未完、遅滞)は、色コーディングで示されます。
- 現在のアプリケーションに関連付けられている他のタスク・リストを選択できるドロップダウン・メニュー
- 選択されたタスクに対して実行可能なアクションを表示するアクション・パネル
- 二重矢印をクリックすると表示される「タスクの詳細」
- 色分けされたタスク・リストのステータス・バー

タスクの実行

データ・ソース・タイプ: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management

➤ タスクを実行するには:

1 実行するタスクが含まれているタスク・リストを開きます。

2 アクション・パネルで「タスクの実行」をクリックします。

3 タスクの実行は、タスクとデータ・ソースによって異なります。

タスクの完了

データ・ソース・タイプ: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

➤ タスクの要件を完了した後、タスクを完了済としてマークします。タスクを完了するには:

1 タスクの要件を完了します。

2 完了するタスクが含まれているタスク・リストを開きます。

3 すべての従属タスクが完了していることを確認します。

4 完了済としてマークするタスクを選択します。

5 アクション・パネルで「完了をマーク」をクリックします。

タスク・リスト・レポートの作成

データ・ソース・タイプ: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management

プロセスのステータスをレビューするために、アプリケーションの 1 つ以上のタスク・リストの詳細レポートを PDF または Excel ワークシートのフォーマットで作成できます。

➤ タスク・リスト・レポートを作成するには:

1 Smart View パネルから、タスク・リストを開きます。

2 タスクを右クリックして「レポートの作成」を選択します。

3 レポート・ウィザードで、矢印キーを使用して、レポートに含める必要があるすべてのタスク・リストを、「使用可能なタスク・リスト」から「選択したタスク・リスト」に移動します。

4 「次」をクリックします。

5 矢印キーを使用して、ステータスを表示するユーザーを「使用可能なユーザー」から「選択したユーザー」に移動します。

6 「次」をクリックします。

7 レポートの作成に関するオプションを選択します。

8 「終了」をクリックします。

手順 7 で選択したオプションに応じて、レポートが PDF または Excel で作成されます。

タスク・リストと Microsoft Outlook の統合

データ・ソース・タイプ: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Oracle Hyperion Financial Close Management

タスク・リストを Microsoft Outlook にインポートし、Outlook の機能を使用してタスクを管理できます。タスクのステータスが変わるとデータ・ソースに送信されますが、Outlook のタスクは削除できません。

➤ タスク・リストを Microsoft Outlook にインポートするには:

1 **Outlook に Smart View メニューが表示されていることを確認します。そうでない場合:**

   1. Outlook を閉じます。
   2. Excel で、Smart View のリボンから「オプション」をクリックし、左側のパネルで「詳細」をクリックします。
   3. 「Outlook で Smart View アドインを無効にする」の選択を解除します。
   4. 「OK」をクリックします。

2 **Outlook を開きます。**

3 **「Smart View」をクリックして、「タスク・リスト」を選択します。**

4 **「共有接続」または「プライベート接続」を選択します。**

5 **「タスク・リスト」で、「アプリケーションの選択」をクリックします。**

6 **「アプリケーションの選択」で、ドロップダウン・メニューから、インポートするタスク・リストに関連付けられているサーバーとアプリケーションを選択します。**

7 **「OK」をクリックします。**

   選択したアプリケーションに関連付けられているすべてのタスク・リストが「タスク・リスト」に表示されます。

8 **タスク・リストをダブルクリックすると、タスク・リスト内の個々のタスクが Outlook の仕事リストに表示されます。**

   ここから、Outlook の機能をタスクに適用できます。Outlook でのタスク(仕事)の操作方法の詳細は、Outlook の製品ドキュメントを参照してください。

12 Smart ViewおよびPlanning

この章の内容

Planning の承認 129
Planning のジョブ・ステータスのモニタリング 133
Planning でのページの検索 134
バージョンのコピー 134
複合フォーム 135
Planning ビジネス・ルールの操作 135
期間に対するデータの分散 137
メンバー式 140
サポート詳細 141
Planning のプリファレンスの設定 143
Planning へのネイティブ Excel フォーマットの保存 143
オフライン作業 146

このガイドには、Smart View でサポートされる Planning の機能を使用するための手順情報のみが記載されています。Planning の詳細は、EPM ドキュメント・ライブラリで入手可能な Oracle Hyperion Planning User's Guide を参照してください。このライブラリを開くには、Smart View のリボンから、「ヘルプ」の隣にある矢印、続いて「EPM ドキュメント」をクリックします。

Planning の承認

データ・ソース・タイプ: Planning

Planning の承認は、プランニング・ユニットの送信、確認、承認プロセスです。承認の役割が割り当てられている場合、ここで説明する承認関数を実行できます。役割の詳細は、管理者に問い合せてください。

プランニング・ユニットのステータスの変更

1 つ以上のプランニング・ユニットのステータスを一度に変更できます。

➤ プランニング・ユニットのステータスを表示または変更するには:

1 適切なフォームを開きます。

2 Planning のリボンから、「承認」を選択します。

3 「承認の管理」から、「シナリオ」および「バージョン」を選択します。

4 をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。

5 **オプション**: 表示モード・ボタンで、次のいずれかを選択します:

- 「フラット・ビュー」: プランニング・ユニットをリストとして表示します。
- 「ツリー・ビュー」では、プランニング・ユニットが階層形式で表示されます(管理者のみが使用可能)。

  ツリー・ビューで「**開始**」を選択すると、プランニング・ユニットが開始され、「**除外**」を選択すると、プランニング・ユニットがプロセスから除外されます。
- 「マイ・プランニング・ユニット」では、自分が所有するプランニング・ユニットのみが表示されます。

6 ステータスを変更するプランニング・ユニットまたはユニットを選択します。リストが長すぎてプランニング・ユニットが簡単に検索できない場合は、130 ページの「プランニング・ユニットの検索」の説明に従って、リストを検索したり、リストにフィルタを適用できます。

7 選択したプランニング・ユニットの詳細を表示するには、「プランニング・ユニットの詳細」をクリックします。

「承認ステータス」タブには、プロセスのステータス、所有者、とられたアクション、およびステータスの変更日時の履歴が表示されます。

「注釈」タブには、プランニング・ユニット用に入力されたすべての注釈が表示されます。132 ページの「プランニング・ユニットの注釈」を参照してください。

8 プランニング・ユニットのステータスを変更するには、「ステータスの変更」をクリックします。

注: 親エンティティのステータスを変更すると、子が「第 1 パス」状態時に除外されているかまたはすでに承認されている場合を除いて、親エンティティのすべての子もステータスが変更されます。

9 「承認 - エンティティのステータスの変更」からアクション、およびプランニング・ユニットの次の所有者を選択します。

10 「オプション」:「注釈の入力」の下に注釈を入力します。

11 「「送信」をクリックします。

12 **オプション**: 変更したプランニング・ユニットを検証するには、をクリックします。一度に検証できるのは 1 つのプランニング・ユニットのみです。

プランニング・ユニットの検索

「承認の管理」で、プランニング・ユニットのリストを検索したり、フィルタを適用することで、プランニング・ユニットを簡単に検索できます。フィルタ条件として、自動フィルタ、メンバーの選択、または世代を使用できます。

➤ プランニング・ユニットのリストをフィルタ処理するには:

1 「承認の管理」を開き、129 ページの「プランニング・ユニットのステータスの変更」の説明に従って、シナリオとバージョンを選択します。

2 をクリックして、フィルタ処理を使用可能にします。

フィルタ処理ツールを含むフィルタ・バーが、プランニング・ユニット・リストのすぐ上に表示されます。

3 次の手順のいずれかを使用します:

検索

特定のプランニング・ユニットを検索するには、その名前を「プランニング・ユニット」フィールドに入力し、をクリックします。

自動フィルタ処理

1. フィルタ・バーで、「承認ステータス」、「サブステータス」または「現在の所有者」の列ヘッダーの矢印をクリックします。
2. フィルタ条件となる列の値を選択します。これらの列の複数に自動フィルタを適用できます。

メンバー選択によるフィルタ

1. フィルタ・バーでをクリックし、「メンバー・セレクタ」を選択します。
2. をクリックし、36 ページの「メンバー・セレクタからのメンバーの選択」の説明に従って、プランニング・ユニット・リストのメンバーを選択します。
3. をクリックして、リストをフィルタ処理します。

世代によるフィルタ

1. フィルタ・バーでをクリックし、「世代」を選択します。
2. をクリックし、プランニング・ユニット・リストに表示する 1 つ以上の世代を選択します。
3. をクリックして、リストをフィルタ処理します。
4. 「OK」をクリックします。

4 **オプション:** フィルタを適用する前にフィルタ選択を元に戻すには、をクリックします。

プランニング・ユニットの移動パス

プランニング・ユニットは、次に基づいて個人から個人、および部署から部署へ移動します:

- プランニング・ユニットに割り当てられた所有者と確認者
- 階層内のプランニング・ユニットの場所

➤ プランニング・ユニットの移動パスをグラフィカルな形式で表示するには:

1 Planning のリボンから、「承認」を選択します。

2 「承認の管理」から、「シナリオ」および「バージョン」を選択します。

3 「実行」をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。

4 プランニング・ユニットを選択します。

5 をクリックします。

プランニング・ユニットの注釈

開始したプランニング・ユニットのデータに関するコメントを追加または表示できます。注釈は、シナリオ、バージョンおよびエンティティ・メンバーの組合せなどによって異なります。

➤ プランニング・ユニットの注釈を追加するには:

1 Planning のリボンから、「承認」を選択します。

2 「承認の管理」から、「シナリオ」および「バージョン」を選択します。

3 「実行」をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。

4 注釈を追加するプランニング・ユニットを選択します。リストをフィルタ処理する方法は、130 ページの「プランニング・ユニットの検索」を参照してください。

5 **オプション**: 選択したプランニング・ユニットに対する既存の注釈を表示するには、「プランニング・ユニットの詳細」、「注釈」タブの順にクリックします。

6 をクリックします。

7 「承認 - 注釈の追加」で、タイトルおよび注釈を入力します(1,500 文字以内)。マルチバイト・システムでは、注釈を 750 文字以内することをお薦めします。URL、リンクおよびテキストを入力できます。

8 「送信」をクリックします。

不在時のアシスタント

不在時のアシスタントを設定して、不在中に届いたプランニング・ユニットを再割当てできます。

➤ 不在時のアシスタントを設定するには:

1 Planning のリボンから、「承認」を選択します。

2 「承認の管理」から、「不在時のアシスタント」を選択します。

3 「不在時のアシスタント」から、「現在不在です」を選択します。

4 「アクションの選択」からアクション、および不在中に届くプランニング・ユニットの次の所有者を選択します。

5 **オプション:** 注釈を入力します。

6 「送信」をクリックします。

Planning のジョブ・ステータスのモニタリング

➤ Planning ジョブ・タイプの実行ステータスを表示し、必要に応じて、ジョブ・コンソールで削除します。ジョブの実行ステータスをチェックするには:

1 Planning または Planning アド・ホックのリボンで、「詳細」、「ジョブ・コンソール」の順に選択します。

2 デフォルトで、すべてのジョブが表示されます。ジョブのリストをフィルタするには、「フィルタ条件」から、次のジョブ条件のいずれかを選択します:

- *タイプ*: ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:
  - ビジネス・ルール
  - ルールセット(Calculation Manager)
  - シーケンス(Business Rule)
  - セル詳細のクリア
  - データのコピー
  - データのプッシュ
- *ステータス*: ドロップダウン・メニューから、「処理中」、「完了」、「エラー」のいずれかを選択します。
- ジョブ名
- ユーザー名
- 開始日
- 終了日

3 「実行」をクリックします。ジョブ・コンソールが選択条件に合うジョブを表示します。

4 **オプション:** ジョブ名およびジョブのプラン・タイプを表示するには、ジョブを選択して「詳細の表示」をクリックします。

5 **オプション:**ジョブを削除するには、ジョブを選択して「削除」をクリックします。

Planning でのページの検索

➤ Planning の管理者が 1 つのフォームに対して複数のページ・ディメンションを設定している場合は、必要なデータが含まれるページを、ページのドロップダウン・リストから選択します。Planning でページを検索するには:

1 検索したいページ・ディメンションをクリックして強調表示します。

2 ドロップダウン・メニューから、操作したいデータが含まれるページ名を選択します。

バージョンのコピー

データ・ソース・タイプ: Planning

データを 1 つのボトムアップまたは選択済シナリオのターゲット・バージョンから他のボトムアップまたは同じシナリオ内のターゲット・バージョンへコピーします。たとえば、「ベスト・ケース」バージョンを作成し、そのバージョンの一部またはすべてのデータを「ワースト・ケース」バージョンへコピーし、新規バージョンの開始点をすばやく作成できます。

ボトムアップ・バージョンとターゲット・バージョン間でのコピーは可能ですが、

- ボトムアップ・バージョンにコピーすると、選択したレベル 0 のメンバーのみがコピーされます。
- ターゲット・バージョンにコピーすると、選択したすべてのメンバーがコピーされます。
- 承認済プランニング・ユニット内のデータ保護のため、バージョンのコピーを行っても承認済のプランニング・ユニットにはコピーされません。

注 : データをコピーするには、コピーするデータの基準を指定するときに、シナリオ、勘定科目、エンティティ、期間およびバージョン・ディメンションの少なくとも 1 つのメンバーを選択する必要があります。

➤ バージョンをコピーするには、次の手順に従います。

1 Planning または Planning アド・ホックのリボンから「バージョンのコピー」を選択します。

2 「シナリオ」から、コピーするシナリオを選択します。

3 「コピー元」から、ソース・バージョンを選択します。

4 「コピー先」から、宛先のバージョンを選択します。

5 「実行」をクリックし、選択したソース・バージョンの使用可能なエンティティ(プランニング・ユニット)を表示します。

6 矢印キーを使用して、**「使用可能なエンティティ」**から、エンティティを選択します。「プロセス・ステータス」が、「開始していません」または「第 1 パス」のエンティティをコピーできます。

7 **オプション**: 関連した情報をコピーするには、次のオプションのいずれかを選択します:

- 勘定科目注釈のコピー。選択されたエンティティの注釈のみがコピーされます。ボトムアップ・バージョンにコピーする場合は、レベル 0 のエンティティ(およびその注釈)のみがコピーされます。
- セル・テキストおよびドキュメント・リンクのコピー
- サポート詳細のコピー

8 「データのコピー」をクリックします。

注： 他の Web ページをロードする前に、「バージョンのコピー」の完了メッセージが表示されるのを待ちます。

複合フォーム

データ・ソース・タイプ: Planning

➤ Planning の複合フォームを開くには:

1 複合フォームを含む Planning データ・ソースに接続します。

2 「接続」ツリー・リストから、複合フォーム(で示されています)をダブルクリックします。

複合フォームが新規の Excel ワークブックで開き、各サブフォームが個別のワークシートに表示されます。

Smart View では、Planning マスター複合フォームがサポートされます。

Planning ビジネス・ルールの操作

Planning のフォームおよびアド・ホック・グリッドで、ビジネス・ルールを使用して Essbase のデータを計算できます。ビジネス・ルールの中には情報の入力を促すものがあります。これは実行時プロンプトと呼ばれます。

Excel でのビジネス・ルールの起動

➤ Excel でビジネス・ルールを起動して Essbase のデータを再計算するには:

1 Planning のアド・ホック・グリッドまたはフォーム(単一または複合)を開きます。

2 未保存のすべてのデータを保存します。

ビジネス・ルールを起動すると、未保存のデータは失われます。

3 Planning のリボンから、「計算」、「ビジネス・ルール」の順に選択します。

4 「ビジネス・ルール」の「プランのタイプ」で、使用するルールに関連付けられているプラン・タイプを選択します。

5 そのプラン・タイプについて一覧表示されたルールの中からルールを選択し、「起動」をクリックします。

ビジネス・ルールに実行時プロンプトが含まれている場合、136 ページの「実行時プロンプトへの入力」の手順 2 で説明されている情報を入力します。

計算が正常に処理されると、計算結果が Essbase データベースの値に反映されます。

6 「閉じる」をクリックします。

7 Smart View のリボンから、「リフレッシュ」を選択します。

実行時プロンプトへの入力

起動時に、ビジネス・ルールが変数情報を入力するように指示することができます。いわゆる実行時プロンプトです。ビジネス・ルールのデザイナが実行時プロンプトを設定します。

➤ 実行時プロンプトを入力するには、次の手順に従います。

1 実行プロンプトがあるビジネス・ルールを起動します。

2 実行時プロンプトにより指定された入力タイプを入力または選択します。次の表は入力タイプをまとめたものです:

アイコン	予想される入力タイプ
	1 つのメンバー選択
	複数メンバー選択
	数値(入力するか、セルのドロップダウン・メニューから選択する)
	テキスト値 - 高度な計算スクリプトのみで使用し、グラフィック表示のスクリプトでは使用しません
	データベースからのディメンション - 高度な計算スクリプトのみで使用し、グラフィック表示のスクリプトでは使用しません
	Calculation Manager のビジネス・ルールのみ: デザイナが実行時プロンプトに対して設定した各ディメンションから 1 つのメンバーのみを含むメンバーまたはメンバーの組合せ(たとえば、「売り上げ->実績->1 月」は売り上げ、実績および 1 月のメンバー交差を参照しています)
	Calculation Manager のビジネス・ルールのみ: デザイナが実行時プロンプトに対して設定した各ディメンションから選択可能なメンバーの範囲(IDescendants("Marketing"),FY08 など)

実行時プロンプトが有効であることを確認してください。すべての実行時プロンプト値が有効になるまで、ビジネス・ルールを起動できません。

3 「起動」をクリックします。

計算が正常に処理されると、データベースの値に計算結果が反映されます。

「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行

「フォームの計算」ビジネス・ルールは、小計を計算する各フォーム用に作成されています。「通貨の計算」ビジネス・ルールは、行、列またはページに複数の通貨が含まれるフォーム用に作成され、使用可能な通貨間で値を換算できます。

ビジネス・ルールを起動する順序は、データに影響を与える場合もあるので重要です。「データ・フォームの計算」ビジネス・ルールと「通貨の計算」ビジネス・ルールの両方を起動する場合は、フォームの小計を計算する前に、必ず換算を実行する必要があります。

➤ 「データ・フォームの計算」および「通貨の計算」のビジネス・ルールを Excel で起動するには:

1 フォームを開きます。

ビジネス・ルールを起動すると、スプレッドシートの未保存のデータは失われます。

2 Planning のリボンから、「計算」、「フォームに関する規則」の順に選択します。

フォームに関連付けられたビジネス・ルールが、「ビジネス・ルール」ダイアログ・ボックスに表示されます。

3 次のいずれかまたは両方を実行します:

- 通貨を換算するには、**「通貨の計算」**を選択します。
- 小計を計算するには、**データ・フォームの計算**を選択します。

4 「起動」をクリックします。

計算が正常に処理されると、計算結果が Essbase データベースの値に反映されます。

期間に対するデータの分散

データ・ソース・タイプ: Planning

Excel では、次のようないくつかの方法で値を分散(配分)できます:

- 要約期間の値を基本期間に戻す分散、または要約期間の値を親期間の最初の親または最初の子に戻す分散
- 親子間の既存の配分に基づく比例分散
- 予算管理者により 4-4-5、5-4-4、4-5-4 または「なし」のいずれかに設定されている、カレンダの四半期ごとの週次配布に基づく値の分散
- 特定のセルの値を一時的にロックした状態での、期間に対するデータの分散

注： 複数の通貨が混在するメンバーが含まれる要約期間のデータは分散できません。

- 子セル内の Excel 式は、分散時には無視されます。
- Planning リリース 11.1.2.3.500 以降では、同じ行または列ディメンションで、複数タイプの分散を使用できます。たとえば、FY2013 では式の充てん、FY2014 ではフローが可能です。

➤ 期間に対してデータを分散するには:

1 **フォームを開きます。**

2 **セルを選択し、新しい値を入力します。**

Oracle Hyperion Planning User's Guide のデータの調整と分散に関する項に示されたルールに従い、値が配分されます

3 **「保存」をクリックします。**

特定セルをロックしたデータの分散

期間に対してデータを分散する場合、他の値の再計算時に、1 つ以上のセルを一時的にロックしてそれらのセルの値を保護できます。様々な計算を基に期間上にデータを分散し、変化を確認してからデータベースに確定できます。セルをロックした分散の例は、Oracle Hyperion Planning User's Guide を参照してください。

➤ 値を一時的にロックするには:

1 **フォームを開きます。**

2 **フォームで、ロックするセルまたはセルのグループを選択します。**

3 **Planning のリボンから、「ロック」を選択します。**

色の変化は、セルがロックされたことを示します。これで、ロックされたセルに影響を与えることなく、他のセルのデータを自由に分散または操作できます。

4 **セルのロックを解除するには、グリッドをリフレッシュします。**

グリッド分散を使用した値の分散

管理者が「グリッド分散」を使用可能にしている場合、ターゲット・セルの既存の値に基づいて、グリッド上の複数のディメンションにわたって値を増減する量またはパーセンテージを指定することができます。分散データを計算する場合、読取り専用のセルとロックされたセル、およびサポート詳細の付いたセルは無視されます。アクセスできるセルのみに値を分散することで、データの整合性が保証されます。

➤ グリッド分散を使用した値を分散するには、次の手順に従います。

1 **ターゲット・セルに分散したい小計または合計ソース・セル値にカーソルを置きます。**

2 Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「調整」、「グリッド分散」の順に選択します。

3 ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:

- **値**: 指定した量で値を増減します。
- **パーセンテージ**: パーセンテージで値を増減します。

4 「指定値ずつ増やす」または「指定値ずつ減らす」を選択して値を入力します。

5 「分散値」に実際の分散値を入力します。

たとえば、「現在の値」が 100 で、分散値を 125 にする場合、「分散値」に直接 125 と入力し、手順 4 の「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」オプションまたはテキスト・ボックスでは何もしません。

または、「指定値ずつ増やす」に 25 と入力すると、「分散値」に 125 と表示されます。

注： 「分散値」に値を入力しても、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」テキスト・ボックスには影響はありません。ただし、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」に値を入力すると、「分散値」テキスト・ボックスに分散値が反映されます。

6 分散パターンを選択します。

- **比例分散**: ターゲット・セルの既存値に基づいて、値を比例分散します(デフォルト)。
- **均等分割**: ターゲット・セル間で均等に値を分散します。
- **入力**: すべてのターゲット・セル内の値を置換します。

管理者は他の分散パターンを追加することができます。

7 「分散」をクリックします。指定した値またはパーセンテージがターゲット・セル全体に分散され、前の値を新しい値に置換します。

8 新しい値を保存するには、「保存」をクリックします。

一括割当てを使用した値の分散

一括割当てを使用して、すべてのソース・セルの子孫およびすべてのディメンションでデータを分散できます。一括割当てによる分散は、グリッドに表示されないセルにデータを分散し、ターゲット・セルへのアクセス権を持つ必要はありません。

一括割当てはフォームでのみ可能で、管理者が一括割当てを使用可能にしておく必要があります。一括割当てを使用するには一括割当ての役割でプロビジョニングされる必要があります。

注： 一括割当ては元に戻せません。

➤ 一括割当てを使用して値を分散するには:

1 分散する小計または合計セルにカーソルを置きます。

2 Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「調整」、「一括割当て」に順に選択します。

3 「分散値」に新しい値を入力して現在の値を置き換えるか、ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:

- **値**: 指定した量で値を増減します。
- **パーセンテージ**: パーセンテージで値を増減します。

4 「指定値ずつ増やす」または「指定値ずつ減らす」を選択して値を入力します。

5 「分散値」に実際の分散値を入力します。

たとえば、「現在の値」が 100 で、分散値を 125 にする場合、「分散値」に直接 125 と入力し、手順 4 の「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」オプションまたはテキスト・ボックスでは何もしません。

または、「指定値ずつ増やす」に 25 と入力すると、「分散値」に 125 と表示されます。

注 : 「分散値」に値を入力しても、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」テキスト・ボックスには影響はありません。ただし、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」に値を入力すると、「分散値」テキスト・ボックスに分散値が反映されます。

6 指定した値またはパーセンテージをターゲット・セル全体に分散するには、「分散タイプ」を選択します:

- **比例分散**: ターゲット・セルの既存値に基づいて、値を比例分散します(デフォルト)。
- **均等分割**: ターゲット・セル間で均等に値を分散します。
- **入力**: すべてのターゲット・セル内の値を置換します。
- **リレーショナル分散**: 様々なソースの場所に存在する値に基づいて、選択されたセルに分散します。このオプションを選択すると、「選択済」列に各ディメンションに対して現在選択されているメンバーが表示されます。

管理者は他の分散パターンを追加することができます。

7 「分散」をクリックします。新しい値は自動的に Essbase に保存されます。

メンバー式

➤ 式を含むセル内の式を表示できます。このようなセルは、「オプション」ウィンドウで指定されたセル・スタイルによりグリッドで示すことができます。メンバー式を表示するには:

1 表示する式を含むメンバーを選択します。

2 Planning または Planning アド・ホック・リボンから、「詳細」、「メンバー式」の順に選択します。

式の詳細が表示されます。

サポート詳細

サポート詳細は、メンバー・アウトラインに含まれないデータを作成するための、組込み型の計算機として機能します。データの集約方法を定義するテキスト、値、および演算子を含めることができます。

サポート詳細の追加

「サポート詳細」ウィンドウを使用して、詳細アイテムがフォーム内のセルの値に集約される方法を設定します。

➤ 値を計算するサポート詳細をフォームまたはアド・ホック・グリッド内に追加するには:

1 **フォームを開き、セルを選択します。**

1 つの行また列内で、1 つのセルを選択するかまたは複数のセルを続けて選択できます。このセクションに行または列の組合せを含められません。書き込めるように、現地通貨のセルを選択してください。

2 **Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「セルのアクション」、「サポート詳細」の順に選択します。**

サポート詳細ウィンドウに選択したセルが反映されます。

3 **「タイトルなし」テキストについての説明を入力します。**

テキストとそれに関連する演算子は、同じ親の下にいる子の間で同じものは使用できません。デフォルトでは、最大 1,500 文字入力できます。

4 **ボタンを使用して、インデントされた階層を作成または変更し、目的の構造と計算を反映します。**

たとえば、「子の追加」をクリックして、選択したアイテムの直下にライン・アイテムを追加します。

5 **アイテムごとに演算子を選択して、ライン・アイテム間の演算関係を設定します。**

演算子は、+(加算)、-(減算)、*(乗算)、/(除算)および~(無視)から選択します。

6 **データを入力して設定または計算をします。**

フォームで設定したものと同じ倍率を使用して、数字を入力します。

7 **「保存」をクリックします。**

値は動的に計算され、データを保存する前に集約されます。フォーム上のデータも保存されます。

サポート詳細の階層における作業

サポート詳細の階層は、適切な関係を作成するセルの値と算術演算子をサポートする情報のタイプを反映しています。

➤ サポート詳細の階層を作成または変更するには:

1 **フォームで、サポート詳細のセルを選択します。**

2 Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「サポート詳細」を選択します。

3 データ値の詳細が含まれる階層内でアイテム上にカーソルを置き、次の表のオプションをクリックして行を作成または変更します:

オプション	結果
子の追加	選択されたセルの 1 レベル下にアイテムを追加します。子は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
兄弟の追加	選択されたセルと同じレベルにアイテムを追加します。兄弟は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
削除	選択されたアイテムの除去
すべて削除	すべてのサポート詳細を同時に除去
上位へ移動	選択されたアイテムを 1 つ上のレベルに移動
下位へ移動	選択されたアイテムを 1 つ下のレベルに移動
上へ移動	選択したアイテムをその兄弟の先祖より前に移動します
下へ移動	選択したアイテムをその兄弟の子孫より後に移動します
行の重複	選択アイテムの下に行を追加してテキスト、演算子、値などをコピーします。
入力	行内の現在のセルからその右のセルにデータをコピーします。
リフレッシュ	保管されたデータベースの最新の値を取得し、すでに保存された値を復元し、変更内容を上書きします。

4 「保存」をクリックします。

保存操作により、詳細テキスト、値および集約値が保管されます。

サポート詳細の表示または変更

サポート詳細を含むセルは、「オプション」ダイアログ・ボックスで指定されたセル・スタイルによって、グリッドで示すことができます。

➤ 計算またはサポート・データの表示または変更を行うには:

1 フォームを開き、詳細を表示または追加するセルを選択します。

1 つの行また列内で、1 つのセルを選択するかまたは複数のセルを続けて選択できます。このセクションに行または列の組合せを含められません。書き込めるように、現地通貨のセルを選択してください。

2 Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「サポート詳細」を選択します。

3 選択したセル内のデータを集約するライン・アイテムまたは計算を表示または変更します。

サポート詳細と Essbase の同期

Planning アプリケーションでは、セルのサポート詳細を削除すると、リレーショナル・データベース内の関連する値に影響が及びます。保管されている Essbase の値をどのように処理するかを指定します。値を#Missing に設定するか、サポート詳細を削除する前の状態のまま残しておくことができます。この機能は、サポート詳細をメモ帳や計算機として使用する場合に有用です。

➤ サポート詳細と Essbase を同期するには:

1 **フォームを開きます。**

2 **フォームで、除去するサポート詳細が含まれるセルをクリックします。**

3 **Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「サポート詳細」を選択します。**

4 **「サポート詳細」ウィンドウで、情報を削除して「OK」をクリックします。**

5 **表示されるメッセージでオプションを選択して、 Essbase に保管されている削除済のサポート詳細の集約値をどのように処理するかを指定します:**

- 値を Essbase から削除するには、**「値を#Missing に設定してください」**をクリックします。
- 値をそのまま Essbase に残すには、**「値をそのままにしてください」**をクリックします。

Planning のプリファレンスの設定

➤ Planning アプリケーションのユーザー・プリファレンスを設定するには:

1 **Smart View パネルのツリー・リストでアプリケーションを選択します。**

2 **右クリックして「ユーザー・プリファレンス」を選択します。**

3 **「プリファレンス」で次のオプションを指定します。**

- **アプリケーション設定:** 「電子メール」、「別名」および「ワークフロー」オプション。
- **表示設定:** 「フォーマット」、「ページ」および「その他」オプション。
- **ユーザー変数:** 大きいフォームやグリッドのナビゲートに役立つように Planning で設定される変数。

注： オフライン・モードではプリファレンスを設定できません。

Planning へのネイティブ Excel フォーマットの保存

Smart View を使用すると、ネイティブ Excel フォーマットを、フォームまたはアド・ホック・グリッドの一部として、Planning サーバーに保存できます。保存さ

れたフォーマットは、Planning のブラウザ・インタフェースに適用され、フォームが Excel に表示される際にも適用されます。これは、Smart View の既存のセル・スタイル機能の追加機能です(249 ページの「セルのスタイル」に説明されています)。

このフォーマット・オプションは、Planning のリボンの「フォーマット」グループで使用可能です。

➤ Planning フォームに Excel フォーマットを保存するには:

1 **編集する Planning フォームを Smart View で開きます。**

2 **ネイティブ Excel フォーマット機能を使用して、フォーマットをシートに適用します。**

3 **Planning のリボンで、「フォーマット」グループから「保存」を選択します。**

➤ アド・ホック・グリッドにフォーマットを保存するには:

1 **保存先のグリッドを作成するためにアド・ホック分析を実行します。**

2 **Excel のネイティブ・フォーマット機能を使用して、グリッドをフォーマットします。**

3 **Planning アド・ホックのリボンから、「アド・ホック・グリッドの保存」を選択します。**

4 **「グリッドに名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスで、「フォーマットの送信」オプションを選択します。**

Excel にフォームが表示されたら、次に示す Smart View のオプションを使用して、シートにフォーマットを適用できます。これらのオプションには、「フォーマット」グループの「適用」ボタンからアクセスします。

- 「なし」 - シートにスタイル(Excel フォーマットまたは Smart View のセル・スタイル)は適用されません。シートにセル・スタイルやカスタム・スタイルが存在する場合でも、このオプションを選択するといずれも表示されません。ただし、それらは保存されているため、「セルのスタイル」、「カスタム・スタイル」または「カスタム・スタイルとセルのスタイル」オプションを使用して、後から表示できます。
- 「セルのスタイル」 - 249 ページの「セルのスタイル」で説明されているように、Smart View のセル・スタイルのみがシートに適用されます。
- 「カスタム・スタイル」 - カスタムのユーザー定義ネイティブ Excel フォーマットのみがシートに適用されます。
- 「カスタム・スタイルとセルのスタイル」 - Excel フォーマットと Smart View のセル・スタイルの両方がシートに適用されます。「カスタム・スタイルとセルのスタイル」を選択すると、カスタムの Excel フォーマットより、セルのスタイルが優先されることに注意してください。

➤ フォームまたはアド・ホック・グリッドに関連付けられているフォーマットをクリアするには、Planning のリボンの「フォーマット」グループから「クリア」を選択します。

「クリア」オプションを選択すると、Planning サーバーのフォームやグリッドに関連付けられているすべての Excel フォーマットが削除されます。セル・スタイルは、保存されているカスタム・フォーマットに依存しないため、セル・スタイル機能は使用できます。

サポートされているネイティブ Excel フォーマットのリストは、表 1 を参照してください。

表 1　サポートされているネイティブ Excel フォーマット

フォーマット	Smart View
フォント	**フォント**
フォント・ファミリ	はい
フォント・サイズ	はい
太字	はい
斜体	はい
取消し線	はい
下線	1 本の途切れない実線のみ
テキストの色	はい、RGB
背景色	プレーン、純色、RGB
配置	**配置**
垂直	上、中央、下
水平	左、中央、右
インデント	左側のインデントのみで、レベルは 5 つのみ(PowerPoint の制限)
折返し	はい
枠線	**枠線**
枠線の色	はい、4 辺それぞれを異なる設定にすることが可能、RGB
枠線の幅	はい、ポイント単位
枠線のスタイル	なし、実線、二重線、点線、破線、鎖線、二点鎖線
数値および日付のフォーマット	**数値および日付のフォーマット**
数値のフォーマット	小数点、負数と正数の接尾辞および接頭辞、負数と正数の色(Word と PPT のテキストに適用され、色は 8 色)、パーセンテージ、指数のフォーマット、3 桁ごとの区切り文字の有無
日付フォーマット	長い日付と短い日付、時間、分、秒、AM/PM

フォーマット	Smart View
その他	**その他**
読取り専用	はい(Excel でのみ機能)
列の幅と行の高さ	はい、ポイント単位

グリッドを設計する際は全般的に、カスタムの Excel フォーマットと Smart View のセル・スタイル間に競合が発生しないように注意してください。

一部のアド・ホック分析操作では、保持されない Excel フォーマットがあります。特定の操作を実行した後には、フォーマットを再適用する必要があります。

保存済のアド・ホック・グリッドを開くと、Smart View では、Planning サーバーに保存されたフォーマットの保持が試行されます。さらにアド・ホック操作を実行すると、既存のフォーマット操作が適用されます; たとえば、「Excel フォーマットの使用」やセルのスタイルです。

カスタムの Excel フォーマットをアド・ホック操作に保持するには、「オプション」ダイアログ・ボックスの「フォーマット」ページで、「Excel フォーマットの使用」と「操作時にフォーマットを移動」オプションを選択します。

「操作時にフォーマットを移動」オプションが有効になっている場合、特にアド・ホック操作中に、フォーマットがパフォーマンスに影響します。

Smart View に表示されるグリッドと、Planning でブラウザに表示されるグリッドには違いがあります。保存済のグリッドが Planning に表示される場合、Smart View に表示される際と同じように表示されないフォーマットがあります。Planning のフォーマットは、可能なかぎり Smart View と同じように表示されます。

Planning の管理者が、フォームに特定のフォーマットを定義している場合があります。Planning のエンド・ユーザーは、このフォーマットを上書きしてフォームに保存できます。その後、管理者が Planning でそのフォームに選択したオプションに基づいて、管理者のフォーマットにマージされます。詳細は、Planning のドキュメントを参照してください。

オフライン作業

システムに Planning のオフライン・コンポーネントがインストールおよび構成されている場合は、オフラインでフォームを取得し、基本的に、Planning サーバーに接続されている場合と同じ操作を実行できます。オフラインのフォームに行った変更は、サーバーに同期できます。

フォームのオフライン化

同じ Excel ワークブックにオンラインとオフラインの両方のフォームを含めることができます。

注： 通貨換算はオフラインではサポートされません。

➤ フォームをオフライン化するには:

1 Excel で、オフラインにするフォームを含む Planning データ・ソースに接続します。

2 Planning のリボンから、「詳細」、「オフライン化」の順に選択します。

オフライン化ウィザードが表示されます; オフラインにできるすべてのフォームが一覧に表示されます。

3 「使用可能なフォーム/フォルダ」を展開し、オフラインにするフォルダおよびフォームを選択します。

4 「次」をクリックします。

5 ディメンションをダブルクリックします。選択できるディメンションは 1 つのみです。

複数のフォームを選択した場合、選択したフォームで使用可能なディメンションがマージされて表示されます。

6 「メンバー選択」ページから、メンバーおよびシステム変数を選択します。

メンバー・リレーションシップについて:

表 2 メンバー・リレーションシップ

リレーションシップ	フォームに含まれるメンバー
メンバー	選択したメンバー
子孫	選択したメンバーの下にあるすべてのメンバー
子孫(含む)	選択したメンバーとそのすべての子孫
祖先	選択したメンバーの上にあるすべてのメンバー
祖先(含む)	選択したメンバーとそのすべての祖先
兄弟	選択したメンバーと同じ階層レベルのすべてのメンバー(選択したメンバーは除く)
兄弟(含む)	選択したメンバーとそのすべての兄弟
親	選択したメンバーより上のレベルのメンバー
親(含む)	選択したメンバーとその親
子	選択したメンバーのすぐ下のレベルのメンバー
子(含む)	選択したメンバーとそのすべての子
レベル 0 の子孫	選択したメンバーの子孫のうち子を持たないすべての子孫

注： 複数の異なるフォームでは、子およびページメンバーの選択肢が存在する場合があります。「ページ」ドロップダウン・リストには、各ディメンションのフォームごとに少なくとも 1 つのメンバーが表示されます。

7 「OK」をクリックします。

8 手順 5 から手順 7 を繰り返し、リストの各ディメンションにメンバーまたはシステム変数を選択します。

9 「次」をクリックします。

10 オフライン接続に固有の名前と説明を入力します。

11 「終了」をクリックして、選択したフォームとメンバーをダウンロードします。

12 「OK」、「完了」の順にクリックします。

オフラインでのフォームの操作

➤ フォームをオフラインで操作するには:

1 Excel で、Smart View のリボンから「パネル」を選択します。

2 Smart View パネルから、オフライン接続を選択します。

オンライン接続では、「プロバイダ」列の「プランニング」を指定します。オフライン接続では、「オフライン・プランニング」を指定します。

3 右クリックして「接続」を選択します。

4 右クリックして「フォームを開く」を選択します。

注： Planning サーバーへの直接接続中にフォームを開いていた場合、そのフォームをオフラインで操作するためには、同じセッション中にフォームをオフライン化してから、オフライン接続からそのフォームを再び開く必要があります。

5 オフラインのフォームで、データを追加または変更します。

6 Planning のメニューから、「データの送信」を選択します。

変更したデータがローカルに保存されます。Excel を終了しても、変更したデータは失われません。

Planning サーバーに対するデータの同期

サーバーに同期する際は、オフライン化したフォーム内の、そのセッションの開始以降に変更されたすべてのデータがサーバーに保存されます。すべてのフォームのデータを一度に同期することも、選択したフォームおよびメンバーのデータを同期することもできます。

➤ オフライン化した**すべて**のフォームおよびメンバーについて、変更したデータを Planning サーバーに保存するには:

1 Planning のリボンから、「フォーム」、「サーバーと同期」の順に選択します。

2 Planning サーバーにログインします。

3 「すべて同期」をクリックします。

4 「OK」をクリックします。

➤ オフライン化したフォームおよびメンバーのうち選択したものについて、変更したデータを Planning サーバーに保存するには:

1 Planning のリボンから、「フォーム」、「サーバーと同期」の順に選択します。

2 Planning サーバーにログオンします。

3 「次へ」をクリックします。

4 ディメンションをダブルクリックします。

5 「メンバー選択」ページから、メンバーおよびシステム変数を選択します。

6 「OK」をクリックします。

7 手順 4 から手順 6 を繰り返し、リストの各ディメンションにメンバーまたはシステム変数を選択します。

8 「終了」選択してデータを保存します。

9 「OK」、「完了」の順にクリックします。

ヒント： サーバーに再び接続した後、オフラインで行った作業がデータベースに正しく反映されているかチェックします。フォームをリフレッシュしたときにデータの行または列が消失した場合は、管理者に連絡してください。

オフラインのフォーム定義およびデータのリフレッシュ

オフラインのフォーム定義をリフレッシュするには:

- オンラインのフォームの最新の値で、オフラインのフォームのデータを更新します。
- オフライン・セッション中に使用可能なメンバーまたはフォームを追加または削除します。

➤ オフラインのデータおよびオフラインのフォーム定義を更新するには:

1 Smart View のメニューで、「パネル」を選択します。

2 Smart View パネルから、現在のオフライン・セッションに関連付けられている接続を選択します。

3 Planning のメニューから、「詳細」、「オフライン」の順に選択します。

注： オフライン接続を使用しているのに「オフライン定義のリフレッシュ」オプションを選択できない場合は、Planning の管理者に連絡してください。このオプションは、オンライン接続の使用中は選択できません。

4 オンラインのデータ・ソース用のユーザー名とパスワードを入力します。

Planning サーバーからオフラインのデータをリフレッシュするため、サーバーにログオンする必要があります。

5 次のいずれかの操作を行います:

- オフライン化したすべてのメンバーおよびフォームを、最新のオンラインの値および定義で更新するには、「**すべてリフレッシュ**」をクリックします。「**すべてリフレッシュ**」では、現在のオフラインのフォーム定義が保持されます。手順 10 に進みます。
- 「**次へ**」をクリックして、更新するフォーム、メンバーおよびシステム変数を選択します。この選択により、フォーム定義が変更されます。ユーザーが選択したメンバーおよびフォームのみが、定義の一部として残ります。選択しなかったメンバーおよびフォームは、オフラインで使用できなくなります。手順 6 に進みます。

6 **ディメンションをダブルクリックします。**

7 **「メンバー選択」ページから、メンバーおよびシステム変数を選択します。**

リストには、選択したディメンションのメンバーとシステム変数が表示されます。

「選択したメンバー」リストにメンバーおよびシステム変数を移動するか、このリストからそれらを移動するには、矢印キーを使用します。

8 **「OK」をクリックします。**

9 **手順 6 から手順 8 を繰り返し、リストの各ディメンションにメンバーまたはシステム変数を選択します。**

10 **「終了」をクリックしてリフレッシュを開始します。**

11 **リフレッシュが完了したら、「OK」、「完了」の順にクリックします。**

13 Smart ViewおよびOracle Planning and Budgeting Cloud Service

この章の内容

Planning の承認 151
Planning のジョブ・ステータスのモニタリング 155
Planning でのページの検索 156
バージョンのコピー 156
複合フォーム 157
Planning ビジネス・ルールの操作 157
期間に対するデータの分散 159
メンバー式 162
サポート詳細 163
Planning のプリファレンスの設定 165
Planning へのネイティブ Excel フォーマットの保存 166
オフライン作業 168

このガイドには、Smart View でサポートされる Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service の機能を使用するための手順情報のみが記載されています。Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service の詳細は、Oracle Cloud Documentation ライブラリで入手可能な Oracle Hyperion Planning User's Guide を参照してください。

この章では、Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service の機能について説明します。

Planning の承認

データ・ソース・タイプ: Planning

Planning の承認は、プランニング・ユニットの送信、確認、承認プロセスです。承認の役割が割り当てられている場合、ここで説明する承認関数を実行できます。役割の詳細は、管理者に問い合せてください。

プランニング・ユニットのステータスの変更

1 つ以上のプランニング・ユニットのステータスを一度に変更できます。

➤ プランニング・ユニットのステータスを表示または変更するには:

1 適切なフォームを開きます。

2 Planning のリボンから、「承認」を選択します。

3 「承認の管理」から、「シナリオ」および「バージョン」を選択します。

4 をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。

5 **オプション**: 表示モード・ボタンで、次のいずれかを選択します:

- 「フラット・ビュー」: プランニング・ユニットをリストとして表示します。
- 「ツリー・ビュー」では、プランニング・ユニットが階層形式で表示されます(管理者のみが使用可能)。

  ツリー・ビューで「**開始**」を選択すると、プランニング・ユニットが開始され、「**除外**」を選択すると、プランニング・ユニットがプロセスから除外されます。
- 「マイ・プランニング・ユニット」では、自分が所有するプランニング・ユニットのみが表示されます。

6 ステータスを変更するプランニング・ユニットまたはユニットを選択します。リストが長すぎてプランニング・ユニットが簡単に検索できない場合は、153 ページの「プランニング・ユニットの検索」の説明に従って、リストを検索したり、リストにフィルタを適用できます。

7 選択したプランニング・ユニットの詳細を表示するには、「プランニング・ユニットの詳細」をクリックします。

「承認ステータス」タブには、プロセスのステータス、所有者、とられたアクション、およびステータスの変更日時の履歴が表示されます。

「注釈」タブには、プランニング・ユニット用に入力されたすべての注釈が表示されます。154 ページの「プランニング・ユニットの注釈」を参照してください。

8 プランニング・ユニットのステータスを変更するには、「ステータスの変更」をクリックします。

注: 親エンティティのステータスを変更すると、子が「第 1 パス」状態時に除外されているかまたはすでに承認されている場合を除いて、親エンティティのすべての子もステータスが変更されます。

9 「承認 - エンティティのステータスの変更」からアクション、およびプランニング・ユニットの次の所有者を選択します。

10 「オプション」:「注釈の入力」の下に注釈を入力します。

11 「「送信」をクリックします。

12 **オプション**: 変更したプランニング・ユニットを検証するには、をクリックします。一度に検証できるのは 1 つのプランニング・ユニットのみです。

プランニング・ユニットの検索

「承認の管理」で、プランニング・ユニットのリストを検索したり、フィルタを適用することで、プランニング・ユニットを簡単に検索できます。フィルタ条件として、自動フィルタ、メンバーの選択、または世代を使用できます。

➤ プランニング・ユニットのリストをフィルタ処理するには:

1 「承認の管理」を開き、151 ページの「プランニング・ユニットのステータスの変更」の説明に従って、シナリオとバージョンを選択します。

2 をクリックして、フィルタ処理を使用可能にします。

フィルタ処理ツールを含むフィルタ・バーが、プランニング・ユニット・リストのすぐ上に表示されます。

3 次の手順のいずれかを使用します:

検索

特定のプランニング・ユニットを検索するには、その名前を「プランニング・ユニット」フィールドに入力し、をクリックします。

自動フィルタ処理

1. フィルタ・バーで、「承認ステータス」、「サブステータス」または「現在の所有者」の列ヘッダーの矢印をクリックします。
2. フィルタ条件となる列の値を選択します。これらの列の複数に自動フィルタを適用できます。

メンバー選択によるフィルタ

1. フィルタ・バーでをクリックし、「メンバー・セレクタ」を選択します。
2. をクリックし、36 ページの「メンバー・セレクタからのメンバーの選択」の説明に従って、プランニング・ユニット・リストのメンバーを選択します。
3. をクリックして、リストをフィルタ処理します。

世代によるフィルタ

1. フィルタ・バーでをクリックし、「世代」を選択します。
2. をクリックし、プランニング・ユニット・リストに表示する 1 つ以上の世代を選択します。
3. をクリックして、リストをフィルタ処理します。
4. 「OK」をクリックします。

4 **オプション:** フィルタを適用する前にフィルタ選択を元に戻すには、をクリックします。

プランニング・ユニットの移動パス

プランニング・ユニットは、次に基づいて個人から個人、および部署から部署へ移動します:

- プランニング・ユニットに割り当てられた所有者と確認者
- 階層内のプランニング・ユニットの場所

➤ プランニング・ユニットの移動パスをグラフィカルな形式で表示するには:

1 Planning のリボンから、「承認」を選択します。

2 「承認の管理」から、「シナリオ」および「バージョン」を選択します。

3 「実行」をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。

4 プランニング・ユニットを選択します。

5 をクリックします。

プランニング・ユニットの注釈

開始したプランニング・ユニットのデータに関するコメントを追加または表示できます。注釈は、シナリオ、バージョンおよびエンティティ・メンバーの組合せなどによって異なります。

➤ プランニング・ユニットの注釈を追加するには:

1 Planning のリボンから、「承認」を選択します。

2 「承認の管理」から、「シナリオ」および「バージョン」を選択します。

3 「実行」をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。

4 注釈を追加するプランニング・ユニットを選択します。リストをフィルタ処理する方法は、153 ページの「プランニング・ユニットの検索」を参照してください。

5 **オプション**: 選択したプランニング・ユニットに対する既存の注釈を表示するには、「プランニング・ユニットの詳細」、「注釈」タブの順にクリックします。

6 をクリックします。

7 「承認 - 注釈の追加」で、タイトルおよび注釈を入力します(1,500 文字以内)。マルチバイト・システムでは、注釈を 750 文字以内することをお薦めします。URL、リンクおよびテキストを入力できます。

8 「送信」をクリックします。

不在時のアシスタント

不在時のアシスタントを設定して、不在中に届いたプランニング・ユニットを再割当てできます。

➤ 不在時のアシスタントを設定するには:

1 Planning のリボンから、「承認」を選択します。

2 「承認の管理」から、「不在時のアシスタント」を選択します。

3 「不在時のアシスタント」から、「現在不在です」を選択します。

4 「アクションの選択」からアクション、および不在中に届くプランニング・ユニットの次の所有者を選択します。

5 **オプション:** 注釈を入力します。

6 「送信」をクリックします。

Planning のジョブ・ステータスのモニタリング

➤ Planning ジョブ・タイプの実行ステータスを表示し、必要に応じて、ジョブ・コンソールで削除します。ジョブの実行ステータスをチェックするには:

1 Planning または Planning アド・ホックのリボンで、「詳細」、「ジョブ・コンソール」の順に選択します。

2 デフォルトで、すべてのジョブが表示されます。ジョブのリストをフィルタするには、「フィルタ条件」から、次のジョブ条件のいずれかを選択します:

- *タイプ*: ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:
  - ビジネス・ルール
  - ルールセット(Calculation Manager)
  - シーケンス(Business Rule)
  - セル詳細のクリア
  - データのコピー
  - データのプッシュ
- *ステータス*: ドロップダウン・メニューから、「処理中」、「完了」、「エラー」のいずれかを選択します。
- ジョブ名
- ユーザー名
- 開始日
- 終了日

3 「実行」をクリックします。ジョブ・コンソールが選択条件に合うジョブを表示します。

4 **オプション:** ジョブ名およびジョブのプラン・タイプを表示するには、ジョブを選択して「詳細の表示」をクリックします。

5 **オプション:**ジョブを削除するには、ジョブを選択して「削除」をクリックします。

Planning でのページの検索

➤ Planning の管理者が 1 つのフォームに対して複数のページ・ディメンションを設定している場合は、必要なデータが含まれるページを、ページのドロップダウン・リストから選択します。Planning でページを検索するには:

1 **検索したいページ・ディメンションをクリックして強調表示します。**

2 **ドロップダウン・メニューから、操作したいデータが含まれるページ名を選択します。**

バージョンのコピー

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

データを 1 つのボトムアップまたは選択済シナリオのターゲット・バージョンから他のボトムアップまたは同じシナリオ内のターゲット・バージョンへコピーします。たとえば、「ベスト・ケース」バージョンを作成し、そのバージョンの一部またはすべてのデータを「ワースト・ケース」バージョンへコピーし、新規バージョンの開始点をすばやく作成できます。

ボトムアップ・バージョンとターゲット・バージョン間でのコピーは可能ですが、

- ボトムアップ・バージョンにコピーすると、選択したレベル 0 のメンバーのみがコピーされます。
- ターゲット・バージョンにコピーすると、選択したすべてのメンバーがコピーされます。
- 承認済プランニング・ユニット内のデータ保護のため、バージョンのコピーを行っても承認済のプランニング・ユニットにはコピーされません。

注 : データをコピーするには、コピーするデータの基準を指定するときに、シナリオ、勘定科目、エンティティ、期間およびバージョン・ディメンションの少なくとも 1 つのメンバーを選択する必要があります。

➤ バージョンをコピーするには、次の手順に従います。

1 **Planning または Planning アド・ホックのリボンから「バージョンのコピー」を選択します。**

2 **「シナリオ」から、コピーするシナリオを選択します。**

3 **「コピー元」から、ソース・バージョンを選択します。**

4 **「コピー先」から、宛先のバージョンを選択します。**

5 **「実行」をクリックし、選択したソース・バージョンの使用可能なエンティティ(プランニング・ユニット)を表示します。**

6 **矢印キーを使用して、「使用可能なエンティティ」から、エンティティを選択します。「プロセス・ステータス」が、「開始していません」または「第 1 パス」のエンティティをコピーできます。**

7 **オプション**: 関連した情報をコピーするには、次のオプションのいずれかを選択します:

- 勘定科目注釈のコピー。選択されたエンティティの注釈のみがコピーされます。ボトムアップ・バージョンにコピーする場合は、レベル 0 のエンティティ(およびその注釈)のみがコピーされます。
- セル・テキストおよびドキュメント・リンクのコピー
- サポート詳細のコピー

8 「データのコピー」をクリックします。

注： 他の Web ページをロードする前に、「バージョンのコピー」の完了メッセージが表示されるのを待ちます。

複合フォーム

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

➤ Planning の複合フォームを開くには:

1 複合フォームを含む Planning データ・ソースに接続します。

2 「接続」ツリー・リストから、複合フォーム(で示されています)をダブルクリックします。

複合フォームが新規の Excel ワークブックで開き、各サブフォームが個別のワークシートに表示されます。

Smart View では、Planning マスター複合フォームがサポートされます。

Planning ビジネス・ルールの操作

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

Planning のフォームおよびアド・ホック・グリッドで、ビジネス・ルールを使用して Essbase のデータを計算できます。ビジネス・ルールの中には情報の入力を促すものがあります。これは実行時プロンプトと呼ばれます。

Excel でのビジネス・ルールの起動

➤ Excel でビジネス・ルールを起動して Essbase のデータを再計算するには:

1 Planning のアド・ホック・グリッドまたはフォーム(単一または複合)を開きます。

2 未保存のすべてのデータを保存します。

ビジネス・ルールを起動すると、未保存のデータは失われます。

3 Planning のリボンから、「計算」、「ビジネス・ルール」の順に選択します。

4 「ビジネス・ルール」の「プランのタイプ」で、使用するルールに関連付けられているプラン・タイプを選択します。

5 そのプラン・タイプについて一覧表示されたルールの中からルールを選択し、「起動」をクリックします。

ビジネス・ルールに実行時プロンプトが含まれている場合、手順 2 の158 ページの「実行時プロンプトへの入力」で説明されている情報を入力します。

計算が正常に処理されると、計算結果が Essbase データベースの値に反映されます。

6 「閉じる」をクリックします。

7 Smart View のリボンから、「リフレッシュ」を選択します。

実行時プロンプトへの入力

起動時に、ビジネス・ルールが変数情報を入力するように指示することができます。いわゆる実行時プロンプトです。ビジネス・ルールのデザイナが実行時プロンプトを設定します。

➤ 実行時プロンプトを入力するには、次の手順に従います。

1 実行プロンプトがあるビジネス・ルールを起動します。

2 実行時プロンプトにより指定された入力タイプを入力または選択します。次の表は入力タイプをまとめたものです:

アイコン	予想される入力タイプ
	1 つのメンバー選択
	複数メンバー選択
	数値(入力するか、セルのドロップダウン・メニューから選択する)
	テキスト値 - 高度な計算スクリプトのみで使用し、グラフィック表示のスクリプトでは使用しません
	データベースからのディメンション - 高度な計算スクリプトのみで使用し、グラフィック表示のスクリプトでは使用しません
	Calculation Manager のビジネス・ルールのみ: デザイナが実行時プロンプトに対して設定した各ディメンションから 1 つのメンバーのみを含むメンバーまたはメンバーの組合せ(たとえば、「売上->実績->1 月」は売り上げ、実績および 1 月のメンバー交差を参照しています)
	Calculation Manager のビジネス・ルールのみ: デザイナが実行時プロンプトに対して設定した各ディメンションから選択可能なメンバーの範囲(IDescendants("Marketing"),FY08 など)

実行時プロンプトが有効であることを確認してください。すべての実行時プロンプト値が有効になるまで、ビジネス・ルールを起動できません。

3 **「起動」をクリックします。**

計算が正常に処理されると、データベースの値に計算結果が反映されます。

「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行

「フォームの計算」ビジネス・ルールは、小計を計算する各フォーム用に作成されています。「通貨の計算」ビジネス・ルールは、行、列またはページに複数の通貨が含まれるフォーム用に作成され、使用可能な通貨間で値を換算できます。

ビジネス・ルールを起動する順序は、データに影響を与える場合もあるので重要です。「データ・フォームの計算」ビジネス・ルールと「通貨の計算」ビジネス・ルールの両方を起動する場合は、フォームの小計を計算する前に、必ず換算を実行する必要があります。

➤ 「データ・フォームの計算」および「通貨の計算」のビジネス・ルールを Excel で起動するには:

1 **フォームを開きます。**

ビジネス・ルールを起動すると、スプレッドシートの未保存のデータは失われます。

2 **Planning のリボンから、「計算」、「フォームに関する規則」の順に選択します。**

フォームに関連付けられたビジネス・ルールが、「ビジネス・ルール」ダイアログ・ボックスに表示されます。

3 **次のいずれかまたは両方を実行します:**

- 通貨を換算するには、**「通貨の計算」**を選択します。
- 小計を計算するには、**データ・フォームの計算**を選択します。

4 **「起動」をクリックします。**

計算が正常に処理されると、計算結果が Essbase データベースの値に反映されます。

期間に対するデータの分散

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

Excel では、次のようないくつかの方法で値を分散(配分)できます:

- 要約期間の値を基本期間に戻す分散、または要約期間の値を親期間の最初の親または最初の子に戻す分散
- 親子間の既存の配分に基づく比例分散
- 予算管理者により 4-4-5、5-4-4、4-5-4 または「なし」のいずれかに設定されている、カレンダの四半期ごとの週次配布に基づく値の分散
- 特定のセルの値を一時的にロックした状態での、期間に対するデータの分散

注： 複数の通貨が混在するメンバーが含まれる要約期間のデータは分散できません。

- 子セル内の Excel 式は、分散時には無視されます。
- Planning リリース 11.1.2.3.500 以降では、同じ行または列ディメンションで、複数タイプの分散を使用できます。たとえば、FY2013 では式の充てん、FY2014 ではフローが可能です。

➤ 期間に対してデータを分散するには:

1 **フォームを開きます。**

2 **セルを選択し、新しい値を入力します。**

Oracle Hyperion Planning User's Guide のデータの調整と分散に関する項に示されたルールに従い、値が配分されます

3 **「保存」をクリックします。**

特定セルをロックしたデータの分散

期間に対してデータを分散する場合、他の値の再計算時に、1 つ以上のセルを一時的にロックしてそれらのセルの値を保護できます。様々な計算を基に期間上にデータを分散し、変化を確認してからデータベースに確定できます。セルをロックした分散の例は、Oracle Hyperion Planning User's Guide を参照してください。

➤ 値を一時的にロックするには:

1 **フォームを開きます。**

2 **フォームで、ロックするセルまたはセルのグループを選択します。**

3 **Planning のリボンから、「ロック」を選択します。**

色の変化は、セルがロックされたことを示します。これで、ロックされたセルに影響を与えることなく、他のセルのデータを自由に分散または操作できます。

4 **セルのロックを解除するには、グリッドをリフレッシュします。**

グリッド分散を使用した値の分散

管理者が「グリッド分散」を使用可能にしている場合、ターゲット・セルの既存の値に基づいて、グリッド上の複数のディメンションにわたって値を増減する量またはパーセンテージを指定することができます。分散データを計算する場合、読取り専用のセルとロックされたセル、およびサポート詳細の付いたセルは無視されます。アクセスできるセルのみに値を分散することで、データの整合性が保証されます。

➤ グリッド分散を使用した値を分散するには、次の手順に従います。

1 **ターゲット・セルに分散したい小計または合計ソース・セル値にカーソルを置きます。**

2 Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「調整」、「グリッド分散」の順に選択します。

3 ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:

- **値**: 指定した量で値を増減します。
- **パーセンテージ**: パーセンテージで値を増減します。

4 「指定値ずつ増やす」または「指定値ずつ減らす」を選択して値を入力します。

5 「分散値」に実際の分散値を入力します。

たとえば、「現在の値」が 100 で、分散値を 125 にする場合、「分散値」に直接 125 と入力し、手順 4 の「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」オプションまたはテキスト・ボックスでは何もしません。

または、「指定値ずつ増やす」に 25 と入力すると、「分散値」に 125 と表示されます。

注： 「分散値」に値を入力しても、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」テキスト・ボックスには影響はありません。ただし、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」に値を入力すると、「分散値」テキスト・ボックスに分散値が反映されます。

6 分散パターンを選択します。

- **比例分散**: ターゲット・セルの既存値に基づいて、値を比例分散します(デフォルト)。
- **均等分割**: ターゲット・セル間で均等に値を分散します。
- **入力**: すべてのターゲット・セル内の値を置換します。

管理者は他の分散パターンを追加することができます。

7 「分散」をクリックします。指定した値またはパーセンテージがターゲット・セル全体に分散され、前の値を新しい値に置換します。

8 新しい値を保存するには、「保存」をクリックします。

一括割当てを使用した値の分散

一括割当てを使用して、すべてのソース・セルの子孫およびすべてのディメンションでデータを分散できます。一括割当てによる分散は、グリッドに表示されないセルにデータを分散し、ターゲット・セルへのアクセス権を持つ必要はありません。

一括割当てはフォームでのみ可能で、管理者が一括割当てを使用可能にしておく必要があります。一括割当てを使用するには一括割当ての役割でプロビジョニングされる必要があります。

注： 一括割当ては元に戻せません。

➤ 一括割当てを使用して値を分散するには:

1 分散する小計または合計セルにカーソルを置きます。

2 Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「調整」、「一括割当て」に順に選択します。

3 「分散値」に新しい値を入力して現在の値を置き換えるか、ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:

- **値**: 指定した量で値を増減します。
- **パーセンテージ**: パーセンテージで値を増減します。

4 「指定値ずつ増やす」または「指定値ずつ減らす」を選択して値を入力します。

5 「分散値」に実際の分散値を入力します。

たとえば、「現在の値」が 100 で、分散値を 125 にする場合、「分散値」に直接 125 と入力し、手順 4 の「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」オプションまたはテキスト・ボックスでは何もしません。

または、「指定値ずつ増やす」に 25 と入力すると、「分散値」に 125 と表示されます。

注： 「分散値」に値を入力しても、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」テキスト・ボックスには影響はありません。ただし、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」に値を入力すると、「分散値」テキスト・ボックスに分散値が反映されます。

6 指定した値またはパーセンテージをターゲット・セル全体に分散するには、「分散タイプ」を選択します:

- **比例分散**: ターゲット・セルの既存値に基づいて、値を比例分散します(デフォルト)。
- **均等分割**: ターゲット・セル間で均等に値を分散します。
- **入力**: すべてのターゲット・セル内の値を置換します。
- **リレーショナル分散**: 様々なソースの場所に存在する値に基づいて、選択されたセルに分散します。このオプションを選択すると、「選択済」列に各ディメンションに対して現在選択されているメンバーが表示されます。

管理者は他の分散パターンを追加することができます。

7 「分散」をクリックします。新しい値は自動的に保存されます。

メンバー式

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

➤ 式を含むセル内の式を表示できます。このようなセルは、「オプション」ウィンドウで指定されたセル・スタイルによりグリッドで示すことができます。メンバー式を表示するには:

1 表示する式を含むメンバーを選択します。

2 Planning または Planning アド・ホック・リボンから、「詳細」、「メンバー式」の順に選択します。

式の詳細が表示されます。

サポート詳細

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

サポート詳細は、メンバー・アウトラインに含まれないデータを作成するための、組込み型の計算機として機能します。データの集約方法を定義するテキスト、値、および演算子を含めることができます。

サポート詳細の追加

「サポート詳細」ウィンドウを使用して、詳細アイテムがフォーム内のセルの値に集約される方法を設定します。

➤ 値を計算するサポート詳細をフォームまたはアド・ホック・グリッド内に追加するには:

1 **フォームを開き、セルを選択します。**

   1 つの行また列内で、1 つのセルを選択するかまたは複数のセルを続けて選択できます。このセクションに行または列の組合せを含められません。書き込めるように、現地通貨のセルを選択してください。

2 **Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「セルのアクション」、「サポート詳細」の順に選択します。**

   サポート詳細ウィンドウに選択したセルが反映されます。

3 **「タイトルなし」テキストについての説明を入力します。**

   テキストとそれに関連する演算子は、同じ親の下にいる子の間で同じものは使用できません。デフォルトでは、最大 1,500 文字入力できます。

4 **ボタンを使用して、インデントされた階層を作成または変更し、目的の構造と計算を反映します。**

   たとえば、「子の追加」をクリックして、選択したアイテムの直下にライン・アイテムを追加します。

5 **アイテムごとに演算子を選択して、ライン・アイテム間の演算関係を設定します。**

   演算子は、+(加算)、-(減算)、*(乗算)、/(除算)および~(無視)から選択します。

6 **データを入力して設定または計算をします。**

   フォームで設定したものと同じ倍率を使用して、数字を入力します。

7 **「保存」をクリックします。**

   値は動的に計算され、データを保存する前に集約されます。フォーム上のデータも保存されます。

サポート詳細の階層における作業

サポート詳細の階層は、適切な関係を作成するセルの値と算術演算子をサポートする情報のタイプを反映しています。

➤ サポート詳細の階層を作成または変更するには:

1 フォームで、サポート詳細のセルを選択します。

2 Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「サポート詳細」を選択します。

3 データ値の詳細が含まれる階層内でアイテム上にカーソルを置き、次の表のオプションをクリックして行を作成または変更します:

オプション	結果
子の追加	選択されたセルの 1 レベル下にアイテムを追加します。子は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
兄弟の追加	選択されたセルと同じレベルにアイテムを追加します。兄弟は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
削除	選択されたアイテムの除去
すべて削除	すべてのサポート詳細を同時に除去
上位へ移動	選択されたアイテムを 1 つ上のレベルに移動
下位へ移動	選択されたアイテムを 1 つ下のレベルに移動
上へ移動	選択したアイテムをその兄弟の先祖より前に移動します
下へ移動	選択したアイテムをその兄弟の子孫より後に移動します
行の重複	選択アイテムの下に行を追加してテキスト、演算子、値などをコピーします。
入力	行内の現在のセルからその右のセルにデータをコピーします。
リフレッシュ	保管されたデータベースの最新の値を取得し、すでに保存された値を復元し、変更内容を上書きします。

4 「保存」をクリックします。

保存操作により、詳細テキスト、値および集約値が保管されます。

サポート詳細の表示または変更

サポート詳細を含むセルは、「オプション」ダイアログ・ボックスで指定されたセル・スタイルによって、グリッドで示すことができます。

➤ 計算またはサポート・データの表示または変更を行うには:

1 フォームを開き、詳細を表示または追加するセルを選択します。

1 つの行また列内で、1 つのセルを選択するかまたは複数のセルを続けて選択できます。このセクションに行または列の組合せを含められません。書き込めるように、現地通貨のセルを選択してください。

2 Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「サポート詳細」を選択します。

3 選択したセル内のデータを集約するライン・アイテムまたは計算を表示または変更します。

サポート詳細と Essbase の同期

Planning アプリケーションでは、セルのサポート詳細を削除すると、リレーショナル・データベース内の関連する値に影響が及びます。保管されている Essbase の値をどのように処理するかを指定します。値を#Missing に設定するか、サポート詳細を削除する前の状態のまま残しておくことができます。この機能は、サポート詳細をメモ帳や計算機として使用する場合に有用です。

➤ サポート詳細と Essbase を同期するには:

1 **フォームを開きます。**

2 **フォームで、除去するサポート詳細が含まれるセルをクリックします。**

3 **Planning または Planning アド・ホックのリボンから、「サポート詳細」を選択します。**

4 **「サポート詳細」ウィンドウで、情報を削除して「OK」をクリックします。**

5 **表示されるメッセージでオプションを選択して、 Essbase に保管されている削除済のサポート詳細の集約値をどのように処理するかを指定します:**

- 値を Essbase から削除するには、**「値を#Missing に設定してください」**をクリックします。
- 値をそのまま Essbase に残すには、**「値をそのままにしてください」**をクリックします。

Planning のプリファレンスの設定

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

➤ Planning アプリケーションのユーザー・プリファレンスを設定するには:

1 **Smart View パネルのツリー・リストでアプリケーションを選択します。**

2 **右クリックして「ユーザー・プリファレンス」を選択します。**

3 **「プリファレンス」で次のオプションを指定します。**

- **アプリケーション設定:** 「電子メール」、「別名」および「ワークフロー」オプション。
- **表示設定:** 「フォーマット」、「ページ」および「その他」オプション。
- **ユーザー変数:** 大きいフォームやグリッドのナビゲートに役立つように Planning で設定される変数。

注 : オフライン・モードではプリファレンスを設定できません。

Planning へのネイティブ Excel フォーマットの保存

Smart View を使用すると、ネイティブ Excel フォーマットを、フォームまたはアド・ホック・グリッドの一部として、Planning サーバーに保存できます。保存されたフォーマットは、Planning のブラウザ・インタフェースに適用され、フォームが Excel に表示される際にも適用されます。これは、Smart View の既存のセル・スタイル機能の追加機能です

249 ページの「セルのスタイル」を参照してください。

このフォーマット・オプションは、Planning のリボンの「フォーマット」グループで使用可能です。

➤ Planning フォームに Excel フォーマットを保存するには:

1 **編集する Planning フォームを Smart View で開きます。**

2 **ネイティブ Excel フォーマット機能を使用して、フォーマットをシートに適用します。**

3 **Planning のリボンで、「フォーマット」グループから「保存」を選択します。**

➤ アド・ホック・グリッドにフォーマットを保存するには:

1 **保存先のグリッドを作成するためにアド・ホック分析を実行します。**

2 **Excel のネイティブ・フォーマット機能を使用して、グリッドをフォーマットします。**

3 **Planning アド・ホックのリボンから、「アド・ホック・グリッドの保存」を選択します。**

4 **「グリッドに名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスで、「フォーマットの送信」オプションを選択します。**

Excel にフォームが表示されたら、次に示す Smart View のオプションを使用して、シートにフォーマットを適用できます。これらのオプションには、「フォーマット」グループの「適用」ボタンからアクセスします。

- 「なし」 - シートにスタイル(Excel フォーマットまたは Smart View のセル・スタイル)は適用されません。シートにセル・スタイルやカスタム・スタイルが存在する場合でも、このオプションを選択するといずれも表示されません。ただし、それらは保存されているため、「セルのスタイル」、「カスタム・スタイル」または「カスタム・スタイルとセルのスタイル」オプションを使用して、後から表示できます。
- 「セルのスタイル」 - 「セルのスタイル」のトピックで説明されているように、Smart View のセル・スタイルのみがシートに適用されます。
- 「カスタム・スタイル」 - カスタムのユーザー定義ネイティブ Excel フォーマットのみがシートに適用されます。
- 「カスタム・スタイルとセルのスタイル」 - Excel フォーマットと Smart View のセル・スタイルの両方がシートに適用されます。「カスタム・スタイルとセル

のスタイル」を選択すると、カスタムの Excel フォーマットより、セルのスタイルが優先されることに注意してください。

➤ フォームまたはアド・ホック・グリッドに関連付けられているフォーマットをクリアするには、Planning のリボンの「フォーマット」グループから「クリア」を選択します。

「クリア」オプションを選択すると、Planning サーバーのフォームやグリッドに関連付けられているすべての Excel フォーマットが削除されます。セル・スタイルは、保存されているカスタム・フォーマットに依存しないため、セル・スタイル機能は使用できます。

サポートされているネイティブ Excel フォーマットのリストは、を参照してください。

表 3　サポートされているネイティブ Excel フォーマット

フォーマット	Smart View
フォント	**フォント**
フォント・ファミリ	はい
フォント・サイズ	はい
太字	はい
斜体	はい
取消し線	はい
下線	1 本の途切れない実線のみ
テキストの色	はい(RGB)
背景色	プレーン、純色、RGB
配置	**配置**
垂直	上、中央、下
水平	左、中央、右
インデント	左側のインデントのみで、レベルは 5 つのみ(PowerPoint の制限)
折返し	はい
枠線	**枠線**
枠線の色	はい、4 辺それぞれを異なる設定にすることが可能、RGB
枠線の幅	はい、ポイント単位
枠線のスタイル	なし、実線、二重線、点線、破線、鎖線、二点鎖線
数値および日付のフォーマット	**数値および日付のフォーマット**

フォーマット	Smart View
数値のフォーマット	小数点、負数と正数の接尾辞および接頭辞、負数と正数の色(Word と PPT のテキストに適用され、色は 8 色)、パーセンテージ、指数のフォーマット、3 桁ごとの区切り文字の有無
日付フォーマット	長い日付と短い日付、時間、分、秒、AM/PM
その他	**その他**
読取り専用	はい(Excel でのみ機能)
列の幅と行の高さ	はい、ポイント単位

グリッドを設計する際は全般的に、カスタムの Excel フォーマットと Smart View のセル・スタイル間に競合が発生しないように注意してください。

一部のアド・ホック分析操作では、保持されない Excel フォーマットがあります。特定の操作を実行した後には、フォーマットを再適用する必要があります。

保存済のアド・ホック・グリッドを開くと、Smart View では、Planning サーバーに保存されたフォーマットの保持が試行されます。さらにアド・ホック操作を実行すると、既存のフォーマット操作が適用されます; たとえば、「Excel フォーマットの使用」やセルのスタイルです。

カスタムの Excel フォーマットをアド・ホック操作に保持するには、「オプション」ダイアログ・ボックスの「フォーマット」ページで、「Excel フォーマットの使用」と「操作時にフォーマットを移動」オプションを選択します。

「操作時にフォーマットを移動」オプションが有効になっている場合、特にアド・ホック操作中に、フォーマットがパフォーマンスに影響します。

Smart View に表示されるグリッドと、Planning でブラウザに表示されるグリッドには違いがあります。保存済のグリッドが Planning に表示される場合、Smart View に表示される際と同じように表示されないフォーマットがあります。Planning のフォーマットは、可能なかぎり Smart View と同じように表示されます。

Planning の管理者が、フォームに特定のフォーマットを定義している場合があります。Planning のエンド・ユーザーは、このフォーマットを上書きしてフォームに保存できます。その後、管理者が Planning でそのフォームに選択したオプションに基づいて、管理者のフォーマットにマージされます。詳細は、Planning のドキュメントを参照してください。

オフライン作業

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

システムに Planning のオフライン・コンポーネントがインストールおよび構成されている場合は、オフラインでフォームを取得し、基本的に、Planning サーバーに接続されている場合と同じ操作を実行できます。オフラインのフォームに行った変更は、サーバーに同期できます。

フォームのオフライン化

同じ Excel ワークブックにオンラインとオフラインの両方のフォームを含めることができます。

注： 通貨換算はオフラインではサポートされません。

➤ フォームをオフライン化するには:

1 **Excel で、オフラインにするフォームを含む Planning データ・ソースに接続します。**

2 **Planning のリボンから、「詳細」、「オフライン化」の順に選択します。**

オフライン化ウィザードが表示されます; オフラインにできるすべてのフォームが一覧に表示されます。

3 **「使用可能なフォーム/フォルダ」を展開し、オフラインにするフォルダおよびフォームを選択します。**

4 **「次」をクリックします。**

5 **ディメンションをダブルクリックします。選択できるディメンションは 1 つのみです。**

複数のフォームを選択した場合、選択したフォームで使用可能なディメンションがマージされて表示されます。

6 **「メンバー選択」ページから、メンバーおよびシステム変数を選択します。**

メンバー・リレーションシップについて:

表 4 メンバー・リレーションシップ

リレーションシップ	フォームに含まれるメンバー
メンバー	選択したメンバー
子孫	選択したメンバーの下にあるすべてのメンバー
子孫(含む)	選択したメンバーとそのすべての子孫
祖先	選択したメンバーの上にあるすべてのメンバー
祖先(含む)	選択したメンバーとそのすべての祖先
兄弟	選択したメンバーと同じ階層レベルのすべてのメンバー(選択したメンバーは除く)
兄弟(含む)	選択したメンバーとそのすべての兄弟
親	選択したメンバーより上のレベルのメンバー
親(含む)	選択したメンバーとその親
子	選択したメンバーのすぐ下のレベルのメンバー
子(含む)	選択したメンバーとそのすべての子
レベル 0 の子孫	選択したメンバーの子孫のうち子を持たないすべての子孫

注： 複数の異なるフォームでは、子およびページメンバーの選択肢が存在する場合があります。「ページ」ドロップダウン・リストには、各ディメンションのフォームごとに少なくとも 1 つのメンバーが表示されます。

7 「OK」をクリックします。

8 手順 5 から手順 7 を繰り返し、リストの各ディメンションにメンバーまたはシステム変数を選択します。

9 「次」をクリックします。

10 オフライン接続に固有の名前と説明を入力します。

11 「終了」をクリックして、選択したフォームとメンバーをダウンロードします。

12 「OK」、「完了」の順にクリックします。

オフラインでのフォームの操作

➤ フォームをオフラインで操作するには:

1 Excel で、Smart View のリボンから**「パネル」**を選択します。

2 Smart View パネルから、オフライン接続を選択します。

オンライン接続では、「プロバイダ」列の「プランニング」を指定します。オフライン接続では、「オフライン・プランニング」を指定します。

3 右クリックして「接続」を選択します。

4 右クリックして「フォームを開く」を選択します。

注： Planning サーバーへの直接接続中にフォームを開いていた場合、そのフォームをオフラインで操作するためには、同じセッション中にフォームをオフライン化してから、オフライン接続からそのフォームを再び開く必要があります。

5 オフラインのフォームで、データを追加または変更します。

6 Planning のメニューから、「データの送信」を選択します。

変更したデータがローカルに保存されます。Excel を終了しても、変更したデータは失われません。

Planning サーバーに対するデータの同期

サーバーに同期する際は、オフライン化したフォーム内の、そのセッションの開始以降に変更されたすべてのデータがサーバーに保存されます。すべてのフォームのデータを一度に同期することも、選択したフォームおよびメンバーのデータを同期することもできます。

➤ オフライン化した**すべて**のフォームおよびメンバーについて、変更したデータを Planning サーバーに保存するには:

1 Planning のリボンから、**「フォーム」**、**「サーバーと同期」**の順に選択します。

2 Planning サーバーにログインします。

3 「すべて同期」をクリックします。

4 「OK」をクリックします。

➤ オフライン化したフォームおよびメンバーのうち選択したものについて、変更したデータを Planning サーバーに保存するには:

1 Planning のリボンから、「フォーム」、「サーバーと同期」の順に選択します。

2 Planning サーバーにログオンします。

3 「次へ」をクリックします。

4 ディメンションをダブルクリックします。

5 「メンバー選択」ページから、メンバーおよびシステム変数を選択します。

6 「OK」をクリックします。

7 手順 4 から手順 6 を繰り返し、リストの各ディメンションにメンバーまたはシステム変数を選択します。

8 「終了」選択してデータを保存します。

9 「OK」、「完了」の順にクリックします。

ヒント： サーバーに再び接続した後、オフラインで行った作業がデータベースに正しく反映されているかチェックします。フォームをリフレッシュしたときにデータの行または列が消失した場合は、管理者に連絡してください。

オフラインのフォーム定義およびデータのリフレッシュ

オフラインのフォーム定義をリフレッシュするには:

- オンラインのフォームの最新の値で、オフラインのフォームのデータを更新します。
- オフライン・セッション中に使用可能なメンバーまたはフォームを追加または削除します。

➤ オフラインのデータおよびオフラインのフォーム定義を更新するには:

1 Smart View のメニューで、「パネル」を選択します。

2 Smart View パネルから、現在のオフライン・セッションに関連付けられている接続を選択します。

3 Planning のメニューから、「詳細」、「オフライン」の順に選択します。

注： オフライン接続を使用しているのに「オフライン定義のリフレッシュ」オプションを選択できない場合は、Planning の管理者に連絡してください。このオプションは、オンライン接続の使用中は選択できません。

4 オンラインのデータ・ソース用のユーザー名とパスワードを入力します。

Planning サーバーからオフラインのデータをリフレッシュするため、サーバーにログオンする必要があります。

5 次のいずれかの操作を行います:

- オフライン化したすべてのメンバーおよびフォームを、最新のオンラインの値および定義で更新するには、「**すべてリフレッシュ**」をクリックします。「**すべてリフレッシュ**」では、現在のオフラインのフォーム定義が保持されます。手順 10 に進みます。
- 「**次へ**」をクリックして、更新するフォーム、メンバーおよびシステム変数を選択します。この選択により、フォーム定義が変更されます。ユーザーが選択したメンバーおよびフォームのみが、定義の一部として残ります。選択しなかったメンバーおよびフォームは、オフラインで使用できなくなります。手順 6 に進みます。

6 ディメンションをダブルクリックします。

7 「メンバー選択」ページから、メンバーおよびシステム変数を選択します。

リストには、選択したディメンションのメンバーとシステム変数が表示されます。

「選択したメンバー」リストにメンバーおよびシステム変数を移動するか、このリストからそれらを移動するには、矢印キーを使用します。

8 「OK」をクリックします。

9 手順 6 から手順 8 を繰り返し、リストの各ディメンションにメンバーまたはシステム変数を選択します。

10 「**終了**」をクリックしてリフレッシュを開始します。

11 リフレッシュが完了したら、「**OK**」、「**完了**」の順にクリックします。

14 Smart View と Reporting and Analysis

この章の内容

Reporting and Analysis ドキュメントのインポート 173
ドキュメントの編集およびリフレッシュ..... 174
Reporting and Analysis ドキュメントのリフレッシュ 175
Financial Reporting と Web Analysis のインポート・フォーマット 176
Interactive Reporting ドキュメントのインポート 177
Financial Reporting ドキュメントのインポート..... 180
Production Reporting ドキュメントのインポート」 189
Web Analysis ドキュメントのインポート」 192
スマート・タグを使用した、Reporting and Analysis ドキュメントのインポート
..... 195

注： この章において、Financial Reporting への参照は、オンプレミスおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service バージョンの Financial Reporting の両方に適用されます。

Reporting and Analysis ドキュメントのインポート

Smart View を使用して、Reporting and Analysis ドキュメントを Microsoft Excel、Word または PowerPoint にインポートできます。

注： このトピックにおいて、Financial Reporting への参照は、オンプレミスおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service バージョンの Financial Reporting の両方に適用されます。

表 5　Reporting and Analysis アプリケーション

Reporting and Analysis アプリケーション	インポートできるドキュメント
Financial Reporting オンプレミスおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service	レポート
Oracle Hyperion Web Analysis	レポート

Reporting and Analysis アプリケーション	インポートできるドキュメント
Oracle Hyperion Interactive Reporting	レポート チャート ダッシュボード 最新の BQY ジョブを使用すると、Interactive Reporting でリフレッシュ機能がサポートされます
Oracle Hyperion SQR Production Reporting	ジョブ ジョブの出力

- 180 ページの「Financial Reporting ドキュメントのインポート」
- 192 ページの「Web Analysis ドキュメントのインポート」」
- 177 ページの「Interactive Reporting ドキュメントのインポート」
- 189 ページの「Production Reporting ドキュメントのインポート」」
- 195 ページの「スマート・タグを使用した、Reporting and Analysis ドキュメントのインポート 」

ドキュメントの編集およびリフレッシュ

Office では、以前に EPM Workspace および Oracle Planning and Budgeting Cloud Service からインポートされたドキュメントを編集およびリフレッシュすることができます。Smart View のリボンまたはメニューには、次の編集およびリフレッシュ・オプションがあります。

- 編集 - フィルタ、POV、または埋め込まれた EPM Workspace および Oracle Planning and Budgeting Cloud Service のドキュメントのパラメータを変更します。
- リフレッシュ - 選択されたジョブを、EPM Workspace および Oracle Planning and Budgeting Cloud Service の最新データでリフレッシュします。Office ドキュメント全体ではなく、Office で選択されているジョブのみ更新されます。
- すべてリフレッシュ - Office ドキュメントのすべてのジョブを更新します。

一般的な編集とリフレッシュの動作

- ページが削除されているインポート済みドキュメントをリフレッシュすると、残っているページのみがリフレッシュされます。削除されたページは復元されません。
- 編集またはリフレッシュした結果、インポート済みドキュメントのページ数が減った場合、除去されたページは Office に空白のページとして表示されます。
- 編集またはリフレッシュした結果、インポート済みドキュメントのページ数が増えた場合、これらのページは Office のドキュメントに追加されます。
- Word と PowerPoint でリフレッシュした場合、フォーマット見出しとコメントは保持されますが、Excel でリフレッシュした場合は保持されません。

ドキュメントのリフレッシュ時のセル参照の維持

Excel では、インポートされたドキュメント・セルまたは範囲を参照するカスタマイズされたワークシートは、インポートされたドキュメントで「すべてリフレッシュ」を実行すると更新されます。たとえば、インポートされたワークシート A および B は、カスタマイズされたワークシート C で参照されています。ワークシート A および B で「すべてリフレッシュ」を実行すると、ワークシート C がワークシート A および B の更新済データでリフレッシュされます。

Reporting and Analysis ドキュメントのリフレッシュ

注： この章において、Financial Reporting への参照は、オンプレミスおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service バージョンの Financial Reporting の両方に適用されます。

リフレッシュすると、EPM Workspace および Oracle Planning and Budgeting Cloud Service の最新データでレポートが更新されます。

Production Reporting および Interactive Reporting でのリフレッシュの動作

- Word では、レポートが選択されている場合はレポート全体がリフレッシュされます。レポートが選択されていない場合は、ドキュメント内で最初に見つかったレポートがリフレッシュされます。最初のレポートは、必ずしもドキュメントの先頭にあるレポートではありません。
- PowerPoint では、レポートが選択されていない場合は、スライド内で最初に見つかったレポートが更新されます。

Production Reporting のジョブ出力をリフレッシュすると、EPM Workspace の新しい出力が更新されます。

Financial Reporting および Web Analysis でのリフレッシュの動作

- レポートで、リフレッシュするページを選択する必要があります。Word および PowerPoint では、リフレッシュ時にページが選択されていないと、ページが更新されないことを示すメッセージが表示されます。
- 「リフレッシュ」を選択した場合は、レポートのすべてのページがリフレッシュされます。「すべてリフレッシュ」を選択した場合は、ドキュメント内のすべてのレポートがリフレッシュされます。

➤ Excel、Word または PowerPoint で EPM Workspace および Oracle Planning and Budgeting Cloud Service ドキュメントをリフレッシュするには、次のアクションを実行します:

- 選択した Reporting and Analysis ドキュメントを、そのドキュメントに関連付けられているすべてのページも含めて更新するには、Smart View のリボンで「**リフレッシュ**」を選択します。

- Reporting and Analysis のドキュメントをすべて更新するには、Smart View のリボンで「**すべてリフレッシュ**」を選択します。

Essbase または Financial Management 接続に対する Reporting and Analysis ドキュメントのリフレッシュ

注： これは、問合せ対応 HTML にインポートされた Financial Reporting および Oracle Hyperion Web Analysis レポートに適用されます。

Essbase または Financial Management の接続をリフレッシュすると、Oracle Hyperion Provider Services の最新データでレポートが更新され、Oracle Hyperion Reporting and Analysis ドキュメントに対して、データの取得やズーム、ピボットなどのアド・ホック分析を実行できるようになります。

問合せ準備 HTML でインポートされたレポートのリフレッシュは、すべてのページではなく現在のページに適用されます。

重要なタスク:

- 180 ページの「Interactive Reporting ドキュメントの編集」
- 187 ページの「Financial Reporting ドキュメントの編集」
- 191 ページの「Production Reporting ジョブの編集 」
- 194 ページの「Web Analysis ドキュメントの編集」

Financial Reporting と Web Analysis のインポート・フォーマット

注： このトピックにおいて、Financial Reporting への参照は、オンプレミスおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service バージョンの Financial Reporting の両方に適用されます。

Financial Reporting および Web Analysis ドキュメントは、Excel で表示できるフォーマット済 HTML、または Financial Management または Essbase データ・ソースに接続して問合せを実行できる問合せ対応 HTML としてインポートできます。

Reporting and Analysis ドキュメントを問合せ対応 HTML としてインポートする場合は、現在のデータ・オブジェクトの選択されたページが HTML に変換され、Smart View 固有のフォーマットは削除されます。このため、Smart View は、Web アプリケーションからは独立してデータ・ソースを再問合せできます。

Reporting and Analysis ドキュメントをフォーマット済 HTML としてインポートする場合は、現在のデータ・オブジェクトの選択されたページが HTML に変換され、Smart View フォーマット定義と計算済メンバーが保持されます。このため、Smart View ではデータ・ソースを直接問合せできませんが、Smart View コンテンツは Microsoft Office アプリケーションで利用できます。

ヒント： Word または PowerPoint にイメージをインポートした後で、Office の「図の書式設定」オプションを使用してフォーマットします。たとえば、トリミングやサイズ変更を行います。「図の書式設定」設定は、イメージをリフレッシュした後も保持されます。

Interactive Reporting ドキュメントのインポート

- 178 ページの「Excel への Interactive Reporting ドキュメントのインポート」
- 179 ページの「Word および PowerPoint への Interactive Reporting ドキュメントのインポート」」
- 180 ページの「Interactive Reporting ドキュメントの編集」

インポートされた Interactive Reporting ドキュメントは、セクションに固有です。

表 6　Interactive Reporting のインポート・オブジェクト・タイプ

セクション	Excel	Word、PowerPoint
表	フォーマットされたデータ	N/A
結果	フォーマットされたデータ	N/A
チャート	フォーマットされたデータ	イメージ
ピボット	フォーマットされたデータ	N/A
レポート	フォーマットされたデータ	イメージ
ダッシュボード	イメージ	イメージ
問合せ	N/A	N/A
CubeQuery	問合せ準備(Internet Explorer のみで、Firefox ではサポートされない) フォーマットされたデータ	N/A
データ・モデル	N/A	N/A

次の制限は、Interactive Reporting ドキュメントが Excel にインポートされるときに適用されます:

- インポート時に非表示セクションが表示されます。
- ダッシュボード・セクションを Excel にインポートすると、A1 セルがサイズ変更されます。
- レポート・セクションを Excel にインポートすると、チャート・イメージが表の前に配置されます。
- Excel へのインポートでは、色が正しく保持されないことがあります。
- ユーロ通貨フォーマットを含む結果セクションは、Excel にインポートされません。
- 名前に+(プラス記号)を含む結果セクションはインポートされません。

Excel への Interactive Reporting ドキュメントのインポート

➤ Interactive Reporting ドキュメントを Excel にインポートするには:

1 Smart View のリボンで、「パネル」を選択します。

2 「Smart View パネル」で、EPM Workspace データ・ソースに接続します。

3 インポートする Interactive Reporting ドキュメントに移動します。

4 アクション・パネルで、「開く」をクリックします。

Workspace ドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。

注： 一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

5 「セクション」で、インポートするセクションを選択します。

6 「アクション」で、オプションを選択します:

- **リフレッシュとプレビュー:** ドキュメントをプレビューする前にフィルタまたは値を変更します
- **プレビュー:** デフォルト設定でドキュメントをプレビューします

  CubeQuery セクションを問合せ準備フォーマットでインポートする場合は、このオプションを選択しないでください。

7 「次」をクリックします。

8 手順 6 で「プレビュー」を選択した場合は、手順 11 にスキップします。「リフレッシュとプレビュー」を選択した場合は、次のステップに進みます。

9 ドキュメントの設定の変数、値、オプションなどのフィルタを変更するためにユーザー認証が必要な場合は、「データベース資格証明の指定」で「ユーザー名」および「パスワード」を入力し、「次へ」を選択します。

接続名がカッコ内に表示されます(たとえば、Sample.oce など)。

10 「フィルタの指定」で、値を選択し、「次へ」をクリックします。

11 ドキュメントのすべてのページをインポートするには、「すべてのページ」フィールドのチェックを有効なままにします。

12 ドキュメントに複数のページが含まれている場合は、「ワークシート全体でページを分割」を選択して、各ページを別々の Excel ワークシートに表示します。

13 「セクションのインポート形式」ドロップダウンから、次のいずれかを選択します:

- コンテンツを問合せ対応 HTML としてインポートする場合は、「データ」を選択します。現在の CubeQuery セクションの現在のページが HTML に変換され、Smart View のフォーマットが除去されます。これにより、Web アプリケーションから独立したデータ・ソースを再度問合せできます。
- コンテンツをフォーマット済 HTML としてインポートする場合は、「イメージ」を選択します。CubeQuery セクションの現在のページが Smart View フォーマット定義および計算済メンバーとともに HTML に変換されます。Smart View では、データ・ソースを直接問合せしません。このオプション

は、CubeQuery セクションの「リフレッシュ」および「プレビュー」でのみ使用できます。

14 「終了」をクリックします。

ドキュメントが Excel に表示されます。

Word および PowerPoint への Interactive Reporting ドキュメントのインポート」

➤ Interactive Reporting ドキュメントを Word にインポートするには:

1 Smart View のリボンで、「パネル」を選択します。

2 「Smart View パネル」で、EPM Workspace データ・ソースに接続します。

3 インポートする Interactive Reporting ドキュメントに移動します。

4 アクション・パネルで、「開く」をクリックします。

Workspace ドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。

注： 一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

5 「アクションの選択」で、オプションを選択します:

- **リフレッシュとプレビュー:** ドキュメントをプレビューする前にフィルタまたは値を変更します
- **プレビュー:** デフォルト設定でドキュメントをプレビューします

6 「次」をクリックします。

7 「リフレッシュとプレビュー」を選択した場合:

1. ドキュメント設定の変数、値、オプションなどのフィルタを変更するためにユーザー認証が必要な場合は、「データベース資格証明の指定」で、ユーザー名およびパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。

   接続名がカッコ内に表示されます(たとえば、`Sample.oce` など)。

2. 「フィルタの指定」で、値を選択します。

8 「適用」をクリックし、「次へ」をクリックします。

9 「プレビュー」で、ページをインポートするには、データ・オブジェクトの左上にあるドロップダウン・リストからページを選択します。

10 **オプション:** ドキュメントのすべてのページをインポートするには、「すべてのページ」を選択します。

11 「終了」をクリックします。

ドキュメントがインポートされます。

Interactive Reporting ドキュメントの編集

➤ Excel、Word および PowerPoint で Interactive Reporting ドキュメントを編集するには:

1 編集する Interactive Reporting ドキュメントを開きます。

2 Smart View のリボンで、

の矢印をクリックし、「Reporting and Analysis ドキュメント」、「編集」の順に選択します。

   Workspace ドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。

   注： 一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

3 「リフレッシュとプレビュー」を選択した場合:

   1. ドキュメント設定の変数、値、オプションなどのフィルタを変更するためにユーザー認証が必要な場合は、「データベース資格証明の指定」で、ユーザー名およびパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。

      接続名がカッコ内に表示されます(たとえば、`Sample.oce` など)。

   2. 「フィルタの指定」で、値を選択します。

4 「適用」をクリックし、「次へ」をクリックします。

5 「プレビュー」で、ページをインポートするには、データ・オブジェクトの左上にあるドロップダウン・リストからページを選択します。

6 「終了」をクリックします。

Financial Reporting ドキュメントのインポート

- 176 ページの「Financial Reporting と Web Analysis のインポート・フォーマット」
- 181 ページの「Excel への Financial Reporting ドキュメントのインポート」
- 184 ページの「Word および PowerPoint への Financial Reporting ドキュメントのインポート」
- 187 ページの「Financial Reporting ドキュメントの編集」

注： このトピックにおいて、Financial Reporting への参照は、オンプレミスおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service バージョンの Financial Reporting の両方に適用されます。

表 7 Financial Reporting のインポート・ドキュメント・タイプ

ドキュメントのタイプ	Excel	Word、PowerPoint
レポート	完全フォーマット、問合せ対応、関数グリッド	イメージ、関数グリッド

ドキュメントのタイプ	Excel	Word、PowerPoint
スナップショット・レポート	完全フォーマット	イメージ
ブック	N/A	N/A
スナップショット・ブック	N/A	N/A
バッチ	N/A	N/A
グリッド・オブジェクト	N/A	N/A
イメージ・オブジェクト	N/A	N/A
チャート・オブジェクト	N/A	N/A
テキスト・オブジェクト	N/A	N/A
行と列のテンプレート	N/A	N/A

Excel への Financial Reporting ドキュメントのインポート

注： このトピックにおいて、Financial Reporting への参照は、オンプレミスおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service バージョンの Financial Reporting の両方に適用されます。

➤ Financial Reporting ドキュメントを Excel にインポートするには:

1 **Smart View のリボンで、「パネル」を選択します。**

2 **Smart View パネルで、EPM Workspace データ・ソースに接続します。**

3 **インポートする Financial Reporting ドキュメントに移動します。**

4 **アクション・パネルで、「開く」をクリックします。**

「Workspace ドキュメントのインポート」ウィザードが表示されます。

注： 一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

5 **「ドキュメントの選択」で、リポジトリを展開し、Financial Reporting ドキュメントを選択して「OK」をクリックします。**

ドキュメントが「Workspace ドキュメントのインポート」ウィンドウでプレビューされます。

注： 一部のオプションは、一部のドキュメントに対して使用できない場合があります。

6 **「ユーザーの POV のプレビュー」が表示されている場合は、現在の POV をプレビューするか、POV のメンバーを変更します。**

注： この画面を表示するには、EPM Workspace プリファレンスで「ユーザー視点」に対して「プレビュー」を選択します。

7 「次」をクリックします。

8 **オプション:** デフォルト値を変更する場合、「プロンプトに応答」でプロンプトを選択し、「次へ」をクリックします。

注： この画面は、ドキュメントにプロンプトが含まれている場合にのみ表示されます。

9 **オプション:** 「プレビュー」の「グリッドの POV」から POV を選択し、POV を変更します。

10 「ページ」を選択してページ・ディメンションを変更します。

11 文書のすべてのページをインポートするには、「すべてのページ」を選択します。

12 各ページを別々の Excel ワークシートに表示するには、「ワークシート全体でページを分割」を選択します。

13 「次のフォーマットでドキュメントをインポート」で、オプションを選択します:

- 「完全フォーマット」 – 完全にフォーマットされた HTML でレポートを表示します。
- 「問合せ対応」 – Financial Management および Essbase データ・ソースに接続したときに、レポートに対するアド・ホック分析の実行を可能にします。
- 「関数グリッド」 – 動的なグリッド・フォーマットで、手順 17 で説明されているように、レポート・オプションをさらに選択できます。

14 「終了」をクリックします。

次の手順は、手順 13 で選択したオプションによって異なります:

次を選択した場合:

- 「完全フォーマット」 – ドキュメントが Office アプリケーションにインポートされ、Reporting and Analysis ドキュメントのみを表示できます。
- 「問合せ対応」 – ドキュメントが Office アプリケーションにインポートされ、Financial Management または Essbase データ・ソースに接続できるようになります。それにより、データの取得、ズーム、ピボットなどのアド・ホック分析を実行できます。
- 「関数グリッド」 – 手順 15 に進みます。

15 → をクリックして、「ドキュメント・コンテンツ」ペインをリフレッシュします。

16 「ドキュメント・コンテンツ」で関数グリッド・オブジェクトを選択し、右クリックして「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」を選択します。

17 「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」ダイアログ・ボックスで、グリッドに配置するレポートのタイプを次から選択します:

- **関数グリッド** - 動的グリッド・フォーマット

関数グリッドをリフレッシュすると、データ・セルはリフレッシュされますが、メンバーはリフレッシュされません。データとメンバーの両方をリフレッシュするためには、関数グリッドをシートに挿入し直す必要があります。このため、関数グリッドは、メンバーが適度に静的であるレポートの場合に最も有用です。メンバーが頻繁に変更される可能性があるレポートの場合は、レポート・タイプとして表およびチャートがより適しています。ワークシートに複数のレポートを含めることはできますが、関数グリッドは 1 つのみです。

関数グリッドでは、SUM などの Excel の式を使用できます。そのような式を関数グリッドの一部として保持するためには、式を含むセルとグリッドの間に空の行を 1 行開けておき、式の定義で選択するセル範囲にその空の行を含める必要があります。これにより、データをリフレッシュした結果、グリッド内の行数が変わった場合でも、式を保持できるようになります。

関数グリッドにフォーマットを設定するには、Excel のフォーマット機能を使用します。

- **表**

  表レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なグリッド・フォーマットで、結果を表示します。表をリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。表は、小さいスペースに大きいグリッドを表示する場合に有用です。スクロール・バーを使用して、行や列にすばやくアクセスできます。

  表レポートでは、ズーム・インおよびズーム・アウトが可能ですが、その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームを使用したりすることはできません。

- **チャート**

  チャート・レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なチャート・フォーマットで、結果を表示します。チャートをリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。

18 **オプション: 表やチャートを移動したりサイズを変更したりするには、「ドキュメント・コンテンツ」で、 の隣の下矢印をクリックし、メニューから「デザイン・モードの切替え」を選択します。**

シート、スライド、ページ内でオブジェクトを移動できるようになります。

デザイン・モードを終了する準備ができたら、もう一度「デザイン・モードの切替え」を選択します。

19 **レポート・コントロールを挿入するには、「ドキュメント・コンテンツ」でレポート・オブジェクトを選択し、右クリックして「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」を選択します。**

20 **「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」ダイアログ・ボックスで、レポート・コントロールのタイプを次から選択します:**

- 「POV」–レポートに POV を 1 つのみ含めることができます
- 「スライダ」–レポートに複数のスライダを含めることができます。114 ページの「スライダ」を参照してください。

レポートには 1 つの POV かスライダを含めることができ、両方を含めることはできません。

21 リフレッシュします。

22 **オプション**: レポートにおける 1 つのディメンションの任意のメンバーまたはすべてのメンバーについて個別のレポートを作成し、それらのレポートをワークブックの各ワークシートにカスケードする方法については、81 ページの「レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケード」を参照してください。

注： チャートおよび表を含むレポートでは、カスケード操作により、次回そのワークブックを開いた際に、チャートと表が重なって表示されることがあります。

Word および PowerPoint への Financial Reporting ドキュメントのインポート

注： このトピックにおいて、Financial Reporting への参照は、オンプレミスおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service バージョンの Financial Reporting の両方に適用されます。

➤ Financial Reporting ドキュメントを Word および PowerPoint にインポートするには:

1 Smart View のリボンで、「パネル」を選択します。

2 「Smart View パネル」で、EPM Workspace データ・ソースに接続します。

3 インポートする Financial Reporting ドキュメントに移動します。

4 アクション・パネルで、「開く」をクリックします。

Workspace ドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。

5 「ドキュメントの選択」で、リポジトリを展開し、Financial Reporting ドキュメントを選択して「OK」をクリックします。

ドキュメントが Workspace ドキュメントのインポート・ウィンドウにプレビューされます。

注： 一部の画面は、一部のドキュメントに適用されません。

6 「ユーザーの POV のプレビュー」画面が表示されている場合は、現在の POV をプレビューするか、POV のメンバーを選択して変更します。

注： この画面を表示するには、EPM Workspace プリファレンスで「ユーザー視点」に対して「プレビュー」を選択します。

7 **オプション:** デフォルト値を変更する場合、「プロンプトに応答」でプロンプトを選択し、「次へ」をクリックします。

注： この画面は、ドキュメントにプロンプトが含まれている場合にのみ表示されます。

8 「プレビュー」で、「グリッドの POV」から POV を選択し、POV を変更します。

注： 一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

9 「ページ」を選択してページ・ディメンションを変更します。

10 「すべてのページ」を選択して、ドキュメントのすべてのページをインポートします。

11 「ワークスペース POV を使用してリフレッシュ」を選択します。

12 「次のフォーマットでドキュメントをインポート」で、オプションを選択します:

- 「イメージ」 – ドキュメントをイメージとしてインポートします。
- 「関数グリッド」 – 手順 17 で説明されているようにレポート・オプションをさらに選択できる、動的なグリッド・フォーマットをインポートします (Word でのみ使用できます)。

13 「終了」をクリックします。

次の手順は、手順 12 で選択したオプションによって異なります:

次を選択した場合:

- 「イメージ」 – レポートがイメージとしてドキュメントにインポートされ、Word で Reporting and Analysis イメージは表示のみできます。
- 「関数グリッド」 – 手順 14 に進みます(Word のみ)。

14 → をクリックして、「ドキュメント・コンテンツ」ペインをリフレッシュします。

15 「ドキュメント・コンテンツ」でレポート・オブジェクトを選択し、右クリックして「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」を選択します。

16 「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」ダイアログ・ボックスで、グリッドに配置するレポートのタイプを次から選択します:

- **関数グリッド**–動的なグリッド・フォーマット

  関数グリッドをリフレッシュすると、データ・セルはリフレッシュされますが、メンバーはリフレッシュされません。データとメンバーの両方をリフレッシュするためには、関数グリッドをシートに挿入し直す必要があります。このため、関数グリッドは、メンバーが適度に静的であるレポートの場合に最も有用です。メンバーが頻繁に変更される可能性があるレポートの場合は、レポート・タイプとして表およびチャートがより適しています。ワークシートに複数のレポートを含めることはできますが、関数グリッドは 1 つのみです。

  関数グリッドでは、SUM などの Excel の式を使用できます。そのような式を関数グリッドの一部として保持するためには、式を含むセルとグリッドの間に空の行を 1 行開けておき、式の定義で選択するセル範囲にその空の行を含める必要があります。これにより、データをリフレッシュした結果、グリッド内の行数が変わった場合でも、式を保持できるようになります。

関数グリッドにフォーマットを設定するには、Excel のフォーマット機能を使用します。

- **Office 表**

  Office 表は、Word でのみ使用できます。Office 表では、結果がネイティブの Microsoft Office 表形式で表示されます。Office 表をリフレッシュすると、メンバーとデータの両方がリフレッシュされます。

  Office 表は Word 文書の一部であるかのように表示され操作できますが、表セルのメンバーとデータは Smart View プロバイダに接続されています。Office 表では、使い慣れた Word の表のフォーマットとスタイルを使用できます。レポートに POV オブジェクトを挿入すると、Office 表の POV を変更できます。フォーマットや POV を変更した後に Office 表をリフレッシュすると、結果には新しい POV が反映され、カスタム・フォーマットが保持されます。

  Office 表オブジェクトでは、ズーム・インやズーム・アウトはできません。また、その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームも使用できません。

- **表**

  表レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なグリッド・フォーマットで、結果を表示します。表をリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。表は、小さいスペースに大きいグリッドを表示する場合に有用です。スクロール・バーを使用して、行や列にすばやくアクセスできます。

  表レポートでは、ズーム・インおよびズーム・アウトが可能ですが、その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームを使用したりすることはできません。

- **チャート**

  チャート・レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なチャート・フォーマットで、結果を表示します。チャートをリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。

17 **オプション: 表やチャートを移動したりサイズを変更したりするには、「ドキュメント・コンテンツ」で、 の隣の下矢印をクリックし、メニューから「デザイン・モードの切替え」を選択します。**

シート、スライド、ページ内でオブジェクトを移動できるようになります。

デザイン・モードを終了する準備ができたら、もう一度「デザイン・モードの切替え」を選択します。

18 **レポート・コントロールを挿入するには、「ドキュメント・コンテンツ」でレポート・オブジェクトを選択し、右クリックして「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」を選択します。**

19 **「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」ダイアログ・ボックスで、レポート・コントロールのタイプを次から選択します:**

- 「POV」–レポートに POV を 1 つのみ含めることができます

- 「スライダ」–レポートに複数のスライダを含めることができます。114 ページの「スライダ」を参照してください。

レポートには 1 つの POV かスライダを含めることができ、両方を含めることはできません。

20 **リフレッシュします。**

Financial Reporting ドキュメントの編集

注： このトピックにおいて、Financial Reporting への参照は、オンプレミスおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service バージョンの Financial Reporting の両方に適用されます。

➤ Excel、Word および PowerPoint で Financial Reporting ドキュメントを編集するには:

1 **編集する Financial Reporting ドキュメントを開きます。**

2 **Smart View のリボンで、**

の矢印をクリックし、「Reporting and Analysis ドキュメント」、「編集」の順に選択します。

Workspace ドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。

注： 一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

3 **「ユーザーの POV のプレビュー」画面が表示されている場合は、現在の POV をプレビューするか、POV のメンバーを変更します。**

注： この画面を表示するには、EPM Workspace プリファレンスで「ユーザー視点」に対して「プレビュー」を選択します。

4 **オプション: プロンプトを含むドキュメントでデフォルト値を変更するには、「プロンプトに応答」でプロンプトを選択し、「次へ」をクリックします。**

注： 「プロンプトに応答 m」は、ドキュメントにプロンプトが含まれている場合にのみ表示されます。

5 **POV を変更する場合は、「グリッドの POV」の「プレビュー」で、POV を選択します。**

6 **「終了」をクリックします。**

PowerPoint ドキュメントでのテンプレートの作成

注： このトピックにおいて、Financial Reporting への参照は、オンプレミスおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service バージョンの Financial Reporting の両方に適用されます。

1 つ以上の Financial Reporting レポートをプレゼンテーションにインポートすることにより、保存可能な PowerPoint テンプレート・ドキュメントを作成できます。「テンプレートの作成」アクションのたびに新しい PowerPoint スライドが作成され、「テンプレートのリフレッシュ」が使用されたときにどこに配置されるかを示すレポート名が付けられます。

➤ テンプレートを作成するには:

1 **PowerPoint を開きます。**

2 **Reporting and Analysis プロバイダに接続します。**

3 **Smart View のリボンから、「パネル」、「Reporting and Analysis ドキュメント」、「テンプレートの作成」の順に選択します。**

4 **「Workspace ドキュメントのインポート」で、Financial Reporting ドキュメントを選択します。**

- **オプション:** ドキュメントのすべてのページをインポートするには、**「すべてのページ」**を選択します。ページごとに別のスライドが作成されます。
- 現在の画面のプレゼンテーションをインポートするには、「すべてのページ」を選択解除します。

5 **「オプション:」 ワークスペースの視点を使用するには、「ワークスペース視点を使用してリフレッシュ」を選択します。**

6 **「OK」をクリックします。ドキュメント名が PowerPoint プレゼンテーションにインポートされます。**

PowerPoint テンプレートのリフレッシュ

注： このトピックにおいて、Financial Reporting への参照は、オンプレミスおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service バージョンの Financial Reporting の両方に適用されます。

➤ テンプレートをリフレッシュするには:

1 **テンプレートを含む PowerPoint プレゼンテーションを開きます。**

2 **Reporting and Analysis プロバイダに接続します。**

3 **Smart View のリボンから、「パネル」、「Reporting and Analysis ドキュメント」、「テンプレートのリフレッシュ」の順に選択します。**

4 **必要に応じて、PowerPoint プレゼンテーションを編集および保存します。**

Production Reporting ドキュメントのインポート」

Production Reporting ドキュメントは、Excel、Word および PowerPoint にインポートできるジョブとジョブ出力から構成されます。

- 189 ページの「Excel への Production Reporting ジョブのインポート」
- 190 ページの「Word および PowerPoint への Production Reporting ジョブのインポート」」
- 191 ページの「Word および PowerPoint への Production Reporting ジョブ出力のインポート」
- 191 ページの「Production Reporting ジョブの編集 」

表 8　Production Reporting のインポート・オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプ	Excel	Word、PowerPoint
ジョブ	フォーマットされたデータ	イメージ
ジョブの出力	フォーマットされたデータ	イメージ

インポートには、いくつかの制限があります:

- イメージとチャートは Excel にインポートされません。
- セキュア・ジョブはサポートされますが、汎用ジョブとしてインポートされたジョブはサポートされません。

Excel への Production Reporting ジョブのインポート

➤ Production Reporting ジョブを Excel にインポートするには:

1. **Smart View のリボンで、「パネル」を選択します。**
2. **「Smart View パネル」で、EPM Workspace データ・ソースに接続します。**
3. **インポートする Interactive Reporting ドキュメントに移動します。**
4. **アクション・パネルで、「開く」をクリックします。**

   Workspace ドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。
5. **「ドキュメントの選択」で、リポジトリを展開し、Production Reporting ジョブを選択して「OK」をクリックします。**

   インポート・ウィザード画面が表示されます。

   注：　ドキュメントによっては、一部の画面は適用されない場合があります。
6. **「パラメータを指定する」画面が表示されている場合は、ジョブ・パラメータを定義し、「次へ」をクリックします。**

注： この画面は、ジョブにパラメータが含まれている場合にのみ表示されます。

7 **「プレビュー」**で、ページをインポートするには、データ・オブジェクトの左上にあるドロップダウン・リストからページを選択します。

8 ジョブのすべてのページをインポートするには、「すべてのページ」を選択します。

9 「ワークシート全体でページを分割」を選択して、各ページを別々の Excel ワークシートに表示します。

10 「終了」をクリックします。

ドキュメントが Excel に表示されます。

Word および PowerPoint への Production Reporting ジョブのインポート」

Production Reporting ジョブを Word および PowerPoint にインポートする手順も同様です。

➤ Production Reporting ジョブを Word および PowerPoint にインポートするには:

1 Smart View のリボンで、「パネル」を選択します。

2 「Smart View パネル」で、EPM Workspace データ・ソースに接続します。

3 インポートする Production Reporting ドキュメントに移動します。

4 アクション・パネルで、「開く」をクリックします。

Workspace ドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。

5 「ドキュメントの選択」で、リポジトリを展開し、Reporting and Analysis ドキュメントを選択して「OK」をクリックします。

インポート・ウィザードが表示されます。

注： 一部の画面は、一部のドキュメントに適用されない場合があります。

6 「パラメータを指定する」画面が表示されている場合は、ジョブ・パラメータを定義し、「次へ」をクリックします。

注： この画面は、ジョブにパラメータが含まれている場合にのみ表示されます。

7 **「プレビュー」**で、ページをインポートするには、データ・オブジェクトの左上にあるドロップダウン・リストからページを選択します。

8 ジョブのすべてのページをインポートするには、「すべてのページ」を選択します。

Word の場合は、**「ページをまたがってページを分割」**が使用不可になります。PowerPoint の場合は、**「スライドをまたがってページを分割」**が選択され、使用不可になります。デフォルトでは、ジョブまたはジョブ出力のページはページとスライドに常にまたがるためです。

9 「終了」をクリックします。

ジョブがインポートされます。

Word および PowerPoint への Production Reporting ジョブ出力のインポート

➤ Production Reporting ジョブの出力を Excel、Word および PowerPoint にインポートするには:

1 EPM Workspace データ・ソースに接続します。

2 Smart View のリボンから、「パネル」、「Reporting and Analysis ドキュメント」、「インポート」の順に選択します。

「Workspace ドキュメントのインポート」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3 「ドキュメントの選択」で、リポジトリを展開し、Production Reporting ジョブの出力を選択して「OK」をクリックします。

ジョブの出力がインポートされます。

Production Reporting ジョブの編集

インポートされた Production Reporting ジョブは編集できますが、ジョブ出力は編集できません。ジョブ・パラメータのみ編集できます。

➤ Production Reporting ジョブを編集するには:

1 インポートされた Oracle Hyperion SQR Production Reporting ドキュメントを開きます。

2 Smart View のリボンで、

の矢印をクリックし、「Reporting and Analysis ドキュメント」、「編集」の順に選択します。

「Workspace ドキュメントのインポート」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3 「パラメータを指定する」画面が表示されている場合は、ジョブ・パラメータを定義し、「次へ」をクリックします。

注： この画面は、ジョブにパラメータが含まれている場合にのみ表示されます。

4 「プレビュー」で、ジョブを表示します。

注： インポートされたページを削除した場合、編集ではジョブの残りのページのみ更新されます。

5 「終了」をクリックします。

ジョブが更新されます。

Web Analysis ドキュメントのインポート」

Web Analysis には、5 つのデータ・オブジェクト表示タイプが含まれますが、Smart View は、3 つ(スプレッドシート、チャートおよびピンボード)のみインポートできます。Smart View は、フリー・フォーム・グリッドおよび SQL スプレッドシートをインポートできません。

176 ページの「Financial Reporting と Web Analysis のインポート・フォーマット」を参照してください。

- 192 ページの「Web Analysis ドキュメントまたはドキュメント・オブジェクトのインポート」
- 194 ページの「Web Analysis ドキュメントの編集」

表 9　Web Analysis のインポート・ドキュメント・タイプ

ドキュメントのタイプ	Excel	Word、PowerPoint
レポート	完全フォーマット、問合せ準備	イメージ

表 10　Web Analysis のインポート・データ・オブジェクト・タイプ

データ・オブジェクト	Excel	Word、PowerPoint
スプレッドシート	データ + フォーマット	イメージ
チャート	データ + フォーマット	イメージ
ピン・ボード	データ + フォーマット	イメージ

Web Analysis ドキュメントまたはドキュメント・オブジェクトのインポート

Smart View を Excel で使用して、1 つまたはすべてのドキュメント・ページまたは複数のデータ・オブジェクトを Workspace リポジトリ内の Web Analysis ドキュメントの 1 つ以上のページとともにインポートできます。すべての Web Analysis データ・オブジェクト(スプレッドシート、チャート、ピンボード)が、Excel スプレッドシートとしてインポートされます。フリーフォーム・グリッドおよび SQL スプレッドシートはインポートできません。

➤ Web Analysis データ・オブジェクトをインポートするには:

1. Smart View のリボンで、「パネル」を選択します。
2. 「Smart View パネル」で、EPM Workspace データ・ソースに接続します。
3. インポートする Web Analysis ドキュメントに移動します。
4. アクション・パネルで、「開く」をクリックします。

Workspace ドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。

5 「ドキュメントの選択」で、リポジトリを展開し、Web Analysis ドキュメントを選択して「OK」をクリックします。

6 データベース資格証明が Web Analysis ドキュメントとともに保存されていない場合は、「データベース資格証明の指定」ページが表示されます。このページで、レポートで使用されるデータ・ソースへの有効な資格証明を入力する必要があります。レポートにデータ・ソースが 1 つしかなく、資格証明の入力をスキップした場合は、レポートがインポートされません。1 つのレポートに異なるデータ・ソースを持つデータ・オブジェクトがあり、データ・オブジェクトの 1 つのみインポートする場合は、インポートするデータ・オブジェクトの資格証明を入力し、インポートしないデータ・オブジェクトの資格証明はスキップできます。ユーザー名とパスワードを入力するか、「スキップ」を選択して任意のデータ・ソースに対する資格証明の入力をスキップし、「次へ」をクリックします。

ヒント： 「資格証明の保存」を選択して、Web Analysis ドキュメントとともに資格証明を保存します。これにより、インポートされたドキュメントを後でリフレッシュできます。現在は、資格証明を保存しないとインポートされたドキュメントをリフレッシュできません。

7 「プレビュー」で、Microsoft Excel、Word および Powerpoint に対してインポートするオブジェクトを選択するとき:

- 各レポート・オブジェクトの左上隅にあるチェック・ボックスをクリックして個々のデータ・オブジェクトを選択するか、「すべてのオブジェクト」チェック・ボックスをクリックしてすべてのデータ・オブジェクトを選択します。
- 「ワークシート全体でオブジェクトを分割」を選択して各レポート・オブジェクトに新しいワークシートを作成するか、「ワークシート全体でオブジェクトを分割」を選択解除して同じワークシートにすべてのレポート・オブジェクトを配置します。
- インポートすることを選択された各データ・オブジェクトの上にあるドロップダウン・リストからインポートするページを選択するか、「すべてのページ」を選択して、インポートすることを選択されたすべてのデータ・オブジェクトのすべてのページをインポートします。
- 「ワークシート全体でページを分割」を選択して各インポート・ページに新しいワークシートを作成するか、「ワークシート全体でページを分割」を選択解除して、各データ・オブジェクトのすべてのインポート済ページを同じワークシートに配置します。

8 「プレビュー」で、Microsoft Word および PowerPoint に対してインポートするオブジェクトを選択するときに、「インポート画面」を選択してレポート全体の画面プリントをインポートします。

9 Microsoft Excel の場合は、「次のフォーマットでドキュメントをインポート」でオプションを選択します:

- 完全フォーマット(完全フォーマット HTML でレポートをインポートします)。いつでも Oracle Enterprise Performance Management System に接続して、インポートされたドキュメントをリフレッシュしてデータを最新にできます。

- **問合せ準備**(問合せ準備 HTML でレポートをインポートします)。Financial Management または Essbase データ・ソースに接続してデータを直接取得し、データの取得、ズーム、ピボットなどのアド・ホック分析を実行できます。

10 「終了」をクリックします。ドキュメントがインポートされます。その後、いつでも EPM System に接続し、インポートされたドキュメントを最新のデータでリフレッシュできます。

Web Analysis ドキュメントの編集

➤ Web Analysis ドキュメントを編集するには:

1 ページ(Excel)またはイメージ(Word または PowerPoint)を選択します。

2 Smart View のリボンで、

の矢印をクリックし、「Reporting and Analysis ドキュメント」、「編集」の順に選択します。

3 データベース資格証明が Web Analysis ドキュメントとともに保存されていない場合は、「データベース資格証明の指定」ページが表示されます。「データベース資格証明の指定」で、ユーザー名とパスワードを入力するか、「スキップ」を選択して「次へ」をクリックします。

ヒント: 「資格証明の保存」を選択して、Web Analysis ドキュメントとともに保存できます。

4 インポートするスプレッドシート、チャートまたはピンボードを選択します。

5 **「プレビュー」**で、ページをインポートするには、データ・オブジェクトの左上にあるドロップダウン・リストからページを選択します。

6 ドキュメントのすべてのページをインポートするには、「すべてのページ」を選択します。現在のページのみインポートするには、ボックスを選択解除したままにします。

7 「ワークシート全体でページを分割」を選択して、各ページを別々のワークシートに表示します(Excel のみ)。

8 「次のフォーマットでドキュメントをインポート」で、次の項目を選択します:

- 完全フォーマット(Excel のみ)
- 問合せ準備(Excel のみ)
- イメージ(Word および PowerPoint)

9 「終了」をクリックします。

スマート・タグを使用した、Reporting and Analysis ドキュメントのインポート

Microsoft スマート・タグを使用して、Reporting and Analysis のドキュメントをインポートできます。

➤ スマート・タグを使用して Reporting and Analysis ドキュメントをインポートするには:

1 **Microsoft Office ドキュメントを開きます。**

2 **EPM Workspace データ・ソースに接続します。**

3 **Excel でスマート・タグが使用可能であることを確認します。**

4 **ドキュメントの任意の場所に `smartview` と入力し、その上にマウスを重ねます。**

   スマート・タグ・アクション・アイコンが表示されます。

5 **スマート・タグのアイコンをクリックして「Reporting and Analysis コンテンツ」を選択すると、「Workspace ドキュメントのインポート」が表示され、ドキュメントをインポートすることができます。**

15 Smart ViewおよびOracle BI EE

この章の内容

Oracle BI EE と Smart View について 197
Smart View の Oracle BI EE の機能およびコンポーネント 197
Oracle BI EE 拡張機能の有効化 198
複数の Oracle BI EE データ・ソースへの接続 198
Oracle BI EE カタログ 200
Oracle BI EE の分析、ビューおよびダッシュボードの操作 202
「ビュー・デザイナ」を使用したビューの操作 225

Oracle BI EE と Smart View について

Smart View では、Oracle BI EE サーバーに接続して、Oracle Business Intelligence アンサーのダッシュボードおよび分析で作成されたコンテンツを利用できます。Smart View ユーザーは、このコンテンツの操作に加えて、Oracle BI EE プレゼンテーション・サーバーをデータ・ソースとして使用して、ビュー・デザイナによって単純なビューの形式のコンテンツを作成できます。作成したビューは、Oracle BI EE プレゼンテーション・カタログに発行して、さらに編集できます。

Smart View は、すべての Oracle BI EE コンテンツ・プロバイダ間でまとまりのある一貫したユーザー・エクスペリエンスを、Oracle BI EE に提供します。

Smart View の Oracle BI EE の機能およびコンポーネント

Smart View で Oracle BI EE データ・ソースに接続すると、次のアクションを実行できます:

- Oracle BI EE プレゼンテーション・サーバーへの接続
- Oracle BI EE プレゼンテーション・カタログのナビゲート
- Oracle BI EE の複数インスタンスへの接続および接続間での切替え
- 事前作成済み BI アンサー・ビューを、プレゼンテーション・カタログから Microsoft Excel、PowerPoint、Word にインポートします。たとえば、次のようなことができます。
  - ビュー - BI 表、BI ピボット・テーブルおよび BI グラフ - をリフレッシュおよび編集可能なオブジェクトとして Excel に挿入します

  - 同じ Office ドキュメントに異なる接続からビューを挿入します
  - Excel のフォーマットを BI データに適用します。フォーマットはリフレッシュしても保持されます
- Oracle BI EE ダッシュボードのコンテンツをコピーして、Smart View クライアント・ドキュメントに貼り付けます。データ、メタデータ、およびビューのレイアウトがコピーされます
- Oracle BI EE プレゼンテーション・サーバーをメタデータおよびデータのソースとして使用して、Excel に簡単なビューを作成します
- Smart View ドキュメントにインポートされたコンテンツに対して、ドリルやプロンプト選択などの操作を行います。
- Smart View のインポートされたコンテンツ(複数の接続からのコンテンツを含む)を管理します; たとえば、コンテンツのリフレッシュ、マスク、コピーと貼付け、および記録を行います
- Excel の Oracle BI EE オブジェクトから BI データをマスクして、ユーザーがログインしなければデータを表示できないようにします。マスクされたオブジェクトは、リフレッシュ時に表示できます。
- Visual Basic を使用したプログラム。詳細は、Oracle Smart View for Office Developer's Guide を参照してください。

主なコンポーネントは次のとおりです:

- リボン–Oracle BI EE のリボンには、Smart View でのビューの設計と発行、BI アンサーからのビューの挿入とコピーおよび貼付け、プロンプトの編集、マスキング・データ、編集およびプリファレンスの設定のための Oracle BI EE コマンドがあります。
- カタログ - カタログとは、Excel に挿入できる BI アンサーのダッシュボード、分析およびビューの展開可能なツリー・リストです。各分析を展開すると、その分析で使用可能なすべてのビューが表示されます。BI アンサーでサポートおよび定義されていて、権限を持っているビューのみが表示されます。カタログをリフレッシュすると、使用可能な分析およびビューの最新リストを表示できます。

Oracle BI EE 拡張機能の有効化

Smart View をインストールすると、Oracle BI EE 拡張機能が自動的に有効になります。

Oracle BI EE 拡張機能を無効化または再有効化する必要がある場合は、251 ページの「拡張機能」で示した手順を参照してください。

複数の Oracle BI EE データ・ソースへの接続

Oracle BI EE データ・ソースには、21 ページの「プライベート接続の作成」の説明に従い、プライベート接続を使用して接続します。共有接続を使用して接続する

には、25 ページの「XML ファイルからの共有接続へのアクセス」の説明に従い、ファイルに共有接続情報を保存する必要があります。

また、Smart View では、1 つの Office ワークシート、スライドまたはドキュメントにおいて、複数の Oracle BI EE プライベート接続がサポートされています。

たとえば、あるワークシートに、異なる 2 つの BI カタログから 2 つのグラフを挿入し、シートをリフレッシュできます。各グラフは、異なる 2 つのサーバーの最新データで更新されます。

Oracle BI EE バージョン 11.1.1.7.10 以降では、複数の接続がサポートされています。これより前のバージョンの Oracle BI EE に接続している場合、使用できるのは 1 つの接続のみです。

複数の Oracle BI EE サーバーに接続している場合は、次のことが可能です:

- Smart View パネルの接続間で切替えを行い、それぞれのカタログを参照できます。
- 同じ Office ドキュメントに異なる接続からビューを挿入できます。
- ビュー・デザイナが Smart View のリボンから起動され、Oracle BI EE のビューが選択されていない場合、ビュー・デザイナは、最後に使用した Oracle BI EE サーバーに接続されます。
- Smart View のリボンから貼付けを起動して、BI アンサーのコンテンツを貼り付ける場合、その貼付けアクションでは、最後に使用された Oracle BI EE 接続が使用されます。
- 異なる接続のビューを含むドキュメントをリフレッシュすると、ビューは、挿入元のサーバーに対してリフレッシュされます。
- Excel ワークシートごとに使用できる Excel ピボット・テーブルは、1 つのみです。また、Excel ピボット・テーブル・ビューは、常に新しいワークシートに挿入されます。データ・ソース接続が 1 つの場合も複数の場合も、これが既定の動作です。

➤ 複数の Oracle BI EE プライベート接続に接続するには:

1. **「Smart View ホーム」、または の横にある矢印をクリックすると表示されるメニューで、「プライベート接続」をクリックします**
2. **「プライベート接続」パネルで、ドロップダウン・メニューから接続を選択し、「データ・ソースに接続」にデータ・ソースのユーザー名およびパスワードを入力します。**

   Oracle BI EE カタログからビューを挿入したものと仮定します。手順 3 に進みます
3. **ワークシート、スライド、またはドキュメントの異なる部分にカーソルを移動します。**
4. **「プライベート接続」パネルで、ドロップダウン・メニューから別の接続を選択します。**
5. **「データ・ソースに接続」に、2 つ目のデータ・ソースのユーザー名およびパスワードを入力します。**

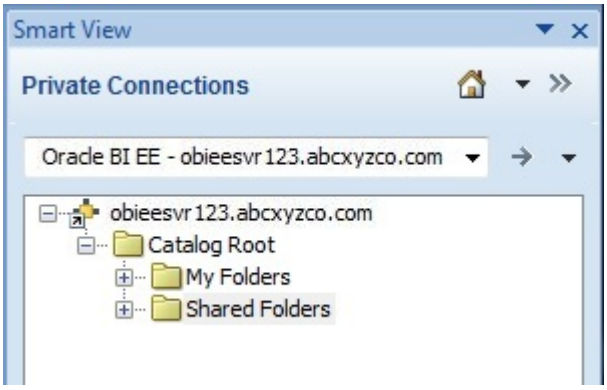
これで、新たに接続されたデータ・ソースから Office ドキュメントにビューを挿入できます

6 接続するその他のデータ・ソースに対して、手順 3 から手順 5 を繰り返します。

Oracle BI EE カタログ

Oracle BI EE プレゼンテーション・カタログは、カタログまたはカタログ・ツリーとも呼ばれ、Smart View パネルに表示されます。カタログ・ツリーには、「カタログのルート」というルート・ノードと、デフォルトで「マイ・フォルダ」および「共有フォルダ」という 2 つのフォルダが表示されます。

図 33 Oracle BI EE カタログまたはカタログ・ツリー



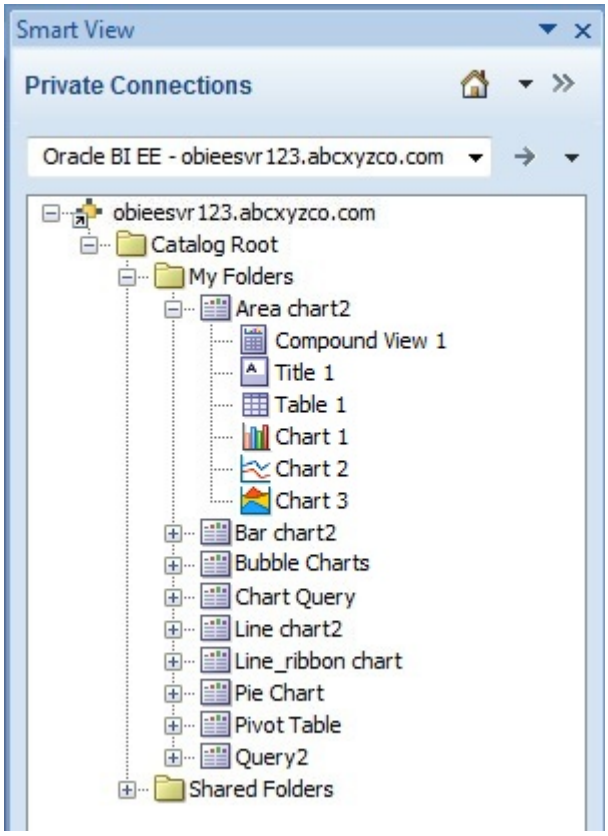
「マイ・フォルダ」に保存したアイテムは、フォルダを展開したときにのみ表示されます。他のユーザーが「マイ・フォルダ」に保存したアイテムは、それらのユーザーにのみ表示されます。

「共有フォルダ」に保存したアイテムは、BI コンシューマ権限でログオンしたすべてのユーザーが表示できます。BI コンシューマ権限を持っている場合、他のユーザーが「共有フォルダ」に保存したアイテムも表示できます。

➤ アクセスできるフォルダのプロパティ(フォルダ作成者の名前や作成日など)を表示するには、カタログ・ツリーでフォルダを右クリックして「フォルダ・プロパティの表示」を選択します。

カタログ・ツリーのフォルダには、Oracle BI EE と Smart View の両方の分析のリストと、作成されたサブフォルダが含まれます。図 34 に示すように、分析ノード(たとえば、「マイ・フォルダ」の「面チャート 2」)を展開すると、そこに保管されているビューのリスト(たとえば、「複合ビュー 1」や「表 1」)が表示されます。

図 34　分析ノードのビューが表示されているカタログ・ツリー



➤ 分析作成者の名前、作成日および更新日などを含む分析のプロパティを表示するには、カタログ・ツリーで分析を右クリックして「分析プロパティの表示」を選択します。

BI アンサーでは、編集する分析を選択できます。Smart View で作成されたビューの場合は、Smart View でそのビューを編集することも可能です。

➤ BI アンサーで分析を編集するには、カタログ・ツリーで分析を右クリックして「アンサーでの分析の編集」を選択します。

このオプションを選択すると、デフォルト・ブラウザが起動され、BI アンサーで分析編集ウィザードが開きます。BI アンサーにまだログオンしていない場合は、資格証明を入力できるログイン・ダイアログ・ボックスが表示されます。BI アンサーでビューを編集するには、BI コンシューマ権限が必要です。

➤ Smart View で分析を編集するには、カタログ・ツリーで分析を右クリックし、ビュー・デザイナで「起動」を選択します。

この場合、ビューは Smart View で作成されたものであることが必要です。編集するビューにアクセスするその他の方法は、225 ページの「ビュー・デザイナの起動」を参照してください。

カタログ・ツリーから、表ビュー、ピボット・テーブル・ビュー、グラフ・ビュー、タイトル、および複合ビューを Smart View に挿入することもできます。詳細は、202 ページの「Oracle BI EE の分析、ビューおよびダッシュボードの操作」を参照してください。

Oracle BI EE の分析、ビューおよびダッシュボードの操作

サブトピック

- サポートされている Oracle BI EE のビューおよびオブジェクト・タイプ
- 表とピボット・テーブルの挿入
- グラフの挿入
- 複合ビューの挿入
- ダッシュボードの挿入
- プロンプトの操作
- ページ・プロンプトの操作
- ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定
- ビューのリフレッシュ
- ビューのマスキング・データ
- Oracle BI EE オブジェクトのプロパティの表示
- Office アプリケーション間での Oracle BI EE オブジェクトのコピーと貼付け
- BI アンサーでの分析の編集
- Oracle BI から Office へのビューのコピーおよび貼付け
- ビューの編集

BI アンサーでは、分析は個々のビューで構成されており、ダッシュボードは分析と個々のビューで構成されています。

サポートされている Oracle BI EE のビューおよびオブジェクト・タイプ

次のビューを Smart View クライアント(Excel、PowerPoint、Word)にカタログから挿入するかコピーして貼り付けることができます。

- 表ビュー

  データは、BI アンサーの表示に似たフォーマット(ネイティブ・フォーマットとも呼ばれる)か、Excel 表のどちらかの表フォーマットで表示されます。

  「挿入」オプションを使用すると、すべての Smart View クライアントにネイティブ・フォーマットで表ビューを挿入できます。このフォーマットでは、ソートまたはフィルタ処理を実行できません。同じデータのセルは 1 つのセルにマージされます。

  Excel では、「Excel 表として挿入」コマンドを使用して、表ビューを Excel 表として挿入できます。このフォーマットでは、ソートやフィルタ処理などの詳細な分析操作を実行できます。

  注意:

  - Excel では、1 つのワークシートに複数の表を挿入できますが、既存の表の上に表を挿入することはできません。ただし、次を実行できます:
    - 表を置き換える場合は、表内の任意のセルを選択し、Oracle BI EE のリボンの「削除」ボタンをクリックします。その後、ワークシートに表を挿入します。

    - ワークシートに別の表を挿入する場合は、表ビュー以外の場所にあるセル、またはその他のビュー・オブジェクトを選択して、表を挿入します。
  - 表ビューおよび Excel 表ビューの一部のカスタム・フォーマットが Excel で認識されないため、そのビューを Excel に挿入する際にエラーが発生します。

- ピボット・テーブル・ビュー

  データは、BI アンサーで定義されたグループ化フォーマット(ネイティブ・フォーマットとも呼ばれる)で表示されます。ページ・アイテム・リストおよびグループ分割などの機能が保持されます。Excel のピボット・テーブル・フォーマットでデータを表示することもできます。

  「挿入」オプションを使用すると、すべての Smart View クライアントにネイティブ・フォーマットでピボット・テーブル・ビューを挿入できます。表ビューの挿入の場合と同様に、このフォーマットでは、ソートまたはフィルタ処理を実行できません。また、同じデータのセルは 1 つのセルにマージされます。

  Excel では、「Excel ピボットとして挿入」を使用すると、Excel ピボット・テーブルとしてピボット・テーブル・ビューを挿入することもできます。このフォーマットでは、ピボット、集計、ドリル、ソート、フィルタ処理などの詳細な分析操作を実行できます。

  注意:

  - Excel ピボット・テーブル・ビューを使用する場合、サポートされるのは、数値データ型のメジャー列を含むビューのみです。
  - Excel ワークシートごとに使用できる Excel ピボット・テーブルは、1 つのみです。また、Excel ピボット・テーブル・ビューは、常に新しいワークシートに挿入されます。データ・ソース接続が 1 つの場合も複数の場合も、これが既定の動作です。
  - ピボット・テーブル・ビューの一部のカスタム・フォーマットが Excel で認識されないため、そのビューを Excel に挿入する際にエラーが発生します。

- グラフ・ビュー

  データは、BI アンサーのグラフで定義されているグラフを Microsoft Office 2007 のチャートでサポートされているグラフ・タイプにマッピングして表示されます。

  「イメージとして挿入」オプションを使用すると、Smart View のクライアントに静的イメージとしてグラフを直接挿入できます。イメージを編集またはリフレッシュできません。

  すべての Smart View クライアントで「挿入」オプションを使用すると、グラフを編集およびリフレッシュできます。Smart View は、視覚効果(2D、3D)、キャンバスのサイズ、チャート・タイトル、サブタイトル、軸タイトル、凡例、凡例の位置、軸スケール、データ・フォーマット(数値、日付、通貨フォーマット)、タイトルおよびラベル・フォーマットなどのグラフ・プロパティを含め、BI アンサーのグラフ・スタイルにできるだけ厳密に一致させようとします。

一致する Office のチャート・タイプが使用できない場合は、グラフ・ビューをイメージとして挿入できます。210 ページの「サポートされている Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプ」と211 ページの「サポートされていない Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプ」を参照してください。

- **ゲージ・ビュー**および**ファンネル・グラフ・ビュー**

  BI アンサーでは、ゲージ・ビューとファンネル・グラフ・ビューはグラフ・ビューとは別のオブジェクト・タイプです。

  「イメージとして挿入」オプションを使用すると、Smart View のクライアントに静的イメージとしてゲージ・ビューとファンネル・ビューを直接挿入できます。イメージを編集またはリフレッシュできません。

- **タイトル・ビュー**

  レポートのタイトルが、BI アンサーのタイトル・ビューの一部である他の情報とともに表示されます。

  タイトル・ビューは通常、タイトル・テキスト、サブタイトル・テキスト、分析名、挿入日時、オプションのロゴ、オプションの URL (ヘルプ・リンクなど)で構成されています。タイトル・ビューは、1 つの Office オブジェクトとしてグループ化されたテキスト・ボックスとイメージの集合として Smart View クライアントに挿入されます。

- **複合ビュー**

  データは、様々なビューを組み合せて表示されます。

  Smart View クライアントに挿入される際に、複合ビューを構成するすべてのサポート対象ビューが挿入されます。ビューの各タイプ(表、ピボット・テーブル、グラフ、ゲージ、ファンネル、フィルタおよびタイトル)が、それぞれのデフォルト・フォーマットで Smart View クライアントに挿入されます。

  Word では、すべてのビューがそれぞれの横または下に挿入され、アクティブな Word 文書のページに挿入されます。

  Excel または PowerPoint では、1 つのシートまたはスライドにすべてのビューを挿入するか、別個のシートまたはスライドに各ビューを挿入するかを選択するためのプロンプトが表示されます。

表とピボット・テーブルの挿入

挿入できる行および列の最大数は、使用している Excel のバージョンによって異なります。ワークシートのサイズ制限の詳細は、Microsoft Excel のドキュメントを参照してください。

➤ 表またはピボット・テーブルを挿入するには:

1. **表またはピボット・テーブルを開始する Excel ワークシート、PowerPoint スライドまたは Word ページの場所にカーソルを合せます。**
2. **Oracle BI EE のプレゼンテーション・カタログで、表またはピボット・テーブルを右クリックします。**

3　次のいずれかを選択します:

- 「挿入」 - 選択した表ビューまたはピボット・テーブル・ビューが、BI アンサーで定義されたフォーマットで挿入されます。図 35 および図 36 を参照してください。

  BI アンサーで表またはピボット・テーブルに対してプロンプトが定義されている場合は、「プロンプト・セレクタ」・ダイアログ・ボックスが表示され、表示するデータを選択できます(それ以外の場合は、表またはピボット・テーブルが直接挿入されます)。最初の挿入後、Oracle BI EE のリボンの「プロンプトの編集」アイコンをクリックして、プロンプトを編集できます。詳細は、213 ページの「プロンプトの操作」を参照してください。

  表またはピボット・テーブルに対してページ・プロンプト(BI アンサーのビュー・プロンプト)が定義されている場合は、Oracle BI EE のリボンの「ページ・プロンプトの編集」をクリックして編集することもできます。215 ページの「ページ・プロンプトの操作」を参照してください。

  注意:

図 35　BI アンサーのフォーマットで表として挿入される表ビュー

	A	B	C
1	D1 Office	Guadalupe Office	
2			
3	1- Revenue	2- Billed Quantity	T05 Per Name Year
4	1218703.43	126416	2008
5	1218703.43 Total	126416	2008 Total
6	1140273.25	124481	2009
7	1140273.25 Total	124481	2009 Total
8	1412013.01	153615	2010
9	1412013.01 Total	153615	2010 Total
10			
11			
12	D1 Office	Figueroa Office	
13			
14	1- Revenue	2- Billed Quantity	T05 Per Name Year
15	1335360.24	144293	2008
16	1335360.24 Total	144293	2008 Total
17	1142302.6	118765	2009
18	1142302.60 Total	118765	2009 Total
19	1613498.14	173192	2010
20	1613498.14 Total	173192	2010 Total

図 36　BI アンサーのフォーマットでピボット・テーブルとして挿入されるピボット・テーブル

	A	B	C	D	E	F
1			2008		2009	
2			1- Revenue	2- Billed Quantity	1- Revenue	2- Billed Quantity
3	D1 Office	D2 Department				
4	Montgomery Office Total		409261.44	44404	474402.83	49612
5	Montgomery Office	Entertainment Dept.	409261.44	44404	474402.83	49612
6	Blue Bell Office Total		762007.79	76964	626768.91	69812
7	Blue Bell Office	Entertainment Dept.	762007.79	76964	626768.91	69812
8	Foster Office Total		665353.16	73453	499749.5	53700
9	Foster Office	Technology Dept.	665353.16	73453	499749.5	53700
10	Glenn Office Total		380957.44	41450	335018.03	35817
11	Glenn Office	Technology Dept.	380957.44	41450	335018.03	35817
12	Tellaro Office Total		572256.65	62393	470830.43	51801
13	Tellaro Office	Technology Dept.	572256.65	62393	470830.43	51801
14	Madison Office Total		472503.56	51717	410123.97	47135
15	Madison Office	Translated Products	472503.56	51717	410123.97	47135
16	Eden Office Total		531569.71	62894	502306.03	54444
17	Eden Office	Translated Products	531569.71	62894	502306.03	54444
18	Sherman Office Total		780186.36	84984	680636.06	75006
19	Sherman Office	Translated Products	780186.36	84984	680636.06	75006

Smart View クライアントでは、表はグリッド形式で表示されます。

- 「Excel 表として挿入」(表ビューのみ) - 選択した表ビューは Excel 表として挿入されます。ページ・プロンプト・エッジおよびセクション・エッジの列(存在する場合)は、ドロップダウン見出しとして表上部に移動されます。Excel の操作を使用してフィルタ処理、式の定義、ソートおよび他の Excel タスクを実行する場合は、このオプションを選択します。

  表ビューが Excel 表として挿入されると、BI アンサーで定義されたプロンプトは使用できません。

  選択した表はワークシートに挿入されます。図 37 を参照してください。

図 37　Excel 表として挿入される表ビューの部分

	A	B	C	D	E
1	T05 Per Name Year	D1 Office	D2 Department	2- Billed Quantity	1- Revenue
2	2008	Montgomery Office	Entertainment Dept.	44404	409261.44
3	2008	Blue Bell Office	Entertainment Dept.	76964	762007.79
4	2008	Foster Office	Technology Dept.	73453	665353.16
5	2008	Glenn Office	Technology Dept.	41450	380957.44
6	2008	Tellaro Office	Technology Dept.	62393	572256.65
7	2008	Madison Office	Translated Products	51717	472503.56
8	2008	Eden Office	Translated Products	62894	531569.71
9	2008	Sherman Office	Translated Products	84984	780186.36
10	2008	Casino Office	Test Programs Dept.	77474	739129.6
11	2008	Merrimon Office	Test Programs Dept.	55194	526620.06
12	2008	Perry Office	Equipment Dept.	109600	1095278.63
13	2008	Eiffel Office	Equipment Dept.	131681	1172037.85
14	2008	Spring Office	Operations Dept.	119880	1136782.66
15	2008	Mills Office	Operations Dept.	73890	713164.64
16	2008	College Office	Surplus Dept.	117934	1072744.45

- 「Excel ピボットとして挿入」(ピボット・テーブル・ビューのみ) - 選択したピボット・テーブル・ビューは Excel ピボット・テーブルとして挿入されます。ページ・エッジおよびセクション・エッジの列(存在する場合)は、レポート・フィルタ領域にマップされ、メジャー・エッジの列は値領域に移動されます。集約、ピボット、ドリル、ソート、フィルタ処理などの詳細な分析を実行する場合は、このオプションを選択します。

  選択した表またはピボット・テーブルがワークシートに挿入されます。図 38 を参照してください。

  注意:

  - ピボット・テーブル・ビューが Excel ピボット・テーブルとして挿入されると、BI アンサーで定義されたプロンプトは使用できません。
  - Excel ピボット・テーブル・ビューを使用する場合、サポートされるのは、数値データ型のメジャー列を含むビューのみです。
  - Excel ワークシートごとに使用できる Excel ピボット・テーブルは、1 つのみです。また、Excel ピボット・テーブル・ビューは、常に新しいワークシートに挿入されます。データ・ソース接続が 1 つの場合も複数の場合も、これが既定の動作です。

図 38　Excel ピボット・テーブルとして挿入されるピボット・テーブル

	A	B	C	D	E	F	G
1				T05 Per Name Year			
2	D1 Office	D2 Department	Data	2008	2009	2010	Grand Total
3	Blue Bell Office	Entertainment Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	76964	69812	85062	231838
4			Sum of 1- Revenue	762007.79	626768.91	801073.08	2189849.78
5	Blue Bell Office Sum of 2- Billed Quantity			76964	69812	85062	231838
6	Blue Bell Office Sum of 1- Revenue			762007.79	626768.91	801073.08	2189849.78
7	Casino Office	Test Programs Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	77474	66313	88807	232594
8			Sum of 1- Revenue	739129.6	594498.95	846609.99	2180238.54
9	Casino Office Sum of 2- Billed Quantity			77474	66313	88807	232594
10	Casino Office Sum of 1- Revenue			739129.6	594498.95	846609.99	2180238.54
11	College Office	Surplus Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	117934	104384	115288	337606
12			Sum of 1- Revenue	1072744.45	974454.3	1150437.44	3197636.19
13	College Office Sum of 2- Billed Quantity			117934	104384	115288	337606
14	College Office Sum of 1- Revenue			1072744.45	974454.3	1150437.44	3197636.19
15	Copper Office	Local Plants Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	112428	98158	124486	335072
16			Sum of 1- Revenue	994751.43	924933.74	1159553.05	3079238.22
17	Copper Office Sum of 2- Billed Quantity			112428	98158	124486	335072
18	Copper Office Sum of 1- Revenue			994751.43	924933.74	1159553.05	3079238.22
19	Eden Office	Translated Products	Sum of 2- Billed Quantity	62894	54444	65983	183321

224 ページの「ビューの編集」の説明に従って、表およびピボット・テーブルを編集できます。

グラフの挿入

Smart View は、グラフを挿入する際、BI アンサーのグラフを Microsoft Office 2007 のチャートでサポートされるチャート・タイプにマップしようとします。さらに、Smart View は、2D または 3D といった視覚効果や、キャンバス・サイズ、軸スケール、データ・フォーマット、フォントのスタイルや色の条件のフォーマットなどのグラフ・プロパティを一致させようとします。

一致するチャート・タイプがない場合は、グラフ・ビューがイメージとしてのみ挿入される場合があります。

210 ページの「サポートされている Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプ」と211 ページの「サポートされていない Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプ」を参照してください。

Windows システム・ロケールとデータのフォーマット

Oracle BI EE データ・ソースを操作する際に Windows システム・ロケールが一致しないと、フォーマットは無視され、プレーン・データがレンダリングされます。

適用可能な Windows システム・ロケールは次のとおりです:

- Smart View の言語オプション
- Microsoft Office の言語
- Windows の地域の設定

これらの 3 つのロケールを一致させて、あらゆるデータ(数値、日付、通貨、パーセンテージ)が正しく解釈されるようにする必要があります。

ロケールの不一致が発生した場合、Smart View・ログは次のような警告を示します: ロケールの不一致が検出されましたチャートでは未フォーマットのデータ値が使用されます。

➤ グラフを挿入するには:

1 **カタログから、グラフ・ビューを右クリックします。**

2 **オプションを選択します:**

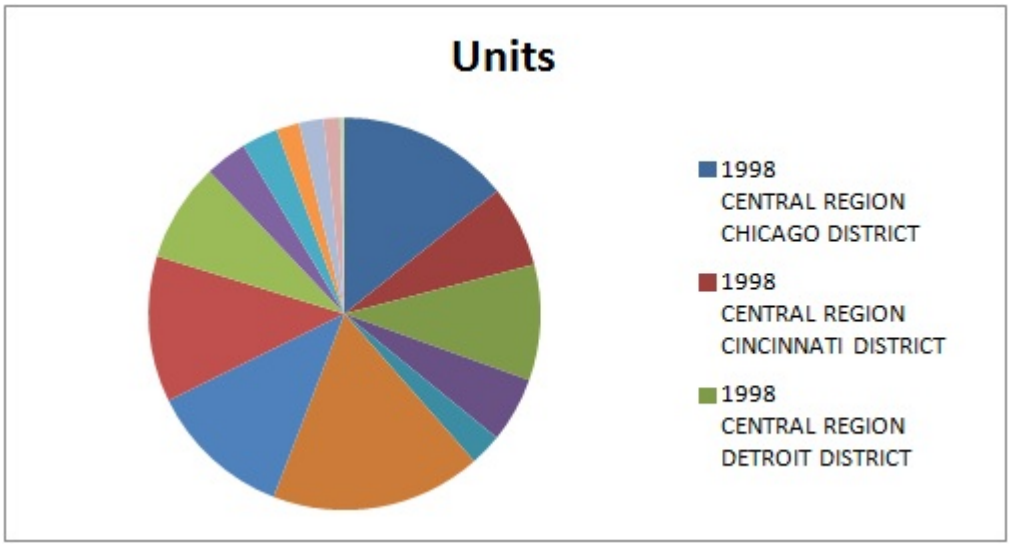
- 「挿入」–選択したグラフが、編集、マスク、リフレッシュが可能な Excel チャートとして挿入されます。

  BI アンサーでグラフに対してプロンプトが定義されている場合は、「プロンプト・セレクタ」・ダイアログ・ボックスが表示され、表示するデータを選択できます(それ以外の場合は、グラフが直接挿入されます)。最初の挿入後、Oracle BI EE のリボンの「プロンプトの編集」アイコンをクリックして、プロンプトを編集できます。213 ページの「プロンプトの操作」を参照してください。

  グラフに対してページ・プロンプト(BI アンサーのビュー・プロンプト)が定義されている場合は、Oracle BI EE のリボンの「ページ・プロンプトの編集」をクリックして編集することもできます。詳細は、213 ページの「プロンプトの操作」を参照してください。

  この分析に対してプロンプトが定義されていない場合は、グラフが直接挿入されます。詳細は、図 39 を参照してください。

図 39　Excel チャートとして挿入された円グラフ・ビュー



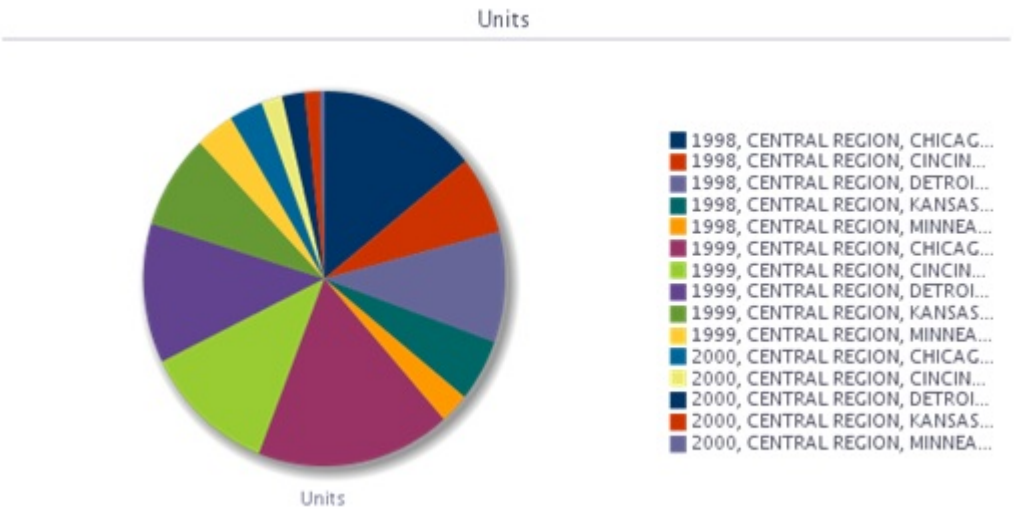
  224 ページの「ビューの編集」の説明に従って、この方法で挿入されたグラフを編集できます。

- 「イメージとして挿入」 - 選択したグラフがグラフのイメージとして挿入され、編集またはカスタマイズできません。

  グラフがイメージとして直接挿入されると、BI アンサーで定義されたプロンプト、ページ・プロンプトおよびセクションは使用できません。

  ゲージ・ビューおよびファンネル・オブジェクトの挿入は、「イメージとして挿入」コマンドを使用してのみ実行できます。

図 40　イメージとして挿入された円グラフ・ビュー



挿入された後は、表示されるグラフのタイプが Excel チャートでもイメージでも、拡大してサイズを変更できます。

サポートされている Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプ

次のチャート・サブタイプがサポートされています:

- 折れ線
- 棒: 縦棒、横棒、積上げ縦棒、積上げ横棒、100%積上げ縦棒、100%積上げ横棒
- 面: 積上げ、100%積上げ
- 円グラフ
- バブル
- 散布
- 折れ線と棒の組合せ: 標準、積上げ
- レーダー

次のグラフは、イメージとしてのみ挿入できます。

- 時系列折れ線
- パレート
- ウォーターフォール

次のオブジェクトは、イメージとしてのみ挿入できます。

- ゲージ
- ファンネル

サポートされていない Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプ

次のビュー・タイプはサポートされていません:

- パフォーマンス・タイル
- トレリス・ビュー
- マップ・ビュー
- フィルタ・ビュー - カタログ・ツリーの「分析プロパティの表示」コマンドを使用すると、フィルタ・ビューのプロパティのみ表示できます。
- 選択ステップ
- 列セレクタ
- ビュー・セレクタ
- 凡例
- ナレーティブ
- ティッカ
- 静的テキスト
- 論理 SQL
- セグメントの作成
- ターゲット・リストの作成
- 静的テキスト、ティッカまたは HTML ビュー
- スコアカード
- KPI または KPI ウォッチリスト

複合ビューの挿入

➤ 複合ビューを挿入するには:

1 **カタログから、挿入する複合ビューを選択します。**

2 **右クリックし、「すべてのビューを挿入」を選択します。**

3 **プロンプトが表示されたら、オプションを選択します:**

- 「シート/スライドごとに 1 つのオブジェクト」を選択して、別個の Excel シートまたは PowerPoint スライドに複合ビューの各オブジェクトを挿入します。
- 「1 つのシート/スライドにすべてのオブジェクト」を選択して、1 つの Excel シートまたは PowerPoint スライドにすべてのオブジェクトを表示します。

Word では、オブジェクトはその他のオブジェクトの横および下にシートが埋まるまで配置され、これがすべてのオブジェクトを保持するために必要なシートの数だけ続きます。

表、ピボット・テーブル、およびグラフ・ビュー・タイプに対しては、デフォルト表示が選択されます。つまり、自動的に「挿入」アクションが使用されます。

複合ビューにサポートされていないビュー・タイプがあると、メッセージで通知されます。サポートされていないビュー・タイプは挿入されません。

注： 「リフレッシュ」を実行して、選択したビューのプロンプトおよびページ・プロンプトを編集できます。複合ビューで選択されていないビューは変更されません。217 ページの「ビューのリフレッシュ」、213 ページの「プロンプトの操作」および215 ページの「ページ・プロンプトの操作」を参照してください。

ダッシュボードの挿入

ダッシュボードは、プレゼンテーション・カタログにフォルダとして表示されます。ダッシュボード・フォルダを展開するとダッシュボード・ページを表示でき、ダッシュボード・ページを展開するとそのページに含まれている分析のリストを表示できます。Excel、PowerPoint および Word にダッシュボード・ページを挿入できます。

➤ Office アプリケーションにダッシュボード・ページを挿入するには:

1 **カタログからダッシュボード・ページを右クリックして、「すべてのビューを挿入」を選択します。**

2 **プロンプトが表示されたら、オプションを選択します:**

- 「シート/スライドごとに 1 つのオブジェクト」を選択して、別個の Excel シートまたは PowerPoint スライドにダッシュボードの各オブジェクトを挿入します。
- 「1 つのシート/スライドにすべてのオブジェクト」を選択して、1 つの Excel シートまたは PowerPoint スライドにすべてのオブジェクトを表示します。

Word では、オブジェクトはその他のオブジェクトの横および下にシートが埋まるまで配置され、これがすべてのオブジェクトを保持するために必要なシートの数だけ続きます。

表、ピボット・テーブル、およびグラフ・ビュー・タイプに対しては、デフォルト表示が選択されます。つまり、自動的に「挿入」アクションが使用されます。

サポートされていないビュー・タイプがダッシュボードにあると、メッセージで通知されます。サポートされていないビュー・タイプは挿入されません。

注： 「リフレッシュ」を実行して、選択したビューのプロンプトおよびページ・プロンプトを編集できます。ダッシュボードから選択されていないビューは変更されません。217 ページの「ビューのリフレッシュ」、213 ページの「プロンプトの操作」および215 ページの「ページ・プロンプトの操作」を参照してください。

プロンプトの操作

プロンプトでは、挿入する分析の内容を判断する基準を指定できます。Smart View は、プロンプトとページ・プロンプトの両方をサポートします。ページ・プロンプトについては、215 ページの「ページ・プロンプトの操作」も参照してください。

Smart View のプロンプトは、BI アンサーのプロンプトと同等です。Smart View では、列プロンプトのみがサポートされています。

プロンプトは、分析のすべてのビューに影響します。たとえば、分析の「年」にプロンプトを設定できます。このプロンプトは、分析内のすべてのビューに影響します。

BI アンサーで分析にプロンプトが定義されている場合、その分析から Smart View へ表、ピボット・テーブル、およびグラフ・ビューを挿入すると、表示するデータを選択するためのプロンプトが表示されます。

たとえば、「年」のプロンプトが分析に指定されていて、2010、2011 および 2012 年から選択できるとします。表、ピボット・テーブル、またはグラフを挿入すると、データを表示する年(2010、2011 または 2012)を選択するためのプロンプトが表示されます。挿入後、プロンプトを編集し、別の年のデータを選択してすべてのビューに表示することができます。

挿入、またはコピーおよび貼り付けられたビューのプロンプトを編集できます。

注： BI アンサーで階層列に定義されているプロンプトは、Smart View ではサポートされません。

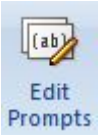
➤ プロンプトを編集するには:

1 **ワークシートでビューを選択します:**

- グラフ・ビュー - グラフを選択します。
- 表およびピボット・テーブル・ビュー--表内のセルを選択します。

2 **Oracle BI EE のリボンから、「プロンプトの編集」ボタンを選択し、元の選択を表示します。**

図 41 「プロンプトの編集」ボタン



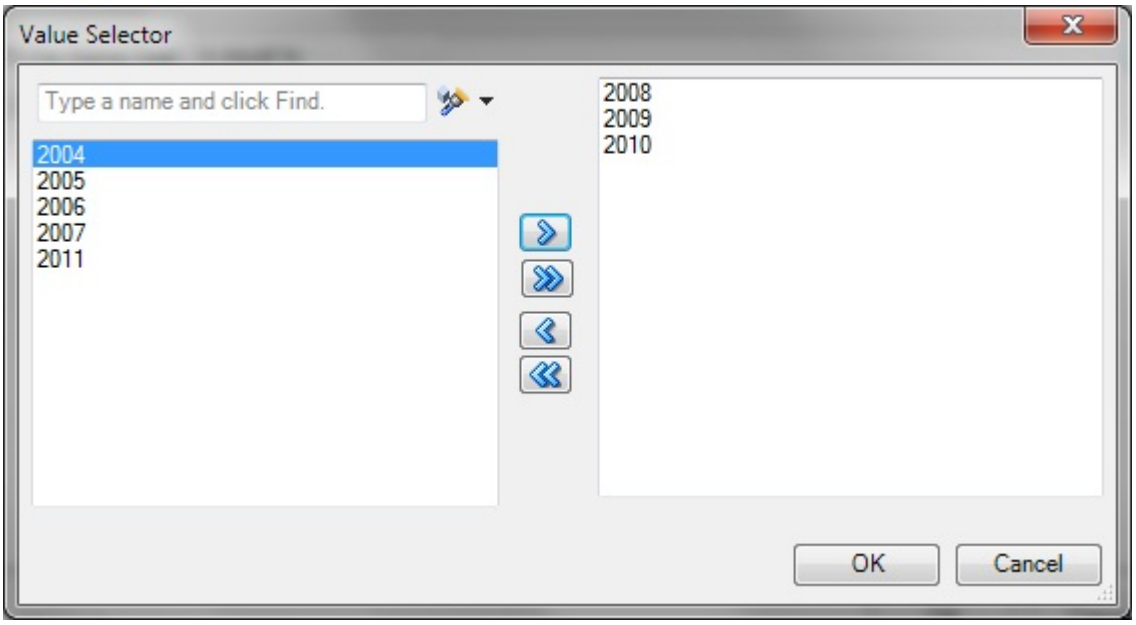
BI サーバーでレポート定義が変更された場合、選択内容はリセットされているため、すべてのプロンプトと列を再度選択する必要があります。

3 **「プロンプト・セレクタ」で、プロンプト選択を変更します。**

BI アンサーでのプロンプトの設定方法によっては、「プロンプト・セレクタ」のドロップダウン・リストからオプションを直接選択できます。「値セレクタ」・ダイアログ・ボックスから値を選択することもできます。

図 42 に、2008、2009 および 2010 年が表示用に選択されている「値セレクタ」ダイアログ・ボックスの例を示します。

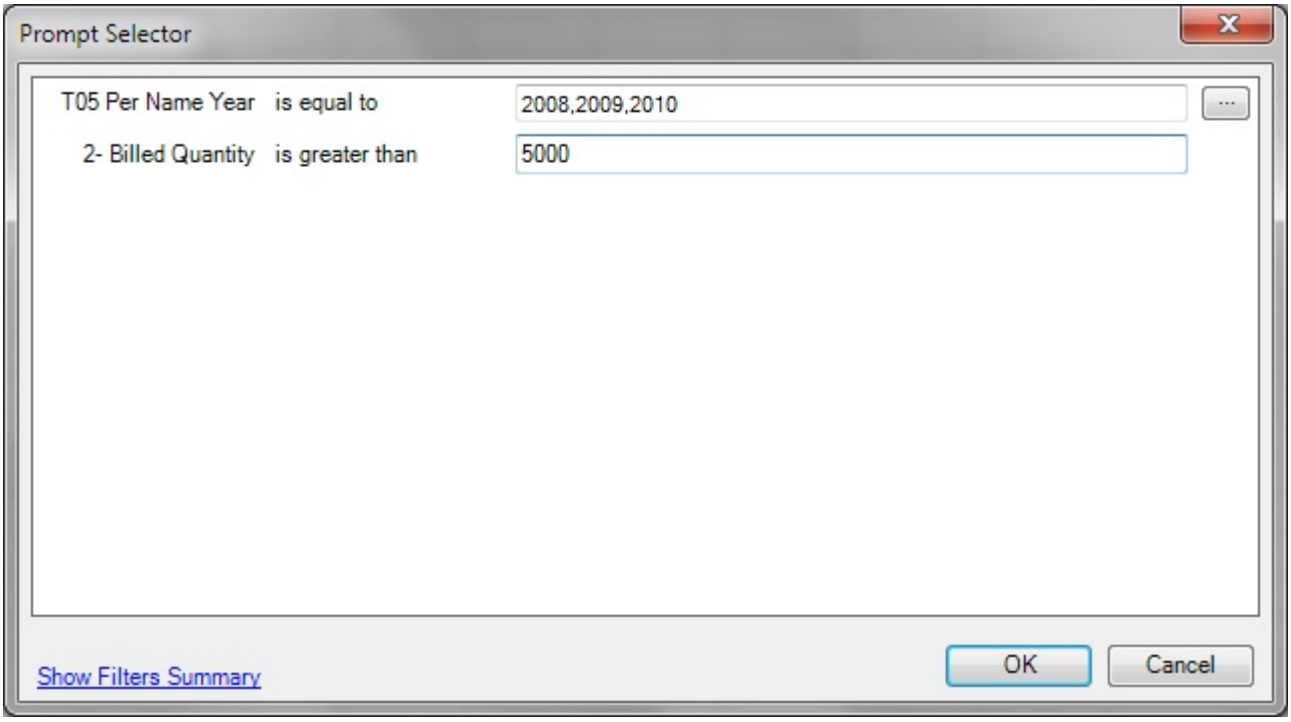
図 42　2008、2009 および 2010 年が選択された値セレクタ・ダイアログ・ボックス



「値セレクタ」で「OK」をクリックすると、「プロンプト・セレクタ」の例の 1 つ目のプロンプトに、選択内容が移入されます。「プロンプト・セレクタ」の例の 2 つ目のプロンプトには、金額を直接入力する必要があります。この例では、表示する金額は、$5,000 を超える請求済数量です。

入力後の「プロンプト・セレクタ」・ダイアログは、図 43 のようになります。

図 43　入力済のプロンプト・セレクタ



4 「OK」をクリックして「プロンプト・セレクタ」を閉じます。

選択した後に「OK」をクリックすると、ビューがすぐにリフレッシュされて選択内容が反映されます。

5 この手順を繰り返してプロンプトを編集し、表示される出力を変更します。

ページ・プロンプトの操作

ページ・プロンプトでは、挿入されたビューの内容を判断する基準を指定できます。Smart View は、ページ・プロンプトとプロンプトの両方をサポートします。213 ページの「プロンプトの操作」も参照してください。

Smart View の**ページ・プロンプト**は、BI アンサーのビュー・プロンプトに相当します。ビュー・プロンプトは、分析内の個々のビューに指定されます。Smart View では、BI アンサーの表プロンプト、グラフ・プロンプト、ゲージ・プロンプトがサポートされています。これらのプロンプトのタイプは、Smart View ではページ・プロンプトと呼ばれます。

ページ・プロンプトは、分析内のビューごとに異なる場合があります。分析内の個別の表ビューに年のページ・プロンプトを設定し、同じ分析内のピボット・テーブル・ビューに事業部門のページ・プロンプトを設定することができます。

ページ・プロンプトを含むビューを初めて挿入すると、ビューの状態がデフォルトで選択されます。たとえば、分析内の特定のビューに年のプロンプトが指定されており、2010、2011、2012 から選択できる場合、挿入時にこれらに対するプロンプトは表示されません。かわりに、ビューのデフォルトの状態が挿入されます。たとえば、選択可能な年のリストで最初の年である、2010 のデータが自動的に挿入されます。その後、ページ・プロンプトを編集し、別の年のデータを選択してこのビューに表示することができます。

挿入、またはコピーして貼り付けられたビューのページ・プロンプトを編集できます。

➤ ページ・プロンプトを編集するには:

1 ワークシートでビューを選択します:

- グラフ・ビュー - グラフを選択します。
- 表およびピボット・テーブル・ビュー–表内の任意のセルを選択します。

2 Oracle BI EE のリボンから、「ページ・プロンプトの編集」ボタンを選択し、特定ビューに対するデフォルトのページ・プロンプトの選択内容を表示します。

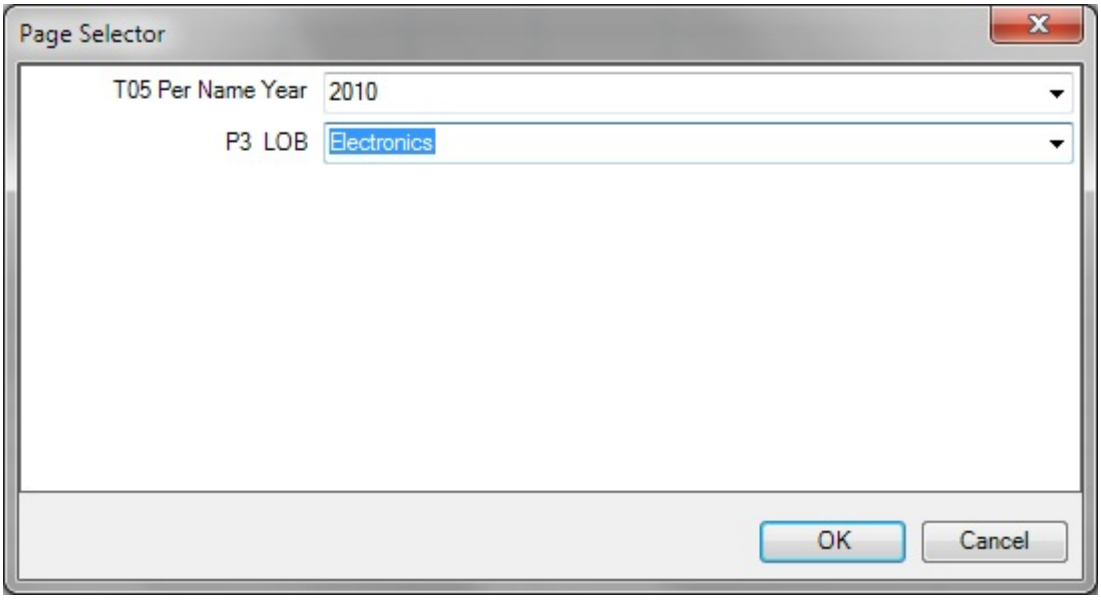
図 44 「ページ・プロンプトの編集」ボタン

BI サーバーでレポート定義が変更された場合、選択内容はリセットされているため、すべてのページ・プロンプトを再度選択する必要があります。

3 「ページ・セレクタ」で、ドロップダウン・リストから選択してページ・プロンプトの選択を変更します。

図 45 に、年と事業部門が選択された「ページ・セレクタ」ダイアログ・ボックスを表示します。この例では、年は 2010、事業部門は電子機器が選択されています。

図 45　入力されたページ・セレクタ



4 「OK」をクリックして「ページ・セレクタ」を閉じます。

選択した後に「OK」をクリックすると、ビューがすぐにリフレッシュされて選択内容が反映されます。

5 この手順を繰り返してページ・プロンプトを編集し、表示される出力を変更します。

ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定

リフレッシュ・プリファレンスはビューごとに使用できます。ワークシート、スライドまたはページの各ビューに設定したリフレッシュ・プリファレンスは、Office ドキュメント(Excel ワークブック、PowerPoint スライド・プレゼンテーションまたは Word 文書)とともに保存されます。

➤ ビューのリフレッシュ・プリファレンスを指定するには:

1 1 つ以上の Oracle BI EE ビューが Smart View に挿入されていることを確認します。

2 「ドキュメント・コンテンツ」で、 をクリックしてペインのコンテンツをリフレッシュします。

アクティブな Office アプリケーションに挿入されたすべてのビューが「ドキュメント・コンテンツ」にツリー形式で表示されます。

3 「ドキュメント・コンテンツ」でビューを選択し、「プロパティ」を選択します。

4 「プロパティ」で、「リフレッシュ・プリファレンス」から次のいずれかのオプションを選択します:

- 「データのリフレッシュ」 - 選択したビューまたは分析のデータ・ポイントのみがリフレッシュされます。

  シート、スライドまたはページのフォーマットに対する変更は保持されます。

- 「ビューの置換」 - BI アンサーに設定されたフォーマット変更を含め、ビュー全体が置換されます。

  このオプションを選択すると、ビュー定義が変更された場合、プロンプトおよびグラフの選択内容とカスタム・フォーマットがリフレッシュ時に失われます。

  注： Oracle BI EE のタイトル・ビューはリフレッシュ・アクションに含まれないため、タイトル・ビューに加えたすべてのカスタマイズは、ワークシートまたはワークブックをリフレッシュしても保持されます。

- 「リフレッシュしない」–リフレッシュが許可されません。

5 「OK」をクリックして、「リフレッシュ・プリファレンス」の選択内容を保存します。

217 ページの「ビューのリフレッシュ」に進みます。

ビューのリフレッシュ

挿入されたビューの BI データをリフレッシュできます。次のように、Office ドキュメント・タイプに応じて、選択したビューまたはすべてのビューをリフレッシュできます。

Excel

- 個々のビュー
- 個々のワークシート
- ワークブック全体

PowerPoint

- 個々のビュー
- 個々のスライド
- プレゼンテーション全体

Word

- 個々のビュー
- ドキュメント全体

「ドキュメント・コンテンツ」ペイン、「Oracle BI EE」リボンまたは「Smart View」リボンからビューをリフレッシュできます。

リフレッシュ・アクションは、選択したビューに設定されているプリファレンスのリフレッシュに従って制限されます。詳細は、216 ページの「ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定」を参照してください。

リフレッシュする際、タイトル・ビューはリフレッシュ・アクションに含まれないため、タイトル・ビューに加えたすべてのカスタマイズは、Office ドキュメントをリフレッシュしても保持されます。

➤ 「ドキュメント・コンテンツ」ペインから「Oracle BI EE」ビューをリフレッシュするには:

1 **「ドキュメント・コンテンツ」で、ドロップダウン・リスト・ボックスに「Oracle BI EE - ドキュメント階層」が表示されていることを確認します。**

2 **「ドキュメント・コンテンツ」で をクリックしてツリーのコンテンツをリフレッシュします。**

「ドキュメント・コンテンツ」から、すべての Office アプリケーションにおける個々のビュー、個々のワークシートおよび個々のスライドをリフレッシュできます。

3 **次のいずれかのアクションを行います:**

- Excel のシート、PowerPoint のスライドまたは Word 文書で選択したビューをリフレッシュするには、「ドキュメント・コンテンツ」でツリーからビュー・オブジェクトを選択し、右クリック・メニューから「ビューのリフレッシュ」アクションを選択するか、ペインの下部で「ビューのリフレッシュ」リンクをクリックします。

  リフレッシュするビューごとに繰り返します。

- 選択した Excel ワークシートまたは PowerPoint スライドのすべての Oracle BI EE ビューをリフレッシュするには、「ドキュメント・コンテンツ」でツリーからシートまたはスライドを選択し、右クリック・メニューから「リフレッシュ」アクションを選択するか、ペインの下部で「リフレッシュ」リンクをクリックします。

  リフレッシュするシートまたはスライドごとに繰り返します。

➤ リボンを使用して、ワークシートまたはスライドのすべての Oracle BI EE ビュー、あるいは Word 文書全体をリフレッシュするには:

1 **次のいずれかのアクションを行います:**

- アクティブにするワークシートまたはスライドを選択します。
- Word 文書にカーソルを置いて選択します。

2 **Oracle BI EE リボンまたは Smart View リボンの「リフレッシュ」をクリックします。**

➤ Excel ワークブック、PowerPoint プレゼンテーションまたは Word 文書のすべての Oracle BI EE ビューをリフレッシュするには:

1 **ワークブック、プレゼンテーションまたは文書内の任意の場所にカーソルを置いて選択します。**

2 **次のいずれかのアクションを行います:**

- Excel ワークブックのすべての Oracle BI EE ビューをリフレッシュするには、Smart View リボンにある「リフレッシュ」の下矢印をクリックし、「すべてのワークシートのリフレッシュ」を選択します。図 46 に、矢印が表示された「リフレッシュ」アイコンを示します:

  図 46　Excel および PowerPoint における下矢印が表示された「リフレッシュ」アイコン

  または、Oracle BI EE リボンにある「リフレッシュ」で下矢印をクリックし、「ワークブック・データのリフレッシュ」を選択します。

- PowerPoint プレゼンテーションのすべての Oracle BI EE ビューをリフレッシュするには、Smart View リボンにある「リフレッシュ」の下矢印をクリックし、「すべてのスライドのリフレッシュ」を選択します。

  または、Oracle BI EE リボンにある「リフレッシュ」で下矢印をクリックし、「プレゼンテーション・データのリフレッシュ」を選択します。

- Word 文書のすべてのビューをリフレッシュするには、Oracle BI EE リボンまたは Smart View リボンの「リフレッシュ」をクリックします。図 47 に示すように、Word の「リフレッシュ」アイコンに下矢印は表示されません

  図 47　Word の「リフレッシュ」アイコン

注： 要求された場合は、Oracle BI EE の資格証明を入力します。

ビューのマスキング・データ

Office ドキュメントに挿入した Oracle BI EE ビューおよびビュー・デザイナを使用して作成したビューのデータをマスクできます。マスキング・データのオプション:

- 選択されたビュー
- シートまたはスライドのすべてのビュー
- Office ドキュメントのすべてのビュー

Smart View のマスク・データ機能を使用すると、次のアクションを実行できます:

- Excel のシートまたは PowerPoint のスライドで単一の Smart View オブジェクトを選択し、そのオブジェクトのデータのみをマスク
- アクティブな Excel ワークシートまたは PowerPoint スライドのデータをマスク

- アクティブなワークブック、プレゼンテーション、Word 文書のデータをマスク

データのマスクは次の場所から呼び出すことができます:

- Smart View パネルのドキュメント・コンテンツ
- Oracle BI EE のリボン

個別のビューでのマスキング・データ

➤ Excel ワークシートまたは PowerPoint スライドの個別のビューでデータをマスクするには:

1 **Excel または PowerPoint で、「ドキュメント・コンテンツ」の → をクリックし、ツリーの内容をリフレッシュします。**

注： Word 文書のデータは、全体のマスクのみ可能です。Word では、個々のビューのデータはマスクできません。

2 **「ドキュメント・コンテンツ」で、マスクするデータを含むビューを見つけ、それを選択します。**

3 **「ドキュメント・コンテンツ」で「データのマスク」リンクをクリックします。**

表オブジェクトでは、セルが「リフレッシュが必要」というテキストに置き換えられます。グラフでは、エリアが空白になり、小さな鍵のイメージが表示されます。

4 **現在のワークブックまたはプレゼンテーションを保存します。**

ビューのマスク状態は保存後も変りません。

5 **マスクされたビューでデータを表示するには、「ドキュメント・コンテンツ」の → をクリックし、ツリーからビューを選択して、「ビューのリフレッシュ」リンクをクリックします。**

シートまたはスライドのマスキング・データ

➤ Excel ワークシートまたは PowerPoint スライドのデータをマスクするには:

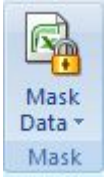
1 **シートまたはスライドを選択する方法を選択します:**

- シートまたはスライドに直接カーソルを置きます。
- 「ドキュメント・コンテンツ」で → をクリックし、ツリーでシートまたはスライドを見つけて、それを選択します。

2 **選択したシートまたはスライドのすべてのオブジェクトのデータをマスクする方法を選択します:**

- Oracle BI EE のリボンで、「データのマスク」ボタンをクリックします。

図 48 「データのマスク」ボタン



- 「ドキュメント・コンテンツ」で「データのマスク」リンクをクリックします。

シートまたはスライドのデータがマスクされます。

注： Word 文書のデータは、全体のマスクのみ可能です。Word では、個々のページのデータはマスクできません。

3 現在のワークブックまたはプレゼンテーションを保存します。

シートまたはスライドのマスク状態は保存後も変りません。

4 マスクされたシートまたはスライドでデータを表示するには、「ドキュメント・コンテンツ」の をクリックし、ツリーからシートまたはスライドを選択して、「リフレッシュ」リンクをクリックします。

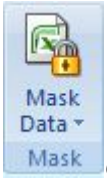
または、リフレッシュするシートまたはスライドにカーソルを置き、

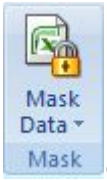
をクリックします。

Office ドキュメント全体でのマスキング・データ

➤ Office ドキュメント全体でデータをマスクするには:

1 開いている Office ドキュメントで、Oracle BI EE のリボンから、次のアクションを実行します:

- **Excel:** 

の下矢印をクリックし、「ワークブック・データのマスク」を選択します。
- **PowerPoint:** 

の下矢印をクリックし、「プレゼンテーション・データのマスク」を選択します。
- **Word:**

をクリックします。

注： Word 文書は全体のみをマスクできます。Word では、個々のページはマスクできません。

2 **現在の Office ドキュメントを保存します。**

ワークブック、プレゼンテーションまたは文書のマスク状態は保存後も変りません。

3 **マスクされたデータを表示するには、「ドキュメント・コンテンツ」の をクリックし、ツリーからシート、スライド、または文書を選択して、「リフレッシュ」リンクをクリックします。**

または、リフレッシュするシート、スライド、または文書にカーソルを置き、Refresh をクリックします。

Oracle BI EE オブジェクトのプロパティの表示

選択したワークシート、スライド、文書、またはビューの様々なプロパティを表示できます。

➤ Oracle BI EE オブジェクトのプロパティを表示するには:

1 **Oracle BI EE オブジェクトを選択します。**

シートやスライドではなく、実際のオブジェクトを選択します。

2 **「ドキュメント・コンテンツ」ペインの下部の「プロパティ」リンクをクリックします。**

Office アプリケーション間での Oracle BI EE オブジェクトのコピーと貼付け

次の手順で、Oracle BI EE オブジェクトを Office アプリケーション内または Office アプリケーション間でコピーできます:

- グラフは、任意の Office アプリケーション内および Office アプリケーション間でコピーできます。
- 表とピボット・テーブルは、Word および PowerPoint 内と Word および PowerPoint 間でコピーできます。
- 表とピボット・テーブルは、Excel 内、Excel から別の Office アプリケーション、別の Office アプリケーションから Excel へコピーできません。
- 表とピボット・テーブルは、セクションとしてのみコピーと貼付けができます。

グラフ・ビューのコピーと貼付け

➤ グラフ・ビューをコピーして貼り付けるには:

1 **Excel、Word、または PowerPoint で、コピーするグラフ・ビューを選択します。**

ドキュメント・コンテンツを使用してビューを検索することもできますが、シート、スライド、またはページでグラフは直接選択します。

2 「Oracle BI EE」のリボンで、Copy をクリックします。

3 **Office アプリケーションにアクセスし、グラフ・ビューを貼り付ける位置にカーソルを置きます。**

たとえば、Office アプリケーション内で貼り付ける場合(または、Excel からコピーして PowerPoint に貼り付ける場合は PowerPoint を開き)、Office ドキュメントでオブジェクトを貼り付ける位置にカーソルを置きます。

4 Paste をクリックします。

5 **コピーおよび貼り付けるすべてのグラフで繰り返します。**

表またはピボット・テーブル・ビューのコピーと貼付け

➤ 表ビューまたはピボット・テーブル・ビューをコピーして貼り付けるには:

1 **Word または PowerPoint で、コピーする表ビューまたはピボット・テーブル・ビューを選択します。**

ドキュメント・コンテンツを使用してビューを検索することもできますが、その場合でも、スライドまたはページで表またはピボット・テーブルを直接選択します。

2 「Oracle BI EE」のリボンで、Copy をクリックします。

3 **Office アプリケーションにアクセスし、表またはピボット・テーブル・ビューを貼り付ける位置にカーソルを置きます。**

たとえば、Office アプリケーション内で貼り付ける場合(または、Word からコピーして PowerPoint に貼り付ける場合は PowerPoint を開き)、Office ドキュメントでオブジェクトを貼り付ける位置にカーソルを置きます。

4 Paste をクリックします。

5 **コピーおよび貼り付けるすべての表またはピボット・テーブルで繰り返します。**

BI アンサーでの分析の編集

使用可能な分析ビューで必要なデータが表示されない場合やデータが期待どおりに表示されない場合は、BI アンサーでビューを編集できます。

注: BI アンサーでビューを編集するには、Oracle BI EE で要求される権限が必要です。

➤ BI アンサーでビューを編集するには:

1 **カタログでビューを右クリックして、「アンサーでの分析の編集」を選択します。**

2 **ログイン画面で、Oracle BI EE の資格証明を入力します。**

選択したビューが BI アンサーに表示されます。

3 BI アンサーでビューを編集して保存します。

4 Office アプリケーションに戻ります。

5 「Oracle BI EE」のリボンで「リフレッシュ」をクリックし、変更がビューに反映されていることを確認します。

Oracle BI から Office へのビューのコピーおよび貼付け

BI アンサーから Smart View へビューをコピーおよび貼り付けできます。

貼り付けられたビューをリフレッシュすると、データはリフレッシュされますが、分析定義は、BI アンサーで変更されていたとしてもリフレッシュされません。

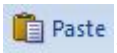
➤ ビューをコピーして貼り付けるには:

1 Oracle BI EE にログインしていることを確認します。

2 BI アンサーまたはインタラクティブ・ダッシュボードで、コピーする分析を起動します。

3 分析の下部の「コピー」リンク(分析がコピー可能である場合にのみ表示されます)をクリックします。

4 Excel などの Office アプリケーションを開き、適切な Oracle BI EE データ・ソースに接続します。

5 「Oracle BI EE」のリボンで、 

をクリックします。

ビューの編集

「挿入」コマンドを使用して Microsoft オブジェクトとして挿入または貼り付けられた表ビューおよびグラフ・ビューは、Excel、PowerPoint または Word で編集できます。リストとして挿入または貼り付けられた表ビューおよびイメージとして挿入されたグラフ・ビューは、Excel で編集できません。イメージとして挿入または貼り付けられたビューは、PowerPoint で編集できません。

「ビュー・デザイナ」を使用したビューの操作

サブトピック

- ビュー・デザイナの起動
- ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義
- ビュー・レイアウトの定義
- 「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義
- ビューの発行
- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集
- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューのデータのリフレッシュ

Smart View のビュー・デザイナを使用すると、Oracle BI EE のサブジェクト・エリアに基づいてアド・ホック・ビューを作成できます。Smart View で作成されたビューは、Oracle Business Intelligence カタログに保存でき、Smart View または BI アンサーで編集できます。

ビュー・デザイナは、Microsoft Excel、Word および PowerPoint で使用できます。

ビュー・デザイナの起動

ビューを作成しているか編集しているかに応じ、このトピックで説明されている方法を使用して、ビュー・デザイナを起動できます。

➤ ビュー・デザイナを起動するには:

1 **次のいずれかのアクションを行います:**

- 新規ビューを作成するには:
  - カタログ・ツリーの「カタログのルート」・ノードを右クリックして、「新規ビューの作成」を選択します。
  - カタログ・ツリーの「カタログのルート」・ノードを選択して、Smart View パネルの下部で「新規ビューの作成」を選択します。
  - Oracle BI EE のリボンで、「ビュー・デザイナ」アイコンをクリックします。

図 49 「ビュー・デザイナ」アイコン

Oracle BI EE のリボンを有効にするには、カタログ・ツリーのビューに接続している必要があります。

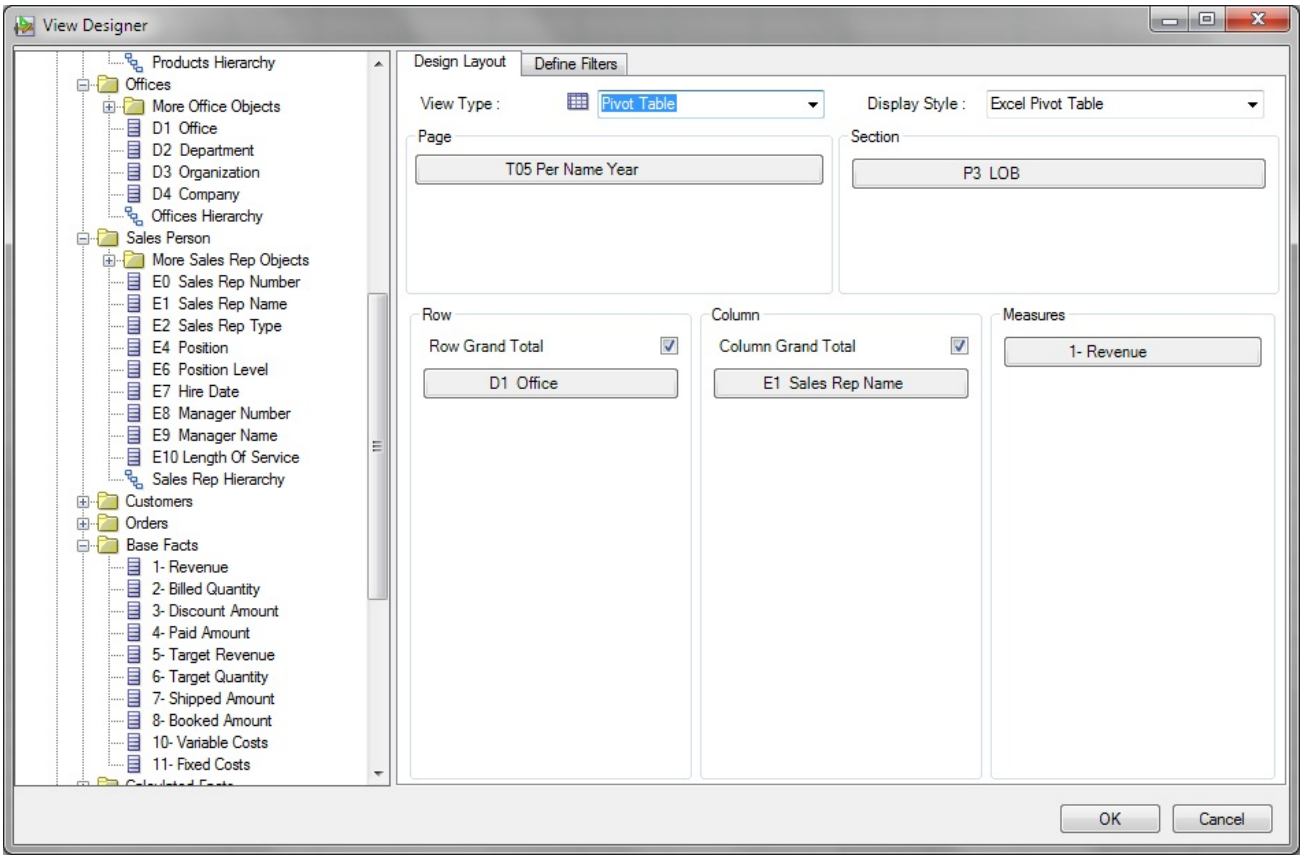
- ビューを編集するには:

- カタログ・ツリーから編集するビューを選択し、「Smart View パネル」の下部にある「ビュー・デザイナでのビューのロード」リンクを選択します。
- 保存済の Excel ドキュメントのワークシートで既存のビューを選択し、「ビュー・デザイナ」アイコン(図 49 を参照)をクリックします。
- Excel ピボット・テーブルを編集するには、Excel ピボット・テーブルの内外を問わず、ワークシート内の任意の場所をクリックし、「ビュー・デザイナ」アイコン(図 49 を参照)をクリックします。

注： Smart View のビュー・デザイナを使用する場合、編集できるのは、Smart View で作成されたビューのみです。BI アンサーで作成されたビューを編集するには、BI アンサーを使用する必要があります。

ビュー・デザイナの「レイアウトの設計」タブが表示されます。図 50 に、「ページ」、「セクション」、「行」、「列」および「メジャー」エッジが選択された、ビュー・デザイナの「レイアウトの設計」タブを示します。

図 50　ピボット・テーブル・レイアウト用の「ビュー・デザイナ」の「レイアウトの設計」タブ



2　227 ページの「ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義」の手順に従って、ビューの設計プロセスを続行します。

ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義

ビューを作成する際は、ビュー・タイプおよび表示スタイルを定義します。これは、ビューの作成プロセス中に一度のみ行います。ビューが作成されると、これら 2 つの設定を編集できなくなります。

➤ ビュー・タイプおよび表示スタイルを定義するには:

1 **ビュー・デザイナを起動していない場合は、起動します(225 ページの「ビュー・デザイナの起動」を参照)。**

2 **「ビュー・タイプ」で、作成するビューのタイプを選択します:**

- 表
- ピボット・テーブル(デフォルト)
- 折れ線グラフ
- 棒グラフ
- 縦棒グラフ
- 面グラフ
- 円グラフ
- 散布図
- 積重ね縦棒グラフ

この選択は、「表示スタイル」で使用可能なオプションとレイアウト領域のフィールドに影響します。

注： Smart View または BI アンサーでビューを編集している場合は、この選択を変更できません。

3 **「表示スタイル」で、表 11 から「ビュー・タイプ」および「表示スタイル」のオプションを選択します。**

表示スタイルによって、Excel にビューを挿入する方法が決まります。

注： Smart View または BI アンサーでビューを編集している場合は、この選択を変更できません。

表 11 選択したビュー・タイプと使用可能な表示スタイル

選択したビュー・タイプ	使用可能な表示スタイル
表	Excel テーブル 表
ピボット・テーブル(デフォルト)	Excel ピボット・テーブル(デフォルト) ピボット・テーブル

選択したビュー・タイプ	使用可能な表示スタイル
折れ線グラフ 棒グラフ 縦棒グラフ 面グラフ 円グラフ 散布図 積上げ縦棒グラフ	Excel チャート チャート・イメージ

4 228 ページの「ビュー・レイアウトの定義」の手順に従って、ビューの設計プロセスを続行します。

ビュー・レイアウトの定義

ビューの作成プロセス中に、ビュー・レイアウトを定義します。ビュー・デザイナで作成されたビューのビュー・レイアウトを編集することも可能です。

➤ ビュー・レイアウトを定義または編集するには:

1 ビュー・デザイナを起動していない場合は、起動します(225 ページの「ビュー・デザイナの起動」を参照)。

2 新規ビューを作成する場合は、227 ページの「ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義」の手順を完了します。

ビューを編集する場合は、手順 3 に進みます。

3 ビュー・デザイナの左側のペインで、サブジェクト・エリアとフォルダを展開し、使用する列を表示します。

4 展開したサブジェクト・エリア・ツリーから列をドラッグし、レイアウト領域にドロップします。

表 12 に説明されているように、レイアウト領域のエッジは、「ビュー・タイプ」の選択によって異なります。

表 12 選択したビュー・タイプと「ビュー・デザイナ」のレイアウト領域で使用可能なエッジ

ビュー・タイプの選択	レイアウト領域のエッジ
表	「ページ」、「セクション」、「行」、「列」、「メジャー」 **オプション:** 「行」エッジで、「行の総計」チェック・ボックスを選択します。
ピボット・テーブル(デフォルト)	「ページ」、「セクション」、「行」、「列」、「メジャー」 **オプション:** 「行」エッジで、「行の総計」チェック・ボックスを選択します。 **オプション:** 「列」エッジで、「列の総計」チェック・ボックスを選択します。
折れ線グラフ	「ページ」、「セクション」、「グループ化(X)」、「折れ線(X)」、「データ: 折れ線(Y)」
棒グラフ	「ページ」、「セクション」、「グループ化(X)」、「棒(X)」、「データ: 棒(Y)」

ビュー・タイプの選択	レイアウト領域のエッジ
縦棒グラフ	「ページ」、「セクション」、「グループ化(X)」、「縦棒(X)」、「データ: 縦棒(Y)」
面グラフ	「ページ」、「セクション」、「グループ化(X)」、「面(X)」、「データ: 面(Y)」
円グラフ	「ページ」、「セクション」、「円」、「スライス」、「スライス・サイズ」
散布図	「ページ」、「セクション」、「グループ化(X)」、「色による変化」、「データ」
積上げ縦棒グラフ	「ページ」、「セクション」、「グループ化(X)」、「棒(X)」、「データ: 棒(Y)」

5 **オプション:** 「ビュー・デザイナ」のエッジにドラッグした列で、該当する場合は次のタスクを実行します:

- エッジ間で列を移動するには、あるエッジから列をドラッグして別のエッジにドロップします。たとえば、「行」エッジから列をドラッグして、「列」エッジにドロップします。
- エッジ内で列を再配置するには、列名をクリックして、「上」矢印または「下」矢印を選択します。
- エッジの列または行に小計を追加するには、列を右クリックして「小計」を選択します。

  注： 「小計」オプションをドロップダウン・メニューで選択できても、エッジの最後の列に適用される場合、このオプションは無視されます。

- 列を追加してこのビューの条件をフィルタ処理するには、列をクリックして「フィルタに追加」を選択します。

  選択した列が「フィルタの定義」タブの「フィルタ式」領域に追加され、さらに詳細を定義できます。詳細は、230 ページの「「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義」を参照してください。

- エッジから列を除去するには、列をクリックして「除去」を選択します。

6 **オプション:** 表またはピボット・テーブル・ビューを使用する場合は、表示スタイルに関係なく、次のようにします:

- **ピボット・テーブル・ビュー:** 「行」および「列」エッジで、必要に応じて「行の総計」および「列の総計」チェック・ボックスを選択または選択解除します。
- **表ビュー:** 「行」エッジで、「行の総計」チェック・ボックスを選択または選択解除します。

7 フィルタを定義するには、「フィルタ」タブをクリックして、230 ページの「「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義」に進みます。

フィルタを定義する予定がない場合は、「OK」をクリックします:

- 新しいビューを作成する場合、そのビューは Excel に挿入されます。
- ビューを編集する場合は、古いビューが削除され、更新されたビューが挿入されます。

「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義

228 ページの「ビュー・レイアウトの定義」の手順 5 のフィルタ処理用に追加した列は、ビュー・デザイナの「フィルタの定義」タブの「フィルタ式」領域に自動的に追加されます。

新規ビューを作成している場合でも、既存のビューを編集している場合でも、フィルタ列を追加し、すべての列のフィルタをさらに定義および絞込みできます。

➤ ビュー・デザイナで作成したビューにフィルタ式を定義または編集するには:

1 手順 7 で「フィルタの定義」タブを選択して、228 ページの「ビュー・レイアウトの定義」の手順を完了します。

   手順 5 でフィルタ処理のために追加した列が、「フィルタの定義」タブに表示されます。

2 **オプション:**「フィルタの定義」タブの「フィルタ式」領域に列を追加します。

3 「フィルタ式」で列を選択します。

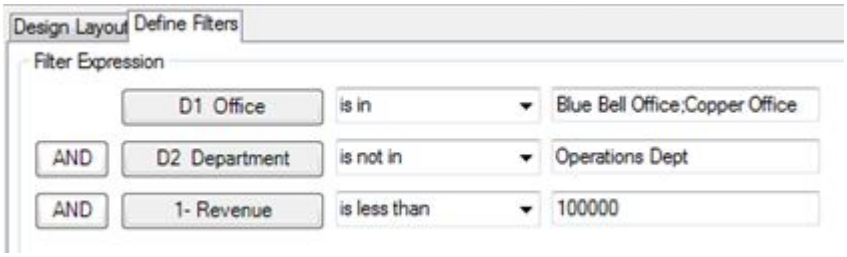
4 列名の横にあるドロップダウン・リストから、対応するフィルタ演算子を選択します。

   選択できる演算子のリストは、選択した列のタイプに基づいて移入されます。

   演算子選択のガイドラインは、231 ページの「フィルタ演算子」を参照してください。

5 最後の列にフィルタ値を指定します。

   たとえば、Sample Sales データベースに基づく一連のフィルタは次のようになります:



   定義したフィルタは「フィルタ要約」ペインに要約されます。たとえば、この手順で定義されたフィルタでは、要約は次のようになります:

6 **オプション:** 必要に応じて、「フィルタ式」の論理演算子ボタンをクリックし、演算子を選択して変更します:

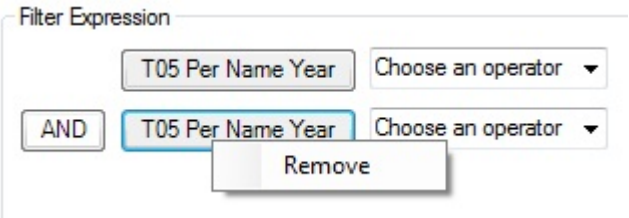
   - 「AND」
   - 「OR」

デフォルトの論理演算子は「AND」です。

フィルタ式の 1 つの行の論理演算子を変更すると、式のすべての行の論理演算子が自動的に変更されて、すべての行の演算子が同じになります。

7 **オプション:** フィルタ式から行を除去するには、図 51 に示すように、行の列ボタンを右クリックして「除去」を選択します。

図 51　フィルタ式の列を右クリックしたときに表示される除去オプション



8 フィルタの定義が終了したら、「OK」をクリックして Excel にビューを挿入します。

フィルタ演算子

演算子を選択して、必要な値を指定する際には、表 13 に示すガイドラインを使用します。選択できる演算子のリストは、実行している機能(フィルタの作成、またはダッシュボード・プロンプトの作成など)および選択した列のタイプに基づいて移入されます。

表 13

演算子	使用ガイドライン
次と等しい/次にある	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値と一致するレコードのみが含まれます。
次と等しくない/次にない	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値と一致しないレコードのみが含まれます。
次より小さい	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値より小さいレコードのみが含まれます。
次より大きい	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値より大きいレコードのみが含まれます。
次以下	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値以下のレコードのみが含まれます。
次以上	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値以上のレコードのみが含まれます。
次の範囲内	数値または日付が含まれる列に対して有効です。2 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの 2 つの値の間にあるレコードのみが含まれます。

演算子	使用ガイドライン
NULL である	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。値を指定しません。この演算子では、列にデータがないことのみがテストされます。結果には、列にデータがないレコードのみが含まれます。 データが存在するかどうかがわかれば便利な場合がありますが、null 演算子を使用すればそのような条件をテストできます。たとえば、会社に世界規模の住所録があり、米国の住所のみを抽出する必要があるとします。「State」フィールドにデータがあるかどうかを確認すれば、この作業を行うことができます。このフィールドには、米国以外の住所の場合は値が移入されず(null であり)、米国の住所の場合は値が移入されます(null ではありません)。列で特定の値をチェックしなくても、米国の住所リストを取得できます。
NULL でない	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。値を指定しません。この演算子では、列にデータがあることのみがテストされます。結果には、列にデータがあるレコードのみが含まれます。
最上位である	テキストまたは日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、最初の n 件のレコードのみが含まれます(n はフィルタの値として指定した整数です)。 この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、アルファベット順で最初の 10 件のブランド名を含むリストを取得できます。
最下位である	テキストまたは日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、最後の n 件のレコードのみが含まれます(n はフィルタの値として指定した整数です)。 この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、最後の 10 件の販売取引の日付リストを取得できます。
上位	数値が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、最初の n 件のレコードのみが含まれます(n はフィルタの値として指定した整数です)。 この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、金額で販売上位 10 位のリストを取得できます。
下位	数値が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、最後の n 件のレコードのみが含まれます(n はフィルタの値として指定した整数です)。 この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、問題の報告が最も少ない顧客のリストを取得できます。
すべて含む	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタのすべての値を含むレコードのみが含まれます。
含まない	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値をまったく含まないレコードのみが含まれます。
いずれかを含む	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値を少なくとも 1 つ含むレコードのみが含まれます。
次で始まる	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値で始まるレコードのみが含まれます。
次で終わる	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値で終わるレコードのみが含まれます。
次と類似する(パターン照合)	テキストが含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。パーセント記号(%)をワイルドカード文字として使用する必要があります。最大で 2 つのパーセント記号を値に指定できます。結果には、列のデータがフィルタのパターン値と一致するレコードのみが含まれます。

演算子	使用ガイドライン
次と類似しない(パターン照合)	テキストが含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。パーセント記号(%)をワイルドカード文字として使用する必要があります。最大で 2 つのパーセント記号を値に指定できます。結果には、列のデータがフィルタのパターン値と一致しないレコードのみが含まれます。

ビューの発行

ビュー・デザイナで作成したアド・ホック・ビュー定義は、Smart View に挿入した後に、BI アンサーのプレゼンテーション・カタログに発行できます。アド・ホック・ビューを発行すると、複合ビューおよびタイトル・ビューのデフォルト・ビューと該当するユーザー作成ビューで、BI アンサーに新しい分析が作成されます。

編集していたビューを発行する際には、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition カタログ内のビューを上書きすることも、ビューの新しい名前を指定して編集したバージョンを発行し、2 つのバージョンのビューを BI アンサーに保持することもできます。

➤ Oracle BI EE プレゼンテーション・カタログにビューを発行するには:

1 ビュー・デザイナで作成または編集したビュー内にカーソルを置きます。

2 Oracle BI EE のリボンで、「ビューの発行」アイコン(図 53)をクリックします。

図 52 「ビューの発行」アイコン

3 「レポートの保存」で、「カタログのルート」「の隣の」をクリックし、プレゼンテーション・カタログ内でビューを保存する場所に移動します。

4 「分析名」に名前を入力します。

編集したビューを発行する際は、同じ名前を指定して、編集したビューを上書きすることも、新しい名前を指定して、そのビューのオリジナル・バージョンをそのまま保持することもできます。

5 「保存」をクリックします。

保存されるビューのコンポーネントには、Table 1、Pivot Table 1、Chart 1 などのデフォルトの命名ルールが適用されます。

注意

- Smart View で作成および編集されたビューを発行する場合は、上書きする必要があります。

- プレゼンテーション・カタログで既存のビューを上書きする際、そのビューが BI アンサーで作成されたものである場合には、エラー・メッセージが表示されます。
- 発行後にビューを変更するには、次のようにします: BI アンサーで行われた変更を表示する場合は、ビューを再度挿入する必要があります。
  - BI アンサーで作成されたビューの場合は、BI アンサーを使用します。
  - Smart View で作成されたビューの場合は、Smart View で編集することも、BI アンサーで編集することも可能です。
- ビュー・デザイナで作成されたビューのデータをリフレッシュできます。

  「ビュー・デザイナ」で作成したアド・ホック・ビューはスナップショットとして残り、カタログに発行された分析との同期は維持されません。
- BI アンサーでビューに加えた変更は、Excel で表示するアド・ホック・ビューには反映されません。BI アンサーで加えた変更を表示するには、プレゼンテーション・カタログから Smart View の新しいシートにビューを再挿入する必要があります。

「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集

ビュー・デザイナを使用して編集できるのは、Smart View で作成されたビューのみです。

これらのビューは、BI アンサーでも編集できます。ただし、Smart View で作成し、BI アンサーで編集したビューは、ビュー・デザイナで編集できなくなります。

注： BI Answers で作成されたビューを編集するには、BI アンサーアプリケーションを使用します(223 ページの「BI アンサーでの分析の編集」を参照してください)。

Smart View のビュー・デザイナで作成されたビューを操作する場合は、次のいずれかの方法でビューを編集できます:

- 225 ページの「ビュー・デザイナの起動」の説明に従って、編集するビューを Smart View のビュー・デザイナにロードします。ビューのレイアウトの編集(列の追加や削除など)、またはフィルタの変更を実行できます。Smart View でのビューの編集の詳細は、次のトピックを参照してください:
  - 228 ページの「ビュー・レイアウトの定義」
  - 230 ページの「「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義」
- BI アンサーで分析を開きます。詳細は、BI アンサーのドキュメントを参照してください。次に、更新されたビューを Smart View に挿入します。

  注： ビュー・デザイナで作成したビューを Oracle Business Intelligence Answers で編集すると、Smart View のビュー・デザイナで編集できなくなります。

「ビュー・デザイナ」で作成したビューのデータのリフレッシュ

ビュー・デザイナで作成したビューは、プレゼンテーション・カタログから Office アプリケーションに挿入したビューをリフレッシュするのと同じ方法でリフレッシュできます。

詳細は、216 ページの「ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定」および 217 ページの「ビューのリフレッシュ」を参照してください。

16 Smart Viewのオプション

この章の内容

Smart View のオプションの設定 237
グローバル・オプションとシート・レベル・オプション 237
メンバー・オプション 239
データ・オプション 241
詳細オプション 243
フォーマット・オプション 246
セルのスタイル 249
拡張機能 251

Smart View のオプションの設定

Oracle Smart View for Office のリボンで「オプション」をクリックして開く「オプション」ダイアログ・ボックスで、Smart View のオプションを設定します。

グローバル・オプションとシート・レベル・オプション

Smart View には、グローバル・オプションとシート・オプションの 2 つのタイプのオプションがあります。

- 237 ページの「グローバル・オプション」
- 238 ページの「シート・オプション」

グローバル・オプション

グローバル・オプションは、現在のワークブック全体(現在のワークブックに追加された新しいワークシートを含む)、および今後作成されるワークブックに適用されるオプションです。

グローバル・オプションの設定を変更すると、既存のワークシートおよびワークブック、その他の Office ドキュメントに影響があります。

グローバル・オプションは次のとおりです:

- 詳細オプション
- 拡張機能

- セルのスタイル

注： グローバル・オプションを保存する際には、「OK」ボタンを使用します。グローバル・オプションの変更は、すべての既存および新規のワークシートやワークブックのデフォルト設定となるため、これらのグローバル・オプションで、「デフォルト・オプションとして保存」または「すべてのワークシートに適用」を使用する必要はありません。「デフォルト・オプションとして保存」および「すべてのワークシートに適用」は、シート・レベルのオプション設定でのみ使用されます。

シート・オプション

シート・レベル・オプションは、設定しているワークシートに固有のオプションです。

3 つのオプションはシート・レベル・オプションの保存に使用できます:

- 「OK」 - シート・レベル・オプションの変更は、現在のワークブックの現行シートにのみ適用されます。変更内容は、現在のワークブックの既存シートまたは新規シートには適用されません。既存のワークブックや新しいワークブックにも影響しません。

  PowerPoint または Word で「OK」を使用した場合、適用範囲は現在のプレゼンテーションまたはドキュメント全体のみです。

- 「デフォルト・オプションとして保存」 - シート・レベル・オプションの変更は、現在のワークブックの新規ワークシート、新規ワークブック、およびその他の新規 Office ドキュメントのデフォルトのオプション設定にもなります。シート・レベル・オプションの設定を変更しても、既存のワークシートまたはワークブックには影響しません。

  PowerPoint または Word で「OK」を使用した場合、適用範囲は、現在のプレゼンテーションまたはドキュメント全体と、新しいプレゼンテーションまたはドキュメントになります。

  たとえば Excel で、メンバー・オプションを変更し、「デフォルト・オプションとして保存」を選択したとします。ワークブック内の既存のワークシートにその変更を伝播する場合は、既存の各ワークシートに個別にアクセスし、同じ変更を行う必要があります。これにより、ワークシートごとに、異なるシート・レベル・オプションを使用できます。ただし、変更内容は、現在のワークブックに作成する新規ワークシート、新規ワークブック、およびその他の Office ドキュメントに自動的に伝播されます。

- 「すべてのワークシートに適用」 - シート・レベル・オプションの変更は、現在のワークブックに存在する、Smart View コンテンツを含むすべての既存ワークシートに適用されます。現在のワークブック内の新規ワークシート、その他の既存ワークブック、または新規ワークブックには適用されません。

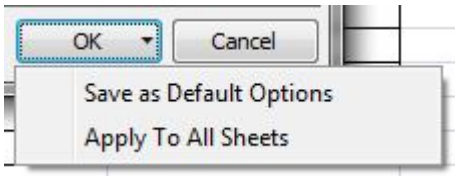
  たとえば、メンバー・オプションを変更し、「すべてのシートに適用」を選択したとします。変更内容は、現在のワークブックに存在する、Smart View コンテンツを含むすべての既存ワークシートに伝播されます。これにより、現在のワークブックのシート・レベル・オプションのクイック更新が可能になり

ます。ただし、それらの変更は、現在のワークブックの新規ワークシート、既存のワークブックまたは新規ワークブックには伝播されません。

注： PowerPoint または Word では、「すべてのワークシートに適用」オプションを使用できません。Excel で行った変更は、PowerPoint や Word には影響を与えません。

「デフォルト・オプションとして保存」および「すべてのワークシートに適用」には、「オプション」ダイアログ・ボックスにある「OK」ボタンの矢印をクリックしてアクセスします(図 53 を参照してください)。

図 53 「OK」ボタンからアクセスした「デフォルト・オプションとして保存」



シート・レベル・オプションは次のとおりです:

- メンバー・オプション
- データ・オプション
- フォーマット・オプション

メンバー・オプション

「メンバー・オプション」はシート・レベルのオプションで、設定しているワークシートに固有です。

表 14 に記載されているメンバー・セルの表示オプションを設定するには、Smart View のリボンで「オプション」をクリックし、左ペインで「メンバー・オプション」を選択します。終了したら、変更を保存するための選択を行います:

- 「OK」
- 「デフォルト・オプションとして保存」
- 「すべてのワークシートに適用」

注： PowerPoint または Word では、「すべてのワークシートに適用」オプションを使用できません。

これらのオプションに関する完全な説明は、238 ページの「シート・オプション」を参照してください。

注： すべてのデータ・プロバイダで、表に表示されているすべてのオプションがサポートされているわけではありません。

表 14　メンバー・オプション

オプション	説明
一般	**一般**
ズーム・イン・レベル	ドロップダウン・メニューから次のいずれかを選択し、アド・ホック分析のデフォルトのズーム・レベルを指定します: ● **「次のレベル」**を選択すると、選択したメンバーの子のデータが取得されます ● **「すべてのレベル」**を選択すると、選択したメンバーのすべての子孫のデータが取得されます ● **「最下位レベル」**を選択すると、ディメンション内の最下位レベルのメンバーのデータが取得されます。 ● 「兄弟レベル」を選択すると、選択したメンバーと同一レベルのすべてのメンバーのデータが取得されます ● 「同一レベル」を選択すると、選択したメンバーの兄弟のデータが取得されます ● 「同世代」を選択すると、選択したメンバーと同じ世代のすべてのメンバーのデータが取得されます ● 「式」を選択すると、選択したメンバーの式で定義されたすべてのメンバーのデータを取得できます。式は、親へのメンバー式あるいは集計でも可能です。
メンバー名の表示	ドロップダウン・メニューから次のいずれかを選択し、セルのメンバー名の表示方法を指定します: ● **「メンバー名のみ」**を選択すると、メンバー名が表示されます ● 「個別のメンバー名のみ」を選択すると、完全修飾名が表示されます ● **「メンバー名と別名」**を選択すると、メンバー名とその別名が表示されます ● **「説明のみ」**を選択すると、別名が表示されます
インデント	ドロップダウン・メニューから次のいずれかを選択し、階層レベルのインデント方法を指定します: ● **なし** ● **「サブアイテム」**を選択すると、子孫がインデント表示されます。祖先は列内で左寄せになります。 ● **「合計」**を選択すると、祖先がインデント表示されます。子孫は列内で左寄せになります。
祖先の位置	ドロップダウン・メニューから次のいずれかを選択し、階層内の祖先の位置を指定します: ● **「最上位」**を選択すると、最上位レベルから最下位レベルの順序で階層が表示されます。 ● **「最下位」**を選択すると、最下位レベルから最上位レベルの順序で階層が表示されます。
メンバーの保持	**メンバーの保持**
選択を含める	選択したメンバーと、操作の結果として取得されたメンバーを表示します。
選択したグループ内	選択したセル・グループでのみアド・ホック操作が実行され、選択していないセル・グループはそのまま残ります。この設定は、グリッドの下に行として、またはグリッドを超えて列として、複数のディメンションがある場合にのみ有用です。**「ズーム」**、**「選択項目のみ保持」**、および**「選択項目のみ除去」**で使用します。
選択されていないグループの除去	**「ズーム・イン」**または**「ズーム・アウト」**では、選択したメンバー、およびズームの結果として取得されたメンバーを除くすべてのディメンションとメンバーが除去されます。
コメントと式	**コメントと式**

オプション	説明
アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)	問合せ中に、グリッドに式とコメントが保存されます。このオプションをクリアにすると、問合せを高速で実行できますが、式とコメントは除去または無視されます。 「式の充てん」または「拡張コメント処理を有効にする」が選択されている場合は、このオプションを選択する必要があります。 **注：** このオプションは、メンバーとデータ・セルの両方の式に適用されます。
式の充てん	メンバー・セルに関連付けられている式を、ズーム・インの結果として取得されたメンバーに伝播します。 「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」と「Excel フォーマットの使用」の両方が選択されている場合、セルのフォーマットがズーム・インの結果として取得されたメンバーに伝播されます。 **注：** このオプションは、メンバーとデータ・セルの両方の式に適用されます。
拡張コメント処理を有効にする	コメントが含まれているアド・ホック・グリッドでコメントとメンバー名をレビューし、修正できます。
POV 変更時に式を保存	リフレッシュしたり、POV に変更を加えると、セルの式が保存されます。それ以外の場合、グリッドの式は失われます。

データ・オプション

「データ・オプション」はシート・レベル・オプションで、設定しているワークシートに固有です。

表 15 に記載されているデータ・セルの表示オプションを設定するには、Smart View のリボンで「オプション」をクリックし、左ペインで「データ・オプション」を選択します。終了したら、変更を保存するための選択を行います:

- 「OK」
- 「デフォルト・オプションとして保存」
- 「すべてのワークシートに適用」

注： PowerPoint または Word では、「すべてのワークシートに適用」オプションを使用できません。

これらのオプションに関する完全な説明は、238 ページの「シート・オプション」を参照してください。

注： すべてのデータ・プロバイダで、表に表示されているすべてのオプションがサポートされているわけではありません。

表 15　データ・オプション

オプション	説明
行の抑制	グリッドを見やすくするために、表示する必要のないデータ・タイプを含む行を抑制できます。 **注：** 抑制行では、セルによる Excel の式の参照は更新されません。

オプション	説明
データなし/欠落	データベース内にデータが存在しないセルを含む行が抑制されます(データなしはゼロとは異なります。ゼロはデータ値です)。後で「データなし/欠落」の選択を解除すると、抑制されていた値は、その時点以降に入力された場合にのみ表示されます。このオプションを選択していた間に抑制されていた値を取得するためには、ズーム・アウトしてからズーム・インする必要があります。
ゼロ	ゼロのみを含む行が抑制されます。
アクセス権なし	行に含まれるデータを表示するためのセキュリティ・アクセスをユーザーが持っていない場合に、その行が抑制されます。 **注：** このオプションがサポートされているのは、Financial Management のみです。
無効	無効な値のみを含む行が抑制されます。
アンダースコア文字	メンバー名にアンダースコア文字を含む行が抑制されます(スマート・スライス操作では使用不可)。
	グリッドの方向にかかわらず繰り返されるメンバー名を含む行が抑制されます。
列の抑制	グリッドを見やすくするために、表示する必要のないデータ・タイプを含む列を抑制できます。 **注意:** ● 抑制列では、セルによる Excel の式の参照は更新されません。 ● 「列の抑制」オプションは、Essbase データ・ソースに接続しているときには使用できません。 ● 「列の抑制」オプションは、Financial Management データ・ソースに対してアド・ホックを実行する際にはサポートされません。
データなし/欠落	データベース内にデータが存在しないセルを含む列が抑制されます(データなしはゼロとは異なります。ゼロはデータ値です)。 後で「データなし/欠落」の選択を解除すると、抑制されていた値は、その時点以降に入力された場合にのみ表示されます。このオプションを選択していた間に抑制されていた値を取得するためには、ズーム・アウトしてからズーム・インする必要があります。
ゼロ	ゼロのみを含む列が抑制されます。
アクセス権なし	列に含まれるデータを表示するためのセキュリティ・アクセスをユーザーが持っていない場合に、その列が抑制されます。
置換	**置換**
#NoData/Missing ラベル #NoAccess ラベル #Invalid/ #Meaningless	データ・セルには、データが欠落している、または無効である、あるいは表示権限のないデータが含まれている場合があります。Smart View では、このようなセルにはデフォルトで`#Missing`、`#Invalid`、`#No Access` とそれぞれ表示されますが、これらのラベルの変更は可能です。変更するには、これらのフィールドで次のいずれかを入力します: ● 任意のテキスト(またはデフォルトのまま)。テキスト・ラベルは説明的であるという利点がありますが、Excel 関数の失敗の原因になります。 ● `#NumericZero` は、数値ゼロ(0)の置換ラベルを指定します。`#NumericZero` とともに関数を使用できますが、「ゼロを送信」を選択しないかぎり、(ゼロが置換ラベルではなく実際のゼロである場合でも)データベースにゼロを送信することはできません。数値ゼロのラベルを含むセルに依存している計算が正しく行われ、セルの値がゼロとして使用されます。
ゼロを送信	上で`#NumericZero` を入力し、データベースにゼロを送信できるようにする場合に選択します。

オプション	説明
無効なデータを表示	実際のデータが無効な場合でも、「#Invalid/#Meaningless」やその他の置換テキストではなく、実際のデータを表示します。データが存在しない場合、セルは空白のままです。
Essbase フォーマット文字列を有効にする	数値データを表示する特定のフォーマットを管理者が作成している場合、このフォーマットのデータを表示します。
モード	**モード**
セルの表示	実際のデータを表示するかわりに、セルの計算またはプロセス・ステータスを表示できます: ● **「データ」**を選択すると、実際のデータが表示されます。 ● **「計算ステータス」**を選択すると、データの計算、変換、集計を行う必要があるかどうかが表示されます。 ● **「プロセス管理」**を選択すると、プロセス・ユニットと呼ばれるデータの組合せに対するエンティティ・レベル(Financial Management)、または承認レベル(Planning)が表示されます。
データなし操作	ナビゲート中にソース・データを計算しないようにしてピボット、ズーム、選択項目のみ保持、選択項目のみ除去などの操作を高速化します。データを取得する準備ができたら、「データ無し操作」の選択を解除します。
欠落ブロックの抑制	データベースにデータが存在しないセルのブロックを抑制します。

詳細オプション

詳細オプションはグローバル・オプションで、現在のワークブック全体(現在のワークブックに追加された新しいワークシートを含む)、および今後作成されるすべてのワークブックおよびワークシートに適用されます。グローバル・オプション設定への変更は、すべての既存および新規の Microsoft Office ドキュメントのデフォルトになります。

これらのオプションで、「すべてのワークシートに適用」または「デフォルト・オプションとして保存」を使用する必要はありません。

注： すべてのデータ・プロバイダで、表に表示されているすべてのオプションがサポートされているわけではありません。

表 16 に記載されている管理タスクおよびその他の高度なタスクのオプションを設定するには、Smart View のリボンで「オプション」をクリックし、左ペインで「詳細」を選択します。完了したら、「OK」をクリックします。

表 16　詳細オプション

オプション	説明
一般	**一般**

オプション	説明
共有接続 URL	すべての接続に対するデフォルトの URL を指定します。構文 `http://<server>:19000/workspace/SmartViewProviders` を使用します。 **注：** Smart View のオンライン・ヘルプを使用できるようにするには、このフィールドに Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace の URL を入力する必要があります。
元に戻す処理の数	1 回の操作で許可される元に戻す処理とやり直し処理の数(0 から 100)。 89 ページの「「元に戻す」と「やり直し」の使用方法」を参照してください。
最後に使用したアイテム数	「Smart View ホーム」、および Smart View のリボンの「開く」メニューに表示される、最後に使用した接続の数(15 以下)。
すべての MRU アイテムの削除	最後に使用したアイテム・リストの全アイテム(リストに固定されたアイテムを含む)を削除します。
ロギング	**ロギング**
ログ・メッセージ表示	接続されたデータ・ソースからのすべてのエラー、警告および情報メッセージが、それぞれの発生時に表示されますが、どのメッセージ・レベルをログ・ファイルに記録するかを選択できます。表示および記録のメッセージ・レベルを選択します: ● **情報**: 警告とエラーを含むすべてのメッセージ。これは、問題を診断する場合に推奨される選択です。パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。 ● **警告**: 警告およびエラーのレベルのメッセージ。パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。 ● **エラー**: エラー・メッセージのみ - 一般的な用途に推奨されます。パフォーマンスにわずかな影響があります。 ● **なし**: すべてのメッセージが抑制されます。 ● **拡張情報**: 情報レベル・メッセージおよびサーバーのすべてのレスポンスとリクエスト。パフォーマンスが低下します。
メッセージをファイルに送る	ログ・メッセージをファイルに保存します。ログ・ファイルの場所を変更するには、省略記号ボタンをクリックします。
次回起動時にログ・ファイルをクリア	Excel が閉じた後に表示される次のログ・メッセージの生成が開始されると、ログ・ファイルがクリアされます。

プロファイリングの有効化(これはサポート・エンジニアから推奨された場合にのみ行ってください)	拡張情報ログ・エントリおよび関数呼出しの大部分を指定します。アクティブな Smart View で各 Office アプリケーションの XML ファイルを作成します。デバッグを目的としています。パフォーマンスに大きく影響します。
	プロファイル・ファイルの場所は次のとおりです:
	`%APPDATA%\Oracle\SmartView\Profile`
	例:
	`C:\Users\`
	`username`
	`.`
	`domain`
	`\AppData\Roaming\Oracle\SmartView\Profile`

オプション	説明
表示	**表示**
言語	Smart View を表示する言語を選択します。言語を変更したら、Office アプリケーションを再起動する必要があります。「デフォルト」は、Smart View のインストール時に指定した言語です。
Smart View ショートカット・メニューのみを表示	ショートカット・メニューに Smart View のメニュー・アイテムのみを表示します。このオプションを設定しない場合、ショートカット・メニューには Excel と Smart View の両方のアイテムが表示されます。
Outlook で Smart View を無効にする	Outlook で Smart View タスク・リストを使用しない場合に、Outlook で Smart View を使用不可にします。
リボン・コンテキストの変更を有効にする	Smart View のリボンのボタンを使用した後に、アクティブなデータ・プロバイダのリボンを自動的に表示します。
アクティブな接続に対して無効なオプションを使用不可にする	アクティブな接続に対して無効な「オプション」ダイアログ・ボックスのオプションを使用不可にします。
ドリル・スルー・レポートのツールチップの表示	セル上にマウスを移動したときに使用可能なドリルスルー・レポートのリストをデフォルトで表示します。
進捗情報を表示するまでの時間(秒)	操作が始まってから「Smart View 進捗」スタータス・バーが表示されるまでの時間を秒単位で指定します。
互換性	**互換性**
Excel ファイル・サイズの縮小	Smart View のワークブックを含む Excel ファイルに保持されているメタデータを圧縮します。 **注：** このオプションは、Smart View の異なるバージョン間の相互運用性に関係します。 組織のすべてのユーザーが Smart View 9.3.1.6 以上の場合、このオプションは必ず選択する必要があります。 次の状況では、このオプションを選択解除します: ● リリース 9.3.1.6 より前の Smart View のユーザー、または Smart View のリリースにかかわらず Microsoft Office 2002 以前のユーザーに Excel ワークブックを送信します。これらのワークブックでは: ❍ 関数を含むグリッドは、データを表示する前にリフレッシュする必要があります。 ❍ アド・ホック・モードで、POV 設定が失われます。この動作は、新規のアド・ホック・グリッドの動作と同じです。 ● リリース 9.3.1.6 より前の Smart View のユーザー、または Smart View のリリースにかかわらず Microsoft Office 2002 以前のユーザーから送信されたワークブックを開きます。

オプション	説明
向上したメタデータ・ストレージ	内部データ構造のより効率のよい記憶域を使用できます。 このオプションがオフの場合、Smart View は互換性の目的でメタデータのコピーを 2 つ保持します。その結果、全体的なパフォーマンスが低下する場合があります。 **注：** このオプションは、Smart View の異なるバージョン間の相互運用性に関係します。 組織のすべてのユーザーが Smart View 9.3.1.6 以上の場合、このオプションは必ず選択する必要があります。 次の状況では、このオプションを選択解除します: ● リリース 9.3.1.6 より前の Smart View のユーザー、または Smart View のリリースにかかわらず Microsoft Office 2002 以前のユーザーに Excel ワークブックを送信します。 ● リリース 9.3.1.6 より前の Smart View のユーザー、または Smart View のリリースにかかわらず Microsoft Office 2002 以前のユーザーから送信されたワークブックを開きます。
選択した関数とその従属をリフレッシュ	選択した関数を実行する前に、従属関数を同じシートで実行します。
モード	**モード**
操作にダブルクリックを使用	ダブルクリックすると空のワークシートにデフォルトのグリッドが取得され、セル・コンテンツがズーム・インまたはズーム・アウトされます。選択しない場合、ダブルクリックは標準の Excel 機能のままで、セルは編集モードになります。 Oracle Essbase Spreadsheet Add-in と Smart View が同じコンピュータにインストールされており、まだ287 ページの「Smart View および Spreadsheet Add-in」の手順を完了していない場合は、ダブルクリックすると、Spreadsheet Add-in にログインするようプロンプトが表示されます。

フォーマット・オプション

「フォーマット」オプションは、シート・レベル・オプションで、設定しているワークシートに固有です

表 17 に記載されているセル・フォーマット・オプションを設定するには、Smart View のリボンで「オプション」をクリックし、左のパネルで「フォーマット」を選択します。終了したら、変更を保存するための選択を行います:

- 「OK」
- 「デフォルト・オプションとして保存」
- 「すべてのワークシートに適用」

注： PowerPoint または Word では、「すべてのワークシートに適用」オプションを使用できません。

これらのオプションに関する完全な説明は、238 ページの「シート・オプション」を参照してください。

注： すべてのデータ・プロバイダで、表に表示されているすべてのオプションがサポートされているわけではありません。

表 17 「数値のフォーマット」オプション

オプション	説明
フォーマット	**フォーマット**
3 桁ごとのセパレータの使用	数値データでカンマまたは他の 3 桁ごとのセパレータを使用します。Excel の「オプション」の「インターナショナル」タブで、3 桁ごとのセパレータとして#または$を使用しないでください。
セルのスタイルの使用	「セルのスタイル」に定義されているフォーマット、またはデータ・プロバイダによって定義されているフォーマットを使用します。ユーザー・フォーマットをオーバーライドします。 249 ページの「セルのスタイル」を参照してください。
Excel フォーマットの使用	Smart View フォーマットではなく Excel フォーマットを使用して、アド・ホック操作に Excel フォーマットを保持します。
操作時にフォーマットを移動	親セル・フォーマットをコピーしてセルでズームインし、操作後にセルの場所が変更された場合でもこのフォーマットを保持します。
数値のフォーマットを保持	ディメンションをドリル・ダウンする場合、「ホーム」リボン、「書式」、「セルの書式設定」の順に選択する際に、設定されている Excel のフォーマットが保持されます。たとえば、負数を赤で表示することを選択している場合、任意のメンバーをドリル・ダウンする際に負数は赤で表示されます。
列幅の調整	セルの内容に合せて列の幅を自動的に調整します。

オプション	説明

スケール	アド・ホックおよびフォームに適用されます。フォーム定義に定義されている設定をオーバーライドします。
	正または負のスケール・オプションを選択し、「リフレッシュ」をクリックします。
	正のスケール:
	元の値を係数 10 で除算します。例:
	● 1 - 元の値はすべて 10 で除算されます:
	`cell value /10`
	たとえば、100/10=10 では、10 が表示されます。
	● 2 - 元の値はすべて 100 で除算されます: `cell value/100`
	たとえば、100/100=1 では、リフレッシュ後に 1 が表示されます。
	● 3 - 元の値はすべて 1000 で除算されます:
	`cell value /1000`
	たとえば、100/1000=0.1 では、リフレッシュ後に 0.1 が表示されます。
	パターンは、その他の正のスケール・オプションでも同様です。
	「小数点以下の桁数」オプションが「デフォルト」または 0 に設定されている場合は、0 が表示されることに注意してください。ただし、表示する値が 0.1 などの場合は、「小数点以下の桁数」オプションを 1 に設定する必要があります。
	負のスケール:
	元の値に係数 10 を乗算します。例:
	● -1 - 元の値はすべて 10 で乗算されます:
	`cell value *10`
	たとえば、100*10=1000 では、1000 が表示されます。
	● -2 - 元の値はすべて 100 で乗算されます: `cell value*100`
	たとえば、100*100=10000 では、リフレッシュ後に 10000 が表示されます。
	● -3 - 元の値はすべて 1000 で乗算されます:
	`cell value *1000`
	たとえば、100*1000=100000 では、リフレッシュ後に 100000 が表示されます。
	パターンは、その他の負のスケール・オプションでも同様です。
	注： 目的の表示結果を得られるように、「小数点以下の桁数」オプションを使用します。

小数点以下の桁数	アド・ホックおよびフォームに適用されます。フォーム定義に定義されている設定をオーバーライドします。 データ値の小数点以下の桁数を指定します。 たとえば、Smart View で、選択されている小数点のオプションが 1 だとします。すべての値で、右側の少数の桁が 1 つに変更されます。元の値が 50.56 の場合、リフレッシュ後の値は 50.5 と表示されます。同様に、選択されているオプションが 3 の場合、表示される値は 50.560 になります。 フォームで「デフォルト」が選択されている場合、フォームの定義設定が適用されます。 **注：** 目的の表示結果を得られるように、「スケール」オプションを使用します。
フォーム	フォーム

オプション	説明
メンバー・ラベルの繰返し	

セルのスタイル

「セルのスタイル」オプションはグローバル・オプションで、現在のワークブック全体(現在のワークブックに追加された新しいワークシートを含む)、および今後作成されるすべてのワークブックおよびワークシートに適用されます。グローバル・オプション設定への変更は、すべての既存および新規の Microsoft Office ドキュメントのデフォルトになります。

これらのオプションで、「すべてのワークシートに適用」または「デフォルト・オプションとして保存」を使用する必要はありません。

「セルのスタイル」ページで、特定のタイプのメンバーやデータ・セルを示すためのフォーマットを指定できます。1 つのメンバー・セルが親と子の両方になれるなど、セルが複数のタイプに属する可能性があるため、セルのスタイルが適用される優先順位を設定することもできます。

➤ スタイルを指定するには:

1 **使用可能なセル・タイプのリストを展開します。**

2 **セル・タイプを選択します。**

3 **「プロパティ」を選択し、フォント、背景色、または枠線を指定します。**

   Smart View では、セルのタイプごとに 1 つしかスタイルを設定できません。

   たとえば、親メンバーについて背景スタイルまたはフォント・スタイルを設定できますが、親メンバーの背景とフォントの両方のスタイルを設定することはできません。

4 **セルのスタイルの優先順位を変更するには、「上へ移動」および「下へ移動」ボタンを使用するか、セルのスタイルをドラッグ・アンド・ドロップします。**

5 **「OK」をクリックします。この設定は、リフレッシュを行うか、ドリル操作を実行すると有効になります。**

6 **オプション: セルのスタイルまたは優先順位を、接続された Smart View プロバイダのデフォルトのスタイルに戻すには、「デフォルトのスタイル」をクリックします。**

7 **オプション: このページで選択した内容をデフォルト設定として指定するには、「OK」ボタンの矢印をクリックして、「デフォルト・オプションとして保存」を選択します。**

表 18 Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
メンバー・セル		
メンバー	X	X

オプション	フォーム	アド・ホック
式	X	
データ・セル		
ロック済	X	
サポート詳細	X	X
読取り専用	X	X
セル・テキスト	X	X
ドキュメントの添付	X	X
書込み可能(最も低い優先度を推奨)	X	X
ドリルスルー	X	X

表 19 Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
メンバー・セル		
メンバーの追加	X	
リンク・フォーム	X	
メンバー	X	X
サーバーによる計算		
クライアントによる計算		
データ・セル		
ドリルスルー	X	X
計算結果		X
無効	X	X
ロック済	N/A	N/A
影響	X	X
読取り専用	X	X
セル・テキスト	X	X
書込み可能(最も低い優先度を推奨)	X	X
サーバーによる計算		
クライアントによる計算		
割当てをサポート		

拡張機能

拡張機能オプションは、Excel で設定するグローバル・オプションであり、現在のワークブックの全体(現在のワークブックに追加された新規ワークシートを含む)と、今後作成される Excel ワークブックおよびワークシート、PowerPoint プレゼンテーションおよびスライド、Word 文書を含むすべての Microsoft Office ドキュメントに適用されます。グローバル・オプション設定への変更は、すべての既存および新規の Microsoft Office ドキュメントのデフォルトになります。

これらのオプションで、「すべてのワークシートに適用」または「デフォルト・オプションとして保存」を使用する必要はありません。

注： 拡張機能オプションを設定できるのは Excel のみです。PowerPoint や Word からは設定できません。

「拡張機能」ページには、他の Oracle 製品で Smart View の機能を利用するためにインストールされている拡張機能がリストされています。このページから、次の操作が可能です:

- 拡張機能を使用可能または使用不可にする
- 拡張機能の更新をチェックする
- 拡張機能のインストールのロギングを有効にする
- 拡張機能のデフォルト・ダウンロード URL をオーバーライドする

Smart View は、次の製品の拡張機能をサポートします:

- Oracle Hyperion Disclosure Management
- Oracle Hyperion Financial Reporting
- Oracle Hyperion Strategic Finance
- Planning の予測プランニング拡張
- Planning の Planning 管理拡張
- Oracle Crystal Ball Enterprise Performance Management

上記の拡張機能については、それぞれの製品のガイドを参照してください。

Smart View には次の拡張機能が同梱されています:

- スマート・クエリー
- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition

上記の拡張機能は、このガイドで説明されています。

Smart View に同梱されているかどうかにかかわらず、すべての拡張機能は、Smart View を起動すると自動的に使用可能になります。なんらかの理由で拡張機能が使用可能にならない場合、次の手順を使用して使用可能にします。

➤ 拡張機能を使用可能にするには:

1 **Smart View のリボンで、「オプション」、「拡張機能」の順に選択します。**

2 **拡張機能を見つけ、「使用可能にする」をクリックします。**

注： このダイアログ・ボックスから拡張機能を使用不可にすることもできます。

➤ このページでの選択をデフォルト設定にするには、「OK」ボタンの矢印をクリックし、「デフォルト・オプションとして保存」を選択します。

17 関数

この章の内容

関数の使用方法 253
関数の作成 254
関数の実行 262
関数内のリンクの修正 263
HsGetValue 関数のコピーと貼付け 263
関数の説明 264
スマート・タグを使用した関数へのアクセス 273
一般的な関数エラー・コード 274

関数の使用方法

注： この章において、Planning への参照は、オンプレミスおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service バージョンの Planning の両方に適用されます。

データベースの内容を詳しく把握している場合は、表 20 に説明されている Smart View の関数を使用して、Excel のセルにある特定のデータを操作できます。

注： 表 20 の Smart View 関数を使用する場合、メンバー名、ディメンション名または変数名にハッシュ記号(#)やセミコロン(;)を使用しないでください。これらの文字は、この章に記載された関数のデリミタとして予約されています。

表 20　Smart View の関数およびサポートされているプロバイダ

関数	説明	サポートされるプロバイダ
HsGetValue	データ・ソースからデータを取得します。	● Financial Management ● Essbase ● Planning ● Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)

関数	説明	サポートされるプロバイダ
HsSetValue	データ・ソースに値を送信します。	● Financial Management ● Essbase ● Planning ● Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)
HsGetSheetInfo	現在のワークシートに関する詳細情報を取得します。	プロバイダ非依存
HsCurrency	選択したメンバーのエンティティ通貨を取得します。	● Financial Management ● Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)
HsDescription	デフォルトのメンバーの説明を表示します。	● Financial Management ● Essbase ● Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)
HsLabel	デフォルトのメンバーのラベルを表示します。	● Financial Management ● Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)
HsGetText	データ・ソースからセル・テキストを取得します。	● Financial Management ● Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)
HsSetText	データ・ソースにセル・テキストを送信します。	● Financial Management ● Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)
HsGetVariable	代替変数の関連する値を取得します。	● Essbase

関数の作成

関数は手動で、または関数ビルダーを使用して作成できます。

関数ビルダーでの関数の作成

関数ビルダーで、関数を選択し、関数で使用する接続とメンバーを指定します。これにより、関数ビルダーが適切な構文を使用して関数を作成し、選択したセルにその関数を入力します。これらの関数は編集が可能です。

関数ビルダーの特定のフィールドで使用可能な選択内容は、関数ビルダーの他のフィールドでの選択内容によって限定されてきます。たとえば、選択した関数でサポートされる接続のみが表示され、選択した関数でサポートされるディメンションのみが表示されます。

各関数の引数でセル参照を選択できます。引数の入力値がわかる場合は、オフライン・モードで関数を作成できます。各引数でタイプ・イン機能を使用できます。

注： リリース 11.1.2.2.310 より前のリリースの関数ビルダーで作成された関数を使用できます。ただし、リリース 11.1.2.2.310 以降の関数ビルダーでは、セミコロン(;)ではなくカンマ(,)がメンバー・リスト引数の区切りに使用されています。どちらの文字も新しい関数ビルダーでサポートされていますが、前のバージョンで作成された関数を変更しようとすると、新しいカンマ区切り形式に変換するよう求められます。変換しないことを選択すると、関数に加えた変更は一切適用されません。

➤ 関数ビルダーを使用して関数を作成するには:

1 **適切なデータ・ソースに接続します。**

関数ビルダーは、共有接続とプライベート接続をサポートします。

2 **シートで、関数を入力するセルを選択します。**

3 **「Smart View」パネルで関数のベースにするデータベースに移動し、データベース名を右クリックして「関数の構築」を選択します。**

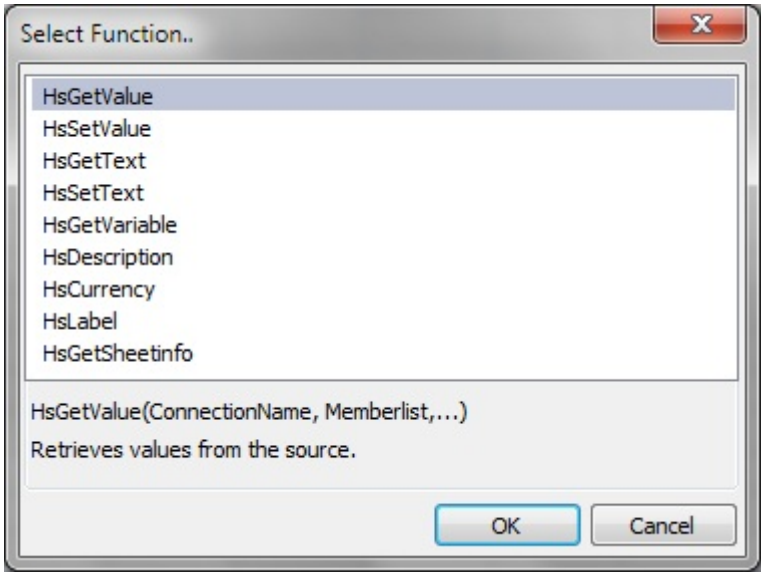
この方法で関数ビルダーにアクセスすると、手順 4 の説明に従って、「関数の引数」ダイアログ・ボックスの「接続」フィールドに特定の接続情報が事前移入されます。

または、Smart View のリボンから、「関数」、「関数の構築」の順に選択します。

この方法で関数ビルダーにアクセスした場合、「関数の引数」ダイアログ・ボックスの「接続」フィールドは空白です。手順 4 の説明に従って、接続情報を指定できます。または、シートにアクティブな接続がある場合は、ドロップダウン・リストから HSACTIVE を選択します。

4 **「関数の選択」で、リストから関数を選択し、「OK」をクリックします。**

図 54　関数ビルダー、「関数の選択」ダイアログ・ボックス



注： すべてのプロバイダですべての関数を使用できるわけではありません。関数およびサポートされているプロバイダのリストについては、表 20 を参照してください。

「関数の引数」ダイアログ・ボックスが表示されます。「接続」フィールドには、接続情報が次のフォーマットのいずれかで自動的に移入されています。

- 共有接続の場合:

```
WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
```

  上記の WSFN パラメータは、この関数が Workspace 関数であり、共有接続を使用していることを示しています。

- プライベート接続の場合:

```
PrivateConnectionName
```

接続情報を手動で入力するには、上記の構文を使用してください。

5 **「関数の引数」で、選択した関数の各引数に対して、次のいずれかを実行します:**

- 右端のボタン をクリックします。

  たとえば、HsGetValue の場合、 をクリックし、「メンバー選択」からメンバーを選択します; HsLabel および HsGetVariable の場合、ラベルまたは変数をドロップダウン・リストから選択します。

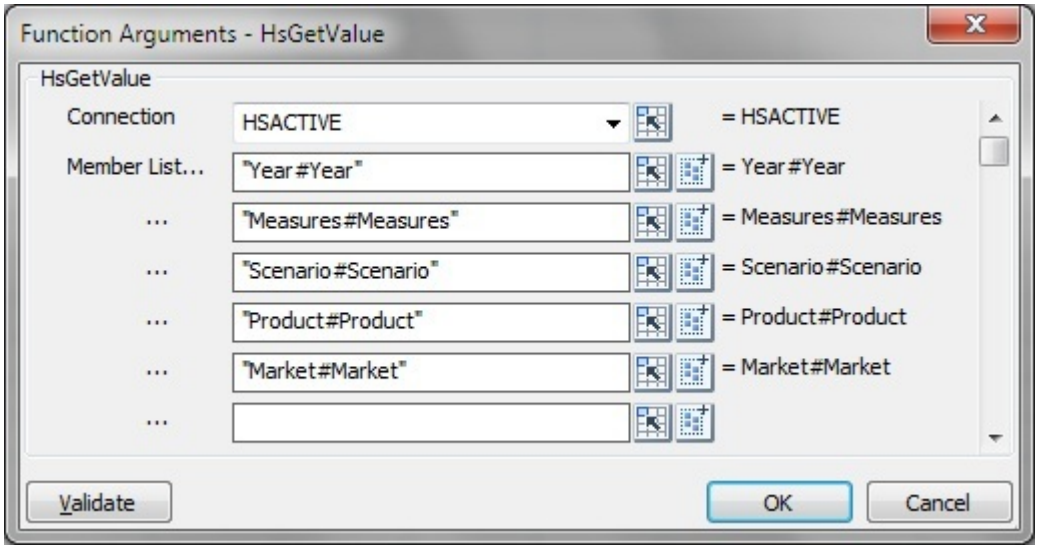
  Essbase のみ: 変数名が重複している場合、その完全修飾名がドロップダウン・リストに表示されることに注意してください。これは、グローバル、アプリケーションおよびデータベース・レベルで定義された変数の識別に役立ちます。

- 引数を手動で入力するには、テキスト・ボックスに引数を入力します。たとえば、メンバーを入力するには、Year#Qtr1 や Year#Jan のように、dimension#member というフォーマットを使用します。

- セル参照を使用するには、セル参照の使用の手順に従います。

図 55 に、HsGetValue 関数の完了した「関数の引数」ダイアログ・ボックスを表示します。

図 55　Essbase Sample Basic データベースに基づく HsGetValue の関数ビルダー「関数の引数」ダイアログ・ボックス



「関数の引数」に表示される引数は、手順 4 で選択された関数によって非常に異なります。

注意:

- HsGetSheetInfo では、セル参照を使用してください。詳細は、セル参照の使用を参照してください。
- HsSetValue の場合のみ: 「データ」または「セル参照」を選択し、送信する値を入力します。
- HsGetText および HsSetText の場合のみ:
  - 「コメント」または「セル参照」を選択し、送信するセル・テキストを入力します
  - 「セル・テキスト・ラベル」を選択して、ドロップダウン・メニューからラベルを選択します
- アクティブなワークシート接続が使用可能な場合、「接続」ドロップダウン・リストから「HSACTIVE」を選択できます。

6 **「検証」をクリックして、記載されたエラーがあれば修正します。**

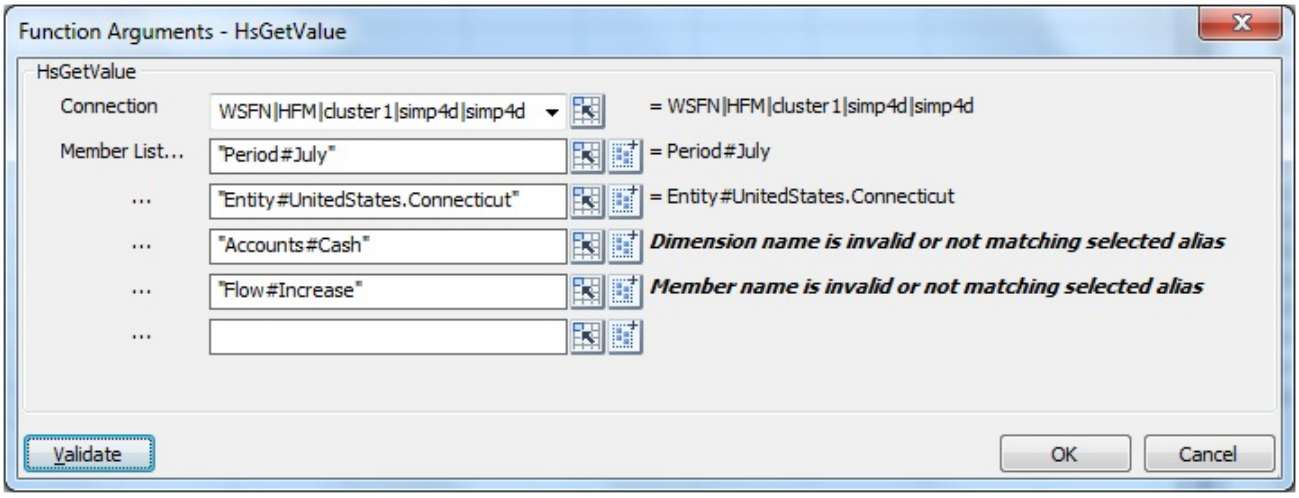
表示される可能性のあるエラーを次に示します。

- 接続がオフラインまたは無効です
- 無効な選択
- メンバー名が無効か、選択した別名と一致しません
- ディメンション名が無効か、選択した別名と一致しません
- Dimension#Member の組合せが不完全です
- 疑問符の欠落またはその他の微細な構文エラーによる、一般的なエラー

図 56 に、「検証」ボタンをクリックした後の「関数の引数」ダイアログ・ボックスのエラーを示します。Financial Management アプリケーションの次の例では、2 つの Dimension#Member の組合せの構文にエラーがあります。最初のエ

ラーは、ディメンション名が無効か、選択した別名と一致しないことです。2 番目のエラーは、メンバー名が無効か、選択した別名と一致しないことです。

図 56　関数ビルダー検証エラー



7　関数の検証が完了したら、「OK」をクリックして、選択したセルに関数を挿入します。

8　関数を実行するには、262 ページの「関数の実行」の手順に従います。

セル参照の使用

接続、ラベル、データ/テキストまたは変数の引数の単一セルへの参照を入力できます。ディメンション/メンバー参照の、2 つの連続するセルまたは連続しないセルへの参照を入力することもできます。参照を 3 つ以上のセルのセル範囲にすることはできません。

➤ セル参照を使用するには:

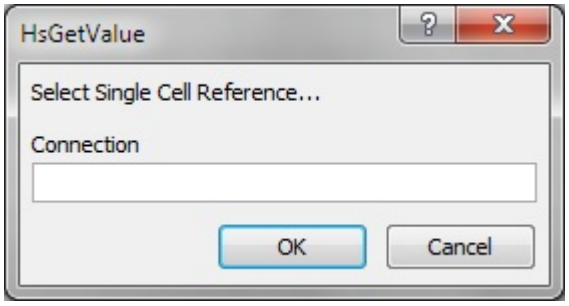
1　前述の手順の手順 1 から手順 5 に従います。

2　「関数の引数」ダイアログ・ボックスで、選択した関数の引数ごとに「セル参照」ボタン をクリックします。

選択した引数のタイプに応じた「セル参照」ダイアログ・ボックスが表示されます。

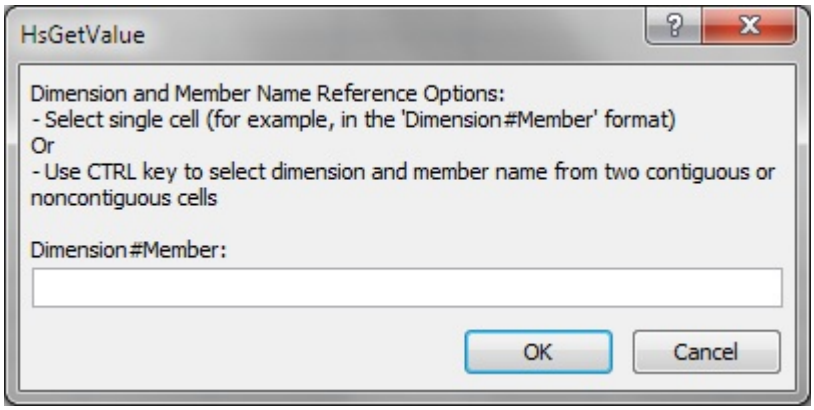
- 接続、ラベル、データ/テキスト、または変数引数を選択する場合は、「単一セル参照の選択」ダイアログ・ボックスを表示します。

図 57　単一セル参照の選択ダイアログ・ボックス



- メンバー・リストの引数を選択した場合、ディメンションおよびメンバー名セル参照の「セル参照」ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 58　ディメンションおよびメンバー名のセル参照ダイアログ・ボックス

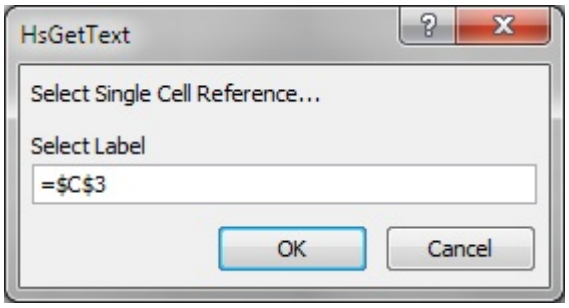


3　グリッドで、次の操作を実行します。

- 「単一セル参照」のダイアログボックスの場合、引数のタイプに応じて、参照する単一セル(変数を含むセルなど)をクリックします。

  図 59 に、ラベルの引数のセルが選択された「単一セル参照」のダイアログ・ボックスを示します。

図 59

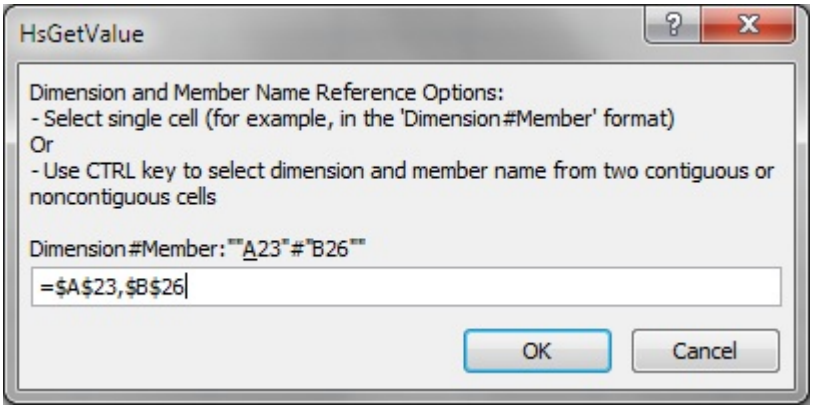


- 「ディメンションおよびメンバー名のセル参照」のダイアログボックスで、次のいずれかの操作を行います。
  - 参照する単一セル(ディメンションとメンバー名の両方を含むセルなど)をクリックします。
  - 「[Ctrl]」キーを押して、2 つの連続するセルまたは連続しないセル(ディメンションとメンバーのセルなど)を選択します。

「[Ctrl]」を押して、ワークシートの異なる領域の 2 つのセルまたは 2 つの隣接するセルをクリックできます。各セルの選択は、「[Ctrl]」キーを押しながら 1回クリックして行います。

図 60 は、2 つの連続しないセルが選択された「ディメンションおよびメンバー名のセル参照」のダイアログ・ボックスを示しています。

図 60　2 つの連続しないセルが選択された「セル参照」ダイアログ・ボックス



4 「セル参照」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックします。

「関数の引数」の引数のテキスト・フィールドには、参照先のセルが表 21 に示す形式で含まれます。

表 21　セル参照の形式

セル参照	関数の引数のフォーム
単一セル	`""&A3&""` 詳しい説明は、この表の下にある「注意」を参照してください。
2 つの連続するセル	`""&A3&"#"&B3&""`
2 つの連続しないセル	`""&A5&"#"&B9&""`

注意:

- 単一セル参照の場合、手順 3 で選択したメンバー名がグリッド内で dimension#member として表示されていれば、引数の選択は完全です。たとえば、メンバーがグリッド内のセル A3 に `Year#Qtr 2` と表示されている場合、`""&A3&""`は完全です。

  グリッド内にメンバー名のみが表示されている場合、二重引用符の最初の 2 セットの間に、ディメンション名と#を続けて手動入力する必要があります。たとえば、メンバーがセル A3 に Qtr2 として表示されている場合、次のように引用符の間に `Year#`と入力する必要があります: `"Year#"&A3&""`

- 引数テキスト・フィールドにテキストが含まれている状態で参照セルを選択すると、そのテキストに参照セルのテキストが追加されます。そのため、参照セルを選択する前に不要なテキストはフィールドから削除しておきます。

5 「OK」をクリックして、選択したセルに関数を挿入します。

6 リフレッシュします。

関数の手動作成

Excel の文字およびその他の機能の制限については、Microsoft のドキュメントとサポート・サイトを参照してください。

➤ 関数を手動で作成するには:

1 Excel で、関数を入力するセルをクリックします。

2 = (等号)を入力します。

3 関数名(HsSetValue など)を入力します。

4 構文のガイドラインで説明したルールに従い、264 ページの「関数の説明」の各関数に特有の情報を使用して、関数のパラメータを入力します。

5 ワークシートをリフレッシュするには、Smart View のメニューから「リフレッシュ」を選択します。

   関数は、リフレッシュしたときに検証されます。

構文のガイドライン

個々の関数の構文は、264 ページの「関数の説明」を参照してください。

- 共有接続で操作するには、Workspace 関数を指定する WSFN 識別子と接続文字列を関数に追加する必要があります。フォーマット:

```
WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
```

  たとえば、Essbase データ・ソースへの共有接続に対する HsGetValue 関数では、次のような WSFN 識別子および接続文字列が関数に追加されます:

```
=HsGetValue("WSFN|Essbase|myserver|Sample|Basic","Market#South")
```

  ProviderType では、次の大/小文字を区別する文字列のいずれかを使用します:

  - Essbase
  - HFM (Financial Management)
  - HP (Planning)

Financial Management の場合、`Database` パラメータは、省略するか、`Application` パラメータと同じにすることができます。一貫性を保つため、`Database` パラメータにアプリケーション名を入力することをお薦めします。

- プライベート接続パラメータには次の値を設定できます:
  - 「空」: デフォルト接続
  - 「HsActive」: 関連するアクティブな接続
  - プライベート接続のユーザー定義名

  プライベート接続を指定する場合は、POV の前に置く必要があります。
- POV は、dimension#member のペア(Entity#Connecticut など)から構成されます。
- 親子関係は、ピリオドで指定します(Entity#UnitedStates.Maine など)。
- 接続と POV は 1 つのパラメータとしてグループ化できます。たとえば、"My_connection;Entity#UnitedStates"です。

  または、複数の関数パラメータに分割することもできます。たとえば、"My_connection"、"Entity#UnitedStates"、"Account#Sales"です。
- 接続と POV を同じパラメータに含める場合、「My_connection;Entity#UnitedStates;Account#Sales」のように、接続と各 dimension#member ペアをセミコロン(;)で区切ります。

関数の実行

保存された関数を含むワークシートが、そのワークシートを作成したコンピュータとは異なるコンピュータで開かれた場合、関数には元のコンピュータへのフルパスが含まれます。次の 3 つの条件をすべて満たしている場合、ワークシートを開いたときに、Smart View によってこれらの関数のパスが自動的に更新されます。条件を満たしていない場合は、Excel の「**リンク**」オプションを使用して関数を手動で更新する必要があります。

- ワークシートが保護されていない
- Excel のオプションで「**リンクの自動更新前にメッセージを表示する**」が選択解除されている
- ワークブックを開いて、リンクを自動的に更新するというプロンプトが表示された場合に、「**続行**」または「**取消**」を選択している。**リンクの編集**は選択しないでください。

➤ 関数を実行して値を取得するには:

1. **実行する関数を含むワークシートを開きます。**
2. **次のいずれかの操作を行います:**
   - HsSetValue の場合、Smart View のリボンから「データの送信」を選択します。
   - 他の関数の場合、いずれかを選択します。

- 関数を実行し、ワークブックのすべてのワークシートを更新するには、Smart View のリボンから「すべてのワークシートのリフレッシュ」を選択します
- 関数を実行してアクティブなワークシートのみを更新するには、「リフレッシュ」を選択します。

関数内のリンクの修正

あるドライブで Smart View をアンインストールして、別のドライブにインストールする場合、または別のドライブにインストールするユーザーに Smart View ファイルを送信する場合は、関数内の破損リンクの修正が必要な場合があります。

➤ 関数内の破損リンクを修正するには、Smart View リボンから、「関数」、「リンクの修正」の順に選択します。

HsGetValue 関数のコピーと貼付け

Office アプリケーションから HsGetValue 関数を含むセルやセル範囲をコピーし、Excel、Word、PowerPoint に貼り付けることができます。

コピーと貼付け機能では、次のガイドラインに注意してください。

- HsGetValue 関数を含むセルのみをコピーおよび貼り付けできます。その他の関数を含むセルはコピーおよび貼り付けができません。
- 生成されるデータ・ポイントは、接続レベルの別名を使用します。
- 関数のセル参照は、評価された値に置き換えられます。たとえば、関数に dim#member の組合せとして`"Year#""&A2&""`が含まれ、セル A2 に`"Qtr2"`が含まれている場合、生成される関数で抽出される値は`"Year#Qtr2"`になります。
- POV マネージャからデータ・ポイント問合せに POV の変更が適用される場合、データ・ポイントに存在しないディメンションに対してのみ適用されます。
- 関数 XML がレガシー・アプリケーションからエクスポートされる場合があります。
- 次のコピー/貼付けシナリオがサポートされています:
  - セル参照がない、単一の接続からの関数。
  - セル参照がある、単一の接続からの関数。
  - 複数の接続からの関数
  - Excel での視覚化 - この関数 POV を使用すると、単一の交差があるグリッドが生成されます。
  - 接続名で大/小文字を区別しない関数
- 次のコピー/貼付けシナリオはサポートされていません:
  - アド・ホック・グリッドからの関数(静的な値として貼り付けられます)。
  - ネストされた式。

- 除算や乗算などの算術演算を含む式。
- IF や SUM など、その他の Excel 関数

➤ 関数をコピーして貼り付けるには:

1 **コピーするセルまたはセル範囲を選択し、次のアクションを実行します:**

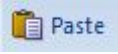
- Excel では、

をクリックします
- Word および PowerPoint では、

をクリックします

2 **コピーした関数セルを貼り付ける Office アプリケーションをまだ開いていない場合は、起動します。**

3 **次のいずれかのアクションを行います:**

- Excel では、コピーした関数を貼り付けるセルを選択し、Smart View のリボンで 

をクリックします。
- Word または PowerPoint では、ページまたはスライドで、コピーした関数を貼り付ける位置にカーソルを置き、Smart View のリボンで

をクリックします。

4 **シート、ページ、またはスライドをリフレッシュします。**

関数の説明

HsGetValue

データ・ソース: Financial Management、Essbase、Planning。Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)

HsGetValue は、選択したディメンションのメンバーのデータ・ソースからデータを取得します。

HsGetValue でデータが取得されない場合、#NoData/Missing ラベル置換オプションで指定された値が使用されます(表 15 を参照してください)。

ユーザーが「リフレッシュ」または「すべてリフレッシュ」を選択した場合は、HsGetValue のみ呼び出されます。ユーザーが「送信」を選択した場合は、最初に HsSetValue が呼び出され、HsSetValue が正常に戻った場合にのみ HsGetValue が呼び出されます。

構文

プライベート接続:

```
HsGetValue("
PrivateConnectionName
","
POV
")
```

共有接続:

```
HsGetValue("WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
","
POV
")
```

例

次の例では、HsGetValue でデフォルトの POV に関して HFM01 アプリケーションから値を戻します。

プライベート接続:

```
HsGetValue("HFM01";"Scenario#Actual;Year#2004;Period#July;View#YTD;
Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#USD;Account#Sales;ICP#[ICP
None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];
Custom4#Increases")
```

共有接続:

```
HsGetValue("WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|HFM01” ;"Scenario#Actual;Year#2004;Period#July;
View#YTD;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#USD;Account#Sales;ICP#[ICP
None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];Custom4#Increases")
```

HsSetValue

データ・ソース: Financial Management、Essbase、Planning。Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)

HsSetValue は、ディメンションの選択されたメンバーに対するデータ値をワークシートからデータ・ソースへ送信します。データ・ソースにデータを送信するには、データ・ソースに対する適切なロード規則と書込みアクセス権が必要です。

構文

プライベート接続:

```
HsSetValue (dollar amount,"
PrivateConnectionName
","
POV
")
```

共有接続:

```
HsSetValue (dollar amount,"WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
","
POV
")
```

例

次の例では、HsSetValue でセル H4 から HFM01 アプリケーションに値を送信します。

プライベート接続:

```
HsSetValue(H4, "HFM01","Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B$2&";View#<Scenario
View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity Currency>;Account#"&
$A4&";ICP#[ICP None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];Custom4#
Increases")
```

共有接続:

```
HsSetValue(H4, "WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|HFM01","Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B
$2&";View#<Scenario View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity
Currency>;Account#"&$A4&";ICP#[ICP
None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];Custom4#
Increases")
```

HsGetSheetInfo

データ・ソース: プロバイダ非依存

HsGetSheetInfo は、表 22 に説明されているように、現在のワークシートに関する詳細情報を取得します。

表 22　HsGetSheetInfo の詳細

数値等価	文字列等価	シート情報
1	接続済	接続ステータス
2	シート・タイプ	アド・ホックまたはフォーム
3	サーバー	シートの接続先のサーバー
4	アプリケーション	シートの接続先のアプリケーション
5	キューブ	シートの接続先のキューブ
6	URL	シートの接続先の URL
7	プロバイダ	シートの接続先のデータ・ソース・タイプ
8	プロバイダ URL	シートの接続先のプロバイダ; Oracle Hyperion Provider Services 接続に適用されます
9	わかりやすい名前	データ・ソース接続名
10	別名表	現在の別名表
11	ユーザー	ユーザー名
12	説明	接続の説明

構文

```
HsGetSheetInfo("<string equivalent>")
```

```
HsGetSheetInfo("<numerical equivalent>")
```

例

この例では、HsGetSheetInfo により、ワークシートにアド・ホック・グリッドまたはフォームが含まれるかどうかが示されます。

```
HsGetSheetInfo("Sheet Type")
```

HsCurrency

データ・ソース: Financial Management、Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)

HsCurrency は、指定されたディメンション・メンバーの通貨値を取得します。HsCurrency 関数では、Entity および Value のみが有効なメンバーです。

構文

プライベート接続:

```
HsCurrency("
PrivateConnectionName
,
Entity
;
Value
")
```

共有接続:

```
HsCurrency("WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
,Entity
Member
;Value
Member
")
```

注： Hyperion Enterprise では、Value ディメンションは使用されません

例

次の例では、EastSales エンティティの通貨が USD で、UKSales エンティティの通貨が GBR である場合に、HsCurrency がエンティティ通貨を取得します。EastSales エンティティは USD を表示し、UKSales は GBR を表示します。

プライベート接続:

```
HsCurrency("Comma","Entity#EastRegion.EastSales;Value#<Entity Currency>.")
HsCurrency("Comma","Entity#EastRegion.UKSales;Value#<Entity Currency>.")
```

共有接続:

```
HsCurrency("WSFN|HFM|hfm_svr|Comma|
Comma","Entity#EastRegion.EastSales;Value#<Entity Currency>.")
HsCurrency("Comma","Entity#EastRegion.UKSales;Value#<Entity Currency>.")
```

HsDescription

データ・ソース: Financial Management、Essbase、Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)

HsDescription は、指定されたディメンション・メンバーの別名を表示します。

構文

プライベート接続:

```
HsDescription ("
PrivateConnectionName
","
Dimension
#
Member
")
```

共有接続:

```
HsDescription ("WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
","
Dimension
#
Member
")
```

例

次の例では、HsDescription で Custom 4 の説明を表示します。

プライベート接続:

```
HsDescription("HFM01","Custom4#Increases")
```

共有接続:

```
HsDescription("WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|HFM01","Custom4#Increases")
```

HsLabel

データ・ソース: Financial Management、Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)

HsLabel は、指定されたディメンション・メンバーのデフォルトのメンバー・ラベルを表示します。

構文

プライベート接続:

```
HsLabel ("
PrivateConnectionName
","
Dimension
#")
```

共有接続:

```
HsLabel ("WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
","
Dimension
#")
```

例

次の例では、HsLabel 関数で Comma アプリケーションの Scenario ディメンションのラベルを取得します:

プライベート接続:

```
HsLabel ("Comma","Scenario#")
```

共有接続:

```
HsLabel ("WSFN|HFM|hfm_svr|Comma|Comma","Scenario#")
```

HsGetText

データ・ソース: Financial Management、Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)

HsGetText は、ディメンション・メンバー、セル参照、デフォルトの POV、またはこれら 3 つの組合せのデータ・ソースからセル・テキストを取得します。

注： セル・テキストを取得するには、「リフレッシュ」をクリックする必要があります。

構文

プライベート接続:

```
HsGetText ("
PrivateConnectionName
","
POV
","
CellTextLabel
")
```

共有接続:

```
HsGetText ("WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
","
POV
","
CellTextLabel
")
```

例

次の例では、HsGetText 関数でデフォルトの POV に関して HFM01 データ・ソースからセル・テキストを戻します。

プライベート接続:

```
HsGetText("HFM01","Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B$2&";View#
<Scenario View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity Currency>;Account#"&
$A3&";ICP#[ICP None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];Custom4#
Increases")
```

共有接続:

```
HsGetText("WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|HFM01","Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B
$2&";View#
<Scenario View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity Currency>;Account#"&
```

```
$A3&";ICP#[ICP None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];Custom4#
Increases")
```

HsSetText

データ・ソース: Financial Management、Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)

HsSetText は、セル・テキストをデータ・ソースに送信します。すべてのディメンション・メンバー、セル参照、デフォルトの POV を使用できます。また、これらすべてを組み合せて使用することもできます。

注： セル・テキストを保存するには、「データの送信」をクリックする必要があります。

構文

プライベート接続:

```
HsSetText("
Cell Text Comments
","
PrivateConnectionName
";"POV")
```

共有接続:

```
HsSetText("
Cell Text Comments
","WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
";"
POV
")
```

例

次の例では、HsSetText でセル H3 から HFM01 アプリケーションにテキストを送信します。

プライベート接続:

```
HsSetText("H3","HFM01";"Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B$2&";View#<Scenario
View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity Currency>;Account#"&
```

```
$A3&";ICP#[ICP None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];Custom4#
Increases")
```

共有接続:

```
  HsSetText("H3","WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|HFM01";"Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B
$2&";View#<Scenario View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity
Currency>;Account#"&$A3&";ICP#[ICP
None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];Custom4#
Increases")
```

HsGetVariable

データ・ソース: Essbase

HsGetVariable は、代替変数の関連する値を取得します。

HsGetVariable はスマート・スライスで使用できません。

構文

HsGetVariable では、次のように、デフォルト接続名、プライベート接続名、共有接続名、または複数の範囲のグリッドでの Excel 名前付き範囲を使用できます:

- **デフォルト接続:** `HsGetVariable("代替変数名")`
- **プライベート接続:** `HsGetVariable("PrivateConnectionName","代替変数名")`
- **共有接続:** `HsGetVariable("WSFN|ProviderType|Server|Application|Database","代替変数名")`
- **複数の範囲のグリッドでの名前付き範囲:** `HsGetVariable("範囲名","代替変数名")`

例

- デフォルト接続: `HsGetVariable("CurMonth")`
- プライベート接続: `HsGetVariable("stm10026_Sample_Basic","CurMonth")`
- 共有接続: `HsGetVariable("WSFN|Essbase|esbsvr|Sample|Basic","CurMonth")`
- 名前付き範囲: `HsGetVariable("stm10026_Sample_Basic","CurMonth")`

注： アンパサンド(&)は通常、代替変数への参照に使用されますが、この関数ではオプションです。

スマート・タグを使用した関数へのアクセス

Microsoft Office のスマート・タグを使用して、HsGetValue、HsGetText、HsCurrency および HsDescription 関数にアクセスできます(スマート・タグの詳細は、Microsoft

のドキュメントを参照してください)。Smart View のスマート・タグは smartview です。

➤ スマート・タグを使用して関数にアクセスするには:

1 **Excel でスマート・タグが使用可能であることを確認します。**

2 **データ・ソースに接続されていることを確認します。**

3 **文書の任意の場所に smartview と入力し、その上にマウスを置くとスマート・タグ・アクション・アイコンが表示されます。**

4 **をクリックすると「Smart View」メニューが表示されます。**

5 **「関数」、「接続名」、関数名の順に選択します。**

6 **36 ページの「メンバー・セレクタからのメンバーの選択」の説明に従って、「メンバー選択」からメンバーを選択します**

選択した関数の結果が表示されます。

一般的な関数エラー・コード

関数で表示される一般的なエラー・コードの一部を示します:

#NO CONNECTION - データ・ソースに接続されていないか、またはログオンしていません。

#INVALID - 無効なメタデータ。値を含む無効なセルで、値がゼロとして表示されます。

#LOCKED - セルがロックされています。

#NO ACCESS - このセルのアクセス権がありません。

#NO DATA - セルに NoData が含まれています。NoData のかわりに 0 と表示することもできます。セルには、「オプション」ダイアログ・ボックスで指定した置換テキストが表示されます。

#INVALID INPUT - テキスト文字列など、HsSetValue データ値が有効ではありません。

#READ ONLY - セルが読み取り専用である場合に HsSetValue 関数に対してのみ表示されます。

#NO ROLE ACCESS - Financial Management LoadExcelData のセキュリティの役割を持っていません。

#NEEDS REFRESH - データをリフレッシュする必要があります。

#INVALID DIMENSION - 関数で指定されたディメンションが無効です。

#INVALID MEMBER - 関数で指定されたディメンション・メンバー名が無効です。

#NAME - Excel が式中のテキストを認識しません。関数を含むワークシートを、Smart View がインストールされていないユーザーに転送した場合、ユーザーは同じデータを関数としてワークシート上に表示できます。ユーザーが関数を編集またはリフレッシュすると、関数は#Name に変わります。

18 フリー・フォーム・モード

この章の内容

フリーフォーム・モードについて 275
フリーフォームのガイドライン 276
フリー・フォーム・グリッドの例 277
フリーフォーム・グリッドのコメント 278
フリー・フォーム・グリッドの式 280
フリー・フォーム・グリッドの属性ディメンション 281
フリー・フォーム・レポートの作成 281
フリーフォーム・モードでの属性ディメンションの取得 282
非対称レポートの作成 282
予期しない動作の原因となるアクション 283

フリーフォーム・モードについて

アド・ホック分析では、データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合に、ディメンション名とメンバー名を直接セルに入力することにより、フリーフォーム・モードを使用できます。POV、メンバー選択およびフリーフォーム・グリッドでのその他のアド・ホック操作も引き続き使用できます。

Smart View グリッドのコンポーネントについて表 23 で説明します。

表 23　Smart View のグリッド・コンポーネント

グリッド・コンポーネント	説明
行ディメンション	ワークシートの行にまたがって 1 列に配置されるディメンションまたはメンバー
列ディメンション	ワークシートの行にまたがって 1 列に配置されるディメンションまたはメンバー
ページ・ディメンション	ページ全体に適用されるディメンション(Essbase のみ)
コメント	ユーザーが追加したテキスト
データ領域	ディメンションまたはメンバーのデータを含むグリッドの領域
空白領域	ワークシートでエントリを含まない領域

フリーフォームのガイドライン

- グリッドは、セル A1 で始まる必要はありません。
- グリッドには少なくとも 1 つの行ディメンションと 1 つの列ディメンションが必要です。
- 各行ディメンションは 1 つのディメンションのみのメンバーを含むことができます。各列ディメンションは 1 つのディメンションのみのメンバーを含むことができます。
- 1 つのディメンションのメンバーは、次の領域のうちの **1 つ**のみに入力できます:
  - 同じ行
  - 同じ列
  - ページ・ディメンションの領域の任意の場所
- ページ・ディメンション領域は異なるディメンションのメンバーを含むことができますが、ページ・ディメンション領域の 2 つのメンバーが同じディメンションに属することはできません。
- ページ・ディメンション領域に入力されたディメンションはページ・ディメンション領域で対応するデフォルトのディメンションまたは既存のディメンションをオーバーライドします。たとえば、ページ・ディメンションに Year ディメンションが含まれている場合、Qtr1 を入力すると、Qtr はページ・ディメンションの Year を置き換えます。
- Smart View オプションの「データ・オプション」ページで指定した置換ラベルはフリーフォーム・モードで適用されます。
- 数字エントリはデータ領域ではデータとして、データ領域外ではコメントとして識別されます。数字をメンバー名として使用する場合は、前に一重引用符を付けます; たとえば'100 のようにします。
- 単語間にスペースを含むメンバー名の前には一重引用符を付けます。
- 重複メンバーを持つ Essbase データ・ソースに接続するときは、Smart View の「オプション」ダイアログ・ボックスの「メンバー・オプション」ページで**「メンバー名のみ」**を選択し、ワークシートで完全修飾名を表示します。重複メンバーを入力するには、修飾メンバー名に次のような構文を使用します:

```
     [Income].[Other]
[Expenses].[Other]
```

- 現在の別名表からの別名はフリーフォーム・グリッドに使用できますが、その他の別名表からの別名はコメントとして扱われます。
- Hyperion Enterprise データ・ソースでは、フリーフォーム・グリッドにディメンション名を入力できません。メンバー名のみ入力できます。
- 動的時系列メンバー(Essbase の場合)は、次のいずれかのフォーマットを使用する必要があります:
  - Q-T-D(1 月)
  - Y-T-D(3 月)

- M-T-D(6 月)

フリー・フォーム・グリッドの例

簡易グリッド

図 61 は、Year が行ディメンション、Measures が列ディメンション、Product がページ・ディメンションである、有効な簡易グリッドを示しています。

図 61　簡易グリッド

	A	B	C	D	E
1				Product	
2		Profit	Inventory	Ratios	Measures
3	Qtr1				
4	Qtr2				
5	Qtr3				
6	Qtr4				
7	Year				

図 62 は、基本的な 2 行 2 列レイアウトで、最初の行と列に Product ディメンションと Market ディメンションが、2 番目の行と列に Sales と Year のメンバーが表示されています。

図 62　2 行 2 列レイアウト

	A	B	C	D	E	F
1			Product	Product	Product	Product
2			Profit	Inventory	Ratios	Measures
3	Market	Qtr1				
4	Market	Qtr2				
5	Market	Qtr3				
6	Market	Qtr4				
7	Market	Year				

列ディメンション

ページ・ディメンションと解釈される列ディメンション

最上位の同じ行に、1 つの行ディメンションと複数のメンバー(すべて異なるディメンション)がある場合、行の一番左のディメンションが列ディメンションとして扱われ、その他はページ・ディメンションとして扱われます。図 63 は、Year が行ディメンション、Measures が列ディメンション、Product と Market がページ・ディメンションである、有効なグリッドを示しています。

図 63　1 行目の列ディメンションおよびページ・ディメンション

	A	B	C	D
1		Measures	Product	Market
2	Year			

各列ディメンションの最初のメンバーは同じ列に配置し、各行ディメンションの最初のメンバーは同じ行に配置する必要があります。図 64 では、セル B2 が列ディメンションの最初の列にあり、Measures ディメンションのメンバーである必要があるにもかかわらず、コメントであるために無効になっています。

図 64　列での無効な配置

	A	B	C	D
1		100-10	100-30	100
2		Comment	Measures	Measure
3	Year			

スタック・ディメンション

同じディメンションの複数のメンバーが含まれる最初の行は、列ディメンションです。この行の上に配置されたディメンションは、ページ・ディメンションのルールに従っていれば、すべてページ・ディメンション候補です。ただし、この列ディメンションの上にあるディメンションで、同じ列にあり(スタックされている)、かつ他のメンバーを持たないディメンションは、ページ・ディメンションではなく列ディメンションです。このようなグリッドは有効ではありません。

図 65 において、Product は Profit の上にスタックされた列ディメンションです; Market は Profit の上にスタックされていないためページ・ディメンションです。Scenario は、Profit の上にスタックされていますが、その行がページ・ディメンションの上にあるため、ページ・ディメンションになります。

図 65　ページ・ディメンションとしてのスタック・ディメンション

	A	B	C	D	E
1		Scenario			
2			Market		
3		Product			
4		Profit	Inventory	Ratios	Measures
5	Year				

図 66 では、Product と Market が列ディメンションの上にスタックされ、他のメンバーを持っていません。このため、このグリッドは有効ではありません。

図 66　無効なスタック列

	A	B	C	D	E
1		Market			
2		Product			
3		Profit	Inventory	Ratios	Measures
4	Year				

フリーフォーム・グリッドのコメント

データ・ソース・タイプ: Essbase

注：　複数のグリッドが有効なワークシートにはコメントを追加できません。

コメントは次の場所に配置できます:

- 行ディメンションの間
- 列ディメンションの間
- ページ・ディメンションの間
- ディメンションとデータ・セルの間
- ページ・ディメンションのメンバーと交互に
- 行、列、ページの各ディメンションのメンバーと交互に
- グリッドの上下左右。

コメント行とコメント列は、行ディメンションおよび列ディメンションと交互に配置できます。

データ・セル、または行ディメンションと列ディメンションが交差する右上のセルには、コメントを配置できません。

発生する可能性がある予期しない動作の詳細は、283 ページの「予期しない動作の原因となるアクション」を参照してください。

空白の行および列のコメント

図 67 は、セル A5、A6、C1、C2、C10、D1、D2、D10、H5 および H6 にコメントのあるグリッドを示しています。このようなコメントは取得操作とズーム操作を実行しても保持されます。

図 67　空白の行および列のコメント

	A	B	C	D	E	F	G	H
1			c1	d1				
2			c2	d2				
3				Product	Product	Product	Product	
4				Profit	Inventory	Ratios	Measures	
5	a5	Market	Qtr1					h5
6	a6	Market	Qtr2					h6
7		Market	Qtr3					
8		Market	Qtr4					
9		Market	Year					
10			c10	d10				

複雑なコメントを含むグリッド

図 68 は、1 つのグリッドでページ領域、属性、コメントを組み合せて使用した例を示しています。

図 68　複雑なコメントを含むグリッド

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	Pkg Type							
2	Budget							
3		B3	C3	D3				
4				Product	Product		Product	Product
5					E5	F5	G5	
6				Profit	Inventory		Ratios	Measures
7	Market		Qtr1					
8	Market		Qtr2					
9		B9			E9	F9	G9	
10	Market		Qtr3					
11	Market		Qtr4					
12	Market		Year					
13								
14				D14	E14	F14		

コメントの無効な配置

行と列のディメンション領域には、コメント行とコメント列を交互に配置できます。図 69 は、セル C2 のコメントがコメント行とコメント列のいずれにも属さないため無効なグリッドを示しています。(行 2 と列 C の両方がディメンション・メンバーを持っています。)

図 69　コメントの無効な配置

	A	B	C	D
1		100-10	100-30	100
2		Measures	Comment	Measures
3	Year			

フリー・フォーム・グリッドの式

コメントを入力できるセルには、Excel の式を入力できます。図 70 は、セル C8 と F8 に Excel の式が入力されているグリッドを示しています。発生する可能性がある予期しない動作の詳細は、283 ページの「予期しない動作の原因となるアクション」を参照してください。

図 70　フリー・フォーム・グリッドの式

	A	B	C	D	E	F
1			Product	Product	Product	Product
2			Profit	Inventory	Ratios	Measures
3	Market	Qtr1				
4	Market	Qtr2				
5	Market	Qtr3				
6	Market	Qtr4				
7	Market	Year				
8			=SUM(C3:C6)			=SUM(F3:F6)

フリー・フォーム・グリッドの属性ディメンション

図 71 は、ページ領域と属性の使用方法の両方の例を示しています。この例では、Pkg Type (基本メンバー Product に添付されている属性ディメンション)と Budget がページ・ディメンションです。Pkg Type をドリルダウンすると、特定の Product 属性に関連する、属性を使用した Measures の分析ができます。さらにこれを使用して、属性別の製品在庫保管単位(SKU)のクロス集計分析を行うこともできます。

図 71　フリー・フォーム・グリッドの属性ディメンション

	A	B	C	D	E	F
1	Pkg Type					
2	Budget					
3						
4			Product	Product	Product	Product
5			Profit	Inventory	Ratios	Measures
6	Market	Qtr1				
7	Market	Qtr2				
8	Market	Qtr3				
9	Market	Qtr4				
10	Market	Year				

フリー・フォーム・レポートの作成

データ・ソース・タイプ: Essbase、Oracle Hyperion Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Oracle Hyperion Enterprise(R)

➤ フリーフォーム・レポートを作成するには:

1. **ワークシートを開き、データ・ソースに接続します。**
2. **ワークシートで、276 ページの「フリーフォームのガイドライン」に指定されたルールに従ってメンバー名を入力します。**
3. **メンバー名は重複している場合があります(たとえば、East と West 両方のマーケットに Portland という名前(Maine と Oregon)が含まれる)。重複するメンバー名を入力するには:**
   - Oracle Essbase で、「メンバー選択」を使用してメンバーを選択します。
   - 入力したメンバーに重複がある場合、Oracle Hyperion Financial Management でメンバー名の解決ウィンドウが表示されます。ドロップダウン・リストから、入力したメンバーのディメンションを選択し、「OK」をクリックします。必要に応じて繰り返します。
4. **グリッドをリフレッシュします。**
5. **必要に応じてアド・ホックの操作とフォーマットを実行します。**

フリーフォーム・モードでの属性ディメンションの取得

構造化グリッドが処理する操作では、属性ディメンションは表示されません。フリーフォームでは、グリッドに属性ディメンションのメンバーを入力して、処理し検証できます。処理と検証にあたっては、追加した属性ディメンションのメンバーのみが表示され使用されます。他の属性ディメンションのメンバーは対象になりません。このフリーフォーム要求の後、構造化グリッド操作を行っても、属性ディメンションのメンバーは保持されます。

ワークシートに基本ディメンションが存在する場合は、ワークシートに名前を直接入力して属性メンバーを取得することもできます。

注： Hyperion Enterprise は、属性ディメンションをサポートしません。

➤ メンバー選択機能を使用してフリーフォームで属性ディメンションを取得するには:

1. **空のワークシートで、セルを選択します。(ワークシートは空である必要があります。)**
2. **データ・ソースのリボンから、「メンバー選択」を選択します。**
3. **「ディメンション名の解決」ダイアログ・ボックスで、属性ディメンションを選択します。**
4. **ワークシートでメンバーの向きを手順 3 で選択したセルから縦方向にするには、「垂直方向」チェック・ボックスを選択します。**

   このチェック・ボックスはデフォルトで選択解除されます。つまり、メンバーの向きは手順 3 で選択したセルから横方向になります。
5. **「OK」をクリックして、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開きます。**
6. **ワークシートに配置するメンバーを選択します。**

   注： シートに属性ディメンションおよびメンバーを追加することも可能です。

非対称レポートの作成

Essbase レポートには、対称または非対称の列グループを入れることができます。Essbase では、選択したメンバーに基づいて列グループの対称性を自動的に決定します。

対称レポートは、図 72 に示すように、同じメンバーのグループが繰り返されるのが特徴です。

図 72　対称レポート

East						West					
Budget			Actual			Budget			Actual		
Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr1	Qtr2	Qtr3

非対称レポートは、図 73 に示すように、ネストしているグループのメンバーの内容が、少なくとも 1 つ異なることが特徴です。メンバーの数が異なる場合と、メンバーの名前が異なる場合があります。

図 73　非対称レポート

East						West		
Budget			Actual			Budget		
Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr1	Qtr2	Qtr3

非対称レポートは、次のようにして作成できます:

- フリー・フォーム・モードでメンバー名を入力します。
- 「オプション」ダイアログ・ボックスの「メンバー・オプション」ページで、**「選択したグループ内」**を選択した状態でズーム・インします。
- データ取得時に、#Missing 値、ゼロ値またはアンダースコア文字を含む行を抑制します。

注：　データを非対称型レポートに取得する際、レポートが大きい場合には長時間かかることがあります。

予期しない動作の原因となるアクション

Smart View では、コメント、式、カスタマイズしたレポート・レイアウトは極力保持されます。例外として、予想外の振る舞いをする可能性があるのは、次のアクションを実行した場合です:

- ページ・ディメンションにズーム・インする
- POV から行または列にディメンションをピボットする
- POV からワークシートにディメンションをドラッグ・アンド・ドロップする
- 行ディメンションを列ディメンションにピボットする
- 行ディメンションの位置を別の行に切り替える
- 列ディメンションの位置を別の列に切り替える
- 「別名表の変更」コマンドを使用してメンバーの別名を変更する
- Essbase または Hyperion Enterprise データ・ソースでは、Microsoft Word から Excel ワークシートに切り取って貼り付けると、隠し文字が原因で予期しない動作をすることがあります。そのような場合は、ログから問題を特定できる管理者に連絡してください。

A Smart Viewでの他のアプリケーションの使用方法

この付録の内容

Crystal Ball EPM 285
Smart View および Spreadsheet Add-in 287
関数の移行..... 287

適切なライセンスを保有している場合には、Smart View とともに次のアプリケーションを使用できます。

Crystal Ball EPM

Crystal Ball EPM は、Smart View データ・ソースのデータをシミュレーションおよび予測のワークブックで分析するために使用します。これは Crystal Ball EPM モデルを伴う 1 つ以上のワークシートで構成される Excel ワークブックであり、各ワークシートはサポートされている任意のデータ・ソースに接続することができます。これらは EPM Workspace リポジトリに一元的に格納され、Smart View パネルを通じてアクセスと管理が可能です。

詳細は、Crystal Ball EPM のドキュメント・セットを参照してください。

Crystal Ball EPM ワークブックの操作

Smart View パネルから実行できるシミュレーションおよび予測のワークブックの操作は、EPM Workspace 管理者が設定する権限によって異なります。

➤ Crystal Ball EPM ワークブックのデータを操作するには:

1 Smart View のリボンで、「パネル」を選択します。

2 Smart View パネルで をクリックし、「ワークブックのシミュレーション」を選択します。

3 をクリックし、要求された場合には Crystal Ball EPM リポジトリにログインします。そのユーザーが権限を持つワークブックのツリー・リストが表示されます。

4 ワークブックをダブルクリックして開きます。

5 Crystal Ball EPM 製品ドキュメントでの説明に従って、Crystal Ball EPM の操作を実行します。

ワークシート上の Oracle Crystal Ball Enterprise Performance Management モデルは、データ・ソースのワークシートとは別に保管することをお薦めします。

6 **必要に応じて「データの送信」をクリックします。**

ツールバー操作

「ワークブックのシミュレーション」ツールバーのボタンを使用して、ツリー・リストのワークブックおよびフォルダに対して次の操作を実行します。

- リポジトリへの接続
- ワークブックの追加、保存、削除
- フォルダの追加と名前変更

  表 24 に示されている文字は、フォルダ名には使用できません。

表 24　フォルダ名で制限されている文字のリスト

文字	説明
\	円記号(バックスラッシュ)
/	スラッシュ
%	パーセント記号
?	疑問符
+	プラス符号
<	小なり記号
>	大なり記号
|	縦棒
'	一重引用符
"	二重引用符
*	アスタリスク
:	コロン

- ツリー・リストのリフレッシュ
- ワークブック・ファイルを格納する場所と、通信する EPM Workspace エージェントを指定するオプションを設定します(これらのオプションは、サーバーで実行されるすべてのセッションにわたって適用されます)。これには、「**オプション**」をクリックして次の情報を入力します。
  - URL: Web サービス・エージェントの URL。次の構文を使用します:
    `http://<host>/raframework/services/BiPlus`
  - **フォルダ**: ワークブック・ファイルを保存するリポジトリ・フォルダの名前

Smart View および Spreadsheet Add-in

Smart View および Spreadsheet Add-in の両方が同じコンピュータ上にインストールされている場合、マウス・アクションは Spreadsheet Add-in のコマンドと解釈されます。Smart View でマウス・コマンドを制御する場合は、Spreadsheet Add-in を介して確立された Essbase 接続でのみ、コマンドに対応するよう Spreadsheet Add-in に指示できます。

➤ Smart View でマウス・コマンドを制御できるようにするには:

1 **Excel を開きます。**

2 **「Essbase」、「オプション」、「グローバル」の順に選択します。**

3 **「接続されているシートに制限」を選択します。**

4 **「OK」をクリックします。**

Essbase への接続が、Smart View ではなく Spreadsheet Add-in を介して確立されている場合以外、Smart View がマウス・コマンドを制御します。

注： 同じワークブック内で Smart View および Spreadsheet Add-in からデータ・ソースに接続することは可能ですが、同じワークシート上では接続できません。

関数の移行

Financial Management と Hyperion Enterprise Oracle Essbase Spreadsheet Add-in の関数は、移行ユーティリティを使用して現在の Smart View 構文に変換することができます。

ワークブックの変換

移行ユーティリティを使用すると、Financial Management のデータ取得関数または Hyperion Enterprise の HP 取得関数および VBA 取得関数を含むワークブックを変換することができます。たとえば、HFMVal、HFMLnk、HFMLab、HFMDes および HFMCur などの Financial Management 関数や、HPVal、HPLnk、HPCur、HPHea、HPCde および HPFul などの Hyperion Enterprise 関数を変換できます。

ユーティリティでは変換できない関数もあります。一部の関数は手動で調整する必要があります。

セル参照を使用する関数については、次の関数が変換されます。

- 関数のすべてのパラメータがセル参照である場合。たとえば、次のように指定できます: =HFMVal(B1&C1&B2&C3&B5&C5&B6&C6)
- 関数でディメンション・パラメータが指定されていて、メンバーがセル参照で、ピリオド・セパレータがハード・コード化されている場合。たとえば、次のように指定できます: =HFMVal("S#"&D2&".Y#"&D3&".VW#"&D5&".')

セル参照を使用する次の関数は変換されません。

- 関数でディメンション・パラメータが指定されていて、メンバーおよびピリオド・セパレータがセル参照である場合。たとえば、次のように指定できます: =HFMVal("S#" &E2& "Y#&E3& VW#" &E5), where E2=Actual, E3=2004, E5=<Scenario View>.
- 関数でディメンション・パラメータが指定されていて、メンバーがセル参照で、ピリオド・セパレータが個別のセル内にある場合、関数は変換されません。例: =HFMVal("S#"&F2&C1&"Y#"&F3&C1&"VW#&F5&C1), where C1=.(ピリオド・セパレータ)
- 関数で指定されているアプリケーションがセル参照である場合。
- ワークブックのセルに 1024 文字を超える文字が含まれている場合、ワークブックは正しく変換されません。セルに含まれるデータのサイズを小さくするには、複数の関数を参照するか、バックグラウンド POV で設定できるディメンションを除去します。

移行ユーティリティを実行する前に、パスが正しいことを確認します(デフォルト・パスは `MIDDLEWARE_HOME\EPMSystem11R1\common\empstatic\wsspace\`です)。移行中には、Excel によってアドイン・ファイルの元のパスが関数に挿入されます。そのため関数が長くなりすぎ、エラーになることがあります。Excel の制限上、Smart View の関数は 256 文字を超えることができません。

1 つのワークブックの変換

データ・ソース・タイプ: Financial Management、Hyperion Enterprise

➤ ワークブックを変換するには:

1. Smart View のリボンから、「詳細」を選択し、**「アクティブ・ワークブックの移行(Financial Management)」**または**「アクティブなワークブックの移行(Hyperion Enterprise)」**を選択します。

   関数にアプリケーション参照が含まれている場合は、アプリケーションを対応する接続にマップする必要があります。
2. 「変換」、「OK」の順にクリックします。
3. 移行結果が表示されます。これには、変換できなかった関数の一覧が含まれます。これらの関数は手動で調整できます。
4. 変換結果を保存するには、「結果の保存」をクリックします。
5. 結果ファイルの保管場所を選択し、「保存」をクリックします。
6. 「閉じる」をクリックします。

複数のワークブックの変換

データ・ソース・タイプ: Financial Management、Hyperion Enterprise

➤ 複数のワークブックを変換するには:

1 Smart View のリボンから「詳細」を選択し、**「移行のバッチ処理(Financial Management)」**または**「バッチの移行(Hyperion Enterprise)」**を選択します。

2 「移行ウィザード」で「追加」をクリックし、変換するワークブックを選択します。

3 「次」をクリックします。関数にアプリケーション参照が含まれている場合は、アプリケーションを接続にマップする必要があります。

   移行結果が表示されます。これには、変換できなかった関数の一覧が含まれます。これらの関数は手動で調整できます。

4 Oracle Hyperion Enterprise(R)の場合は、変換されたワークブックが自動的に元のワークブックの保存場所に保存されます。Financial Management の場合は、「結果の保存」をクリックします。

5 結果ファイルの場所を選択し、「保存」をクリックします。

6 「完了」をクリックします。

関数の接続の移行

Financial Management では、Smart View に移行するときに、アプリケーション参照を含まない関数に対して接続または接続参照を選択できます。

➤ 関数の接続を移行するには:

1 Smart View のリボンから、「詳細」、「アクティブ接続の移行」の順に選択します。

2 「関数移行 - アプリケーション参照」で、いずれかのオプションを選択します。

   - 「関数を接続参照で更新しない」。
   - 「接続名を既存関数に追加」を選択し、「接続名」リストから接続名を選択します。この場合、指定された接続名を使用するすべての関数が更新されます。
   - 「選択したワークシート内の接続リストを参照して関数を更新」を選択し、「セルの参照」で参照するセル(例: A2)を入力します。この場合、現在のワークシートのセルを参照するすべての関数が更新されます。
   - 「新ワークシートの接続リストを参照して関数を更新」を選択し、「ワークシート名」と「セルの参照」を入力します。この場合、ワークブック内の別のワークシートのセルを参照するすべての関数が更新されます。

   ヒント： 関数で接続名を参照するためのドロップダウン・リストを任意のセルに作成できます。Smart View のリボンから、**「詳細」**、**「接続リストの挿入」**の順に選択すると、現在のセルで選択できる接続のリストが表示されます。

3 「OK」をクリックします。

B 情報の検索

この付録の内容

Smart View のアクセシビリティ 291
Smart View の VBA 関数 291
データ・ソースおよびその他の製品 291
Oracle User Productivity Kit の使用 291
ローカルで、または Web サーバー上でのヘルプのインストールと構成 292

Smart View のアクセシビリティ

Smart View のアクセシビリティ機能に関する情報は、Oracle Smart View for Office Accessibility Guide にあります。このガイドは、EPM ドキュメント・ライブラリにあります。このライブラリを開くには、Smart View のリボンから、「ヘルプ」の隣の矢印をクリックし、「EPM ドキュメント」をクリックします。

Smart View の VBA 関数

Smart View の VBA 関数に関する情報は、Oracle Smart View for Office Developer's Guide にあります。このガイドは、EPM ドキュメント・ライブラリにあります。このライブラリを開くには、Smart View のリボンから、「ヘルプ」の隣の矢印をクリックし、「EPM ドキュメント」をクリックします。

データ・ソースおよびその他の製品

一般に、このガイドには、Smart View でサポートされるデータ・プロバイダの機能を使用するための手順情報のみが記載されています。データ・プロバイダおよび他の製品の詳細は、EPM ドキュメント・ライブラリで入手可能な製品ドキュメントを参照してください。このライブラリを開くには、Smart View のリボンから、「ヘルプ」の隣の矢印をクリックし、「EPM ドキュメント」をクリックします。

Oracle User Productivity Kit の使用

Oracle User Productivity Kit (UPK)がデプロイされており、管理者によって EPM Workspace に UPK Player パッケージの有効な URL が構成されている場合、ユーザーは EPM System の UPK コンテンツにアクセスできます。UPK の構成の詳細

は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide および Oracle User Productivity Kit インアプリケーション・サポート・ガイドの Workspace サーバーの設定に関する項を参照してください。

注： 事前構築済の UPK コンテンツ・モジュールが使用可能です。Oracle.com (http://www.oracle.com/us/products/applications/tutor-upk/064788.html)で入手可能な Oracle Enterprise Performance Management System の UPK を含むデータ・シートを参照してください。Financial Management および Planning モジュールには、Smart View および Oracle Hyperion Financial Reporting Studio の該当するコンテンツが含まれます。Financial Management および Planning では、コンテキストに依存した UPK コンテンツの呼出しがサポートされています。Smart View または Reporting Studio から起動される UPK コンテンツでは、コンテキストでフィルタ処理されていない完全プレーヤ・パッケージのアウトラインが起動されます。Reporting Studio および Smart View のユーザーは、役割フィルタを使用して、Smart View または Oracle Hyperion Financial Reporting Studio のコンテンツのみを表示できます。

UPK ヘルプを開くには、Smart View のリボンで「**ヘルプ**」の隣にある矢印をクリックし、「**Oracle User Productivity Kit**」を選択します。

ローカルで、または Web サーバー上でのヘルプのインストールと構成

Smart View のインストール後、Oracle.com Web サイトでホストされている URL からオンライン・ヘルプが取得されます。これは Smart View のデフォルト動作であり、ヘルプを起動するのにユーザーが変更を加える必要はありません。

ただし、ヘルプをローカルで、または組織の Web サーバーでインストールする必要が生じることがあります。Oracle.com 以外の場所からヘルプにアクセスする必要がある例をいくつか示します。

- アクセシビリティ第 508 条のために、ヘルプ・ファイルを個人のコンピュータのローカル・ドライブにインストールする必要がある場合。
- インターネットのアクセス制限。たとえば、ユーザーが組織のイントラネットの URL にしかアクセスできない場合。

上記のようなケースに対処するには、ヘルプを My Oracle Support からダウンロードしてローカル・ドライブまたは Web サーバー上に配置し、Smart View の `properties.xml` ファイルを変更する必要があります。

注： 要件に応じて、25 ページの「XML ファイルからの共有接続へのアクセス」の手順 5 の説明に従って、共有接続 XML ファイルで`<helpurlcontext>`タグを指定することもできます。詳細は、共有接続 XML ファイルによるオプションのローカル・ヘルプ構成を参照してください。

➤ Smart View ヘルプをローカルで、または Web サーバーでインストールして構成するには:

1 **My Oracle Support から、このリリースのヘルプ zip ファイルを入手します。**

2 **Smart View がインストールされているコンピュータ上のローカル・フォルダか、組織の HTTP Web サーバー上のユーザーがアクセスできるフォルダに、ヘルプ zip ファイルのコンテンツを抽出します。**

例:

- コンテンツを次の場所にローカルに抽出します。

```
C:\Oracle\SmartView\
```

抽出により、smartview_help という名前のフォルダが追加されます。結果は次のとおりです:

```
C:\Oracle\SmartView\smartview_help
```

- コンテンツを Web サーバーに抽出します。

```
http://
webServerHost
:
webServerPort
/
pathToHelpFiles
```

抽出により、pathToHelpFiles の後に smartview_help が追加されます。結果は次のとおりです:

```
http://
webServerHost
:
webServerPort
/
pathToHelpFiles
/smartview_help
```

smartview_help フォルダの下には、次のような 28 の言語フォルダがあります。

```
C:\Oracle\SmartView
  \smartview_help
    \ar
    \cs
    \da
    \de
    \el
    \en
    \es
```

```
\fi
\fr
\fr_CA
\he
\hu
\it
\ja
\ko
\nl
\no
\pl
\pt
\pt_BR
\ro
\ru
\sk
\sv
\th
\tr
\zh_CN
\zh_TW
```

次の言語フォルダには、翻訳されたバージョンの Smart View ヘルプが含まれます。

```
\de
\es
\fr
\it
\ja
\ko
\nl
\pt_BR
\zh_CN
\zh_TW
```

残りの言語フォルダには、英語バージョンのヘルプが含まれます。これらのいずれかの言語(スウェーデン語など)で Smart View を実行する場合、ヘルプのボタンをクリックすると、英語のヘルプが表示されます。

また、英語フォルダには、PDF 形式のヘルプのコピーが含まれます (`smartview_user.pdf`)。

3 Smart View の `properties.xml` ファイルで `helpurlcontext` プロパティを変更します。

1. Smart View インストールの `SmartView\cfg` フォルダに移動します。
2. 元の `properties.xml` ファイルのバックアップ・コピーを作成します。
3. 編集のために `properties.xml` を開きます。

4. 次の構文を使用し、言語フォルダの親フォルダのパスを指定して、helpurlcontext プロパティを変更します。

- ローカルでインストールする場合は、次の構文を使用して言語フォルダの親フォルダのパスを指定します。

```
<helpurlcontext>file:///
parent_language_folder_path
/</helpurlcontext>
```

ヒント： 構文にはスラッシュを使用し、指定した言語フォルダ・パスの後に、最後のスラッシュを入れてください。

手順 2 の例を使用すると、zip コンテンツを C:\Oracle\SmartView に抽出した後、smartview_help フォルダが言語フォルダの親フォルダになります。したがって、parent_language_folder_path プレースホルダを次のように変更します。

```
<helpurlcontext>file:///C:/Oracle/SmartView/smartview_help/</
helpurlcontext>
```

- Web サーバー上でインストールする場合は、次の構文を使用して言語フォルダの親フォルダのパスを指定します。

```
<helpurlcontext>http://
webServerHost
:
webServerPort
/
pathToHelpFiles
/smartview_help/</helpurlcontext>
```

ヒント： 構文にはスラッシュを使用し、指定した言語フォルダ・パスの後に、最後のスラッシュを入れてください。

手順 2 の例を使用し、pathToHelpFiles を user_documentation で置換すると、zip コンテンツを http://abcxyzco.com:12345/user_documentation に抽出した後、smartview_help フォルダが言語フォルダの親フォルダになります。例:

```
<helpurlcontext>http://abcxyzco.com:12345/user_documentation/
smartview_help/</helpurlcontext>
```

4 **Microsoft Office アプリケーションを再起動して、Smart View リボンからヘルプにアクセスします。**

5 **Smart View ローカル・ヘルプが必要なコンピュータごとに、この手順を繰り返します。**

共有接続 XML ファイルによるオプションのローカル・ヘルプ構成

新しいインストールでは、Excel を起動するとすぐに Smart View ヘルプを使用できます。Oracle Smart View for Office プロバイダに接続していなくても、ヘルプを表示できます。ローカルで、または Web サーバー上でのヘルプのインストールと構成の説明に従って properties.xml ファイルに変更を加えた後は、指定したヘルプの場所からヘルプにアクセスできます。

XML ファイルからも共有接続にアクセスする予定があり(25 ページの「XML ファイルからの共有接続へのアクセス」の説明に従って)、ヘルプの代替の場所が必要な場合は、次の点に注意してください。

- <helpurlcontext>タグを共有接続 XML ファイルに追加できます。Smart View パネルの「共有接続」ボタンをクリックすると、共有接続 XML ファイルで指定したヘルプの場所により、properties.xml で指定したヘルプの場所がオーバーライドされます。これは、properties.xml で<helpurlcontext>タグを変更したかどうかにかかわらず当てはまります。
- <helpurlcontext>タグを共有接続 XML ファイルに追加または指定しない場合は、常に properties.xml ファイルで指定したローカル・ヘルプが使用され、Excel を起動後すぐに使用可能になります。

C 制限事項

この付録の内容

全般 297
Essbase 299
Planning 300
Financial Management 301
FDM 301

この付録では、Smart View の操作時に適用される制限事項を説明します。

全般

- PowerPoint では、Microsoft スマート・タグを介して Smart View 関数にアクセスできない場合があります。

  回避策: 「smartview」(Smart View のスマート・タグ)と再入力して、PowerPoint がスマート・タグを再ロードするようにします。

- 保存済のフリー・フォーム・ワークブックを開いて、リフレッシュする前に「オプション」ダイアログ・ボックスで「メンバー名のみ」または「メンバー名および説明」の設定を変更すると、メンバーの表示オプションが機能しません。

  回避策: 「メンバー名のみ」または「メンバー名および説明」設定を使用する前に、グリッドをリフレッシュします。

- Microsoft Word の制約により、システム定義オプションであるリスト・セパレータの値が正規表現のアンカー文字(^および$を含みますが、これに限定されません)のいずれかに設定されている場合、Word が式タイプのフィールドを挿入できず、コピーと貼付けが失敗することがあります。

  回避策: 「コントロール パネル」、「地域と言語のオプション」、「地域オプション」、「標準と形式」、「カスタマイズ」、「数値」の順に選択して、リスト・セパレータのオプションを変更します。

- Smart View パネルでシミュレーション・ワークブックを介して取得された「Get」関数がある Excel ワークブックを保存する場合、ファイル拡張子を変更しないでください。

- シート名が 31 文字を超える場合、シート名が切り捨てられる可能性があります。これは Excel の制約です。

- Outlook とともに Smart View を使用するには、Visual Basic Scripting Support をインストールし、Outlook でマイ・コンピュータからの実行を選択しておく必要があります。詳細は、Outlook 製品のドキュメントを参照してください。
- Microsoft Word で、レポート・デザイナで作成されたレポートのスライダ・コントロールのサイズが変更される場合があります。
- Oracle Essbase Studio がソースのキューブから FDM へのドリルスルーを実行する場合、関係するすべての製品(Workspace、Provider Services、Essbase、Essbase Studio、FDM)のセッションが終了する前に EPM System のシングル・サインオン(SSO)トークンの期限が切れると、次のメッセージが表示されます: シングル・サインオンを使用するシステムへのログオン中にエラーが発生しました。管理者に問い合せてください。エラー: 2067 -- アプリケーションへのアクセス権がありません!

  回避策: Smart View から EPM Workspace に再度ログインしてください。
- スマート・スライス・レポートのスライダは、レポートを閉じて再度開いた後に正しく表示されません。このようになるのは、Office 2007 の ActiveX コントロールおよび OLE オブジェクトの Microsoft セキュリティ設定のためです。この問題の解決策の詳細は、Microsoft サポート・サイトを参照してください。
- Internet Explorer 6 から 7 または 8 にアップグレードすると、デフォルトのタイムアウトが 3 分から 30 秒に減ります。この設定が Smart View によって使用されると、長時間実行する問合せでタイムアウトの問題が発生することがあります。

  回避策: Microsoft サポート・サイトの説明に従って、Internet Explorer のデフォルトのキープアライブのタイムアウト値を増やします。
- Microsoft COM または自動化アドインを使用して Excel を開くと、Smart View リボンまたは Smart View メニューが表示されず、Smart View を自動化できません。これは、自動化して Smart View をロードできないために発生します。

  回避策: Excel を Office インストール・フォルダ(通常、`C:\Program Files\Microsoft Office\Office12`)にある EXCEL.EXE から開きます。この回避策が有効なのは、さらなる自動化が不要な場合のみです。詳細および完全な回避策は、My Oracle Support にあるナレッジ・ベース・ドキュメント 1453237.1『SmartView Functionality Changed: Cannot Automate SmartView from Another Program』を参照してください。
- スマート・クエリーで、値に基づくフィルタ定義で等号(=)を使用すると、結果が戻されないことがあります。これは、Smart View で Excel の数値として表示される小数点桁数が、接続用に Essbase で設定されている桁数と異なる場合に発生します。

  回避策: Excel と Essbase の両方で、数値として表示される小数点桁数について同じ設定を使用します。
- スマート・スライスをレポートに挿入してシートをリフレッシュした場合、レポート表がリフレッシュされず、表データが表示されません。

  回避策: データが表示されない場合、最初のいくつかの空のセルをクリックすると、データが表示されるようになります。

Essbase

- クエリー・デザイナで、名前にドット(.)が含まれるメンバーに対して子孫または最上位/最下位問合せを実行すると、Smart View によって構文エラーが生成されます。
- Essbase から実行する計算スクリプトを Smart View から実行できないことがあります。これは、Smart View での計算アクセス権が制限されているユーザーの場合に起きる可能性があります。計算スクリプトは、接続されているデータベースに対して実行されます。
- 「元に戻す」を実行する場合、以前選択した POV のみが保存され、最近選択したメンバーは除去されます。

  回避策: 「元に戻す」を使用せずに、「POV にピボット」を使用します。これにより、そのディメンションのメンバーがすべて POV に置換されます。
- スマート・スライスで Smart View の操作を実行してリフレッシュを行う場合、右上隅の X ボタンをクリックして Excel を閉じようとすると、アサーションに失敗したことを示すエラー・メッセージが表示されます。このメッセージが表示されても問題はなく、「OK」をクリックして閉じて差し支えありません。
- ディメンションに約 100,000 を超えるメンバーが含まれている場合、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで「検索」を使用すると、Excel のパフォーマンスが著しく低下したりフリーズする場合があります。
- マージされたセルを使用すると、次の問題が発生することがあります:
  - マージされたセルが行ディメンションに存在する場合、最も深い行ディメンションの一番上のセルにズーム・インすると、適切なマージが維持されません。
  - マージされたセルに行ディメンションで「式/フォーマットの充てん」オプションを使用する場合、最も深い行ディメンションにズーム・インすると、「式/フォーマットの充てん」によってセルが適切に充てんされません。

  POV に複数のディメンションを含める必要があります。POV にディメンションが 1 つのみ存在する場合、リフレッシュするとグリッドにピボットされます。
- 関数ビルダーは、同じ名前を持つ代替変数どうしを区別できません。
- グリッドの外側のセルに入力された数値がリフレッシュ時に失われることがあります。
- 空白セルの列の左側にメンバーを追加すると、リフレッシュ後に新規メンバーが失われることがあります。これは、空白セルが有効な交差部ではないために発生します。
- 以前のバージョンの Essbase に接続する場合、スマート・クエリー・ワークシートからアド・ホック分析に切り替えると、スマート・クエリーを使用して作成したカスタム・メンバーが適用されないことがあります。
- メンバー名にハッシュ記号(#)が含まれるとエラーが発生します。

  回避策: メンバー名にハッシュ記号を使用しないでください。

- Smart View で、デュアル・モニター操作がサポートされません。たとえば、複数のモニターに接続している際、Microsoft Word および PowerPoint でスマート・スライスの POV コントロールが正しく表示されないことがあります。

Planning

- 1 つ以上の関数グリッドおよびコントロール(スライダまたは POV)を含む新しいスマート・スライスから作成したレポートを Excel ワークブック全体にカスケードしている場合、カスケードされたレポートを保存しないよう選択すると、Excel が異常終了することがあります。
- 変数が`#Missing`を許可するよう設定されている場合でも、Smart View では Calc Manager ルールに`#Missing`を使用できません。
- Excel ワークブックで前に保存したデータ・フォームで、メンバーを展開すると、データが誤ってゼロまたは「アクセス権なし」として表示されます。

  回避策: 正しいデータを表示するには、ワークシートをリフレッシュするか、データを送信します。
- Outlook が Oracle Beehive 用として構成されている場合、Smart View を介して Outlook にインポートされたタスクが原因でエラーが発生する可能性があります。

  回避策: Outlook の「送受信」設定で、タスク・リストのフォルダに対して「許可しない」を選択します。詳細は、Outlook のドキュメントを参照してください。
- 欠落の抑制オプションが true に設定されている場合、オフライン・データ・フォームで読取り専用動的計算セルが誤って書込み可能として表示されることがあります。
- Smart View で別の言語に変更しても、オフライン・ウィザードの表示が英語のままです。
- Smart View パネルから「新規サーバーの追加」を介して追加された Planning サーバーが、Outlook 内の Smart View パネルに表示されません。
- Planning データ・フォームで「行の抑制」が使用可能である場合、サーバーに戻って同期すると、ビジネス・ルールを使用してオフライン・モードで作成されたデータの新規行が保存されません。
- 「オフライン・モードで行ったデータ変更を保存する」が選択されていない場合、オフライン・データ・フォームで行った変更はリフレッシュ時に Planning Web のデータによって置き換えられる必要があります。ただし、データ・フォームで「値のない行の抑制」が選択されている場合、リフレッシュ時にこれらの変更が保持されます。
- Outlook 2007 のタスクのショートカット・メニューでは、タスクの割当ておよび完了としてマークのアイテムが断続的にのみ動作する場合があります。
- 大きいタスク・リストからタスクを開いた後、Outlook で Smart View パネルを閉じるのに時間がかかる場合があります。理由は、タスク・リストは閉じるときに常にリフレッシュされ、リフレッシュに必要な時間は、タスク・リストのタスクの数にある程度依存しているためです。

- リリース 11.1.2.1 以降、Smart View は、Provider Services を介して Planning に接続できません。Oracle Hyperion Planning に直接接続することはできます。

Financial Management

- レポートに含まれるドキュメントを閉じてから再度開くと、レポートに挿入された POV コントロールが無効になることがあります。これは、ActiveX コントロールが無効である場合に発生します。

  回避策: Microsoft Office で ActiveX コントロールを有効にします。

- Financial Management のバージョン 11.1.2 に接続されている場合、Smart View の最新バージョンでリフレッシュを実行すると、接続タイムアウトが発生します。この問題は、Financial Management 11.1.2.2 以降、対処されています。
- 列の抑制オプションの問題により、Financial Management グリッドが「グリッドの形式が誤っています。」というエラーとともに開かれます。
- Oracle Hyperion Financial Management データ・ソースに接続している状態で、列の抑制オプション「データなし/欠落」および「ゼロ」を選択してアド・ホック分析を実行すると、「リフレッシュ」をクリックした後、対応する列が抑制されず、引き続きシートに表示されます。

FDM

- Oracle Hyperion Financial Data Quality Management では、Oracle Essbase ドリルスルーの別名表をサポートしていません。

用語集

MDX (マルチディメンショナル式) マルチディメンショナル準拠データベースで問合せと計算に使用される言語です。

POV (視点) 行、列またはページ軸に割り当てられていないメンバーを選択することにより、データ・フォーカスを設定する機能です。たとえば、FDM での POV の選択項目には、場所、期間、カテゴリ、およびターゲット・カテゴリが含まれる可能性があります。また、Smart View で POV をフィルタとして使用すると、通貨ディメンションを POV に割り当て、ユーロのメンバーを選択できます。データ・フォームでこの POV を選択すると、ユーロの値にデータが表示されます。

アド・ホック・レポート エンド・ユーザーが動的に作成するオンライン分析問合せです。

アプリケーション 1)特定のタスクまたはタスクのグループを実行するために設計されたソフトウェア・プログラムです(スプレッドシート・プログラム、データベース管理システムなど)。2)必要とされる特定の分析またはレポート、あるいはその両方に対応するために使用される、ディメンションおよびディメンション・メンバーの関連するセットです。

基本ディメンション 1 つ以上の属性ディメンションに関連付けられている標準ディメンションです。たとえば、製品に味があるとすると、Product ディメンションが Flavors 属性ディメンションの基本ディメンションとなります。

キューブ 3 つ以上のディメンションを含むデータのブロックです。Essbase データベースはキューブです。

兄弟 他の子メンバーと同世代で、すぐ上に同じ親を持つ子メンバーです。たとえば、メンバー Florida とメンバー New York はメンバー East の子であり、互いの兄弟です。

行の抑制 欠落値を含む行を除外し、スプレッドシート・レポートからの文字にアンダースコアを付ける設定です。

欠落データ(#MISSING) ラベル付けされた場所のデータが存在しないか、値が含まれていないか、データが入力されていないか、またはロードされていないことを示すマーカーです。たとえば、勘定科目に当期ではなく過去または将来の期間のデータが含まれている場合は、欠落データが存在します。

最新 最新の期間として定義されたメンバーからデータ値を取得するために使用される、スプレッドシートのキーワードです。

サポート詳細 セルの値を算出した計算および仮定です。

式の保持 データ取得中にワークシート内に保持される、ユーザーが作成した式です。

子孫 データベース・アウトラインで親の下に位置するメンバーです。たとえば、年、四半期および月を含むディメンションでは、メンバー第 2 四半期およびメンバー 4 月がメンバー年の子孫となります。

シナリオ データを分類するためのディメンションです(実績、予算、予測 1、予測 2 など)。

修飾名 定まったフォーマットのメンバー名です。重複メンバーのアウトラインにおいて、重複メンバー名を区別します。([Market].[East].[State].[New York]、[Market].[East].[City].[New York]など。)

実行時プロンプト ビジネス・ルールが実行される前にユーザーが入力または選択する変数です。

重複メンバー名 データベース内に複数存在する、それぞれ異なるメンバーを表す同一のメンバー名です。たとえば、ニューヨーク州を示すメンバーとニューヨーク市を示すメンバーが存在する場合、データベースに New York という名前のメンバーが 2 つ含まれることがあります。データベースに New York という名前のメンバーが 2 つ含まれることがあります。

スマート・スライス Smart View で、データ・ソースの再利用可能なパースペクティブです。ディメンションまたはディメンション・メンバーの限定的なセットを含みます。

スマート・タグ「スマート・タグ」メニューで使用可能な、事前定義されたアクションに関連付けられた Microsoft Office アプリケーションのキーワードです。Oracle EPM System 製品でも、スマート・タグを使用して Reporting and Analysis のコンテンツのインポートや Financial Management および Essbase の機能へのアクセスが可能です。

世代 データベースにおけるメンバーの関係を定義する階層ツリー構造内のレイヤーです。各世代は、ディメンションの最上位メンバー(世代 1)から子メンバーへと 1 世代ずつ下に配置されていきます。一意の世代名を使用すると、階層ツリー内のレイヤーを特定できます。

セル 1)マルチディメンショナル・データベースのディメンションの交差を表すデータ値です; ワークシート上の行および列の交差を指します; 2)管理ドメインに属するノードの論理グループです。

セル・ノート Essbase データベースでセルに付けられるテキスト注釈です。セル・ノートは LRO の一種です。

祖先 その下にメンバーを含む分岐メンバーです。たとえば、メンバー Qtr2 とメンバー 2006 はメンバー April の祖先です。

属性 ディメンション・メンバーの特性です。たとえば、従業員ディメンション・メンバーには、名前、年齢、または住所の各属性がある場合があります。製品ディメンションのメンバーはサイズ、味などの複数の属性を持つ可能性があります。

属性ディメンション ディメンションの一種です。ディメンションのメンバーの属性や特質に基づいて分析できます。

属性レポート 基本ディメンション・メンバーの属性に基づくレポート作成プロセスです。「基本ディメンション」も参照してください。

タスク・リスト 特定のユーザーについて、タスクの詳細ステータスを示すリストです。

ディメンション ビジネス・データを整理して値の取得や保持のために使用されるデータ・カテゴリです。通常、ディメンションには関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、年ディメンションには、四半期や月など期間ごとのメンバーが含まれています。

データ・フォーム Web ブラウザなどのインタフェースからデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部のディメンション・メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。

時系列レポート カレンダの日付(年、四半期、月、週など)に基づくデータのレポート作成プロセスです。

動的時系列 ブロック・ストレージ・データベースで、期間累計のレポート作成を実行するプロセスです。

ドリルスルー あるデータ・ソースの値から別のソースの対応するデータに移動することです。

ネスト列見出し 複数のディメンションからのデータを表示するレポート列の列見出しのフォーマットです。たとえば、Year と Scenario のメンバーが含まれる列ヘッダーはネスト列です。ネスト列ヘッダーでは、ヘッダーの一番上の行の Q1 (Year ディメンション)が、ヘッダーの一番下の行の Actual および Budget (Scenario ディメンション)で修飾されます。

ビジネス・ルール 期待される一連の結果値を生成するためにアプリケーション内に作成される論理式または式です。

ピボット 取得したデータのパースペクティブを変更します。Essbase では、まずディメンションが取得され、データが行に展開されます。その後、データのピボット(並べ替え)を行うことにより、異なる視点を得られます。

フリーフォーム・グリッド 動的計算のために、複数のソースからのデータを提示、入力、および統合するためのオブジェクトです。

フリーフォーム・レポート作成 ワークシートにディメンション・メンバーまたはレポート・スクリプト・コマンドを入力することにより、レポートを作成することを指します。

ページ グリッドまたは表での情報表示の一種です。しばしば Z 軸により示されます。ページには、1 つのフィールドからのデータ、計算により得られるデータまたはテキストを含めることができます。

ページ見出し レポートの現在のページで表示されているメンバーをリストした、レポート見出しの一種です。ページ上のすべてのデータ値には、ページ見出し内のメンバーが共通属性として適用されています。

ページ・メンバー ページ軸を決定するメンバーです。

メタデータ データベースに保管された、またはアプリケーションにより使用されるデータのプロパティと属性を定義および説明するデータ・セットです。メタデータには、ディメンション名、メンバー名、プロパティ、期間およびセキュリティなどが含まれます。

メンバー ディメンション内の個別のコンポーネントです。メンバーにより、類似する単位の集まりが個別に特定および区別されます。たとえば、時間ディメンションには 1 月、2 月、および第 1 四半期などのメンバーが含まれることがあります。

ユーザー変数 ユーザーのメンバー選択に基づいてデータ・フォームを動的に配置し、指定されたエンティティのみを表示する変数です。たとえば、Department というユーザー変数を使用すると、特定の部署および従業員を表示できます。

リンク・パーティション データ・セルを使用して 2 つのデータベースをリンクするための共有パーティションです。ワークシートのリンク・セルをクリックすると、リンク・データベースのディメンションを示す新しいシートが開きます。これにより、表示されるディメンションをドリル・ダウンできます。

ルート・メンバー ディメンション分岐における最上位のメンバーです。

レベル 階層ツリー構造において、データベース・メンバーの関係を定義するレイヤーです。レベルは一番下のディメンション・メンバー(レベル 0)から上位の親メンバーへと並べられます。

レベル 0 のメンバー 子の存在しないメンバーです。

レポート・オブジェクト レポートの設計において、テキスト・ボックス、グリッド、イメージ、チャートなどの動作や外観を定義するプロパティを持つ基本要素です。